

学修要覧 2025 (学部編)

Academic Handbook 2025
(College of International Relations)

国際関係学部 国際関係学科

Department of International Relations

College of International Relations

2025 年度 国際関係学部 学修要覧

(2025 年度入学者用)

Table of Contents

I. 国際関係学部の教学理念と人材育成目的	1
1. 国際関係学部の人材育成目的／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	2
1.1 国際関係学部の人材育成目的	2
1.2 国際関係学科の人材育成目的	2
1.3 国際関係学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	2
1.4 国際関係学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
1.5 国際関係学部における教育課程の全体像（2 学科、各専攻）	3
2. 国際関係学科の教育の特色	3
2.1 国際関係学科について	3
2.2 （参考）アメリカン大学・立命館大学国際連携学科について	3
3. 国際関係学科における各専攻の特徴	4
3.1 国際関係学専攻について	4
3.2 グローバル・スタディーズ専攻について	5
4. 国際関係学部の基本文献	5
II. 国際関係学科の教育課程の編成と履修概要	7
1. 学位取得（卒業）について	8
1.1 国際関係学科卒業要件を確認するにあたって（留意事項）	8
1.2 国際関係学科 2025 年度カリキュラム卒業要件	9
1.3 卒業見込証明書発行基準	14
1.4 回生・学期ごとの受講登録上限単位数	14
2. 国際関係学科のカリキュラムについて	15
2.1 開設科目を確認するにあたって（留意事項）	15
2.2 国際関係学科 2025 年度カリキュラム開設科目一覧	17
3. 国際関係学科 各科目区分における学修について	28
3.1 基礎科目／General Education Courses (AJ・AE)	28
3.2 外国語科目／Foreign Language Courses (BA・BB (初修語)・BC・日本語)	34
3.3 選択外国語科目／Elective Language Courses (BD)	39
3.4 国際関係基盤科目／Basic Courses (CA・CB・CC・DJ・DE)	39
3.5 専門外国語科目／Advanced Language Courses (CA・CB・CC)	39
3.6 基幹科目／Foundation Courses (DJ・DE)	43
3.7 固有専門プログラム科目／Core Program Courses (EAJ・EBJ・ECJ・EDJ・EE)	45
3.8 固有専門関連科目／Core Related Courses (FJ・FE)	45
3.9 地域研究科目／Area Studies Courses (GJ・GE)	46
3.10 「基礎演習」(国際関係学専攻)／「Introductory Seminar」(グローバル・スタディーズ専攻)(HJ・HE)	46
3.11 専門演習／Advanced Seminar・卒業研究／Graduation Research (HJ・HE)	46
4. 国際関係学科の多様な履修制度	58
4.1 クロス履修とBilingual Learner 認定制度	58
4.2 他学部受講制度	58
4.3 全学副専攻	58
5. 国際関係学科 カリキュラムマップ／カリキュラムツリー／カリキュラム表	61
5.1 カリキュラムマップ	61
5.2 国際関係学科 カリキュラムツリー	65
5.3 国際関係学科 カリキュラム表	67
6. 国際関係学科 科目概要	69
7. 2026 年度に予定するカリキュラム改革について（履修上の変更点）	105
III. 学部横断プログラム	114
1. 海外留学について	114

1.1 海外留学について	114
1.2 受講登録上限単位数の緩和措置について	115
1.3 留学から帰国した場合の受講登録について	116
2. 大学コンソーシアム京都単位互換制度	117
3. 立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム	118
IV. 学科内転専攻	119
転専攻	120
V. 学生への援助制度	121
1. 小集団教育推進補助費	122
2. 自主ゼミ援助制度	122
3. 英語団体受験について	122
4. Beyond Borders Plaza（BBP）について	123
5. 教員との連絡	123

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018年3月2日制定

I．国際関係学部 of 教学理念と人材育成目的

- 1．国際関係学部 of 人材育成目的／カリキュラム・ポリシー／
ディプロマ・ポリシー
- 2．国際関係学科 of 教育 of 特色
- 3．国際関係学科 of における各専攻 of 特徴
- 4．国際関係学部 of 基本文献

I. 国際関係学部の教学理念と人材育成目的

1. 国際関係学部の人材育成目的／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー

1.1 国際関係学部の人材育成目的

国際関係学部は、国際関係学を教育研究し、国際関係への深い知見と国際社会における行動力を有する人材を養成することを目的とする。

1.2 国際関係学科の人材育成目的

国際関係学科は、国際関係学の教育研究を通じて、深い知見および言語能力を含めた高いコミュニケーション能力を養い、国際社会が抱える様々な課題の解決に貢献する人材を養成することを目的とする。

1.3 国際関係学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際関係学科には、国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻の2つの専攻があります。

国際関係学科は、学際的な国際関係学を理論的かつ実践的に学びます。国際関係学専攻は日本語で、グローバル・スタディーズ専攻は英語でそれぞれ専門科目が開講されています。両専攻学生とも高等教育における基礎的な知識を修得し、国際社会が直面する多様な諸課題についての知的関心を高めるために「基礎科目 /General Education Courses」を学びます。また、外国語によるコミュニケーションや討論の能力を高める「外国語科目 /Foreign Language Courses」および「選択外国語科目 /Elective Foreign Language Courses」から必要な科目を選択し、国際社会に関する事実や主張を表現する力を養います。加えて、「専門外国語科目 /Advanced Foreign Language Courses」と「基幹科目 /Foundation Courses」を学ぶことによって、言語と理論の両面から国際関係学の諸分野の学問内容及び方法を理解する土台を固めます。

国際関係学専攻学生は、2回生時に「国際秩序平和」、「国際協力開発」、「国際文化理解」および「国際公務」の4つのプログラムのの中から1つを選択します。プログラム毎に設定された「固有専門プログラム科目」の中から自分の関心に即した科目を学んで、それぞれのプログラムの学問内容および方法を追求していきます。加えて「地域研究科目」により、国際関係学の学問内容をより実践的に理解していきます。さらに、「固有専門関連科目」により、国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを身につけながら、自らの適性と進路を見極めていきます。

グローバル・スタディーズ専攻学生は、国際関係学の多様な分野の学びを理解するために、Core Program Courses の中から3つの Theme Cluster（Peace & Governance、Development & Sustainability および Culture & Society）を踏まえた体系的な履修を進めます。同時に、日本およびアジアを重視した Area Studies Courses の中から関心のある科目を選択することで、国際関係学の諸分野の学問内容および方法を修得していきます。

これらの専門科目の履修と平行して、1回生次には基礎演習 /Introductory Seminar、3・4回生次には専門演習 /Advanced Seminar を履修する中で、国際社会に関して自ら設定した問題について、国際関係学の諸分野の研究方法を用いて学問的に分析し考察していきます。2回生次に両専攻合同で取り組むグローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）や国際関係学セミナー /Global Studies Seminar を含めて全学年で少人数教育を実施します。

国際関係学科では、学際的で多様な国際関係学を修得する上で、学生それぞれの意欲と希望を大切にします。外国語科目を積極的に履修したり、他専攻の科目をクロス履修したりすることも可能です。これらの自由な学びの選択に加えて、留学やインターンシップなどを積極的に組み込んで自らの国際関係学を形成させていきます。専門演習を履修した学生は卒業研究を完成させることで自らの国際関係学の学びを完成させます。

1.4 国際関係学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際関係学科は、国際関係への深い知見と国際社会における行動力を獲得することを目的として、下記の通り5項目の教育目標を定めます。留学やインターンシップなどの学外の学びも積極的に活用し、卒業研究を含めた国際関係学部教育課程に規定する所定単位（124単位以上）の修得をもって、以下5項目（教育目標）を達成したとみなし、学士課程学位を授与します。

1. 国際社会が直面する戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別などの多様な諸問題について、問題意識や知的関心を持つことができる。
2. 国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解または国際公務といった国際関係学の諸分

1.5 国際関係学部における教育課程の全体像(2学科、各専攻)

野の学問内容および方法を理解する。

3. 国際社会に関して自ら設定した問題について、国際関係学の上述の諸分野の研究方法を用いて学問的に分析し考察することができる。
4. 国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけ、自らの適性と進路を見極める。
5. 国際社会に関わる事実や主張を、日本語および外国語によって、論理的に、かつ多様な文化的コンテキストに即して口頭および文章で表現し、コミュニケーションや討論を行うことができる。

2018年度からの国際関係学部の教育課程全体像は、次のようになります。

国際関係学部	国際関係学科	国際関係学専攻	国際秩序平和プログラム
			国際協力開発プログラム
			国際文化理解プログラム
			国際公務プログラム
	グローバル・スタディーズ専攻		
アメリカン大学・立命館大学国際連携学科			

2018年度より、国際関係学部は従来の「国際関係学科」に、アメリカン大学 School of International Service との共同学位の取得を目的とした「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」を加えた2学科で構成されます。

また、国際関係学科は国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻の2専攻で構成され、国際関係学専攻は4つのプログラムに分かれます。グローバル・スタディーズ専攻にはプログラム制はありません。

2. 国際関係学科の教育の特色

2.1 国際関係学科について

国際関係学科で学ぶ「国際関係学」とは、一言でいえば、多元的で重層的な現代世界をトータルにとらえて、そこで起きる貧困、環境破壊、民族間の対立、武力紛争などの様々な現象——地球的問題群——を分析し、問題解決を模索する学問です。それは、グローバル化が急速に進展する現代世界の差し迫った要請から生まれた、比較的新しい、まだまだ発展途上の学問であるといえます。この学問の特徴はおおよそ以下の2点に要約できます。

- ① 国際関係学は、現代世界をトータルに把握すること、つまり、国際社会を個別国家の単なる束としてではなく、1つのまとまりを持った世界としてとらえることを特徴としています。これは、国家という枠には収まりきれない、地球規模の様々な現象やアクターの登場によって特徴づけられる現代世界の分析には欠かせない視点であるといえます。
- ② 国際関係学のもう1つの特徴は、法学、政治学、経済学、社会学、歴史学など様々な個別学問の成果を総合する「学際性」です。今日、私たちが直面する問題群は、従来の個別学問（ディシプリン）の発展を促すとともに、それらの学問の垣根を越えた協力をも必要としています。様々なディシプリンが共同・協力して国際社会の分析に取り組むのが国際関係学であるといえます。

2.2 (参考) アメリカン大学・立命館大学国際連携学科について

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科は、立命館大学とアメリカン大学 School of International Service が連携することで一つの学士課程を運営し、一貫した教育プログラムを提供する学科です。

グローバル国際関係学を理論、歴史、文化、民族の多面的な視点・見地から批判的に学び、グローバルおよびリージョナルな諸課題、とくに、東アジアと米国に関する諸課題に対する深い理解と国際社会において指導的役割を担う能力を有する人材の育成を目指します。

グローバル化する社会における国際関係学の課題に応えるために、立命館大学とアメリカン大学の両大学の学生が双方の大学において2年間の履修を行い、西洋・非西洋型の国際関係学のアプローチにとらわれない、新たな「グローバル国際関係学」の創出を試みます。

3. 国際関係学科における各専攻の特徴

3.1 国際関係学専攻について

(1) 国際関係学専攻について

国際関係学専攻は主として日本語で国際関係学を学ぶ専攻です。2 回生から、国際秩序平和プログラム、国際協力開発プログラム、国際文化理解プログラムおよび国際公務プログラムの4つのプログラムに分かれます。

国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻は、使用言語が異なりますが、基本的なカリキュラムの構成は共通しています。1 回生次に、基礎演習、外国語科目、基礎科目、基幹科目を履修し、国際関係学の基礎を固めます。2 回生次には、グローバル・シミュレーション・ゲーミング、国際関係学セミナー、国際政治学、国際経済学、国際文化・社会学、国際行政学、地域研究論等の基幹科目を学びます。また、2 回生から自らの問題関心や将来のキャリア形成を考えてプログラムを選択し、自分自身の専門を深めます。同時に、2 回生から地域研究科目を学びます。3 回生から専門演習に所属して、さらに自分自身の研究を絞り込んで深めていき、4 回生次に必修である卒業研究を完成させます。個々の学生が、4 年間の学びの中で、言語の修得、専門（ディシプリン）の獲得、地域の研究の3つを結びつけることが目標です。

国際関係学専攻の学生は、グローバル・スタディーズ専攻の科目を履修すること（クロス履修）ができます（基礎演習、国際関係学セミナーは専攻を越えて履修することはできません）。詳しくは「Ⅱ 国際関係学科の教育課程の編成と履修概要」の「4. 1 クロス履修とBilingual Learner 認定制度」を参照してください。

(2) 国際関係学専攻における各プログラムの特徴

① 国際秩序平和プログラム

国際秩序の動態について主として4つの角度から学びます。第1に、現在の国際秩序がいかに形成されたか、歴史的に把握します。第2に、現在の国際秩序を支えている法制度について学びます。第3に、世界諸地域の政治を分析します。そして第4に、紛争解決・平和実現の方法を探究します。公正で平和な国際秩序の追求がこのプログラムの最終的な課題です。

② 国際協力開発プログラム

地球上のすべての地域や国家、社会における持続可能でバランスのとれた発展という観点から、望ましい国際協力や開発のあり方を学際的・体系的・実践的に探究します。国家間や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの市民レベルの活動も視野に入れ、国際協力や開発に関する様々な諸問題にアプローチし、解決策を探ります。

③ 国際文化理解プログラム

国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学びます。グローバル化に伴って、異なる文化の接触が日常化した結果、文化の融合や摩擦が生じている現状をふまえ、多様な文化を理解し、自らの文化と世界の関わりを問いつつ、多文化共生の道を探ります。

④ 国際公務プログラム

このプログラムは、国際機関、国家および自治体の公務行政について学びます。今日、外交や安全保障だけでなく、多くの行政活動で国際関係の深い知識と外国語運用能力が求められています。国連職員や外交官を目指す学生はもちろん、その他の国家公務員（総合職、一般職）や地方公務員を目指す学生が、小集団の学習グループを形成して日本や世界での公共政策に関する課題と解決策を探求していきます。

3.2 グローバル・スタディーズ専攻について

グローバル・スタディーズ専攻は主として英語で学びます。2011 年の開設後、国際関係学科の特色を体現する専攻に成長しました。このプログラムでは、学生は英語で講義を受けながら学士（国際関係学）を取得します。

世界各国から京都に集まった学生がここ国際関係学科で国際関係学を学びます。グローバル・スタディーズ専攻の学生は、Governance and Peace, Development and Sustainability, Culture and Society の 3 つのクラスターを踏まえた履修を第 3 学期から進めます。

4. 国際関係学部の基本文献

国際関係学部の基本文献は、基本的な文献の精読力と論理的思考能力の育成を目的に、国際関係学専攻の各プログラムとグローバル・スタディーズ専攻の学問的内容を特徴づける基本文献および古典となる文献を一覧にした「基本文献リスト」を作成しています。この「基本文献リスト」は、国際関係学部における学びの中で講読すべき必読文献であり、卒業までの在学中に読了することを推奨します。国際関係学専攻の学生には、プログラム選択の一助となるものです。

プログラム基本文献は、manaba+R の「国際関係学部生のページ」→「トップページ」→「小集団科目・プログラム選択・卒業研究 / Seminar, Program Selection, Graduation Research」→「国際関係学部 基本文献リスト」より確認してください。

Ⅱ．国際関係学科の教育課程の編成と履修概要

- 1．学位取得（卒業）について
- 2．国際関係学科のカリキュラムについて
- 3．国際関係学科 各科目区分における学修について
- 4．国際関係学科の多様な履修制度
- 5．国際関係学科 カリキュラムマップ／カリキュラムツリー／
カリキュラム表
- 6．国際関係学科 科目概要

Ⅱ. 国際関係学科の教育課程の編成と履修概要

1. 学位取得（卒業）について

1.1 国際関係学科卒業要件を確認するにあたって (留意事項)

(1) 国際関係学科の卒業要件について

「学士（国際関係学）」の学位を得るためには（卒業するためには）、以下3つの要件を満たす必要があります。

①修業年限以上を在学していること

本学部の教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）は、「4.0年」です。

②卒業に必要な所定の科目、単位数を修得すること。

所定の単位数は合計で124単位です。自身の卒業要件を確認のうえ、科目の履修を行ってください。卒業要件は「国際関係学科 2025年度カリキュラム卒業要件」より確認してください。

③上記②「卒業に必要な所定の科目」の中で、「IR18-HJ401 卒業研究／IR18-HE401 Graduation Research」（在学第8学期以降提出可能）を単位修得する必要があります。

(2) 成績評価について

国際関係学部開講科目（科目ナンバリング IR18- がついている科目）では、成績評価「A+」が受講生数の5%程度となるように授業運営を行っています。

(3) 適用されるカリキュラムについて

①適用されるカリキュラムについて

適用されるカリキュラムは入学年度で決まり、入学時のカリキュラムを卒業まで継承することになります。休学した場合であっても復学時にカリキュラムが変更になることはありません。

②入学年度の確認方法

学生証番号上5桁目および6桁目が入学年度を表し、これで適用されるカリキュラムを確認することができます。

学生証番号 15 ** ■ ■ * * * * - * ⇒ 20 ■ ■ 年度入学者
--

（例）1511180000-0 ⇒ 2018 年度入学者

1521250000-0 ⇒ 2025 年度入学者

③ 2025 年度入学者のカリキュラムについて

2025 年度入学者は、「2025 年度カリキュラム」が適用されることになります。

1.2 国際関係学科 2025 年度カリ キュラム卒業要件

※国際関係学専攻の学生は、2 回生になる前に（1 回生次に）自身が所属するプログラムを
選択します。

※グローバル・スタディーズ専攻には、プログラム制はありません。

(1) 国際関係学専攻 国際秩序平和プログラム 卒業要件

科目区分	必要単位数
【合計（卒業要件に含まれる単位）】	124 単位以上
基礎演習 * 1	
基礎科目（合計）	14 単位以上
基礎科目（日本語科目）	8 単位以上
基礎科目（英語科目）	
基礎科目（その他）	
外国語科目（合計）	14 単位以上
外国語科目（国際関係学・英語）	8 単位
外国語科目（初修外国語／日本語）	6 単位以上
外国語科目（任意）	
選択外国語科目	
国際関係基盤科目（合計）	24 単位以上
専門外国語科目（合計）	4 単位以上
専門外国語科目（国際関係学）	4 単位以上
専門外国語科目（Global Studies）	
専門外国語（任意／その他）	
基幹科目（合計）	20 単位以上
基幹科目（日本語科目）	10 単位以上
基幹科目（英語科目）	
基幹科目（その他）	
国際関係専門科目群（合計）	38 単位以上
【所属プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	20 単位以上
国際秩序平和プログラム科目	10 単位以上
Governance and Peace クラスター科目	
【他プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	
固有専門関連科目（合計）	
固有専門関連科目（日本語）	
固有専門関連科目（英語）	
固有専門関連科目（その他）	
地域研究科目（合計）	8 単位以上
地域研究科目（日本語科目）	4 単位以上
地域研究科目（英語科目）	
地域研究科目（その他）	
専門演習 * 2	（必修）4 単位以上
卒業研究	（必修）2 単位
副専攻科目 * 3	
他学部受講科目 * 4	

* 1 「基礎演習」は、合計 4 単位まで修得可能

* 2 「専門演習」は、合計 8 単位を上限として、卒業に必要な単位へ算入されます。
8 単位を超えた修得点は、卒業に必要な単位として算入されません。

* 3 「副専攻科目」は選択したコースに設置されている科目の中から 16 単位以上を修得した場合に
限り、要卒単位として認められます。要卒単位として認められる単位数の上限は 20 単位です。
詳細は P.58 ～ 60 を参照してください。

* 4 「他学部受講科目」は 20 単位まで受講可能です。詳細は P.58 を参照してください。

(2) 国際関係学専攻 国際協力開発プログラム 卒業要件

科目区分	必要単位数
【合計（卒業要件に含まれる単位）】	124 単位以上
基礎演習 * 1	
基礎科目（合計）	14 単位以上
基礎科目（日本語科目）	8 単位以上
基礎科目（英語科目）	
基礎科目（その他）	
外国語科目（合計）	14 単位以上
外国語科目（国際関係学・英語）	8 単位
外国語科目（初修外国語／日本語）	6 単位以上
外国語科目（任意）	
選択外国語科目	
国際関係基盤科目（合計）	24 単位以上
専門外国語科目（合計）	4 単位以上
専門外国語科目（国際関係学）	4 単位以上
専門外国語科目（Global Studies）	
専門外国語（任意／その他）	
基幹科目（合計）	20 単位以上
基幹科目（日本語科目）	10 単位以上
基幹科目（英語科目）	
基幹科目（その他）	
国際関係専門科目群（合計）	38 単位以上
【所属プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	20 単位以上
国際協力開発プログラム科目	10 単位以上
Development and Sustainability クラスター科目	
【他プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	
固有専門関連科目（合計）	
固有専門関連科目（日本語）	
固有専門関連科目（英語）	
固有専門関連科目（その他）	
地域研究科目（合計）	8 単位以上
地域研究科目（日本語科目）	4 単位以上
地域研究科目（英語科目）	
地域研究科目（その他）	
専門演習 * 2	（必修）4 単位以上
卒業研究	（必修）2 単位
副専攻科目 * 3	
他学部受講科目 * 4	

* 1 「基礎演習」は、合計 4 単位まで修得可能

* 2 「専門演習」は、合計 8 単位を上限として、卒業に必要な単位へ算入されます。
8 単位を超えた修得点は、卒業に必要な単位として算入されません。

* 3 「副専攻科目」は選択したコースに設置されている科目の中から 16 単位以上を修得した場合に限り、要卒単位として認められます。要卒単位として認められる単位数の上限は 20 単位です。
詳細は P.58 ～ 60 を参照してください。

* 4 「他学部受講科目」は 20 単位まで受講可能です。詳細は P.58 を参照してください。

(3) 国際関係学専攻 国際文化理解プログラム 卒業要件

科目区分	必要単位数
【合計（卒業要件に含まれる単位）】	124 単位以上
基礎演習 * 1	
基礎科目（合計）	14 単位以上
基礎科目（日本語科目）	8 単位以上
基礎科目（英語科目）	
基礎科目（その他）	
外国語科目（合計）	14 単位以上
外国語科目（国際関係学・英語）	8 単位
外国語科目（初修外国語／日本語）	6 単位以上
外国語科目（任意）	
選択外国語科目	
国際関係基盤科目（合計）	24 単位以上
専門外国語科目（合計）	4 単位以上
専門外国語科目（国際関係学）	4 単位以上
専門外国語科目（Global Studies）	
専門外国語（任意／その他）	
基幹科目（合計）	20 単位以上
基幹科目（日本語科目）	10 単位以上
基幹科目（英語科目）	
基幹科目（その他）	
国際関係専門科目群（合計）	38 単位以上
【所属プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	20 単位以上
国際文化理解プログラム科目	10 単位以上
Culture and Society クラスタ科目	
【他プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	
固有専門関連科目（合計）	
固有専門関連科目（日本語）	
固有専門関連科目（英語）	
固有専門関連科目（その他）	
地域研究科目（合計）	8 単位以上
地域研究科目（日本語科目）	4 単位以上
地域研究科目（英語科目）	
地域研究科目（その他）	
専門演習 * 2	（必修）4 単位以上
卒業研究	（必修）2 単位
副専攻科目 * 3	
他学部受講科目 * 4	

* 1 「基礎演習」は、合計 4 単位まで修得可能

* 2 「専門演習」は、合計 8 単位を上限として、卒業に必要な単位へ算入されます。
8 単位を超えた修得点は、卒業に必要な単位として算入されません。

* 3 「副専攻科目」は選択したコースに設置されている科目の中から 16 単位以上を修得した場合に限り、要卒単位として認められます。要卒単位として認められる単位数の上限は 20 単位です。
詳細は P.58 ～ 60 を参照してください。

* 4 「他学部受講科目」は 20 単位まで受講可能です。詳細は P.58 を参照してください。

(4) 国際関係学専攻 国際公務プログラム 卒業要件

科目区分	必要単位数
【合計（卒業要件に含まれる単位）】	124 単位以上
基礎演習 * 1	
基礎科目（合計）	14 単位以上
基礎科目（日本語科目）	8 単位以上
基礎科目（英語科目）	
基礎科目（その他）	
外国語科目（合計）	14 単位以上
外国語科目（国際関係学・英語）	8 単位
外国語科目（初修外国語／日本語）	6 単位以上
外国語科目（任意）	
選択外国語科目	
国際関係基盤科目（合計）	24 単位以上
専門外国語科目（合計）	4 単位以上
専門外国語科目（国際関係学）	4 単位以上
専門外国語科目（Global Studies）	
専門外国語（任意／その他）	
基幹科目（合計）	20 単位以上
基幹科目（日本語科目）	10 単位以上
基幹科目（英語科目）	
基幹科目（その他）	
国際関係専門科目群（合計）	38 単位以上
【所属プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	20 単位以上
国際公務プログラム科目	10 単位以上
Administration に相当する科目群	
【他プログラム】固有専門プログラム科目（合計）	
固有専門関連科目（合計）	
固有専門関連科目（日本語）	
固有専門関連科目（英語）	
固有専門関連科目（その他）	
地域研究科目（合計）	8 単位以上
地域研究科目（日本語科目）	4 単位以上
地域研究科目（英語科目）	
地域研究科目（その他）	
専門演習 * 2	（必修）4 単位以上
卒業研究	（必修）2 単位
副専攻科目 * 3	
他学部受講科目 * 4	

* 1 「基礎演習」は、合計 4 単位まで修得可能

* 2 「専門演習」は、合計 8 単位を上限として、卒業に必要な単位へ算入されます。
8 単位を超えた修得点は、卒業に必要な単位として算入されません。

* 3 「副専攻科目」は選択したコースに設置されている科目の中から 16 単位以上を修得した場合に限り、要卒単位として認められます。要卒単位として認められる単位数の上限は 20 単位です。
詳細は P.58 ～ 60 を参照してください。

* 4 「他学部受講科目」は 20 単位まで受講可能です。詳細は P.58 を参照してください。

※グローバル・スタディーズ専攻は、プログラム制はありません。

(5) グローバル・スタディーズ専攻 卒業要件

科目区分	必要単位数
【合計（卒業要件に含まれる単位）】	124 単位以上
基礎演習 * 1	
基礎科目（合計）	14 単位以上
基礎科目（日本語科目）	
基礎科目（英語科目）	8 単位以上
基礎科目（その他）	
外国語科目（合計）	6 単位以上
外国語科目（国際関係学・英語）	
外国語科目（初修外国語／日本語）	6 単位以上
外国語科目（任意）	
選択外国語科目	
国際関係基盤科目（合計）	24 単位以上
専門外国語科目（合計）	12 単位以上
専門外国語科目（国際関係学）	
専門外国語科目（Global Studies）	12 単位
専門外国語（任意／その他）	
基幹科目（合計）	12 単位以上
基幹科目（日本語科目）	
基幹科目（英語科目）	12 単位以上
基幹科目（その他）	
国際関係専門科目群（合計）	38 単位以上
固有専門プログラム科目（合計）	20 単位以上
Global Studies 科目	12 単位以上
秩序平和プログラム科目	
協力開発プログラム科目	
文化理解プログラム科目	
固有専門関連科目（合計）	
固有専門関連科目（日本語）	
固有専門関連科目（英語）	
固有専門関連科目（その他）	
地域研究科目（合計）	8 単位以上
地域研究科目（日本語科目）	
地域研究科目（英語科目）	4 単位以上
地域研究科目（その他）	
専門演習 * 2	（必修）4 単位以上
卒業研究	（必修）2 単位
副専攻科目 * 3	
他学部受講科目 * 4	

* 1 「基礎演習」は、合計4単位まで修得可能

* 2 「専門演習」は、合計8単位を上限として、卒業に必要な単位へ算入されます。
8単位を超えた修得点は、卒業に必要な単位として算入されません。

* 3 「副専攻科目」は選択したコースに設置されている科目の中から16単位以上を修得した場合に限り、要卒単位として認められます。要卒単位として認められる単位数の上限は20単位です。
詳細はP.58～60を参照してください。

* 4 「他学部受講科目」は20単位まで受講可能です。詳細はP.58を参照してください。

1.3 卒業見込証明書 発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機で発行できます。（発行時に100円/通の手数料が必要）

【発行基準】

①第7学期以降であること

※「履修状況確認」に表示されている「現セメスター（学期）」が、7セメスター（学期）以降であること。

（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること。（休学中は発行できません）

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

※第8学期（8セメスター）以降の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります。（卒業見込日を選択することはできません）

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日（下記参照）
第7学期（7セメスター） 学期開始日（*）～学期終了日	75単位以下	（証明書発行不可）
	76単位以上	翌学期卒業日
第8学期以降（8セメスター以降） 各学期開始日（*）～学期終了日	75単位以下	（証明書発行不可）
	76単位以上 99単位以下	翌学期卒業日
	100単位以上	当学期卒業日

* システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3月20日

1.4 回生・学期ごとの 受講登録上限単位数

1学期間に履修科目として受講登録することができる単位数には上限があり、以下のとおりです。

なお、入学後、最初の学期は第1学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します。（編入学・転入学を除く）。自身の現在の学期は、履修状況確認画面に記載されている「現セメスター（現学期）」でも確認可能です。

（学期ごとの受講登録上限単位数）

①2018年度以降入学者（4月入学）

	1回生	2回生	3回生	4回生以降
春学期	21	22	22	24
秋学期	21	22	22	24

②2018年度以降入学者（9月入学）

	1回生	2回生	3回生	4回生以降
秋学期	21	22	22	24
春学期	21	22	22	24

※ただし、一部受講登録上限単位数に算入されない（枠外となる）科目もあります。詳細は「履修・登録の手引き」より確認してください。

（通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い）

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において1/2分の単位数をカウントします。

（例）通年4単位科目を受講登録した場合、春学期に2単位、秋学期に2単位分をカウントします。

※2018年度以降入学者に対し、国際関係学部では、長期留学プログラム参加者に対して、受講登録上限単位数の緩和措置を設けています。詳細については「Ⅲ．学部横断プログラム 1.2 受講登録上限単位数の緩和措置について」を確認してください。

2. 国際関係学科のカリキュラムについて

2.1 開設科目を確認するにあたって (留意事項)

開設科目一覧を確認するにあたっての留意事項を以下に挙げますので、必ず確認してください。

(1) 国際関係学科の科目ナンバリングについて

国際関係学科では、以下のとおり、国際関係学部開設科目に科目ナンバリングを導入しています。科目ナンバリングは、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。

【科目ナンバリングの見方】

国際関係学科の科目ナンバリングは、以下の原則に従って付けられています。

＜国際関係学科 2018 年度以降の入学者のカリキュラム 科目ナンバリングの基本フォーマット＞

IR 18 - ○○ ▲▲▲
① ② ③ ④

※国際関係学部が開講責任を負う科目についてのみ、科目ナンバリングを行っています。

(国際関係学部以外の教学機関が開講責任を負う科目——基礎科目の一部、日本語教育科目、副専攻科目等々——については、科目番号が示されていません)。

- ①：「IR」は、国際関係学部が開講責任を負っている国際関係学科の科目であることを表しています。
- ②：「18」は「2018 年度以降の入学者のカリキュラム」であることを表しています。
- ③：「2 桁ないし 3 桁アルファベット (AJ、AE など)」で「科目区分」を表し、卒業要件と対応させています (詳細は、以下「科目区分を表すアルファベットコードについて」を参照)。
- ③：「2 桁ないし 3 桁アルファベット」の内、一番右側のアルファベットは開講言語を表しています (J：日本語開講／E：英語開講)。
- ③：国際関係学専攻の固有専門プログラム科目を表すアルファベットは 3 桁で構成されており、真ん中のアルファベットは科目が属するプログラムを表しています。
- ④：「3 桁の数字」の内、百の位は配当回生を表しています。
- ④：「3 桁の数字」の内、十の位と一の位は整理番号となりますが、以下の科目区分では、科目区分の詳細を表しています。

科目区分	十の位	科目区分 (詳細)
外国語科目 (BB) 選択外国語 (BD) 専門外国語 (CC)	1	フランス語
	2	スペイン語
	3	ドイツ語
	4	中国語
	5	朝鮮語
	6	ロシア語
	7	アラビア語
固有専門プログラム科目 (Global Studies)	1	Governance and Peace Cluster
	2	Development and Sustainability Cluster
	3	Culture and Society Cluster
	4	クラスター共通科目「Advanced Topics in International Relations」

(科目区分を表すアルファベットコードについて)

	コード (1桁目)	コード	科目分野名称	コード	科目分野名称
	A：基礎科目	AJ	基礎科目（日本語）	AE	基礎科目（英語）
	B：外国語科目	BA	外国語科目（国際関係学・英語）		
		BB	外国語科目（初修外国語）	BC	外国語科目（任意）
		BD	選択外国語		
国際関係 基盤科目	C：専門外国語科目	CA	専門外国語（国際関係学）	CB	専門外国語（Global Studies）
		CC	専門外国語（任意）		
	D：基幹科目	DJ	基幹科目（日本語）	DE	基幹科目（英語）
	E：固有専門プログラム 科目	EAJ	国際秩序平和プログラム科目	EE	Global Studies
		EBJ	国際協力開発プログラム科目		・Governance and Peace Cluster
		ECJ	国際文化理解プログラム科目		・Development and Sustainability Cluster
		EDJ	国際公務プログラム科目		・Culture and Society Cluster
	F：固有専門関連科目	FJ	固有専門関連科目（日本語・I類）	FE	固有専門関連科目（英語）
	G：地域研究科目	GJ	地域研究科目（日本語）	GE	地域研究科目（英語）
	H：小集団科目	HJ	小集団科目【日本語開講】	HE	小集団科目【英語開講】

(2) 科目名称について (日本語表記／英語表記)

授業使用言語が主に日本語の場合は、科目名称は日本語で、英語の場合は、科目名称は英語で表しています。なお、日本語名称の科目についても、成績証明書を英文で発行した場合、英訳名称で表記されます。

(3) 配当回生について

自身の回生が各科目の配当回生に該当しない場合、その科目は履修できません。

(4) 複数回 (重複) 受講可否について

一度、有効評価 (A+～C 評価) を受けた科目は、再度、履修することはできません。ただし、不合格 (F 評価) となった科目、および有効評価となった科目であっても特殊講義などの一部科目については、複数回の履修が可能です。

(5) 登録制限該当科目について

国際関係学部では、開講言語が異なっている場合でも授業内容が同じであると判断される科目については、同一科目であるとみなします。

この関係にある科目については、履修するにあたって以下の制約があります。

- ・既に一方の開講言語の科目を修得している場合、もう一方の開講言語の科目は、以後、履修することはできません。
- ・(この関係にある科目をいずれも未履修の場合であっても) 同セメスター内に同時に履修することはできません。

例1) 「IR18-DJ103 国際連合入門」を既に修得している場合、以降、「IR18-AE110 Introduction to the United Nations」は履修できません。

例2) (これまで未履修の場合であっても) 「IR18-DJ103 国際連合入門」と「IR18-AE110 Introduction to the United Nations」の両方を、同時に履修することはできません。

※具体的な科目については P.27 を参照してください。

2.2 国際関係学科 2025 年度カリキュラム開設科目一覧

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
基礎科目 (日本語)					
IR18-AJ101	法学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ102	政治学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ103	経済学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ104	社会学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ105	言語学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ106	文化人類学	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ107	自然科学概論	2	1 回生以上	不可	
IR18-AJ108	情報処理	2	1 回生のみ	不可	
IR18-AJ109	特殊講義 (基礎科目)	2	1 回生以上	可	
	論理と思考	2	1 回生以上	不可	
	映像と表現	2	1 回生以上	不可	
	観光学	2	1 回生以上	不可	
	現代の経営	2	1 回生以上	不可	
	現代環境論	2	1 回生以上	不可	
	科学・技術と社会	2	1 回生以上	不可	
	日本の近現代と立命館	2	1～2 回生	不可	
	平和人権フィールドスタディ	2	2 回生以上	不可	
	地域参加学習入門	2	1～2 回生	不可	
	シチズンシップ・スタディーズ	2	2 回生以上	不可	
	現代社会のフィールドワーク	2	1 回生以上	不可	
	学びとキャリア	2	1～2 回生	不可	
	仕事とキャリア	2	2 回生以上	不可	
	コーオペ演習 (理論)	2	2 回生以上	不可	
	コーオペ演習 (実践)	2	2 回生以上	不可	
	スポーツと現代社会	2	1 回生以上	不可	
	スポーツのサイエンス	2	1 回生以上	不可	
	スポーツ方法実習Ⅰ	1	1 回生以上	可	
	スポーツ方法実習Ⅱ	1	1 回生以上	可	
	教養ゼミナール	2	1 回生以上	不可	
	ピア・サポート論	2	1～2 回生	不可	
	国の行政組織	2	1～2 回生	不可	
	(留) 日本の文化・地理・歴史 ※ a	2	1 回生以上	不可	
	(留) 日本の社会・政治 ※ a	2	1 回生以上	不可	
	(留) 日本の経済・経営 ※ a	2	1 回生以上	不可	
	(留) 日本の自然・科学技術 ※ a	2	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語学 ※ 1	2	2 回生以上	不可	
	異文化間テーマ演習	2	1 回生以上	不可	
	世界と日本の食文化	2	1 回生以上	不可	
	映像メディア実践入門	2	1 回生以上	不可	
	特殊講義 (総合)	1～4	1 回生以上	可	
	実践データ科学	2	1 回生以上	不可	
	ソーシャルデザイン論	2	1 回生以上	不可	
	メディアと図書館	2	1～2 回生	不可	
	京都学	2	1 回生以上	不可	
	美と芸術の論理	2	1 回生以上	不可	
	音楽原論	2	1 回生以上	不可	
	社会と学ぶ課題解決	2	1 回生のみ	不可	
	情報技術と社会	2	1 回生以上	不可	
	データサイエンス・AI 基礎	2	1 回生以上	不可	* 1
	データエンジニアリング基礎	2	1 回生以上	不可	* 2
基礎科目 (英語)					
IR18-AE101	Introduction to Law	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE102	Introduction to Linguistics	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE103	Introduction to Anthropology	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE104	Introduction to Natural Science	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE105	Japan and the West	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE106	Kyoto and the Japanese Arts	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE107	Peace Studies Seminar	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE108	Introduction to Humanities	2	1 回生以上	不可	

※ a (留) と記載のある科目は、留学生が受講することを想定した科目です。

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-AE109	Modern World History	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE110	Introduction to the United Nations	2	1 回生以上	不可	* 3
IR18-AE111	Introduction to Peace Studies	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE112	Introduction to Gender Studies	2	1 回生以上	不可	
IR18-AE113	Special Lecture (General Education Course)	2	1 回生以上	可	
IR18-AE114	Data Literacy for Research Design	2	1 回生以上	不可	
	Liberal Arts Seminar	2	1 回生以上	不可	
	Cross-cultural Encounters 1	2	1 ~ 2 回生	不可	
	Cross-cultural Encounters 2	2	1 回生以上	不可	
	Academic Skills 1	2	1 回生以上	不可	
	Academic Skills 2	2	1 回生以上	不可	
	Cross-cultural Seminar	2	1 回生以上	不可	
	Global Engineer Program	2	1 ~ 3 回生	不可	
	University of Hawaii Program	2	2 ~ 3 回生	不可	
	Non-verbal Communication	2	1 回生以上	不可	
	Understanding Language	2	1 回生以上	不可	
	Introduction to Computational Linguistics	2	1 回生以上	不可	
	History of Computing	2	1 回生以上	不可	
	Language in Politics	2	1 回生以上	不可	
	Computers in Education	2	1 回生以上	不可	
	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	1 回生以上	不可	
	Cross Border Policy Issues	2	1 回生以上	不可	
	Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	1 回生以上	不可	
	Introductory Course to International Project Development	2	1 回生以上	不可	
	Introduction to Food Culture	2	1 回生以上	不可	
	Understanding Visual Culture	2	1 回生以上	不可	
	Introduction to Global Justice	2	1 回生以上	不可	
	Playing with Playfulness	2	1 回生以上	不可	
	Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	1 回生以上	不可	
	Introduction to Economics	2	1 回生以上	不可	
	Foundations of Data Science and AI	2	1 回生以上	不可	* 1
	Foundations of Data Engineering	2	1 回生以上	不可	* 2
基礎科目 (その他)					
	APU 交流科目 (基礎科目)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (基礎科目)	1 ~ 8	1 回生以上	可	
	単位互換科目	1、2、4	1 回生以上	可	
	単位互換科目 (遠隔授業)	1、2、4	1 回生以上	可	
	グローバル社会の体験と理解	2	1 回生以上	可	
	Intensive Language Workshop	2	1 回生以上	可	
	Language for Academic Communication	2	1 回生以上	可	
	Global Project-Based Learning	2	1 回生以上	可	
	Area Study I	2	1 回生以上	可	
	Academic Communication (Online Learning)	2	1 回生以上	可	
	Area Study (Online Learning)	2	1 回生以上	可	
外国語科目 (国際関係学・英語)					
IR18-BA101	English for International Studies I (Advanced)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA101	English for International Studies I (High-Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA101	English for International Studies I (Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA101	English for International Studies I (Basic)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA102	English for International Studies II (Advanced)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA102	English for International Studies II (High-Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA102	English for International Studies II (Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA102	English for International Studies II (Basic)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA103	English for International Studies III (Theme-based)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA104	English for International Studies IV (Advanced)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA104	English for International Studies IV (High-Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA104	English for International Studies IV (Intermediate)	2	1 回生以上	不可	
IR18-BA104	English for International Studies IV (Basic)	2	1 回生以上	不可	
外国語科目 (初修外国語)					
IR18-BB111	フランス語・基礎	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB112	フランス語・表現 I	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB113	フランス語・展開	2	1 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-BB114	フランス語・表現Ⅱ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB121	スペイン語・基礎	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB122	スペイン語・表現Ⅰ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB123	スペイン語・展開	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB124	スペイン語・表現Ⅱ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB131	ドイツ語・基礎	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB132	ドイツ語・表現Ⅰ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB133	ドイツ語・展開	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB134	ドイツ語・表現Ⅱ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB141	中国語・基礎	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB142	中国語・表現Ⅰ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB143	中国語・展開	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB144	中国語・表現Ⅱ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB151	朝鮮語・基礎	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB152	朝鮮語・表現Ⅰ	1	1 回生以上	不可	
IR18-BB153	朝鮮語・展開	2	1 回生以上	不可	
IR18-BB154	朝鮮語・表現Ⅱ	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級表現読解Ⅰ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級表現読解Ⅱ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級表現読解Ⅲ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級表現読解Ⅳ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級表現読解Ⅴ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級コミュニケーションⅠ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	フランス語中級コミュニケーションⅡ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級表現読解Ⅰ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級表現読解Ⅱ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級表現読解Ⅲ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級表現読解Ⅳ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級表現読解Ⅴ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級コミュニケーションⅠ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	スペイン語中級コミュニケーションⅡ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級表現読解Ⅰ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級表現読解Ⅱ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級表現読解Ⅲ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級表現読解Ⅳ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級表現読解Ⅴ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級コミュニケーションⅠ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	ドイツ語中級コミュニケーションⅡ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級表現読解Ⅰ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級表現読解Ⅱ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級表現読解Ⅲ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級表現読解Ⅳ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級表現読解Ⅴ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級コミュニケーションⅠ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	中国語中級コミュニケーションⅡ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級表現読解Ⅰ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級表現読解Ⅱ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級表現読解Ⅲ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級表現読解Ⅳ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級表現読解Ⅴ ※ b	2	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級コミュニケーションⅠ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	朝鮮語中級コミュニケーションⅡ ※ b	1	1 回生以上	不可	
	APU 交流科目 (初修外国語)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (初修外国語)	1～8	1 回生以上	可	
外国語科目 (日本語)					
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	1	2 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	1	2 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	1	2 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	1	2 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	1	1 回生以上	不可	

※ b 初修外国語既修者対応プログラム用の科目です。受講資格のある学生のみ履修可能です。

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
	(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅵ (総合)	3	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅵ (ライティング)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅵ (聴解口頭)	2	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅴ (総合)	5	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅴ (ライティング)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅳ (総合)	5	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅳ (ライティング)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅲ (総合)	5	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅲ (ライティング)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅱ (総合)	5	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅱ (ライティング)	1	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅰ - 1 (総合)	3	1 回生以上	不可	
	(留) 日本語Ⅰ - 2 (総合)	3	1 回生以上	不可	
	APU 交流科目 (外国語 (日本語))	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (外国語 (日本語))	1～8	1 回生以上	可	
外国語科目 (任意)					
IR18-BC101	Intensive English I	1	1 回生以上	P.38 参照	
IR18-BC102	Intensive English II	1	1 回生以上	P.38 参照	
IR18-BC103	Intensive English III	1	1 回生以上	P.38 参照	
IR18-BC104	Intensive English IV	1	1 回生以上	P.38 参照	
IR18-BC105	Intensive English V	1	1 回生以上	P.38 参照	
IR18-BC106	Intensive English VI	1	1 回生以上	P.38 参照	
	APU 交流科目 (外国語 (任意))	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (外国語 (任意))	1～8	1 回生以上	可	
選択外国語科目					
IR18-BD201	特殊講義 (選択外国語)	1	2 回生以上	可	
IR18-BD211	フランス語アドバンストⅠ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD212	フランス語アドバンストⅡ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD221	スペイン語アドバンストⅠ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD222	スペイン語アドバンストⅡ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD231	ドイツ語アドバンストⅠ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD232	ドイツ語アドバンストⅡ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD241	中国語アドバンストⅠ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD242	中国語アドバンストⅡ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD251	朝鮮語アドバンストⅠ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD252	朝鮮語アドバンストⅡ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD261	ロシア語Ⅰ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD262	ロシア語Ⅱ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD361	ロシア語Ⅲ	1	3 回生以上	不可	
IR18-BD362	ロシア語Ⅳ	1	3 回生以上	不可	
IR18-BD271	アラビア語Ⅰ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD272	アラビア語Ⅱ	1	2 回生以上	不可	
IR18-BD371	アラビア語Ⅲ	1	3 回生以上	不可	
IR18-BD372	アラビア語Ⅳ	1	3 回生以上	不可	
	APU 交流科目 (選択外国語)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (選択外国語)	1～8	1 回生以上	可	
専門外国語科目 (国際関係学)					
IR18-CA201	Bridge to International Studies I (Order & Peace/Administration)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA202	Bridge to International Studies I (Cooperation & Development)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA203	Bridge to International Studies I (Cultural Understanding)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA204	Bridge to International Studies II (Order & Peace/Administration)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA205	Bridge to International Studies II (Cooperation & Development)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA206	Bridge to International Studies II (Cultural Understanding)	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA207	Bridge to International Studies III	2	2 回生のみ	不可	
IR18-CA301	Bridge to International Studies IV	2	3 回生以上	不可	
IR18-CA302	Bridge to International Studies V	2	3 回生以上	不可	
専門外国語科目 (Global Studies)					
IR18-CB101	Academic Skills I (Proficient)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB101	Academic Skills I (Advanced+)	4	1 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-CB101	Academic Skills I (Advanced)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB102	Academic Skills II (Proficient)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB102	Academic Skills II (Advanced+)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB102	Academic Skills II (Advanced)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB103	Academic Skills III (Proficient)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB103	Academic Skills III (Advanced+)	4	1 回生以上	不可	
IR18-CB103	Academic Skills III (Advanced)	4	1 回生以上	不可	
専門外国語科目 (任意)					
IR18-CC201	特殊講義 (専門外国語)	2	2 回生以上	可	
IR18-CC211	フランス語・国際関係 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-CC311	フランス語・国際関係 II	2	3 回生以上	不可	
IR18-CC221	スペイン語・国際関係 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-CC321	スペイン語・国際関係 II	2	3 回生以上	不可	
IR18-CC231	ドイツ語・国際関係 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-CC331	ドイツ語・国際関係 II	2	3 回生以上	不可	
IR18-CC241	中国語・国際関係 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-CC341	中国語・国際関係 II	2	3 回生以上	不可	
IR18-CC251	朝鮮語・国際関係 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-CC351	朝鮮語・国際関係 II	2	3 回生以上	不可	
専門外国語科目 (その他)					
	APU 交流科目 (専門外国語)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (専門外国語)	1～8	1 回生以上	可	
基幹科目 (日本語)					
IR18-DJ101	国際関係学 A	2	1 回生以上	不可	
IR18-DJ102	国際関係学 B	2	1 回生以上	不可	
IR18-DJ103	国際連合入門	2	1 回生以上	不可	* 3
IR18-DJ104	平和学入門	2	1 回生以上	不可	
IR18-DJ105	基礎統計学	2	1 回生以上	不可	
IR18-DJ106	近現代史	2	1 回生以上	不可	
IR18-DJ107	特殊講義 (基幹科目)	2	1 回生以上	可	
IR18-DJ201	国際政治学	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ202	国際経済学	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ203	国際文化・社会学	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ204	国際行政学	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ205	地域研究論 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ206	地域研究論 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ207	日本外交論	2	2 回生以上	不可	
IR18-DJ208	国際関係学セミナー	2	2 回生のみ	不可	* 4
IR18-DJ209	グローバル・シミュレーション・ゲーミング	2	2 回生のみ	不可	* 5
IR18-DJ301	国際関係思想	2	3 回生以上	不可	
基幹科目 (英語)					
IR18-DE101	Theories of International Relations	2	1 回生以上	不可	
IR18-DE102	Politics for Global Studies	2	1 回生以上	不可	
IR18-DE103	Economics for Global Studies	2	1 回生以上	不可	
IR18-DE104	Sociology for Global Studies	2	1 回生以上	不可	
IR18-DE105	Macroeconomics	2	1 回生以上	不可	
IR18-DE106	Special Lecture (Foundation Course)	2	1 回生以上	可	
IR18-DE201	Global Studies Research	2	2 回生以上	不可	
IR18-DE202	Global Studies Seminar	2	2 回生のみ	不可	* 4
IR18-DE203	Global Simulation Gaming	2	2 回生のみ	不可	* 5
基幹科目 (その他)					
	APU 交流科目 (基幹科目)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (基幹科目)	1～8	1 回生以上	可	
	Area Study II	4	1 回生以上	可	
固有専門プログラム科目 (国際秩序平和プログラム)					
IR18-EAJ201	憲法 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ202	憲法 II	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ203	国際法 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ204	国際法 II	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ205	国際関係史 I	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ206	国際関係史 II	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ207	欧米政治史 I	2	2 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-EAJ208	欧米政治史Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ209	平和・紛争論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ210	現代政治論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ211	途上国政治論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ301	憲法Ⅲ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ302	国際法Ⅲ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ303	国際法Ⅳ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ304	国際人権法	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ305	安全保障論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ306	国際機構論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ307	比較政治論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ308	国際政治理論	2	3 回生以上	不可	
固有専門プログラム科目 (国際協力開発プログラム)					
IR18-EBJ201	マクロ経済学	4	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ202	環境経済論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ203	地域統合・協力論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ204	国際協力論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ205	日本経済論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ206	国際金融論Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ207	国際政治経済学	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ208	開発経済論Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ209	開発経済論Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ301	ミクロ経済学	4	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ302	国際貿易投資論Ⅰ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ303	国際貿易投資論Ⅱ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ304	国際金融論Ⅱ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ305	地域開発論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ306	開発政策論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ307	開発と食料	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ308	経済政策論	2	3 回生以上	不可	
固有専門プログラム科目 (国際文化理解プログラム)					
IR18-ECJ201	ジェンダー論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ202	民族文化誌	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ203	国際ジャーナリズム論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ204	多文化社会論Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ205	国際交流論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ206	異文化コミュニケーション論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ207	比較文化論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ208	東アジア文化関係論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ209	日本文化・社会論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ210	カルチュラル・スタディーズ	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ301	比較家族論	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ302	国際人口移動論	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ303	現代社会理論	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ304	多文化社会論Ⅱ	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ305	メディア・文化論	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ306	社会言語学	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ307	文化交流史	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ308	表象文化論	2	3 回生以上	不可	
IR18-ECJ309	宗教と国際関係	2	3 回生以上	不可	
固有専門プログラム科目 (国際公務プログラム)					
IR18-EDJ201	国際公務セミナー ※国際関係学専攻は国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	2 回生のみ	不可	
IR18-EAJ201	憲法Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ202	憲法Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ203	国際法Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ204	国際法Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ210	現代政治論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ201	マクロ経済学	4	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ204	国際協力論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EBJ205	日本経済論	2	2 回生以上	不可	
IR18-ECJ204	多文化社会論Ⅰ	2	2 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-ECJ205	国際交流論	2	2 回生以上	不可	
IR18-EAJ301	憲法Ⅲ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ302	国際法Ⅲ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ303	国際法Ⅳ	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ306	国際機構論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EAJ307	比較政治論	2	3 回生以上	不可	
IR18-EBJ301	ミクロ経済学	4	3 回生以上	不可	
固有専門プログラム科目 (Global Studies)					
IR18-EE211	International Law	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE212	Security Studies	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE213	Global Political Economy	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE214	Comparative and Global Governance	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE311	Peace and Conflict Studies	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE312	International Organizations	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE313	International Human Rights	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE221	Development Studies	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE222	Global Environmental Issues	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE223	Microeconomics	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE321	International Trade and Investment	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE322	International Finance	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE323	Global Civil Society and Development	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE231	Race and Ethnicity in the Modern World	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE232	Media and Society	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE233	Cultural Awareness and Communication	2	2 回生以上	不可	
IR18-EE331	Global Sociology	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE332	International Migration	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE333	Topics in Identity	2	3 回生以上	不可	
IR18-EE341	Advanced Topics in International Relations	2	3 回生以上	可	
固有専門関連科目 (日本語)					
IR18-FJ201	応用情報処理	2	2 回生以上	不可	
IR18-FJ202	社会統計論	2	2 回生以上	不可	
IR18-FJ203	フィールド調査法	2	2 回生以上	不可	
IR18-FJ204	プロフェッショナル・ワークショップ	2	2・3 回生のみ	不可	* 6
IR18-FJ205	インターンシップ	2、4	2 回生以上	不可	* 7
IR18-FJ206	特殊講義 (固有専門関連科目)	2	2 回生以上	可	
IR18-FJ301	キャリア・デザイン	2	3 回生のみ	不可	
	民法Ⅰ α ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	2 回生以上	不可	
	民法Ⅰ β ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	2 回生以上	不可	
	民法Ⅱ (債権各論) ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	4	3 回生以上	不可	
	民法Ⅲ (物権法) ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	3 回生以上	不可	
	行政法Ⅰ ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	4	2 回生以上	不可	
	行政法Ⅱ ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	4	3 回生以上	不可	
	財政学Ⅰ ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	3 回生以上	不可	
	財政学Ⅱ ※国際公務プログラム選択者のみ履修可能	2	3 回生以上	不可	
	国際比較法	2	3 回生以上	不可	
	国際環境法	2	3 回生以上	不可	
	国際経済法	2	3 回生以上	不可	
固有専門関連科目 (英語)					
IR18-FE201	Special Lecture (Core Related Course)	2	2 回生以上	可	
IR18-FE202	Professional Workshop	2	2・3 回生のみ	不可	* 6
IR18-FE301	Internship	2、4	3 回生以上	不可	* 7
固有専門関連科目 (その他)					
	APU 交流科目 (固有専門関連科目)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (固有専門関連科目)	1～8	1 回生以上	可	
	Global Study	4	1 回生以上	可	
地域研究科目 (日本語)					
IR18-GJ201	東アジア研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ202	東アジア研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ203	東南アジア研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ204	東南アジア研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ205	南アジア研究	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ206	中東研究 A	2	2 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
IR18-GJ207	中東研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ208	アフリカ研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ209	アフリカ研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ210	ロシア・ユーラシア研究	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ211	ヨーロッパ研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ212	ヨーロッパ研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ213	北アメリカ研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ214	北アメリカ研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ215	ラテンアメリカ研究 A	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ216	ラテンアメリカ研究 B	2	2 回生以上	不可	
IR18-GJ217	特殊講義 (地域研究科目)	2	2 回生以上	可	
地域研究科目 (英語)					
IR18-GE201	Japanese Politics	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE202	Japanese Society	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE203	Japanese Culture	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE204	Japanese Economy	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE205	Japan-United States Relations	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE206	Modern Japanese History	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE207	Introduction to Area Studies	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE208	Advanced Topics in Area Studies	2	2 回生以上	不可	
IR18-GE209	Special Lecture (Area Studies Course)	2	2 回生以上	可	
IR18-GE301	United States Politics and Foreign Policy	2	3 回生以上	不可	
IR18-GE302	Foreign Relations of Japan	2	3 回生以上	不可	
IR18-GE303	Business Administration in Japan	2	3 回生以上	不可	
IR18-GE304	Korean Studies	2	3 回生以上	不可	
IR18-GE305	Contemporary China	2	3 回生以上	不可	
IR18-GE306	Southeast Asian Studies	2	3 回生以上	不可	
地域研究科目 (その他)					
	APU 交流科目 (地域研究科目)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (地域研究科目)	1～8	1 回生以上	可	
演習科目 (基礎演習)					
IR18-HJ101	基礎演習 I	2	1 回生のみ	不可	
IR18-HJ102	基礎演習 II	2	1 回生のみ	不可	
IR18-HE101	Introductory Seminar I	2	1 回生のみ	不可	
IR18-HE102	Introductory Seminar II	2	1 回生のみ	不可	
	APU 交流科目 (基礎演習)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (基礎演習)	1～8	1 回生以上	可	
演習科目 (専門演習)					
IR18-HJ301	専門演習	2	3 回生以上	可	
IR18-HE301	Advanced Seminar	2	3 回生以上	可	
	APU 交流科目 (専門演習)	2、4	1 回生以上	可	
	外国留学科目 (専門演習)	1～8	1 回生以上	可	
演習科目 (卒業研究)					
IR18-HJ401	卒業研究※国際関係学専攻のみ履修可	2	4 回生以上	不可	
IR18-HE401	Graduation Research ※グローバル・スタディーズ専攻のみ履修可	2	4 回生以上	不可	
全学副専攻科目					
	(副) 専門フランス語 I	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 II	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 III	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 IV	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 V	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 VI	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 VII	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語 VIII	2	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーション I	1	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーション II	1	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーション III	1	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーション IV	1	2 回生以上	不可	
	(副) Intensive Language Workshop	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語 I	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語 II	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語 III	2	2 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
	(副) 専門スペイン語Ⅳ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅴ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅵ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅶ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅷ	2	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅠ	1	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅡ	1	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅢ	1	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅣ	1	2 回生以上	不可	
	(副) Intensive Language Workshop	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅲ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅳ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅴ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅵ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅶ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅷ	2	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅢ	1	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅣ	1	2 回生以上	不可	
	(副) Intensive Language Workshop	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅲ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅳ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅴ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅵ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅶ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅷ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅠ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅡ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅢ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅣ	1	2 回生以上	不可	
	(副) Intensive Language Workshop	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅰ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅱ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅲ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅳ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅴ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅵ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅶ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅷ	2	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅠ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅡ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅢ	1	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅣ	1	2 回生以上	不可	
	(副) Intensive Language Workshop	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語Ⅴ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語Ⅵ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語Ⅶ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門フランス語Ⅷ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーションⅢ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) フランス語コミュニケーションⅣ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅴ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅵ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅶ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門スペイン語Ⅷ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅢ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) スペイン語コミュニケーションⅣ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅴ (既修者)	2	2 回生以上	不可	

科目 ナンバリング (P.15 参照)	科目名称 (P.16 参照)	単位数	配当回生 (P.16 参照)	複数回受講 可否 (P.16 参照)	登録制限 該当科目 (P.16, P.27 参照)
	(副) 専門ドイツ語Ⅵ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅶ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門ドイツ語Ⅷ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅢ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) ドイツ語コミュニケーションⅣ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅴ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅵ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅶ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門中国語Ⅷ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅢ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 中国語コミュニケーションⅣ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅴ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅵ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅶ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 専門朝鮮語Ⅷ (既修者)	2	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅢ (既修者)	1	2 回生以上	不可	
	(副) 朝鮮語コミュニケーションⅣ (既修者)	1	2 回生以上	不可	

<固有専門プログラム科目（Global Studies）のクラスター科目について>

固有専門プログラム科目（Global Studies）の内、各クラスター科目は以下の通りとなります。

国際関係学専攻の学生が下記クラスター科目の単位を修得した場合、Governance and Peace は「国際秩序平和プログラム」、Development and Sustainability は「国際協力開発プログラム」、Culture and Society は「国際文化理解プログラム」の分野の単位として授与されます。また国際公務プログラム所属の学生が Administration から単位を修得した場合には同所属プログラムの単位として授与されます。

（Governance and Peace クラスター科目）

科目 ナンバリング	科目名称	単位数	配当回生	複数回受講可否
IR18-EE211	International Law	2	2 回生以上	不可
IR18-EE212	Security Studies	2	2 回生以上	不可
IR18-EE213	Global Political Economy	2	2 回生以上	不可
IR18-EE214	Comparative and Global Governance	2	2 回生以上	不可
IR18-EE311	Peace and Conflict Studies	2	3 回生以上	不可
IR18-EE312	International Organizations	2	3 回生以上	不可
IR18-EE313	International Human Rights	2	3 回生以上	不可
IR18-EE341	Advanced Topics in International Relations	2	3 回生以上	可

（Development and Sustainability クラスター科目）

科目 ナンバリング	科目名称	単位数	配当回生	複数回受講可否
IR18-EE221	Development Studies	2	2 回生以上	不可
IR18-EE222	Global Environmental Issues	2	2 回生以上	不可
IR18-EE223	Microeconomics	2	2 回生以上	不可
IR18-EE321	International Trade and Investment	2	3 回生以上	不可
IR18-EE322	International Finance	2	3 回生以上	不可
IR18-EE323	Global Civil Society and Development	2	3 回生以上	不可
IR18-EE341	Advanced Topics in International Relations	2	3 回生以上	可

（Culture and Society クラスター科目）

科目 ナンバリング	科目名称	単位数	配当回生	複数回受講可否
IR18-EE231	Race and Ethnicity in the Modern World	2	2 回生以上	不可
IR18-EE232	Media and Society	2	2 回生以上	不可
IR18-EE233	Cultural Awareness and Communication	2	2 回生以上	不可
IR18-EE331	Global Sociology	2	3 回生以上	不可
IR18-EE332	International Migration	2	3 回生以上	不可
IR18-EE333	Topics in Identity	2	3 回生以上	不可
IR18-EE341	Advanced Topics in International Relations	2	3 回生以上	可

（Administration に相当する科目群）

科目 ナンバリング	科目名称	単位数	配当回生	複数回受講可否
IR18-EE211	International Law	2	2 回生以上	不可
IR18-EE312	International Organizations	2	3 回生以上	不可
IR18-EE221	Development Studies	2	2 回生以上	不可
IR18-EE223	Microeconomics	2	2 回生以上	不可

<（補足）登録制限該当科目の関係にある科目について（開設科目一覧中の登録制限該当科目参照）>

登録制限該当科目（下記＊科目の組み合わせ）について、一方の開講言語で科目を履修し単位を修得した場合、もう一方の開講言語の科目を履修することはできません。また、登録制限該当科目に該当する科目をまだどちらも受講していない場合、同じセメスターに両方の科目を同時に履修することはできません。

- * 1 「データサイエンス・AI 基礎」と「Foundations of Data Science and AI」
- * 2 「データエンジニアリング基礎」と「Foundations of Data Engineering」
- * 3 「IR18-DJ103 国際連合入門」と「IR18-AE110 Introduction to the United Nations」
- * 4 「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」と「IR18-DE202 Global Studies Seminar」
- * 5 「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」と「IR18-DE203 Global Simulation Gaming」
- * 6 「IR18-FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ」と「IR18-FE202 Professional Workshop」
- * 7 「IR18-FJ205 インターンシップ」と「IR18-FE301 Internship」

3. 国際関係学科 各科目区分における学修について

科目の受講登録方法・スケジュールの詳細は、「履修・登録の手引き」より確認してください。

3.1 基礎科目／ General Education Courses (AJ・AE)

(1) 学部基礎科目の位置づけ

国際関係学科では、国際関係学の基礎となっている諸学問の特徴と方法について学ぶ基礎科目として、以下の科目を1回生配当で開講しています。これらの科目は、全学部で開講されている教養科目に相当するといえるかもしれません。

(学部基礎科目一覧)

科目名称	開講言語	単位数
IR18-AJ101 法学	日本語	2
IR18-AJ102 政治学		2
IR18-AJ103 経済学		2
IR18-AJ104 社会学		2
IR18-AJ105 言語学		2
IR18-AJ106 文化人類学		2
IR18-AJ107 自然科学概論		2
IR18-AJ108 情報処理		2
IR18-AJ109 特殊講義（基礎科目）		2
IR18-AE101 Introduction to Law	英語	2
IR18-AE102 Introduction to Linguistics		2
IR18-AE103 Introduction to Anthropology		2
IR18-AE104 Introduction to Natural Science		2
IR18-AE105 Japan and the West		2
IR18-AE106 Kyoto and the Japanese Arts		2
IR18-AE107 Peace Studies Seminar		2
IR18-AE108 Introduction to Humanities		2
IR18-AE109 Modern World History		2
IR18-AE110 Introduction to the United Nations		2
IR18-AE111 Introduction to Peace Studies		2
IR18-AE112 Introduction to Gender Studies		2
IR18-AE113 Special Lecture (General Education Course)		2
IR18-AE114 Data Literacy for Research Design		2

(2) 教養科目

全学で開講されている教養科目のうち、国際関係学科の学生にとって有意義な科目を国際関係学科の基礎科目群として取り込んでいます。

①立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第3セメスターまで）で1科目以上履修することが望ましいです。

立命館科目は、次の3つの特徴をもって構成されています。

第1に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学と何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第2に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第3に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々の

いのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

科目名称	単位数
日本の近現代と立命館	2
ピア・サポート論	2
科学・技術と社会	2
実践データ科学	2
平和人権フィールドスタディ	2

②教養基盤科目（A群）

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

国際関係学科の学生は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「自然・科学と人類」「数理と情報」の6つの分野からの科目を受講することができます。

科目名に「(留)」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で留学生が受講することを想定した科目です。

【思想と人間】

哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけではなく、21世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。

【現代と文化】

人間を政治、経済、社会、文化の4側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。

【芸術と創造】

人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。

【社会・経済と統治】

この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいっそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を解明します。

【自然・科学と人類】

この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や

到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。

【数理と情報】

この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理的世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

分野	科目名称	単位数
思想と人間	論理と思考	2
	(留) 日本の文化・地理・歴史	2
現代と文化	メディアと図書館	2
	世界と日本の食文化	2
	観光学	2
	京都学	2
	(留) 日本語学	2
芸術と創造	美と芸術の論理	2
	音楽原論	2
	映像と表現	2
	映像メディア実践入門	2
社会・経済と統治	国の行政組織	2
	現代の経営	2
	ソーシャルデザイン論	2
	(留) 日本の社会・政治	2
	(留) 日本の経済・経営	2
自然・科学と人類	現代環境論	2
	(留) 日本の自然・科学技術	2
数理と情報	情報技術と社会	2

③国際教養科目（B群）

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通じた幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目（B群）は「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

【国際教養科目区分】

人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた20～35人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的な背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。

【異文化交流科目区分】

文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。

【海外留学科目区分】

主に、半年から1年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

- ・国際教養科目は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関わり度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけている必要があります。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。

＜英語開講の授業における言語レベル＞

Stage	TOEIC® LISTENING AND READING テスト	TOEFL ITP® テスト	TOEFL iBT® テスト	IELTS
Stage1	380 未満	400 未満	32 未満	4.5 未満
Stage2	380～580	400～480	32～55	4.5～5.0
Stage3	580～630	480～530	55～71	5.0 以上
Stage4	630 以上	530 以上	71 以上	5.5 以上

※ TOEIC® および TOEFL® は Educational Testing Service(ETS)の登録商標です。

- ・海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

分野	科目名称	単位数
国際教養科目	Liberal Arts Seminar	2
	Introduction to Economics	2
	Introduction to Computational Linguistics	2
	History of Computing	2
	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2
	Understanding Language	2
	Computers in Education	2
	Language in Politics	2
	Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2
	Introductory Course to International Project Development	2
	Understanding Visual Culture	2
	Introduction to Food Culture	2
	Cross Border Policy Issues	2
	Playing with Playfulness	2
	Introduction to Global Justice	2
	Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2
異文化交流科目	Cross-cultural Encounters 1	2
	Cross-cultural Encounters 2	2
	Cross-cultural Seminar	2
	Non-verbal Communication	2

分野	科目名称	単位数
海外留学科目	Academic Skills 1	2
	Academic Skills 2	2
	Global Engineer Program	2
	University of Hawaii Program	2
	グローバル社会の体験と理解	2
	Intensive Language Workshop	2
	Language for Academic Communication	2
	Global Project-Based Learning	2
	Area Study I	2
	Academic Communication (Online Learning)	2
	Area Study (Online Learning)	2

④社会で学ぶ自己形成科目（C群）

実社会（企業・公益団体・地域社会等）との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士との対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

【キャリア教育科目】

キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関わるか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関わりの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。

1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望まれます。

【サービ斯拉ーニング科目】

主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

分野	科目名称	単位数
キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2
	学びとキャリア	2
	仕事とキャリア	2
	コーオプ演習（理論）	2
	コーオプ演習（実践）	2
サービ斯拉ーニング科目	地域参加学習入門	2
	現代社会のフィールドワーク	2
	シチズンシップ・スタディーズ	2

⑤スポーツ・健康科目（D群）

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに重大な役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

科目名称	単位数
スポーツと現代社会	2
スポーツのサイエンス	2
スポーツ方法実習Ⅰ	1
スポーツ方法実習Ⅱ	1

⑥学際総合科目（E群）

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」から成り立っています。

科目名称	単位数
教養ゼミナール	2
異文化間テーマ演習	2

⑦データサイエンス +R プログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス +R プログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスや AI に関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

i) データサイエンス +R プログラム（基礎）

科目名称	配当回生	単位数
情報技術と社会（国際関係学科のみ）	1 回生以上	2
IR18-AE114 Data literacy for research design	1 回生以上	2

※国際関係学科の学生はどちらかの単位修得により知識・技能を修得することができます。

ii) データサイエンス +R プログラム（応用基礎）

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI 基礎	1 回生以上	2 単位
データエンジニアリング基礎	1 回生以上	2 単位
Foundations of Data Science and AI	1 回生以上	2 単位
Foundations of Data Engineering	1 回生以上	2 単位

【以下の通り、重複履修はできませんので、注意してください】

	対象科目	単位
A	データサイエンス・AI 基礎	どちらか 1 つのみ単位取得可能（重複受講不可）
	Foundations of Data Science and AI	
B	データエンジニアリング基礎	どちらか 1 つのみ単位取得可能（重複受講不可）
	Foundations of Data Engineering	

※ A と B それぞれ 1 科目ずつ単位取得することにより応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。

・右の QR コードから、アクセスできます。

・manaba+R からは、

「国際関係学部生のページ」→「トップページ」

→「国際関係学部の履修」→「教養科目の履修」をクリック。



3.2 外国語科目／ Foreign Language Courses (BA・BB (初修語)・BC・ 日本語)

(1) 外国語科目の位置づけ

国際関係学科では外国語を重視しています。学生の皆さんが、様々な民族・国家の人と対等・平等につきあい交流を深め、言うべきことを言いつつ相手の立場を理解するためには、何よりもまず高度な外国語の運用能力が必要とされるからです。

しかし、外国語学習の目的はそれだけではありません。第1に、母語以外の言葉で書かれたものを読むことは、母語で書かれたものを読むこと以上に意識的な作業です。たとえば、一つの言葉や表現の意味を理解する際、前後の文脈から一定の判断をし、様々な意味の可能性の中から仮説を設定し、さらに読み進める中で検証するといったように、いわば無意識のうちに科学に要求されるような手続きを踏みます。したがって、外国語を修得することは頭を鍛え、考える能力を形成していく絶好の手段でもあります。

第2に、外国語を学ぶことはその言語の論理や規則に身を委ねることですが、そのことによって私たちは自分自身や他との共通性を学び、狭い発想を乗り越えて思考の柔軟性を身につけることができるでしょう。

第3に、言葉というものは何かを伝達するためのものですから、必ず一定の知識・文化・思想を含んでいます。したがって外国語を学ぶことは必然的に外国についての知識・文化・思想を学んでいくことにもなります。

国際関係学科では、①バランスの取れた外国語運用能力、②外国語運用能力を支える豊かな知識と教養などを、外国語を学ぶうえでの目標としています。

(2) 国際関係学専攻「English for International Studies I～Ⅳ」について

1年次の第1学期と第2学期に履修する、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用して総合的な英語運用能力を習得することを目的とした科目です。

(国際関係学専攻「English for International Studies I～Ⅳ」の詳細)

開講時期	科目名称	単位数	取り扱うテーマ	クラス分け
1 回生 春学期	IR18-BA101 English for International Studies I	2	リーディング	レベル別
	IR18-BA102 English for International Studies II	2	スピーキング・ライティング	レベル別
1 回生 秋学期	IR18-BA103 English for International Studies III	2	リーディング	テーマ別
	IR18-BA104 English for International Studies IV	2	スピーキング・ライティング	レベル別

①クラス分け

i) 国際関係学専攻

国際関係学専攻の「IR18-BA101 English for International Studies I」、「IR18-BA102 English for International Studies II」、「IR18-BA104 English for International Studies IV」はレベル別、「IR18-BA103 English for International Studies III」はテーマ別でクラス分けが行われます。なお、本科目は開講時に「在学」している学生のうち本科目の単位が未修得の者は必ず履修しなければなりません(海外留学中の学生は除く)。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻1回生で TOEFL ITP[®] テスト 520 点 (iBT[®] テスト 68 点) 未満相当の英語力とみなされた学生は履修が必要です。

※決定したクラスは原則変更できません。

②不合格の場合の取り扱い(再履修の考え方)

国際関係学専攻の学生は、「IR18-BA101 English for International Studies I」、「IR18-BA102 English for International Studies II」、「IR18-BA103 English for International Studies III」、「IR18-BA104 English for International Studies IV」のいずれの科目についても、不合格の場合は、次年度以降に再度履修します。

③ TOEFL ITP[®] テストの学内受験について

4月入学者は1回生秋学期に1回、9月入学者は1回生春学期に1回、TOEFL ITP[®] テストを受験する必要があります。なお、受験にあたっては大学からの補助により無料で受験できます。(大学から受験料を補助するのはこの1回のみです。)

その他、学内で受験できる TOEFL ITP[®] テストや TOEIC[®] L&R テスト (IP) については「Ⅵ学生への援助制度」のページを確認してください。

(3) 初修外国語 (BB) ードイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語ー

①初修外国語について

国際関係学部では、初修外国語として「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」、「朝鮮語」の5言語を開講しています。

2018年度以降の入学者のカリキュラムでは、1回生時(9月入学者は第2、第3セメスター)に初修外国語の必要単位(計6単位)を1年間(2学期間)で集中的に履修することになります。

回生	開講時期	科目名称 (ドイツ・フランス・中国・スペイン・朝鮮)	単位数
1回生	春学期	〇〇語・基礎	2単位
		〇〇語・表現Ⅰ	1単位
	秋学期	〇〇語・展開	2単位
		〇〇語・表現Ⅱ	1単位

②初修外国語の言語選択

i) 選択可能な言語について

初修外国語の言語については入学前に提出された希望をもとに決定しています。
一度決定した言語を変更することはできません。

ii) 日本語選択者の初修外国語履修について

日本語が第一言語(母語)で無い者は、初修外国語の履修に代えて、日本語を選択する必要があります。なお、日本語を履修する者については、初修外国語を履修することはできません。

③不合格の場合の取り扱い(再履修の考え方)

初修外国語のいずれの科目についても、不合格の場合は、次年度以降に再度履修します。

④初修外国語既修者対応プログラム

i) 意義と目的

初修外国語・既修者対応プログラムは、高校の授業や海外生活などで既に初修外国語を学んだ人(既修者)が継続して学習できるよう設定しており、これまで培ってきた力を一層伸ばすことを目的としています。

このプログラムを受講する学生は、通常の正課初修外国語の科目に代えて既修者対応プログラム用の科目を履修し、初修外国語の卒業に必要な単位を修得していくことになります。

ii) 対象言語

ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語

iii) 受講資格

下記の(a)～(c)のいずれかの資格に該当する学生は、「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、WEBから申し込みをしてください。

- (a) 高等学校等で、当該言語について4単位相当以上履修し、一定のレベルに到達している学生【参考:1単位は45分授業を週1回・1年間学習するものとする】
- (b) 原則として、当該の言語圏で1年間以上在住し帰国した学生
- (c) 上記(a)・(b)と同等レベルの語学力がある学生

iv) 受講申込

このプログラムを履修するためには、「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、締切までにWEBから申し込みをする必要があります。その上で、新入生オリエンテーション期間中に実施する既修者対応プログラムガイダンスに出席してください。オリエンテーション時に、履修の適正を判断します。受講許可後、各自manaba+RからCAMPUS WEBにログインし、受講登録を行います(このプログラムは、原則として4月入学者は第1セメスターから、9月入学者は第2セメスターから受講します)。

v) 履修方法

国際関係学部国際関係学科の必修初修外国語科目（「〇〇語・基礎」、「〇〇語・表現Ⅰ」…等）を履修せず、下記の既修者用科目を、初修外国語必修科目として履修します。

回生	開講時期	学部正課科目 (①②は単位数)	履修 単位数	既修者受講科目名称
1 回生	春学期	〇〇語・基礎 ② 〇〇語・表現Ⅰ ①	6 単位	〇〇語 中級コミュニケーションⅠ・Ⅱ 〇〇語 中級表現読解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（4科目選択）
	秋学期	〇〇語・展開 ② 〇〇語・表現Ⅱ ①		

vi) 単位未修得の場合

卒業に必要な単位数を修得していない場合、単位未修得の既修者対応プログラム科目を次年度に再度履修します。

vii) 受講辞退について

既修者対応プログラムは、通常の正課初修外国語の科目に代えて必修科目として受講する科目のため、受講辞退はできません。

viii) 全学副専攻特別履修（既修者対応プログラムのアドヴァンストークラス）について

既修者対応プログラムの受講生は、申請により、プログラムで履修している言語の全学副専攻2年次配当科目（通常3回生が履修する科目）を2回生時から「特別履修」することができます。「全学副専攻」コースを履修するのではなく、既修者対応プログラムのアドヴァンストークラスとして、全学副専攻の科目を1単位から特別に受講できるものです。

(1) 対象者

既修者対応プログラム受講生

(2) 「全学副専攻」との違い

全学副専攻…履修するコースを16単位以上修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定。

全学副専攻特別履修…1単位から（8単位以内）卒業に必要な単位として認定。

※単位の認定区分は「副専攻科目」です。

(3) 「全学副専攻特別履修」の申請時期

1回生の10月下旬～11月上旬の予定です。同時期に言語教育センターが実施する説明会に参加の上、申請してください。

(4) 日本語科目／Japanese Language Courses

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得することができるように、外国語科目として日本語を履修できるようにしています。

①国際関係学専攻「日本語」

i) 履修科目について

新入生は、1回生で履修する日本語科目（「日本語Ⅶ」の6科目）がクラス指定されます。

2回生以上については、「日本語Ⅷ」（計4科目）から選択して、継続履修することができます。ただし、日本語科目にはクラス定員が定められているため、受講登録は先着順となります。履修希望者の多いクラスについては、履修できない場合があります。

配当回生	開講時期	科目名称	単位数
1 回生	春学期	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	1
		(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	1
		(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1
	秋学期	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	1
		(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	1
		(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1
2 回生 以上	春学期	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	1
		(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	1
	秋学期	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	1
		(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	1

日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語力を身につけるために、必ず1・2回生の間に日本語科目を履修してください。

ii) 再履修について

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度以降に修得できなかった科目を再度履修してください。「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2回生以降、1回生配当科目を再履修しながら2回生配当科目を履修することは認められます。

iii) 単位修得要件について

日本語科目では、授業回数の3分の2以上の出席が単位修得の最低要件として定められています。

②グローバル・スタディーズ専攻「日本語」

i) 履修科目について

入学直前に実施する日本語クラス分けテストの結果にもとづいて、以下の通りレベルを指定します。第1学期に、指定されたレベルの科目を履修してください。

なお、日本語レベルⅧは2回生以上対象の科目です。1回生は履修できません。

日本語レベル	科目名称 (①、②、③、⑤は単位数)	単位数
I (初級前半)	日本語Ⅰ-1 (総合) ③ 日本語Ⅰ-2 (総合) ③ ※3単位×2学期で合計6単位を履修する。	計6単位
II (初級後半)	日本語Ⅱ (総合) ⑤ 日本語Ⅱ (ライティング) ①	計6単位
III (中級前半)	日本語Ⅲ (総合) ⑤ 日本語Ⅲ (ライティング) ①	計6単位
IV (中級後半)	日本語Ⅳ (総合) ⑤ 日本語Ⅳ (ライティング) ①	計6単位
V (上級前半)	日本語Ⅴ (総合) ⑤ 日本語Ⅴ (ライティング) ①	計6単位
VI (上級後半)	日本語Ⅵ (総合) ③ 日本語Ⅵ (ライティング) ① 日本語Ⅵ (聴解口頭) ②	計6単位
VII (超級)	以下よりどちらを履修するかを選択してください。 ・国際関係学専攻「日本語」(日本語Ⅶ) ※1学期あたり3科目(計3単位分)の履修となるため、修了するのに2学期を要します。 ・初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語) ※9月入学者が初修外国語を選択した場合、第2学期(翌年度春学期)からの履修開始となります。	計6単位
VIII (超級) (2回生以上対象)	国際関係学専攻「日本語」(日本語Ⅷ) ※1学期あたり2科目(計2単位分)の履修となるため、修了するのに2学期を要します。	計4単位

ii) 第2学期以降の「日本語」継続履修について

同レベルの日本語科目を必要単位数修得後、翌学期以降も継続して日本語を履修することが可能です。継続履修を希望する場合は、修得したレベルよりもひとつ上のレベルを履修してください。なお、レベルⅥ(上級後半)を修得した者については、超級レベルである国際関係学専攻「日本語」(日本語Ⅶ～Ⅷ)を履修することが可能です。詳細は、「履修・登録の手引き」で確認してください。

iii) 再履修について

第1学期に修得できなかった日本語科目は、翌学期以降に再度同じレベルの同じ日本語科目を履修してください(この際、クラスのレベル変更は認めていません。)。なお、翌学期に履修せず、翌々学期以降に再履修することも可能です。

iv) 履修言語の選択について(入学時、超級レベルの者のみ)

入学時に、超級レベルであると判断された者については、以下より希望する言語を選択し、事務室に届け出てください。

・初修外国語(6単位)(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語)

・国際関係学専攻「日本語」(6単位)(日本語Ⅶ)

※一度決定した言語を変更することはできません。

※初修外国語を希望する場合は、「初修外国語」のページを参照してください。なお、受講クラスは事務室が指定します。

※国際関係学専攻「日本語」を希望する場合は、「①国際関係学専攻「日本語」」を参照してください。なお、事務室が受講クラスを指定します。

③(国際関係学専攻「日本語」、グローバル・スタディーズ専攻「日本語」共通)単位修得要件について

日本語科目では、授業回数の3分の2以上の出席が単位修得の最低要件として定められています。

(5)「Intensive English I～Ⅵ(英語集中コース)」について

英語運用能力において苦手なスキルを克服することに重点を置く集中的な英語コースです。語彙と読解の科目、リスニングとスピーキングの科目、そしてライティングと文法の科目の3科目でこれらのスキルを養成・強化します。

本科目は、国際関係学専攻学生で交換留学を希望するあるいは英語力をより向上させたい学生、グローバル・スタディーズ専攻でTOEFL ITP®テスト520点(iBT®テスト68点)相当に達していない学生を対象としています。

(国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻共通「Intensive English I～Ⅵ」の詳細)

開講時期	科目名称	単位数	取り扱うテーマ
春学期	IR18-BC101 Intensive English I	1	語彙・読解
	IR18-BC102 Intensive English II	1	リスニング・スピーキング
	IR18-BC103 Intensive English III	1	ライティング・文法
秋学期	IR18-BC104 Intensive English IV	1	語彙・読解
	IR18-BC105 Intensive English V	1	リスニング・スピーキング
	IR18-BC106 Intensive English VI	1	ライティング・文法

※クラス分けはレベル別で行われます。

i) 国際関係学専攻

国際関係学専攻学生は、申請に基づき1学期で1科目以上、最大3科目まで受講可能です(ただし、定員により受講が認められない場合があります)。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻学生で学部が設定したTOEFLスコアの上記基準点相当の英語力に達していないとみなされた学生は、1学期で「Intensive English」の3科目全てを履修します。

①クラス分け

国際関係学専攻とグローバル・スタディーズ専攻共通の「IR18-BC101 Intensive English I」、「IR18-BC102 Intensive English II」、「IR18-BC103 Intensive English III」、「IR18-BC104 Intensive English IV」、「IR18-BC105 Intensive English V」、「IR18-BC106 Intensive English VI」はいずれもレベル別でクラス分けが行われます。

なお、クラスには定員が設けられており、国際関係学専攻学生は希望しても受講できない場合があります。

②複数回(重複)受講について

(国際関係学専攻学生)

国際関係学専攻学生の本科目の複数回(重複)履修は認められません。

(グローバル・スタディーズ専攻学生)

グローバル・スタディーズ専攻学生で「英語力」が基準点に達していないとみなされた学生は「Academic Skills I・II」が履修できる英語レベルに達するまで、本科目を学期毎に全3科目受講してください。したがって、第1学期と第2学期で全ての「Intensive English」の科目を履修した後、第3学期でも「Academic Skills I・II」を履修できない場合は、再度、「Intensive English」を3科目受講します。

3.3 選択外国語科目／ Elective Language Courses (BD)

(1) 選択外国語科目の位置づけ

「選択外国語」は、英語以外の国連公用語であるフランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語にドイツ語と朝鮮語を加えた7つの言語をより詳しく学ぶことにより、それぞれの言語が用いられている地域社会に関する事実や課題について討論する能力を養います。

(2) 履修にあたっての留意事項

選択外国語科目のうち、以下の科目については履修にあたっての補足説明がありますので、確認してください。

①母語科目履修の制限について

母語で開講される選択外国語科目の履修はできません。

(例) 朝鮮語が母語である学生は、「IR18-BD251 朝鮮語アドバンストⅠ」を受講することはできません。

②「〇〇語アドバンストⅠ、Ⅱ」の履修について

初修外国語修了者、もしくはこれに相当するレベル以上の運用能力を有する者を対象とした科目です。

読む・書く・聞く・話すの総合的な運用能力を高めることを主な目的とし、あわせて当該言語の背景となる社会・文化・歴史についての理解を深めます。

③ロシア語、アラビア語の履修について

「IR18-BD261 ロシア語Ⅰ」、「IR18-BD271 アラビア語Ⅰ」は、各言語初級者を対象とした科目です。

3.4 国際関係基盤科目 ／ Basic Courses (CA・CB・CC・ DJ・DE)

(1) 国際関係基盤科目の位置づけ

国際関係学科では、研究の方法論と国際関係学に関する基本的な理論を繋ぐ科目群として、専門外国語科目と基幹科目からなる国際関係基盤科目が設定されています。国際関係学専攻では、専門外国語科目を4単位以上、基幹科目を20単位以上（このうち日本語科目を10単位以上）、グローバル・スタディーズ専攻は専門外国語科目を12単位以上、基幹科目を12単位以上（このうち英語科目を12単位以上）取得しなければなりません。

3.5 専門外国語科目／ Advanced Language Courses (CA・CB・CC)

(1) 専門外国語科目の位置づけ

受講生相互の外国語による意思の交流をはかるとともに、外国語で書かれた国際関係学や関連分野の専門書の読解力を養うことを目的とし、実践的学力と語学力を強化します。これはまた、地域研究を行ううえで重要な準備ともなります。

(2) グローバル・スタディーズ専攻「Academic SkillsⅠ～Ⅲ」について

英語で国際関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを、英語開講科目の履修と並行して1年次の1年間で養います。

開講時期		科目名称	単位数	取り扱うテーマ
4月入学者	9月入学者			
1回生 春学期	1回生 秋学期	IR18-CB101 Academic SkillsⅠ	4	リーディング・ スピーキング・ ライティング
		IR18-CB102 Academic SkillsⅡ	4	
1回生 秋学期	1回生 春学期	IR18-CB103 Academic SkillsⅢ	4	

※クラス分けはレベル別で行われます。

①クラス分け

i) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻の「IR18-CB101 Academic SkillsⅠ」、「IR18-CB102 Academic SkillsⅡ」、「IR18-CB103 Academic SkillsⅢ」はいずれもレベル別でクラス分けが行われます。なお、本科目は開講時に「在学」している学生のうち本科目の単位が未修得の者は必ず履修しなければなりません（学籍状態が「留学」の学生は除く）。

ii) 国際関係学専攻

国際関係学専攻の2回生以上で TOEFL ITP® テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点)

以上相当を持っている学生は、申請に基づきこの科目を履修することができます（ただし、定員により受講が認められない場合があります）。

※決定したクラスは原則変更できません。

② TOEFL ITP®テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 未満相当のグローバル・スタディーズ専攻学生の履修科目について

「Academic Skills I～Ⅲ」を履修するには TOEFL ITP®テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 以上相当が必要であるため、この基準点に達していないとみなされたグローバル・スタディーズ専攻学生は TOEFL ITP®テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 以上相当となるまで国際関係学専攻の「English for International Studies」、 「Bridge to International Studies」並びに「Intensive English」を履修することになります。したがって、グローバル・スタディーズ専攻で TOEFL ITP®テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 未満相当とみなされた学生の具体的な履修パターンは以下のようになります。

(グローバル・スタディーズ専攻で TOEFL ITP® テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 未満相当学生の履修パターンについて)

	第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期
4 月入学生 ※ 1 回生第 2 学期 より基準点以上	「English for International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「Academic Skills I・II」	「Academic Skills III」	
4 月入学生 ※ 2 回生第 1 学期 より基準点以上	「English for International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「English for International Studies III・IV」 「Intensive English IV～VI」	「Academic Skills I・II」	「Academic Skills III」
4 月入学生 ※ 2 回生第 2 学期 より基準点以上	「English for International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「English for International Studies III・IV」 「Intensive English IV～VI」	「Bridge to International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「Academic Skills I・II」
9 月入学生 ※ 1 回生第 2 学期 より基準点以上	「English for International Studies III・IV」 「Intensive English IV～VI」	「Academic Skills I・II」	「Academic Skills III」	
9 月入学生 ※ 2 回生(第 3 学期) より基準点以上	「English for International Studies III・IV」 「Intensive English IV～VI」	「Bridge to International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「Academic Skills I・II」	「Academic Skills III」
9 月入学生 ※ 2 回生(第 4 学期) より基準点以上	「English for International Studies III・IV」 「Intensive English IV～VI」	「Bridge to International Studies I・II」 「Intensive English I～III」	「Bridge to International Studies III」 「Intensive English IV～VI」	「Academic Skills I・II」

※第 5 学期以降でも TOEFL スコアが基準点に達しない学生は、必要な点数に達するまで「Bridges to International Studies」並びに「Intensive English」を繰り返し履修します。

③ 「Academic Skills I～Ⅲ」 不合格の場合の取り扱い（再履修の考え方）

「IR18-CB101 Academic Skills I」、 「IR18-CB102 Academic Skills II」、 「IR18-CB103 Academic Skills III」のいずれの科目についても、不合格の場合は、翌学期に不合格科目を再履修してください。

なお、「IR18-CB103 Academic Skills III」を履修するには、「IR18-CB102 Academic Skills II」の単位が取得できていることが条件です。例えば、入学後第 1 学期に、「IR18-CB101 Academic Skills I」の単位は取得できたが「IR18-CB102 Academic Skills II」の単位が取得できなかった場合、翌学期は「IR18-CB103 Academic Skills III」が履修できないため、再度「IR18-CB102 Academic Skills II」を履修することになります。したがって、「IR18-CB103 Academic Skills III」については翌々学期以降に履修することになります。

④ TOEFL ITP® テストの学内受験補助について

4月入学者は1回生の秋学期に1回、9月入学者は1回生の春学期に1回、TOEFL ITP® テストを受験する必要があります。なお、受験にあたっては、大学からの補助により無料で受験できます。(大学から受験料を補助するのはこの1回のみです。)

その他、学内で受験できる TOEFL ITP® テストや TOEIC® L&R テスト (IP) については「VI学生への援助制度」のページを確認してください。

(3) 国際関係学専攻「Bridge to International Studies I～V」について

国際関係学科では、習得した国際関係学の知識を、留学・インターンシップや自らの進路開拓と結びつけ、国際機関・国際ビジネス・国際 NGO などの多様な国際的舞台上で使えるレベルの専門的で高度な英語運用能力の習得を目指しています。そのため「Bridge to International Studies I～V」を、「English for International Studies I～IV」と「英語による専門科目」とを橋渡しするという意味で「ブリッジ科目」と位置づけています。

(国際関係学専攻「Bridge to International Studies I～V」)の詳細)

配当回生	開講学期	科目名称	単位数
2 回生	春学期	IR18-CA201～203 Bridge to International Studies I ＜レベル別開講＞ 国際関係学専攻では登録必須科目	2
		IR18-CA204～206 Bridge to International Studies II ＜レベル別開講＞ 国際関係学専攻では登録必須科目	2
	秋学期	IR18-CA207 Bridge to International Studies III ＜テーマ別開講＞ 国際関係学専攻では登録必須科目	2
3 回生 以上	春学期	IR18-CA301 Bridge to International Studies IV (国際関係学専攻の希望者のみ)	2
	秋学期	IR18-CA302 Bridge to International Studies V (国際関係学専攻の希望者のみ)	2

※登録必須科目：特定の回生・学期において必ず登録される科目を意味します(当該学期に学籍状態が「留学」の場合を除く)。

※Bridge to International Studies I～Ⅲは2回生のみ受講可能です。(再履修は不可)

①科目の位置づけについて

i) 国際関係学専攻

英語による専門科目に備えるための2年次の英語コースです。第1学期(春学期)は、学生が選択したプログラムに沿って、国際秩序平和・国際公務、国際協力開発、国際文化理解の3つの分野に分かれ、総合的な英語運用能力を養うとともに、それぞれの分野の内容を英語で学びます。第2学期(秋学期)は、所属するプログラムを超え、学生の関心に応じ、国際関係学の様々な分野の中からクラスを選択することができます。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

本科目は、原則として国際関係学専攻学生を対象とした科目ですが、グローバル・スタディーズ専攻の以下の学生は、TOEFL ITP® テスト 520 点 (iBT® テスト 68 点) 以上相当となることを目的として(「Academic Skills I～Ⅲ」を履修するために)、本科目を履修します。

例：グローバル・スタディーズ専攻入学生で、第2学期終了後も「Academic Skills」の履修が認められなかった学生

②「Bridge to International Studies I・II」のクラス分けについて

i) 国際関係学専攻

「Bridge to International Studies I」と「Bridge to International Studies II」はクラスをレベル別に設定しており、国際関係学専攻の学生は、1回生秋学期に受験した TOEFL ITP® テストスコア等にもとづいて、プログラム毎にクラス分けが行われます。

所属プログラム	科目名称
国際秩序平和プログラム 国際公務プログラム	IR18-CA201 Bridge to International Studies I (Order & Peace / Administration)
	IR18-CA204 Bridge to International Studies II (Order & Peace / Administration)
国際協力開発プログラム	IR18-CA202 Bridge to International Studies I (Cooperation & Development)
	IR18-CA205 Bridge to International Studies II (Cooperation & Development)
国際文化理解プログラム	IR18-CA203 Bridge to International Studies I (Cultural Understanding)
	IR18-CA206 Bridge to International Studies II (Cultural Understanding)

ii) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻学生で、2 年生次に「Academic Skills」の履修が認められなかったため「Bridge to International Studies I・II」を履修する学生は、学部が指定したクラスを履修します。

※決定したクラスは原則変更できません。

③「IR18-CA207 Bridge to International Studies III」のクラス分けについて

i) 国際関係学専攻

「IR18-CA207 Bridge to International Studies III」はテーマ別開講であり、国際関係学専攻の学生は、2 年生春学期（7 月頃）に行われる希望調査をもとに、クラス分けが行われます。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻学生で「Academic Skills」の履修が認められなかったため「IR18-CA207 Bridge to International Studies III」を履修することになる学生は、学部が指定したクラスを履修します。

④「Bridge to International Studies IV・V」について

i) 国際関係学専攻

「IR18-CA301 Bridge to International Studies IV」と「IR18-CA302 Bridge to International Studies V」は、事前にクラス分けを行いません。受講希望者は、受講手続き（本登録）を行ってください。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

グローバル・スタディーズ専攻の学生は、「Bridge to International Studies IV・V」を履修することはできません。

※決定したクラスは原則変更できません。

(4)「〇〇語・国際関係」について

初修外国語修了者（「〇〇語 I～VI」履修者、もしくはこれに相当するレベル以上の運用能力を有する者）を対象とした科目です。

いわゆるコンテンツ・ベースで当該言語が用いられる国・地域の政治・経済・社会・文化・国際関係にまつわる初歩的な文献・資料、もしくは映像資料などを素材に、担当教員によるテキスト解説や受講生相互の意見交換・議論を通じて当該社会の理解を深めます。あわせて、当該言語の運用能力を高めます。

この科目を受講希望する場合は、上記を理解したうえで、受講手続（本登録）を行ってください。

3.6 基幹科目／ Foundation Courses (DJ・ DE)

(1) 基幹科目の位置づけ

i) 国際関係学専攻

国際関係学科の学生ならば必ず学んで欲しいという学部教育の基本をなす科目が基幹科目です。大学生の学びにとっての基礎であり、その後の国際関係学の学びに繋がる科目としての「IR18-DJ105 基礎統計学」や「IR18-DJ106 近現代史」、導入科目としての「国際関係学 (A/B)」の他、4つのプログラムの骨格となる科目、2回生での小集団科目としての「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」と「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」など、学部教学の基本となる理論と知識を身につけることにより、国際関係学を学ぶ土台を固めていきます。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

国際関係学科の学生ならば必ず学んで欲しいという学部教育の基本をなす科目が基幹科目です。学部教学の基本となる理論と知識を身につけることにより、国際関係学を学ぶ土台を固めていきます。

基幹科目開設科目のうち、以下の科目については履修にあたっての補足説明がありますので、確認してください。

(2) 「IR18-DJ101 国際関係学 A」／「IR18-DJ102 国際関係学 B」について

①科目の位置づけについて

国際関係学科の国際関係学は、政治、法、経済、文化、社会の各学問分野を総合して、国際関係すなわち国際社会に生起する様々な問題群を科学的に分析し、理論的提言を行っていく学問です。「IR18-DJ101 国際関係学 A」／「IR18-DJ102 国際関係学 B」は本学部の基幹となる科目であり、国際関係を学んでいく上で必須の知的基盤を形成することを目指し、国際関係学の基礎概念と主要な理論ならびに国際関係の歴史を学んでいきます。

配当回生	科目名称	単位数
1 回生	IR18-DJ101 国際関係学 A	2
以上	IR18-DJ102 国際関係学 B	2

②科目の履修について

i) 国際関係学専攻

「IR18-DJ101 国際関係学 A」／「IR18-DJ102 国際関係学 B」は、1 回生時の登録必須科目となります。基礎演習のクラスにもとづいて学部でクラスを指定します。

基礎演習のクラスによって、いずれかを春学期、もう一方の科目を秋学期に受講します。

(再履修について)

「IR18-DJ101 国際関係学 A」／「IR18-DJ102 国際関係学 B」を不合格 (F 評価) となり 2 回生以降の再履修を希望する場合は、受講手続き (本登録) を行ってください。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

「IR18-DJ101 国際関係学 A」／「IR18-DJ102 国際関係学 B」は日本語で開講されます。受講を希望する場合は受講手続き (本登録) を行ってください。

(3) 「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」(国際関係学専攻)／

「IR18-DE203 Global Simulation Gaming」(グローバル・スタディーズ専攻)について

①科目の位置づけについて

「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」／「IR18-DE203 Global Simulation Gaming」は、国際関係バーチャルリアリティーゲーミング、すなわち、参加者全員が国際関係におけるアクター (先進国、新興・途上国、国際機関、NGO、企業、メディア等) となって、国際政治や国際経済の動きの中で、課題設定、政策立案、交渉、政策遂行の一連のプロセスを擬似的に経験する科目です。

配当回生	開講時期	科目名称	単位数
2 回生	春学期	IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング	2
		IR18-DE203 Global Simulation Gaming	2

②科目の履修について

i) 国際関係学専攻

「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」は、2回生春学期の登録必須科目となります。開講前にクラス選択の希望調査を行い、配属クラスを決定します。グローバル・スタディーズ専攻用に開講される英語クラスを選択することも可能です。ただし、受講登録ならびに単位授与される科目は、クラス言語に関わらず「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」になります。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

「IR18-DE203 Global Simulation Gaming」は、2回生春学期の登録必須科目となります。開講前にクラス選択の希望調査を行い、配属クラスを決定します。なお、グローバル・スタディーズ専攻の学生は、必ず英語クラスを選択する必要があります。

※決定したクラスは原則変更できません。

(再履修について)

「IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング」／「IR18-DE203 Global Simulation Gaming」は再履修できません。

(履修にあたっての留意事項)

クラス選択については、manaba+Rのお知らせを通じて開講前に案内します。必ず確認し、希望を申請してください。

(4) 「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」(国際関係学専攻)／

「IR18-DE202 Global Studies Seminar」(グローバル・スタディーズ専攻)について

①科目の位置づけについて

国際関係学科では、「基礎演習／Introductory Seminar」から「IR18 - HJ301 専門演習／IR18 - HE301 Advanced Seminar」、そして「IR18 - HJ401 卒業研究／IR18 - HE401 Graduation Research」作成までにいたる学びの積み重ねを重視する観点から、2回生基幹科目として「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」(国際関係学専攻)／「IR18-DE202 Global Studies Seminar」(グローバル・スタディーズ専攻)を配置しています。この科目は、国際関係学を学ぶ上で必要とされる基本的な文献の精読力と論理的思考能力の体得を目的とした小集団による演習型の科目です。

この科目では、国際関係学部プログラム基本文献リストの中から、各担当教員が1冊(必要に応じて複数冊もあり得る)を選択し、学生の発表に基づく精読を行います。

国際関係学専攻の「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」(国際公務クラス)は、「IR18-EDJ201 国際公務セミナー」と連結した国際公務プログラムの支柱となる科目であり、国際公務分野への進出に必要とされる力量の育成を目的としています。

配当回生	開講時期	科目名称	単位数
2回生	秋学期	IR18-DJ208 国際関係学セミナー	2
		IR18-DE202 Global Studies Seminar	2

②科目の履修について

i) 国際関係学専攻

「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」は、2回生秋学期の登録必須科目となります。開講前にクラス選択の希望調査を行い、配属クラスを決定します。

ii) グローバル・スタディーズ専攻

「IR18-DE202 Global Studies Seminar」は、2回生秋学期の登録必須科目となります。開講前にクラス選択の希望調査を行い、配属クラスを決定します。

※決定したクラスは原則変更できません。

(再履修について)

「IR18-DJ208 国際関係学セミナー」／「IR18-DE202 Global Studies Seminar」は再履修できません。

3.7 固有専門プログラム科目／ Core Program Courses (EAJ・ EBJ・ECJ・EDJ・ EE)

(履修にあたっての留意事項)

クラス選択については、manaba+Rのお知らせを通じて開講前に案内します。必ず確認し、希望を申請してください。

(1) 固有専門プログラム科目の位置づけ (国際関係学専攻／グローバル・スタディーズ専攻)

固有専門プログラム科目では、国際関係に関わる様々な諸側面を総合的・立体的に把握できるように数多くの特色ある専門科目を設置しています。なお、各専攻・各プログラムによって開設されている科目が異なります。

(2) 国際関係学専攻の固有専門プログラム科目について

国際関係学専攻の学生にとって、固有専門プログラム科目は、自身の所属するプログラムに対応する「プログラム科目」と、対応しない「他プログラム科目」とで構成されています。各プログラムに対応した「プログラム科目」群は、「国際関係学科 2025 年度カリキュラム開設科目一覧」より確認してください。

なお、「他プログラム科目」を修得した場合も、卒業に必要な単位として算入されます。

固有専門プログラム科目に関わる卒業要件の詳細は、「2025 年度カリキュラム卒業要件」より確認してください。

所属プログラム	プログラム科目	他プログラム科目
国際秩序平和	・国際秩序平和プログラム科目 ・Governance and Peace クラスター科目	・国際協力開発プログラム科目 ・国際文化理解プログラム科目 ・Governance and Peace クラスター科目を除いた Global Studies 科目
国際協力開発	・国際協力開発プログラム科目 ・Development and Sustainability クラスター科目	・国際秩序平和プログラム科目 ・国際文化理解プログラム科目 ・Development and Sustainability クラスター科目を除いた Global Studies 科目
国際文化理解	・国際文化理解プログラム科目 ・Culture and Society クラスター科目	・国際秩序平和プログラム科目 ・国際協力開発プログラム科目 ・Culture and Society クラスター科目を除いた Global Studies 科目
国際公務	・国際公務プログラム科目 ・Administration に相当する科目群	・国際公務プログラム科目／ Administration に相当する科目群を除いた固有専門科目科目

(3) グローバル・スタディーズ専攻の固有専門プログラム科目 (Global Studies 科目) について

グローバル・スタディーズ専攻にプログラム制はなく、したがって国際関係学専攻の様に、「プログラム科目」や、「他プログラム科目」といった区別はありません (他プログラム科目として扱われる科目はありません)。ただし、固有専門プログラム科目 (Global Studies 科目) を体系的に履修できる様、領域を3つに分け、各領域をクラスター (Theme Cluster) として明示しています。各クラスターの対象科目は、「国際関係学科 2025 年度カリキュラム開設科目一覧」より確認してください。

固有専門プログラム科目に関わる卒業要件の詳細は、「2025 年度カリキュラム卒業要件」より確認してください。

3.8 固有専門関連科目／ Core Related Courses (FJ・ FE)

(1) 固有専門関連科目の位置づけ

固有専門関連科目は、国際関係学を学ぶために必要な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを習得するとともに、自らの学びをキャリア形成に繋げることを目的とした専門科目を配置しています。

(2) 「IR18-FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ」(日本語開講) について

「プロフェッショナル・ワークショップ (公務)」、「プロフェッショナル・ワークショップ (ビジネス)」、「プロフェッショナル・ワークショップ (ジャーナリズム)」の3つのクラスを開講します。それぞれの科目は、担当教員の授業に加えて、それぞれの分野で活躍している実務家をゲスト講師として招く予定です。

配当回生	科目名称	単位数
2・3 回生	IR18-FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ	2

3.9 地域研究科目／ Area Studies Courses (GJ・GE)

3.10 「基礎演習」(国 際関係学専攻) ／「Introductory Seminar」(グ ローバル・スタ ディーズ専攻) (HJ・HE)

3.11 専門演習／ Advanced Seminar・ 卒業研究／ Graduation Research (HJ・ HE)

(3) 「民法Ⅰα」、「民法Ⅰβ」、「民法Ⅱ (債権各論)」、「民法Ⅲ (物権法)」、「行政法Ⅰ」、「行政法Ⅱ」、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」について (国際公務プログラム所属学生向け)

「民法Ⅰα」、「民法Ⅰβ」、「民法Ⅱ (債権各論)」、「民法Ⅲ (物権法)」、「行政法Ⅰ」、「行政法Ⅱ」、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」は、国際関係学専攻の国際公務プログラム所属学生のみ、履修可能です。

(4) 「IR18-FE202 Professional Workshop」(英語開講) について

1 クラス開講します。担当教員の授業に加えて、それぞれの分野で活躍している実務家へのインタビューを実施する予定です (詳細はシラバスで確認してください)。

配当回生	科目名称	単位数
2・3 回生	IR18-FE202 Professional Workshop	2

(1) 地域研究科目の位置づけ

地域研究は、世界の各地域の実態を文化、社会、政治、経済などから多角的に学んでいく科目であると同時に、専門分野の理論や方法論を実践する場として、国際関係学科の教育の重要な柱の一つです。地域研究の科目群は、プログラムの外に置かれ、どのプログラムの学生も履修できます。

なお、国際関係学専攻においては、地域研究の基本的な考え方を学ぶ科目として、主に文化・社会を取り上げる「IR18-DJ205 地域研究論 A」と政治・経済を中心とする「IR18-DJ206 地域研究論 B」を基幹科目分野に配置しています。

(1) 「基礎演習」(国際関係学専攻)／「Introductory Seminar」(グローバル・スタディーズ専攻) の位置づけ

「基礎演習」／「Introductory Seminar」は、近年ますます複雑化する国際関係の諸問題 (紛争、貧困、経済のグローバル化、環境、人権、多文化社会等) について基本的な知識を獲得すると同時に、国際関係学の専門書を読解する力、論理的に思考する力、学習の成果を発表する力、論文を作成する力の育成を総合的に行うことを目的としています。この目的に沿って、クラス内報告、討議、そしてレポート作成を行います。

(2) 履修にあたっての留意事項

履修スケジュールは、以下の通りです。

専攻	春学期 (9月入学者は秋学期)	秋学期 (9月入学者は春学期)
国際関係学専攻	IR18-HJ101 基礎演習Ⅰ	IR18-HJ102 基礎演習Ⅱ
グローバル・スタ ディーズ専攻	IR18-HE101 Introductory SeminarⅠ	IR18-HE102 Introductory SeminarⅡ
1 回生第2学期より DUDP 参加者	IR18-HJ101 基礎演習Ⅰ または IR18-HE101 Introductory SeminarⅠ	

* 「基礎演習」／「Introductory Seminar」は再履修できません。

(1) 「専門演習／Advanced Seminar(必修)」と「卒業研究／Graduation Research(必修)」の位置づけ

「専門演習／Advanced Seminar」は上回生教育の中心であり、学生の自主的・自発的学習により多様な問題関心と課題を深め、学部教育の集大成としての「卒業研究／Graduation Research」作成へと発展させます。

国際関係学部では、「卒業研究／Graduation Research」を4年間の学部学修の到達度検証と位置づけ、「卒業研究／Graduation Research」を必修としています。また、同時に、教員と学生、あるいは学生相互が学習と交流を通じて切磋琢磨しあう人間形成の場でもあり、就職や進学について情報交換、進路指導を受ける場でもあります。学生の多様な関心と研究課題を保障するために、「専門演習／Advanced Seminar」は学生のプログラム所属とは切り離して開講されます。

(2) 履修にあたっての留意事項

①標準的履修モデル

「専門演習／Advanced Seminar」の標準的な履修モデルは以下の通りで、「留学」や「休学」中などのやむを得ない場合を除き3回生の第1学期から履修を開始し、4学期続けて履修します。

※「留学」、「休学」などを予定している場合は、「専門演習／Advanced Seminar 申請時期および履修モデル」を参照してください。

<4月入学者>

履修時期	3 回生		4 回生		合計
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
国際関係学専攻	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位) 「卒業研究」(*) (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 8 単位 + 「卒業研究」 2 単位
グローバル・スタディーズ専攻	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位) 「Graduation Research」(*) (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 8 単位 + 「Graduation Research」 2 単位

<9月入学者>

履修時期	3 回生		4 回生		合計
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	
グローバル・スタディーズ専攻	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 (2 単位) 「Graduation Research」(*) (2 単位)	「専門演習／Advanced Seminar」 8 単位 + 「Graduation Research」 2 単位

*「卒業研究／Graduation Research」を履修する前の学期までに、「専門演習／Advanced Seminar」の単位を2単位以上修得しておく必要があります。

*「卒業研究／Graduation Research」を履修する学期には、必ず「専門演習／Advanced Seminar」もあわせて受講登録する必要があります。

②履修する科目について

通常、国際関係学専攻の学生は「専門演習」を、グローバル・スタディーズ専攻の学生は「Advanced Seminar」を履修します。ただし、一部の「専門演習」はグローバル・スタディーズ専攻の学生も履修可能です。また、一部の「Advanced Seminar」は国際関係学専攻の学生も履修可能です。詳細は受講希望クラスの申請時期に公開される「専門演習／Advanced Seminar クラス選択要項」で確認してください。

なお、国際関係学専攻の学生については、所属プログラムとは切り離してクラスの選択が可能です。

(3)「専門演習／Advanced Seminar」の履修について（必修）

①履修までの流れ

3回生からの「専門演習／Advanced Seminar」の履修開始に向けては、下表の通り、事前に受講希望クラスの申請等の手続きが必要です。詳細は申請時期に公開される「専門演習／Advanced Seminar クラス選択要項」を確認してください。

手続き	時期		
	4月入学者	9月入学者	在学学期
「専門演習／Advanced Seminar クラス選択要項」公開	10月上旬	4月下旬～5月上旬	第4学期
クラス選択説明会	10月中旬	4月下旬～5月上旬	
受講希望クラスの選択・申請	11月上旬	6月下旬	
クラス申請結果発表	11月	6月下旬	
受講登録・履修開始	4月上旬	9月下旬	第5学期

※スケジュールは変更になることがありますので、最新の情報は manaba+R の「国際関係学部生のページ」で確認してください。

※休学する場合は、ゼミ申請を行う学期が異なることがあります。詳細は、「専門演習／Advanced Seminar 申請時期および履修モデル」(P.53～55)を確認してください。

②クラス選択・申請

在学第4学期中（＊）にクラスの選択と申請を行います。この申請の結果、受講許可を受けたクラスを3回生から履修します。

＊在学第4学期とは、「留学」中の期間を含む「在学」期間の合計が第4学期目になる学期で、3回生になる直前の学期を指します（通常、4月入学の場合は2回生の秋学期、9月入学の場合は2回生の春学期）。この「在学」期間には、「休学」中の期間は含まれません。

＊申請時期は、在学第4学期のみ可能で、その他の時期に申請することはできません。

※在学第4学期に「留学」中であっても、留学先から申請する必要があります。

※在学第4学期の申請時点において海外留学プログラムに応募中または休学申請中で翌学期から「留学」または「休学」予定であっても、在学第4学期に申請する必要があります。

※DUDP や海外留学プログラムによって専門演習の履修開始時期が遅れる場合も、在学第4学期に申請を行います。

※回生を問わず、「休学」をした、または「休学」予定の場合は、休学の時期や期間によって申請できる時期が異なるため、「専門演習／Advanced Seminar 申請時期および履修モデル」(P.53～55)を確認してください。

③受講登録

留学中などのやむを得ない場合を除き3回生第1学期から履修を開始し、4学期連続で各学期に事務室が受講登録を行います。詳細は毎年発行される「履修・登録の手引き」を確認してください。

④所属クラス（担当教員）変更

所属クラス決定後、原則として所属クラス（担当教員）を変更することはできません。また、所属クラス決定後に、休学や海外留学を行い、実際の履修開始が1年（2学期間）以上先になる場合も、一度決定した所属クラス（担当教員）を変更することはできません。

⑤学びの成長プロセス・到達目標

4学期に渡る「専門演習／Advanced Seminar」の履修を通して、「学びの成長プロセス・到達目標」（専門演習「学びの成長プロセス・到達目標」のページ参照）に示された4つの力を身につけることを目指します。

⑥成績評価方法

「専門演習／Advanced Seminar」の成績評価は、平常点および「タームペーパー」等に基づき行われます。（詳細はシラバス参照）

⑦専門演習／Advanced Seminar「タームペーパー」の提出

「専門演習／Advanced Seminar」では、各学期に「タームペーパー」を提出します。
(執筆に関する詳細は執筆要項 P.50～P.51 参照)
「卒業研究／Graduation Research」を履修する学期においては、「卒業研究／Graduation Research」を提出すれば、「タームペーパー」の代替として扱われるため、提出する必要はありません。

⑧不合格の場合の再履修について

「専門演習／Advanced Seminar」の単位が修得できなかった場合、次学期以降において同一クラスでの再履修を認めます。

⑨単位修得上限数

「専門演習／Advanced Seminar」の卒業に必要な単位としての認定は4回(8単位)までです。8単位修得後も受講可能ですが、8単位を超えた分は卒業に必要な単位として算入されません。

⑩「卒業研究／Graduation Research」に関わる「専門演習／Advanced Seminar」の単位修得要件

必修の「卒業研究／Graduation Research」を提出するためには、提出する学期の前までに「専門演習／Advanced Seminar」の単位を最低2単位以上修得しておく必要があります。また「卒業研究／Graduation Research」を提出する学期に、「卒業研究／Graduation Research」とあわせて「専門演習／Advanced Seminar」を受講登録する必要があります。

⑪卒業要件を満たすためには「専門演習／Advanced Seminar」から合計8単位(各学期2単位、計4学期)を修得する必要があります。このうち最低4単位は「専門演習／Advanced Seminar」の科目から取得する必要があります。他の科目での代替は認められません。

一方で、長期間の海外留学など特別な事情により8単位を満たせない場合には、不足する2単位または4単位に限り、国際関係専門科目群の中から単位を取得し、不足分を代替することができます。

* DUDP等の長期海外留学から帰国後、在学第8学期(4回生第2学期)から「専門演習／Advanced Seminar」の履修を開始する場合は、留学先で同等科目の単位を履修していれば、「専門演習／Advanced Seminar」の単位として認定されることがあるため、留学前と帰国後に国際関係学部事務室へ相談してください。

【代替可能な科目区分】

国際関係専門科目群

- ・固有専門プログラム科目(自プログラム・他プログラム科目とも)
- ・固有専門関連科目
- ・地域研究科目

(4)「卒業研究／Graduation Research」の履修について(必修)

①「卒業研究／Graduation Research」の受講登録について

「卒業研究／Graduation Research」の受講登録は、事務室が行います。詳細は、毎年発行される「履修・登録の手引き」を確認してください。

なお、「卒業研究／Graduation Research」を履修するためには、以下の両方の条件を満たしている必要があります。

- ・受講登録をする前の学期までに「専門演習／Advanced Seminar」を2単位以上修得していること(*)。
- ・「卒業研究／Graduation Research」を履修(受講登録)する学期に、あわせて「専門演習／Advanced Seminar」の受講登録を行うこと。

* DUDP等の長期海外留学から帰国後、第7または第8学期から「専門演習／Advanced Seminar」の履修を開始する場合は、留学先で同等科目の単位を履修していれば、「専門演習／Advanced Seminar」の単位として認定されることがあるため、留学前と帰国後に国際関係学部

事務室へ相談してください。

②提出（登録登録）可能な時期

「卒業研究／Graduation Research」は、在学第8学期以降に提出（受講登録）が可能です。

③提出（受講登録）可能な科目・クラス

受講登録可能なクラスは、下表の通り、専攻によって異なります。

専攻	履修している科目	受講登録可能な科目
国際関係学専攻	専門演習	卒業研究
	Advanced Seminar	
グローバル・スタディーズ専攻	Advanced Seminar	Graduation Research
	専門演習	

※原則として「専門演習／Advanced Seminar」担当教員と同一クラスによって開講される「卒業研究／Graduation Research」のみ履修可能です。

④成績評価方法

「卒業研究／Graduation Research」の評価は、ルーブリック（P.56 参照）にしたが行われます。

（5）「専門演習／Advanced Seminar タームペーパー」、「卒業研究／Graduation Research」作成要項

①「専門演習／Advanced Seminar タームペーパー」執筆要項

a. 文字数および書式について

- ・和文：6,000 ～ 8,000 字
A4 用紙（横書き）を使用のこと
- ・英文：ダブルスペースで 3,000 ～ 4,000 words
A4 用紙（横書き）を使用のこと
※引用文献については、出典を明記してください。
※統計・脚注等を文字数に含みます。
- ・上記以外の詳細は、担当教員に確認してください。

b. 執筆言語について

下表の通り、専攻および受講する科目によって執筆言語が異なるため注意してください。
※卒業論文の執筆言語については P.51 を参照してください。

専攻	専門演習／Advanced Seminar の受講登録科目	執筆言語
国際関係学専攻	専門演習	日本語または英語
	Advanced Seminar	英語 ※ただし、担当教員の判断で日本語での執筆も可とすることがある。
グローバル・スタディーズ専攻	Advanced Seminar	英語
	専門演習	英語 ※ただし、日本語で執筆することに積極的な意義を認める場合は、担当教員の判断で日本語での執筆も可とすることがある。

c. 提出形式、提出先、提出締切

manaba+R の「国際関係学部生のページ」→「トップページ」→「小集団科目・プログラム選択・卒業研究 / Seminar, Program Selection, Graduation Research」→「卒業研究・専門演習タームペーパー」より確認してください。

※締切後の提出は一切認められません。

※その他、執筆に関して不明な点がある場合は、担当教員に相談してください。

②「卒業研究／Graduation Research」作成要項

※下記とあわせて国際関係学部 HP「IR NAVI」の「卒業研究作成の仕方」を確認してください。

a. 文字数および書式について

【論文として提出する場合】

- ・和文：20,000 字程度
A4 用紙（横書き）を使用のこと
- ・英文：ダブルスペースで 10,000words 程度
A4 用紙（横書き）を使用のこと
※引用文献については、出典を明記してください。
※統計・脚注等を文字数に含みます。
- ・上記以外の詳細は、担当教員に確認してください。

【論文以外の成果物として提出する場合】

卒業研究として論文以外の成果物を提出することは可能です。ただし、①4 年間の学修の成果としての卒業研究に相応しいものであること、②指導教員が論文以外の形態で提出することをあらかじめ承認していること、③論文としての成果に匹敵する学修の成果物であることを証明する文書等を添付すること、が条件となります。論文以外の成果物の様式等は指導教員の指示に従ってください。

〈論文としての成果物に匹敵する学修の成果であることを証明する文書の文字数および書式〉

- ・和文：6,000 ～ 8,000 字
A4 用紙（横書き）を使用のこと
- ・英文：ダブルスペースで 3,000 ～ 4,000 words
A4 用紙（横書き）を使用のこと
※引用文献については、出典を明記してください。
※統計・脚注等を文字数に含みます。

b. 執筆言語について

下表の通り、専攻および履修している科目によって執筆言語が異なるため注意してください。

専攻	「専門演習／Advanced Seminar」の受講登録科目	「卒業研究／Graduation Research」の受講登録可能な科目	執筆言語
国際関係学専攻	専門演習	卒業研究	日本語または英語
	Advanced Seminar		英語 ※ただし、担当教員の判断で日本語での執筆も可とすることがある。
グローバル・スタディーズ専攻	Advanced Seminar	Graduation Research	英語
	専門演習		

c. 提出形式、提出先、提出締切

manaba+R の「国際関係学部生のページ」→「トップページ」→「小集団科目・プログラム選択・卒業研究 /Seminar, Program Selection, Graduation Research」→「卒業研究・専門演習タームペーパー」より確認してください。

※締切後の提出は一切認められません。

※論文執筆時、引用については、以下を参照してください。

【引用のしかた】

◇引用するもの（著作者の考え方や感じ方が表現されている部分）が明確になっていること。

◇引用するものの出典を明示すること。脚注や末尾注の形式で示します。

〔注には、①引用、要約、自分の意見ではない意見などの出典・出所を示すもの、②本文に入れるとその流れを妨げるが、本文の理解に役立つ情報や参考のためのコメントなどがあります。〕

【引用注の形式】 次のような形式で引用するといいいでしょう。

例) 単行本等の場合 — 著者名『書名』(出版社、●年) ●頁。

例) 雑誌等の論文の場合 — 著者名「論文名」所収雑誌名●巻●号(発行機関名、●年) ●頁。
または著者名「論文名」所収書名(出版社、●年) ●頁。

※インターネット上で一般に公開されているファイルであっても、著作権法による保護を受けていますので、一般の書籍等と同様の制約があることに注意してください。

※インターネット上で公開されているファイル等を参照した場合でも、引用を明示することが必要です。たとえば次のような方式で明示してください。

例) 著者名「△△△△△」(ファイル最終更新日、またはファイル参照日) <URL>
立命太郎「論文の書き方」(visited Apr.30.2025) <<https://sitename/filename>>
立命太郎「論文の書き方」(last modified Apr.30.2025) <<https://sitename/filename>>

(なお、以上の諸原則は、一般的な考え方を示したものであり、表記例のひとつです。)

(参考)「専門演習／Advanced Seminar」申請時期および履修モデル

<国際関係学専攻 4月入学者>

留学／休学	休学／留学 回生・時期・学期	期間	「専門演習／ Advanced Seminar」 申請			「専門演習／ Advanced Seminar」 履修開始		「専門演習／ Advanced Seminar」	「卒業研究 履修時期	
			時期	回生・学期	在学学期	回生・学期	在学学期	履修回数(単位数)	回生・学期	在学学期
通常	留学／休学なし	－	－	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
DUDP	3回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	4回生・春	在学第7	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	4回生・秋	在学第8	1回(2単位)(注1)	4回生・秋	在学第8(注1)
	5回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	5回生・春	在学第9	1回(2単位)(注1)	5回生・春	在学第9(注1)
留学 (APUを含む) (注2)	2回生通年派遣	1年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生秋学期派遣	半年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生秋学期～ 3回生春学期派遣	1年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生春学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生通年派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	4回生・春	在学第7	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期～ 4回生春学期派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生春学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生通年派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	5回生・春	在学第9
	4回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	5回生・春	在学第9
	4回生秋学期～ 5回生春学期派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	5回生・秋	在学第10
休学	1回生・春学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第3	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	1回生・春学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第3	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	1回生・秋学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第3	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	1回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・春学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第3	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・春学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・秋学期	半年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・春学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・春学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・秋学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・秋学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生・春学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	4回生・春学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生・秋学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8

(注1) 留学先科目が「専門演習／Advanced Seminar」として単位認定された場合のみ当該学期での「卒業研究」の履修が可能です。

(注2) 留学する場合の履修モデルは、留学前後に休学をしない場合のモデルです。

(休学した場合は「専門演習／Advanced Seminar」履修開始や「卒業研究」履修時期が異なることがあります。) また、春学期に帰国する場合、4月末日までに留学終了届を提出し必要な手続きをすれば、当該学期に「専門演習／Advanced Seminar」を特別に履修することができます。(上記モデルは、4月末日までに留学終了届を提出しない場合の例です。)

<グローバル・スタディーズ専攻 4月入学者>

留学／休学	休学／留学 回生・時期・学期	期間	「専門演習／ Advanced Seminar」 申請			「専門演習／ Advanced Seminar」 履修開始		「専門演習／ Advanced Seminar」 履修回数(単位数)	「Graduation Research」 履修時期	
			時期	回生・学期	在学学期	回生・学期	在学学期		回生・学期	在学学期
通常	留学／休学なし	－	－	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
DUDP	3回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	4回生・春	在学第7	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	4回生・秋	在学第8	1回(2単位)(注1)	4回生・秋	在学第8(注1)
	5回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・秋	在学第4	5回生・春	在学第9	1回(2単位)(注1)	5回生・春	在学第9(注1)
留学 (APUを 含む) (注2)	2回生通年派遣	1年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生秋学期派遣	半年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生秋学期～ 3回生春学期派遣	1年	留学中	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生春学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第6	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生通年派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	4回生・春	在学第7	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生秋学期～ 4回生春学期派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	2回(4単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生春学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生通年派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	3回(6単位)	5回生・春	在学第9
	4回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	5回生・春	在学第9
	4回生秋学期～ 5回生春学期派遣	1年	留学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	5回生・秋	在学第10
休学	1回生・春学期	半年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	1回生・春学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	1回生・秋学期	半年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	1回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・春学期	半年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・春学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・秋学期	半年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・春学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・春学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・秋学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・秋学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生・春学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	4回生・春学期～	1年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生・秋学期	半年	休学前	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8

(注1) 留学先科目が「専門演習／Advanced Seminar」として単位認定された場合のみ当該学期での「Graduation Research」の履修が可能です。

(注2) 留学する場合の履修モデルは、留学前後に休学をしない場合のモデルです。

(休学した場合は「専門演習／Advanced Seminar」履修開始や「Graduation Research」履修時期が異なることがあります。)

また、春学期に帰国する場合、4月末日までに留学終了届を提出し必要な手続きをすれば、当該学期に「専門演習／Advanced Seminar」を特別に履修することができます。(上記モデルは、4月末日までに留学終了届を提出しない場合の例です。)

<グローバル・スタディーズ専攻 9月入学者>

留学／休学	休学／留学 回生・時期・学期	期間	「専門演習／ Advanced Seminar」 申請			「専門演習／ Advanced Seminar」 履修開始		「専門演習／ Advanced Seminar」	「Graduation Research」 履修時期	
			時期	回生・学期	在学学期	回生・学期	在学学期	履修回数(単位数)	回生・学期	在学学期
通常	留学／休学なし	－	－	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
DUDP	3回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・春	在学第4	3回生・春	在学第6	3回(6単位)	4回生・春	在学第8
	4回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・春	在学第4	4回生・秋	在学第7	2回(4単位)	4回生・春	在学第8
	4回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・春	在学第4	4回生・春	在学第8	1回(2単位)(注1)	4回生・春	在学第8(注1)
	5回生秋学期 授業開始日までに帰国	－	留学中	2回生・春	在学第4	5回生・秋	在学第9	1回(2単位)(注1)	5回生・秋	在学第9(注1)
	5回生4月末日までに帰国	－	留学中	2回生・春	在学第4	5回生・春	在学第10	1回(2単位)(注1)	5回生・春	在学第10(注1)
留学 (APUを 含む) (注2)	2回生秋学期～ 春学期派遣	1年	留学中	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生春学期派遣	半年	留学中	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生春学期～ 3回生秋学期派遣	1年	留学中	2回生・春	在学第4	3回生・春	在学第6	3回(6単位)	4回生・春	在学第8
	3回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・春	在学第6	3回(6単位)	4回生・春	在学第8
	3回生秋学期派遣～ 春学期派遣	1年	留学前	2回生・春	在学第4	4回生・秋	在学第7	2回(4単位)	4回生・春	在学第8
	3回生春学期派遣	半年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	3回(6単位)	4回生・春	在学第8
	3回生春学期～ 4回生秋学期派遣	1年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	2回(4単位)	4回生・春	在学第8
	4回生秋学期派遣	半年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	3回(6単位)	4回生・春	在学第8
	4回生秋学期～ 春学期派遣	1年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	3回(6単位)	5回生・秋	在学第9
	4回生春学期	半年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	5回生・秋	在学第9
	4回生春学期～ 5回生秋学期派遣	1年	留学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	5回生・春	在学第10
休学	1回生・秋学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	1回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	1回生・春学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	1回生・春学期～	1年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・秋学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・秋学期～	1年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	2回生・春学期	半年	休学後	2回生・秋	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	2回生・春学期～	1年	休学後	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・秋学期	半年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・春	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・秋学期～	1年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	3回生・春学期	半年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	3回生・春学期～	1年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	4回生・秋学期	半年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8
	4回生・秋学期～	1年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・春	在学第8
	4回生・春学期	半年	休学前	2回生・春	在学第4	3回生・秋	在学第5	4回(8単位)	4回生・秋	在学第8

(注1) 留学先科目が「専門演習／Advanced Seminar」として単位認定された場合のみ当該学期での「Graduation Research」の履修が可能です。

(注2) 留学する場合の履修モデルは、留学前後に休学をしない場合のモデルです。

(休学した場合は「専門演習／Advanced Seminar」履修開始や「Graduation Research」履修時期が異なることがあります。)

また、春学期に帰国する場合、4月末日までに留学終了届を提出し必要な手続きをすれば、当該学期に「専門演習／Advanced Seminar」を特別に履修することができます。(上記モデルは、4月末日までに留学終了届を提出しない場合の例です。)

卒業研究ルーブリック・専門演習「学びの成長プロセス・到達目標」

立命館大学国際関係学部 「卒業研究／Graduation Research」ルーブリック

評価項目	1	2	3	4
課題設定は適切に行われているか。	課題設定が結論を導く形で明瞭に行われていない。	結論を導く形で課題設定がされているが、曖昧さが残る。	理論背景が事実関係を踏まえ、明瞭な結論を導き出せる形で課題設定が行われている。	独創的な結論を導き出すことのできる課題設定となっている。
基礎的な事実関係や理論の理解ができていないか。	基礎的に事実関係や理論を紹介、検討しておらず、理解もしていない。	基礎的な事実関係や理論を紹介はしているが、整理不十分なし理解不十分である。	基礎的な事実関係や理論を紹介し、ある程度の整理はできているが、課題設定との関連が明瞭ではない。	基礎的な事実関係や理論を紹介し、かつ、課題設定と十分に関連付けられている。
先行研究のサーベイが十分になされているか。	先行研究のサーベイが殆ど行われていないか、不適切な紹介となっている。	先行研究の紹介はされ、概要は示されている。ただし、考察は不十分である。	先行研究の紹介検討され、整理は妥当だが、課題設定の関わりがやや不明瞭である。	先行研究について十分な紹介検討が行われ、課題設定との関わりも明確である。
課題設定されたテーマについて、どのように、どの程度実現できたのか説明されているか。	課題設定されたテーマについて、どのように、どの程度実現できたのかについて説明されていない。	課題設定されたテーマについて、どのように、どの程度実現できたのか説明されているが、不明瞭である。	課題設定されたテーマについて、どのように、どの程度実現できたのか明瞭に説明されているか。	課題設定されたテーマについて、どのように、どの程度実現できたのか説明されて明瞭に示されているだけでなく、独創性も十分に説明されている。
学術論文としての形式（図表の出典の明示、引用の仕方、注の付し方、学術的に認められた形式での参考文献一覧の作成など）が整っているか。	学術論文としての形式が整っていない。	学術論文としての形式はある程度整えられている。	学術論文としての形式にはなっているが、わずかな不備も見られる。	学術論文として形式上全く問題ない。
文章表現は適切か。	日本語ないし英語としての文法上の誤りや不適切な表現が多い。	日本語ないし英語としての誤りではないが、学術論文としての文章表現としては不備が見られる。	学術論文としての文章表現になっているが、わずかな不備も見られる。	優れた文章表現が行われている。
プレゼンテーションは適切に行われたか。	プレゼンテーションをしなかった。あるいは、全く不適切であった。	プレゼンテーションは行ったが、研究課題、検証方法、結論について不明瞭であった。	卒業研究の研究課題、検証方法、結論について体系的なプレゼンテーションが行われた。ただし、聴衆に新たな知見を与えるものではなかった。	卒業研究について体系的にプレゼンテーションが行われただけでなく、独創的な内容をもって聴衆に新たな知見をあたえるものであった。

立命館大学国際関係学部 論文形式をとらない成果物および付加するレポート（必須）ルーブリック

評価項目	1	2	3	4
成果物のテーマ設定が適切に説明されているか。	テーマ設定の説明が行われていない。	テーマ設定の説明はあるが、不明瞭さがある。	テーマ設定の意図などが明瞭に示されている。	テーマ設定の意図が明瞭に示され、独自性も示されている。
関連する業績との関連が明確に示されているか。	関連する業績が示されていない。	関連する業績は紹介されているが、関係性が明瞭ではない。	関連する業績が紹介され、関係性も明瞭である。ただし独自性については十分に説明されていない。	関連する業績が紹介され、関係性も明瞭であり、独自性についても十分に説明されている。
成果物作成に当たったの困難をどのように克服したのかについて説明されているか。	成果物作成にあたっての困難およびその克服方法についての説明が行われていない。	成果物作成にあたっての困難およびその克服方法についての説明はされているが、困難とその克服方法についての関連性が不明瞭である。	成果物作成にあたっての困難およびその克服方法についての説明されており、困難とその克服方法についての関連性が明瞭である。	成果物作成にあたっての困難およびその克服方法についての説明はされており、困難とその克服方法についての関連性が明瞭であるだけでなく、その克服方法に大きな創意工夫が見られる。
（レポートのみ対象）学術的なレポートとしての形式（図表の出典の明示、引用の仕方、注の付し方、学術的に認められた形式での参考文献一覧の作成など）および文章表現は適切か。	学術的なレポートの形式になっていない。日本語ないし英語としての文法上の誤りや不適切な表現が多い。	学術的なレポートとしての形式は一応整えられているが不備が多い。日本語ないし英語としての誤りではほぼ無いが、学術論文としての文章表現としては不十分である。	学術的なレポートとしての形式にはなっているが、わずかな不備も見られる。学術論文としての文章表現になっているが、わずかな不備も見られる。	学術的なレポートとして形式上および文章表現上全く問題ない。
プレゼンテーションは適切に行われたか。	プレゼンテーションをしなかった。あるいは、全く不適切であった。	プレゼンテーションは行ったが、成果物のテーマ、表現方法、達成度について不明瞭であった。	成果物のテーマ、表現方法、達成度について明瞭なプレゼンテーションが行われた。	成果物のテーマ、表現方法、達成度について明瞭なプレゼンテーションが行われただけでなく、その独自性が明瞭に示された。

立命館大学国際関係学部 専門演習 学びの成長プロセス・到達目標

1. 情報収集、文献読解、プレゼンテーション、ディスカッション

学びの指標	1	2	3	4
情報収集・読解	プレゼンテーションの課題に沿った情報収集が行えない。	プレゼンテーションの課題に沿った情報収集ができるが、理解が不十分である。	プレゼンテーションの課題に沿った情報収集ができ、十分な理解もできる。	プレゼンテーションの課題に沿った情報収集ができ、十分な理解ができるだけでなく、オリジナルな考察もできる。
プレゼンテーション・スキル	基礎演習で習得されているはずのレベルに達しておらず、課題の提示、検証、結論が適切な方法で示すことができない。	課題の提示、検証、結論の提示ができているが、不備があり、工夫も乏しい。	課題の提示、検証、結論の提示ができ、不備はないが、工夫は乏しい。	課題の提示、検証、結論の提示ができ、不備もなく、工夫もできる。
プレゼンテーションの内容	収集した情報の内容について理解が不十分で、適切にプレゼンテーションができない。	収集した情報の内容については理解はできるが、適切にプレゼンテーションができない。	収集した情報の内容を十分理解し、適切にプレゼンテーションができる。	収集した情報を十分に理解し、適切かつ独自の考察を行ったプレゼンテーションができる。
ディスカッション	論点が適切に提示できない。あるいは、論点を理解できない。	論点は適切に提示できるが知識不足や考察不足により十分な議論ができない。	論点は適切に提示でき、論点にかみ合った適切な議論ができる。	論点が適切に提示でき、噛み合った議論ができるだけでなく、独自の結論を導き出すことができる。

2. 教室外活動

学びの指標	1	2	3	4
教室外で行われる活動(フィールドリサーチ、他団体との合同ゼミその他) 全体	教室外活動の趣旨にそった活動が全くできない。	教室外活動にそった活動はできるが、達成度が低い。	教室外活動の趣旨にそった活動ができ、期待した結果が得られる。	教室外活動の趣旨にそった活動ができ、期待以上の卓越した結果が得られる。
教室外で行われる活動への諸個人の貢献	参加しない。あるいは趣旨を理解せず、きわめて消極的な参加にとどまる。	趣旨を理解し、グループとして活動できる。	趣旨を理解しただけでなく、リーダーシップを発揮できる。	リーダーシップを発揮し、全体としての活動の卓越した結果をもたらすことができる。

3. タームペーパー作成

学びの指標	1	2	3	4
課題設定は適切に行われているか。	課題設定が結論を導く形で明瞭に行われていない。	大まかではあるが課題設定が行われている。	理論背景が事実関係を踏まえ、結論を導き出せる形での課題設定が行われている。	独創的な結論を導き出すことのできる課題設定となっている。
基礎的な事実関係や理論の理解ができているか。	基礎的な事実関係や理論を紹介、検討しておらず、理解もしていない。	基礎的な事実関係や理論をある程度理解している。	基礎的な事実関係や理論を理解し適切に表現できる。	基礎的な事実関係や理論を十分に理解し、他の事例にも適用して考えることができる。
先行研究のサーベイが十分になされているか。	先行研究の意味を十分に理解していない。	先行研究が何かを理解し、ある程度紹介している。	先行研究の紹介はされ、概要は示されている。ただし、深い考察までは行われていない。	先行研究について深い検討が行われている。
考察結果が論理的であるか。事実関係による検証が十分に行われているか。	考察結果は論理的でなく、事実関係による検証は全く行われていないかきわめて不十分。	事実関係を踏まえて議論している。一定の論理に基づいて結論が導かれている。	考察結果は論理的である。また、事実検証も行われている。	考察は深い理論洞察と事実検証によって行われており、独創性も兼ね備えている。
論文としての形式(図表の出典の明示、引用の仕方、注の付し方、学術的に認められた形式での参考文献一覧の作成など)が整っているか。	論文としての形式になっていない。	論文としての形式にはなっているが、不備が見える。	論文としての形式が概ね整っている。	形式上全く問題ない。
文章表現は適切か。	日本語ないし英語として文法上のあやまりや不適切な表現が多い。	学術論文としての文章表現になっているが、いくつか不備も見られる。	概ね学術論文としての文章表現になっている。	優れた文章表現が行われている。

4. 国際関係学科の多様な履修制度

4.1 クロス履修と Bilingual Learner 認定制度

国際関係学科カリキュラムでは、自分の専攻とは異なる専攻の科目を履修する「クロス履修」が可能です。日本語での学びを主体とした国際関係学専攻と、英語での学びを主体としたグローバル・スタディーズ専攻の学生が、それぞれ異なる専攻で学ぶことは、自専攻とは異なった言語で読み、書き、議論する機会を得て、より広い視野と見識を獲得することに結びつきます。

本カリキュラムでは、国際関係学専攻の学生がグローバル・スタディーズ専攻の専門科目（英語開講科目）を20単位以上取得した場合、またグローバル・スタディーズ専攻の学生が国際関係学専攻の専門科目（日本語開講科目）を20単位以上取得した場合、「Bilingual Learner（二言語学習者）」として、自己申請にもとづいて認定します。「Bilingual Learner」の資格を満たした学生は、学びステーションに認定証の発行を申し出て下さい。なお、認定証の発行は在学期間内のみ可能です。卒業後の発行はできません。

（1）申請資格

自身の所属する専攻（学びの主体となる開講言語）とは異なる専攻（開講言語）の国際関係学部が開講責任を有する科目（科目ナンバリングが付記された科目）の内、以下の科目区分あるいは該当する科目の中から、計20単位以上を修得すること。

- ・学部基礎科目（日本語／英語）
- ・基幹科目（日本語／英語）
- ・固有専門プログラム科目
- ・固有専門関連科目（日本語／英語）
- ・地域研究科目（日本語／英語）
- ・「専門演習／Advanced Seminar」

（2）申請が可能な時期について／認定証の再発行について

上記（1）の要件を満たしてから卒業までの間において、申請が可能です。

また、認定証の発行申請は、複数回（複数枚）可能です。

（3）「Bilingual Learner」認定証の発行時期

申請から、1～2週間程度で発行します。

4.2 他学部受講制度

本学では、総合大学としてのメリットを生かし、他学部の専門科目で国際関係学部が許可した科目について、各自の問題関心の広がりや深まりに応じて履修することができます。他学部受講が可能な科目については、毎年3月に公開される「他学部受講科目時間割表」（manaba+R⇒「国際関係学部生のページ」⇒「国際関係学部の履修」⇒「時間割リスト・シラバス」に掲載）を参照してください。

履修にあたっての留意事項

（1）受講登録方法・時期

①定員が定められていない科目

本登録申請期間に、本登録申請してください。

②定員が定められている科目

受講者数に定員が設定されている科目は、抽選科目申請期間に申請してください。

（2）受講資格

原則、3年生以上

（3）受講（履修）できる単位数

既に修得した単位を含めて20単位まで受講（履修）可能です。

4.3 全学副専攻

<副専攻（外国語コミュニケーションコース）とは>

副専攻（外国語コミュニケーションコース）は、外国語教育で形成された学力と問題関心をドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の各外国語分野において、一定のまとまりを持った科目群によって構成される「コース」での学習へと発展させるものです。

学生の皆さんは、各学部で専門分野を専攻し、全学専門科目を履修します。副専攻は、それらの専門科目の履修と併行して、さらに新しい分野、すなわち自己の学部専門分野以外の学問領域についての力量を培っていくために、一定のまとまりを持った科目群を履修していく制度です。

全学副専攻は、言語教育センターが運営する、法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部の共通コースとして設置され、共通の問題関心を持つ他学部の学生とともに学ぶ場となっていることから、広い視野を養う条件を生み出します。

＜全学副専攻の学修を開始するためには＞

副専攻の学修は2回生（9月入学者は第4セメスター）から始まります。ただし1回生時（9月入学者は第3セメスター）に応募手続きを行い、許可を受けることが必要であり、応募できるのは1回生（9月入学者は第3セメスター）のみとなります。副専攻の授業は、各学部における外国語科目の学修の積み重ねを前提として行います。したがって、当該言語を履修していることが応募条件となります。ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある（その言語圏での留学・滞在経験を含む）場合は、個別に応募の可否を判断します（語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります）。詳細は10月下旬に発行される応募要項で確認してください。

なお、初修外国語・既修者対応プログラム履修者が、その継続学習として既修者対応プログラムで履修している言語について全学副専攻科目を履修する場合は全学副専攻「特別履修」となりますので、全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）は履修できません。

詳細は、「初修外国語既修者対応プログラム」のページを参照してください。

（1）スケジュール・開設コース・募集人数・所属学部によるコース履修の可否

詳細は言語教育センターホームページや、2025年10月頃配布予定の募集要項にて確認してください。応募時期は2025年11月を予定しています。

語種	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
募集人数 (予定)	70名	105名	175名	105名	105名

※募集人数は、衣笠キャンパス所属学部全体の人数を表しています。

※「DUDP」派遣者は全学副専攻を履修できません。

※留学生が副専攻を履修する場合は、母語のコースは選択できません。

（2）全学副専攻の学修について

全学副専攻科目は、1年次配当科目（2回生以上）と2年次配当科目（3回生以上）によって編成されています。2回生から履修を開始し、卒業までに必要な単位を修得できるよう計画的、系統的に履修を進めます。全学副専攻科目の登録単位数は、学部で定められている「受講登録上限単位数」に含まれます。

（3）単位未修得の場合

単位を修得できなかった場合には、次年度同一科目または未履修の別の科目を履修してください。

（4）要卒単位数として認められる条件

選択したコースに設置されている科目の中から、16単位以上を修得した場合に限り、要卒単位として認定されます（単位認定区分については学部のカリキュラム表を参照してください）。なお、要卒単位として認められる単位数の上限は20単位です。16単位以上修得をした場合、卒業時に修了証を発行します。

＜Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）の単位認定＞

全学副専攻履修開始後に、該当言語に関わる海外留学プログラム「Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」に参加した場合、全学副専攻の単位「(副)Intensive Language workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」（2単位）として認定することができます。ただし、副専攻科目として単位認定するためには、認定を希望する時点で全学副専攻コースの履修を開始している必要があります（したがって、1回生時に参加した場合は単位認定できません）。また、複数回参加した場合も全学副専攻科目での単位

認定は1回限りとなります。

<海外留学（協定・個別合意）での単位認定>

全学副専攻では、該当言語に関わる海外留学（協定・個別合意）に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により12単位を上限に全学副専攻の単位として単位認定できることがあります。申請は、留学からの帰国後速やかに行ってください。なお、一度確定した単位を遡って「単位認定申請」することはできません。

(5) 科目一覧

配当年次	科目名称	開講期間	単位数
1年次 (2回生以上 配当)	(副) 専門〇〇語Ⅰ	春学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅱ	秋学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅲ	春学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅳ	秋学期	2
	(副) 〇〇語コミュニケーションⅠ	春学期	1
	(副) 〇〇語コミュニケーションⅡ	秋学期	1
2年次 (3回生以上 配当)	(副) 専門〇〇語Ⅴ	春学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅵ	秋学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅶ	春学期	2
	(副) 専門〇〇語Ⅷ	秋学期	2
	(副) 〇〇語コミュニケーションⅢ	春学期	1
	(副) 〇〇語コミュニケーションⅣ	秋学期	1
—	Intensive Language workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	—	2

その他、詳細については、言語教育センターホームページの副専攻のページを確認してください。

言語教育センターの全学副専攻のホームページ

(manaba+Rの「国際関係学部生のページ」→「国際関係学部の履修」→「外国語科目の履修（全学副専攻プログラム）」をクリック)

(6) 国際関係学部独自の短期留学プログラム

バンコク国際機関研修

～ International Organizations Training Program in Bangkok ～

本学部では、将来、国際機関でキャリアを積んでいきたいと考えている国際関係学部の学生を対象に「バンコク国際機関研修」を実施しています。この研修では、タイのバンコクで活動する複数の国際機関、国連と連携して活動を行うタイ政府機関、そして現地の大学を訪問し、これら機関の活動を視察します。

各機関の職員とのブリーフィング・セッションやワークショップ、現地大学の学生との国際交流を通じてモチベーションを高め、国際機関への就職に向けた計画を具体化することがこの研修の目的です。

このプログラムはすべて英語で実施されます。参加を希望する場合は、語学力などの出願条件を満たした上で、選考を通過する必要があります。

・単位授与科目名：IR18-DE106 Special Lecture (Foundation Course)

・単位授与区分：基幹科目

・授与単位数：2単位（開講時期：夏集中Ⅳ）

※受講登録上限単位数に含まれません。

※単位授与のためには、本科目受講年度の秋学期の学籍状態が、「在学」または「留学」である必要があります。

例年、3月中下旬に募集要項を発行しています。プログラムの詳細や応募要件については、募集要項で確認してください。

・募集対象：国際関係学部の学部生（1回生～）

・募集人数：12名

・募集・受講日程：4月上旬～下旬

(参考) 過年度訪問先一覧

UNHCR、UNICEF、UNESCAP、ASEAN Center for Sustainable Development Studies and Dialogue (ACSDDSD)、UNESCO、チュラロンコン大学

5.1 カリキュラムマップ

5. 国際関係学科 カリキュラムマップ／カリキュラムツリー／カリキュラム表

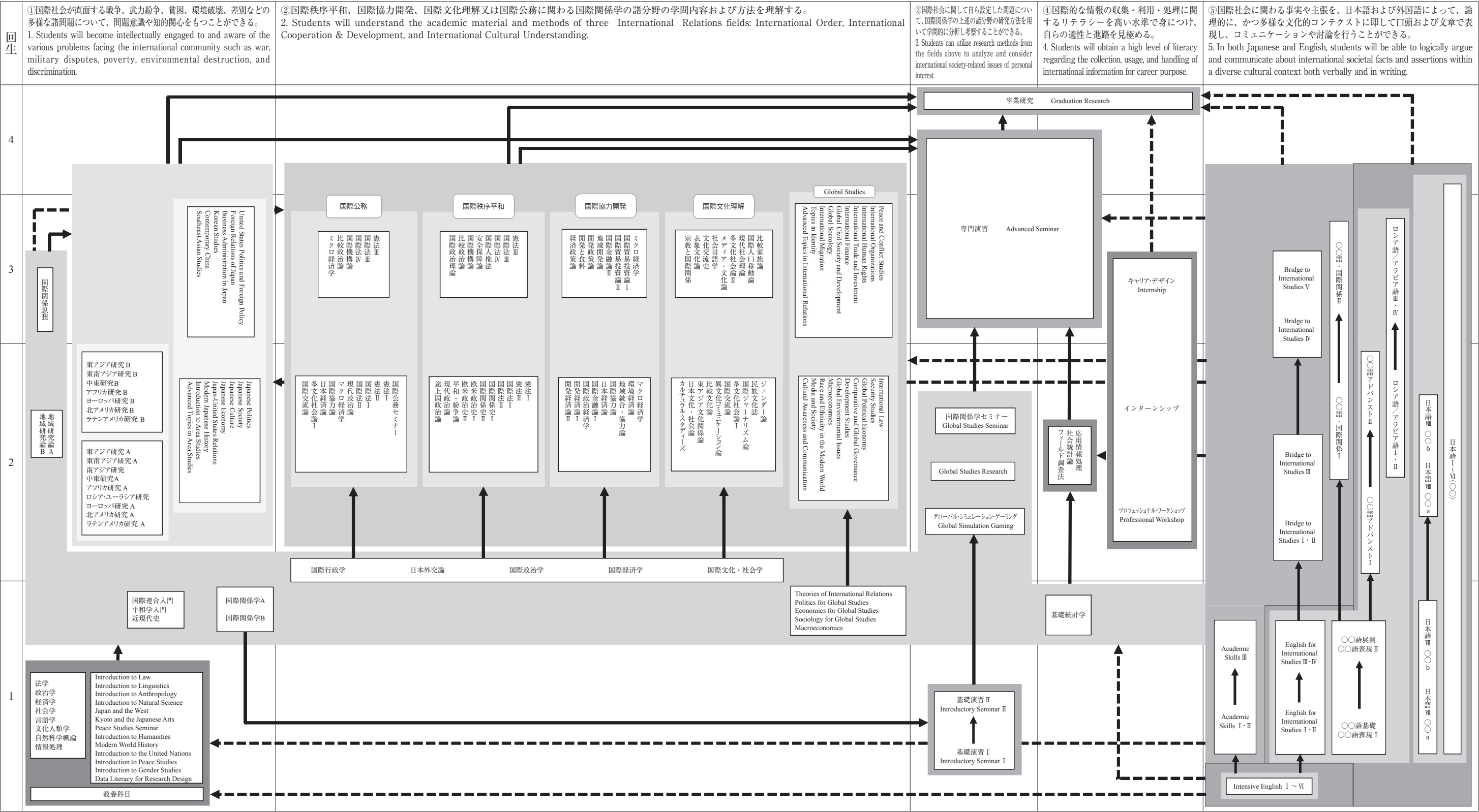
科目区分		授業科目の名称	①国際社会が直面する戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別などの多様な諸問題について、問題意識や知的関心をもちることができる。	②国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解又は国際公務に関わる国際関係学の諸分野の学問内容および方法を理解する。	③国際社会に関して自ら設定した問題について、国際関係学の上述の諸分野の研究方法を用いて学問的に分析し考察することができる。	④国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけ、自らの適性と進路を見極める。	⑤国際社会に関わる事実や主張を、日本語および外国語によって、論理的に、かつ多様な文化的コンテクストに即して口頭および文章で表現し、コミュニケーションを行うことができる。	配当 回生
基礎科目	教養	教養科目 Liberal Arts Courses	○					1～
		法学	○	○				1～
		政治学	○	○				1～
		経済学	○	○				1～
		社会学	○	○				1～
		言語学	○	○				1～
		文化人類学	○	○				1～
		自然科学概論	○	○				1～
		情報処理	○	○		○		1
		特殊講義（基礎科目）	○	○				1～
基礎科目	学 部 基 礎 科 目	Introduction to Law	○	○				1～
		Introduction to Linguistics	○	○				1～
		Introduction to Anthropology	○	○				1～
		Introduction to Natural Science	○	○				1～
		Japan and the West	○	○				1～
	英語	Kyoto and the Japanese Arts	○	○				1～
		Peace Studies Seminar	○	○				1～
		Introduction to Humanities	○	○				1～
		Modern World History	○	○				1～
		Introduction to the United Nations	○	○				1～
外国語科目	英語	Introduction to Peace Studies	○	○				1～
		Introduction to Gender Studies	○	○				1～
		Special Lecture(General Education Course)	○	○				1～
		Data Literacy for Research Design	○	○				1～
		English for International Studies I～IV	○	○			○	1～
	初修 日本語	Intensive English I～VI					○	1～
		初修外国語（基礎、展開、表現 I / II）					○	1～
		日本語 I～Ⅲ					○	1～
		○語アドバンスト I / II、アラビア語／ロシア語 I～IV					○	2～
		特殊講義（選択外国語）					○	2～
専門科目	国際関係学 Global Studies	Bridge to International Studies I～V		○			○	2～
		Academic Skills I～III		○			○	2～
		○語・国際関係 I / II		○			○	2～
		特殊講義（専門外国語）		○			○	2～
		国際関係学 A	○	○				1～
	国際関係基礎科目	国際関係学 B	○	○				1～
		国際連合入門	○	○				1～
		平和学入門	○	○				1～
		基礎統計学	○	○		○		1～
		近現代史	○	○				1～
専門科目	基 幹 科 目	特殊講義（基幹科目）	○	○				1～
		国際政治学	○	○				2～
		国際経済学	○	○				2～
		国際文化・社会学	○	○				2～
		国際行政学	○	○				2～
	国際関係基礎科目	地域研究論 A	○	○				2～
		地域研究論 B	○	○				2～
		日本外交論	○	○				2～
								2～
								2～

科目区分	科目区分別	授業科目の名称	①国際社会が直面する戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別などの多様な諸問題について、問題意識や知的関心をもちことができる。	②国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解又は国際公務に関わる国際関係学の諸分野の学問内容および方法を理解する。	③国際社会に関して自ら設定した問題について、国際関係学の上述の諸分野の研究方法を用いて学問的に分析し考察することができる。	④国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけ、自らの適性と進路を見極める。	⑤国際社会に関わる事実や主張を、日本語および外国語によって、論理的に、かつ多様な文化的コンテクストに即して口頭および文章で表現し、コミュニケーションを行うことができる。	配当 回生
専門科目	国際関係学専攻	日本語		○	◎			2
		国際関係学セミナー			◎		○	2
		グローバル・コミュニケーション・ゲーミング		○	◎			3
		国際関係思想	◎	○				3
専門科目	基礎科目	Theories of International Relations		◎				1
		Politics for Global Studies	○	◎				1
		Economics for Global Studies	○	◎				1
		Sociology for Global Studies	○	◎				1
		Macroeconomics	○	◎				1
		Special Lecture(Foundation Course)	◎	○				1
		Global Studies Research			◎			2
		Global Studies Seminar		○	◎			2
		Global Simulation Gaming			◎		○	2
		憲法Ⅰ		◎				2
	国際秩序平和	憲法Ⅱ		◎				2
		国際法Ⅰ		◎				2
		国際法Ⅱ		◎				2
		国際関係史Ⅰ	○	◎				2
		国際関係史Ⅱ	○	◎				2
		欧米政治史Ⅰ	○	◎				2
		欧米政治史Ⅱ	○	◎				2
		平和・紛争論	○	◎				2
		現代政治論	○	◎				2
		達上国政治論	○	◎				2
専門科目	国際秩序平和	憲法Ⅲ		◎				3
		国際法Ⅲ		◎				3
		国際法Ⅳ		◎				3
		国際人権法		◎				3
		安全保障論	○	◎				3
		国際機構論	○	◎				3
		比較政治論	○	◎				3
		国際政治理論	○	◎				3
		マクロ経済学		◎				2
		環境経済論	○	◎				2
	国際協力開発	地域統合・協力論	○	◎				2
		国際協力論	○	◎				2
		日本経済論	○	◎				2
		国際金融論Ⅰ	○	◎				2
		国際政治経済学	○	◎				2
		開発経済論Ⅰ	○	◎				2
		開発経済論Ⅱ	○	◎				2
		ミクロ経済学	○	◎				3
		国際貿易投資論Ⅰ	○	◎				3
		国際貿易投資論Ⅱ	○	◎				3
国際関係学専攻	国際関係学専攻	国際金融論Ⅱ	○	◎				3
		地域開発論	○	◎				3
		開発政策論	○	◎				3
		開発と食料	○	◎				3
国際関係学専攻	国際関係学専攻	経済政策論	○	◎				3
		ジェンダー論	○	◎				2
国際関係学専攻	国際関係学専攻	民族文化誌	○	◎				2

専 門 科 目									
関 連 専 門 科 目	固 有 専 門 プ ロ グ ラ ム 科 目	国 際 文 化 理 解	国 際 公 務	G l o b a l S t u d i e s	日 本 語				
		国際ジャーナリズム論		○		○			2～
		多文化社会論Ⅰ		○		○			2～
		国際交流論		○		○			2～
		異文化コミュニケーション論		○		○			2～
		比較文化論		○		○			2～
		東アジア文化関係論		○		○			2～
		日本文化・社会論		○		○			2～
		カルチュラル・スタディーズ		○		○			2～
		比較家族論		○		○			3～
		国際人口移動論		○		○			3～
		現代社会理論		○		○			3～
		多文化社会論Ⅱ		○		○			3～
		メディア・文化論		○		○			3～
		社会言語学		○		○			3～
		文化交流史		○		○			3～
		表象文化論		○		○			3～
		宗教と国際関係		○		○			3～
		国際公務セミナー		○		○			2
		憲法Ⅰ				○			2～
		憲法Ⅱ				○			2～
		国際法Ⅰ				○			2～
		国際法Ⅱ				○			2～
		現代政治論			○	○			2～
		マクロ経済学				○			2～
		国際協力論			○	○			2～
		日本経済論			○	○			2～
		多文化社会論Ⅰ			○	○			2～
		国際交流論			○	○			2～
		憲法Ⅲ				○			3
		国際法Ⅲ				○			3
		国際法Ⅳ				○			3
		国際機構論			○	○			3
		比較政治論			○	○			3
		ミクロ経済学				○			2
		International Law				○			2
		Security Studies				○			2
		Global Political Economy				○			2
		Comparative and Global Governance				○			2
		Peace and Conflict Studies				○			3
		International Organizations				○			3
		International Human Rights				○			3
		Development Studies				○			2
		Global Environmental Issues				○			2
		Microeconomics				○			2
		International Trade and Investment			○	○			3
		International Finance			○	○			3
		Global Civil Society and Development				○			3
		Race and Ethnicity in the Modern World			○	○			2
		Media and Society			○	○			2
		Cultural Awareness and Communication			○	○			2
		Global Sociology			○	○			3
		International Migration			○	○			3
		Topics in Identity			○	○			3
		Advanced Topics in International Relations			○	○			3
		応用情報処理						○	2
		社会統計論						○	2
		フィールド調査法					○		2
		プロフェッショナル・ワークショップ						○	2・3
		インターンシップ						○	2

科目区分	授業科目の名称	①国際社会が直面する戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別などの多様な諸問題について、問題意識や知的関心をもつことができる。	②国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解又は国際公務の諸分野の国際関係学の学問内容を理解する。	③国際社会に関して自ら設定した問題について、国際関係学の上述の諸分野の研究方法を用いて学問的に分析し考察することができる。	④国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけ、自らの適性と進路を見極める。	⑤国際社会に関わる事実や主張を、日本語および外国語によって、論理的に、かつ多様な文化的コンテクストに即して口頭および文章で表現し、コミュニケーションや討論を行うことができる。	配当 回生
関連 専 門 科目	日本語	特殊講義 (固有専門関連科目) キャリア・デザイン	○				2～
	英語	Special Lecture(Core Related Course) Professional Workshop Internship	○		○		3
地域 研究 科目	日本語	東アジア研究 A	○		○		2・3
		東アジア研究 B	○		○		3
		東南アジア研究 A	○				2
		東南アジア研究 B	○				2
		南アジア研究	○				2
		中東研究 A	○				2
		中東研究 B	○				2
		アフリカ研究 A	○				2
		アフリカ研究 B	○				2
		ロシア・ユーラシア研究	○				2
	英語	ヨーロッパ研究 A	○				2
		ヨーロッパ研究 B	○				2
		北アメリカ研究 A	○				2
		北アメリカ研究 B	○				2
		ラテンアメリカ研究 A	○				2
		ラテンアメリカ研究 B	○				2
		特殊講義 (地域研究科目)	○				2
		Japanese Politics	○				2
		Japanese Society	○				2
		Japanese Culture	○				2
小 集 団 科目	基礎 演習	Japanese Economy	○				2
		Japan - United States Relations	○				2
		Modern Japanese History	○				2
		Introduction to Area Studies	○				2
		Advanced Topics in Area Studies	○				2
		Special Lecture(Area Studies Course)	○				2
		United States Politics and Foreign Policy	○				3
		Foreign Relations of Japan	○				3
		Business Administration in Japan	○				3
		Korean Studies	○				3
	専門 演習	Contemporary China	○				3
		Southeast Asian Studies	○				3
		基礎演習 I		○			1
		基礎演習 II		○			1
		Introductory Seminar I	○	○			1
		Introductory Seminar II	○	○			1
		専門演習		○			3
		Advanced Seminar		○			3
		卒業研究		○			4
		Graduation Research		○			4

5.2 国際関係学科 カリキュラムツリー ※「授業科目の名称」において、科目ナンバリングは省略。
※「特殊講義」は省略。



5.3 国際関係学科 カリキュラム表 ※各科目の科目ナンバリングは省略

科目区分			1回生		2回生		3回生		4回生		要卒単位																	
			第1学期（春学期）		第2学期（秋学期）		第3学期（春学期）		第4学期（秋学期）		第5学期（春学期）		第6学期（秋学期）		第7学期（春学期）		第8学期（秋学期）		国際関係学専攻		グローバル・スタディーズ専攻		科目区分毎（専攻間共通）		合計			
基礎科目	日本語	（学部基礎）	法学②、政治学②、経済学②、社会学②、言語学②、文化人類学②、自然科学概論②、情報処理②、特殊講義（基礎科目）②																						8以上			
		（教養科目）	論理と思考②、映像と表現②、現代の経営②、現代環境論②、科学・技術と社会②、日本の近現代と立命館②、地域参加学習入門②、現代社会のフィールドワーク②、学びとキャリア②、スポーツと現代社会②、スポーツのサイエンス②、スポーツ方法実習Ⅰ①、視光学②、スポーツ方法実習Ⅱ①、教養ゼミナール②、国の行政組織②、（留）日本の文化・地理・歴史②、（留）日本の社会・政治②、（留）日本の経済・経営②、（留）日本の自然・科学技術②、異文化間テーマ演習②、世界と日本の食文化②、映像メディア実践入門②、特殊講義（総合）①②③④、音楽原論②、実践データ科学②、社会と学ぶ課題解決②、情報技術と社会②、ソーシャルデザイン論②、メディアと図書館②、京都学②、美と芸術の論理②、データサイエンス・AI基礎②、データエンジニアリング基礎② 平和人権フィールドスタディ② シチズンシップ・スタディーズ②、仕事とキャリア②、ピア・サポート論②、（留）日本語② コーオプ演習（理論）② コーオプ演習（実践）②																									
	英語	（学部基礎）	Introduction to Law②、Introduction to Linguistics②、Introduction to Anthropology②、Introduction to Natural Science②、Japan and the West②、Kyoto and the Japanese Arts②、Peace Studies Seminar②、Introduction to Humanities②、Modern World History②、Introduction to the United Nations②、Introduction to Peace Studies②、Introduction to Gender Studies②、Special Lecture(General Education Course)②、Data Literacy for Research Design②、Foundations of Data Science and AI②、Foundations of Data Engineering②																						8以上			14以上
		（教養科目）	Liberal Arts Seminar②、Cross-cultural Encounters 1②、Cross-cultural Encounters 2②、Academic Skills 1②、Academic Skills 2②、Cross-cultural Seminar②、Global Engineer Program②、Non-verbal Communication②、Asian Community Leadership Seminar②、Understanding Language②、Introduction to Computational Linguistics②、History of Computing②、Language in Politics②、Computers in Education②、Cross Border Policy Issues②、Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities②、Introduction to Food Culture②、Understanding Visual Culture②、Introductory Course to Climate Change and Global Warming②、Introductory Course to International Project Development②、Introduction to Global Justice②、Playing with Playfulness②、Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell②、Introduction to Economics② University of Hawaii Program②																									
外国語科目	国際関係学・英語		English for International StudiesⅠ②◆ English for International StudiesⅡ②◆		English for International StudiesⅢ②◆ English for International StudiesⅣ②◆						8																	
	初修外国語		○○語・基礎② ○○語・表現Ⅰ① （○○にはドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語が入る） ○○語中級表現読解Ⅰ～Ⅴ①、○○語中級コミュニケーションⅠ～Ⅱ① （○○にはドイツ語、フランス語、中国語が入る） ○○語中級表現読解Ⅰ～Ⅴ②、○○語中級コミュニケーションⅠ～Ⅱ② （○○にはスペイン語、朝鮮語が入る）		○○語・展開② ○○語・表現Ⅱ①						6以上		6以上								(IR専攻) 14以上 (GS専攻) 6以上							
	日本語		日本語Ⅶ（文章表現 a）① 日本語Ⅶ（読解 b）① 日本語Ⅶ（聴解口頭 a）① 日本語Ⅰ-Ⅰ（総合）③、日本語Ⅰ-2（総合）③ 日本語Ⅱ～Ⅴ（総合）⑤、日本語Ⅱ～Ⅵ（ライティング）① 日本語Ⅵ（聴解口頭）②、日本語Ⅵ（総合）③		日本語Ⅶ（文章表現 b）① 日本語Ⅶ（読解 b）① 日本語Ⅶ（聴解口頭 b）①		日本語Ⅷ（アカデミック日本語 a）① 日本語Ⅷ（キャリア日本語 a）①		日本語Ⅷ（アカデミック日本語 b）① 日本語Ⅷ（キャリア日本語 b）①																			
	任意		Intensive EnglishⅠ① Intensive EnglishⅡ① Intensive EnglishⅢ①		Intensive EnglishⅣ① Intensive EnglishⅤ① Intensive EnglishⅥ①																							
	選択外国語科目					○○語アドバンスⅠ① （○○にはドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語が入る） ロシア語Ⅰ① アラビア語Ⅰ① 特殊講義（選択外国語）①		○○語アドバンスⅡ① （○○にはドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語が入る） ロシア語Ⅱ① アラビア語Ⅱ①		ロシア語Ⅲ① アラビア語Ⅲ①		ロシア語Ⅳ① アラビア語Ⅳ①																
国際関係 基盤科目	専門 外国語	国際関係学			Bridge to International StudiesⅠ②● Bridge to International StudiesⅡ②●		Bridge to International StudiesⅢ②●		Bridge to International StudiesⅣ②		Bridge to International StudiesⅤ②		4以上										124 以上					
		Global Studies	Academic SkillsⅠ④◆ Academic SkillsⅡ④◆		Academic SkillsⅢ④◆										12													
		任意																										
	基幹	日本語	国際関係学 A②●、国際関係学 B②●、国際連合入門②、平和学入門②、基礎統計学②、近現代史②、特殊講義（基幹科目）②、		グローバル・シミュレーション・ゲーミング②●		国際関係学セミナー②●		国際関係学思想②		10 以上		20 以上										24以上					
英語		Theories of International Relations②、Politics for Global Studies②、Economics for Global Studies②、Sociology for Global Studies②、Macroeconomics②、Special Lecture(Foundation Course)②、		Global Simulation Gaming②●		Global Studies Seminar②●						12以上																
固有専門 プログラム科目	秩序平和				憲法Ⅰ②、憲法Ⅱ②、国際法Ⅰ②、国際法Ⅱ②、国際関係史Ⅰ②、国際関係史Ⅱ②、欧米政治史Ⅰ②、欧米政治史Ⅱ②、平和・紛争論②、現代政治論②、途上国政治論②		憲法Ⅲ②、国際法Ⅲ②、国際法Ⅳ②、国際人権法②、安全保障論②、国際機構論②、比較政治論②、国際政治理論②																					
	協力開発				マクロ経済学④、環境経済論②、地域統合・協力論②、国際協力論②、日本経済論②、国際金融論Ⅰ②、国際政治経済学②、開発経済論Ⅰ②、開発経済論Ⅱ②		ミクロ経済学④、国際貿易投資論Ⅰ②、国際貿易投資論Ⅱ②、国際金融論Ⅱ②、地域開発論②、開発政策論②、開発と食料②、経済政策論②																					
	文化理解				ジェンダー論②、民族文化誌②、国際ジャーナリズム論②、多文化社会論Ⅰ②、国際交流論②、異文化コミュニケーション論②、比較文化論②、東アジア文化関係論②、日本文化・社会論②、カルチュラル・スタディーズ②		比較家族論②、国際人口移動論②、現代社会理論②、多文化社会論Ⅱ②、メディア・文化論②、社会言語学②、文化交流史②、表象文化論②、宗教と国際関係②																					
	国際公務				国際公務セミナー②● 憲法Ⅰ②、憲法Ⅱ②、国際法Ⅰ②、国際法Ⅱ②、現代政治論②、マクロ経済学④、国際協力論②、日本経済論②、多文化社会論Ⅰ②、国際交流論②		憲法Ⅲ②、国際法Ⅲ②、国際法Ⅳ②、国際機構論②、比較政治論②、ミクロ経済学④																					
	Global Studies				International Law②、Security Studies②、Global Political Economy②、Comparative and Global Governance②、 Development Studies②、Global Environmental Issues②、Microeconomics② Race and Ethnicity in the Modern World②、Media and Society②、 Cultural Awareness and Communication②		Peace and Conflict Studies②、International Organizations②、 International Human Rights② International Trade and Investment②、International Finance②、 Global Civil Society and Development② Global Sociology②、International Migration②、Topics in Identity② Advanced Topics in International Relations②																					
固有専門 関連科目	日本語		プロフェッショナル・ワークショップ② 応用情報処理②、社会統計論②、フィールド調査法②、インターンシップ②④、 特殊講義（固有専門関連科目）② 民法Ⅰa②、民法Ⅰb②、行政法Ⅰ④		キャリア・デザイン② 民法Ⅱ（債権各論）④、民法Ⅲ（物権法）②、行政法Ⅱ④、財政学Ⅰ②、 財政学Ⅱ②、国際比較法②、国際環境法②、国際経済法②																							
	英語		Professional Workshop② Special Lecture(Core Related Course)②		Internship②④																							
地域研究科目	日本語				東アジア研究 A②、東アジア研究 B②、東南アジア研究 A②、東南アジア研究 B②、 南アジア研究②、中東研究 A②、中東研究 B②、アフリカ研究 A②、アフリカ研究 B②、 ロシア・ユーラシア研究②、ヨーロッパ研究 A②、ヨーロッパ研究 B②、北アメリカ研究 A②、 北アメリカ研究 B②、ラテンアメリカ研究 A②、ラテンアメリカ研究 B②、特殊講義（地域研究科目）②						4以上										8以上							
	英語				Japanese Politics②、Japanese Society②、Japanese Culture②、Japanese Economy②、 Japan-United States Relations②、Modern Japanese History②、Introduction to Area Studies②、 Advanced Topics in Area Studies②、Special Lecture(Area Studies Course)②		United State Politics and Foreign Policy② Foreign Relations of Japan②、Business Administration in Japan②、 Korean Studies②、Contemporary China②、Southeast Asian Studies②				4以上																	
演習科目	基礎演習		基礎演習Ⅰ②● Introductory SeminarⅠ②●		基礎演習Ⅱ②● Introductory SeminarⅡ②●																							
	専門演習								専門演習② Advanced Seminar②		専門演習② Advanced Seminar②		専門演習② Advanced Seminar②		専門演習② Advanced Seminar②		4以上		4以上		4以上							
	卒業研究																											
副専攻科目																												
※ ◆は必修科目 ※ ○内は単位数																												
受講登録上限単位数			21		21		22		22		22		22		24		24											

6. 国際関係学科 科目概要 Course Outline for the Department of International Relations

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-AJ101 法学	2	この科目は、大学生および社会人として理解しておくべき「法」の基本的知識として「法」の性格、目的、存在意義といった法律にまつわる様々なテーマを取り上げる。この科目では、国内法令や国際条約といった成文法や国内外の裁判判例（国際裁判を含む。）などを用いて、社会人として必要な法的常識の理解を深める。この科目を通じて、国際関係学を学ぶ上で身につけておくべき法的素養（リーガルマインド）を把握する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学を学ぶ上で必要な「法律」に関する基礎知識を理解し、関心ある法律についての必要な情報を獲得することができる。 2. 国際関係学を学ぶ上で有益な「リーガル・マインド」を修得し、論理的思考力を身につける。
IR18-AJ102 政治学	2	この科目は、グローバル化時代の政治学の視点を重視しつつ、政治学の基本概念を初学者にも理解できるように解説する。この科目では、民族問題、戦争と平和、社会運動、選挙と世論といったテーマを取り上げながら、世界と日本の動向を政治学の諸概念とアプローチから考察する。この科目を通じて、政治学の基本概念を今日の状況の中で発展的に理解することができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 今日の世界のダイナミズムを分析するツールとして、政治学を位置づけることができる。 2. 政治学を、現実を分析し、世界と日本の民主的な社会の構想と構築に役立つ学問として理解できる。
IR18-AJ103 経済学	2	この科目では、国際関係学の主要な構成要素である国際政治、国際経済、国際文化・社会の中で、国際経済学の基礎となる経済学について基礎的な理解をする。主として講義形式により、経済理論、経済政策、経済史、経済学説史にかかわる諸問題を取り扱う。この科目を通じて、現代経済の基本的枠組みの理解を促進する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 経済学にかかわる基本概念について理解することができる。 2. 現代経済の基本的枠組みと、そこにはらまれる諸問題について理論的、歴史的、政策的なアプローチで検討することができる。
IR18-AJ104 社会学	2	この科目は、人間（個人）と彼らの相互行為から始め、それらの集成された社会（国家）について取り扱う。社会を構成する個人に共有される文化や基礎社会の具体相から、社会を成り立たせる他の社会科学のテーマと当該社会との関係、さらには一国レベルからグローバル化による変容まで取り上げる。学生の理解を深めるため、具体的なテーマを設定し、講義形式でそれらの現状や問題点を明らかにする。この科目により、当該社会の諸課題の現状把握、国際化によるそれらの変化を基本的に理解することができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 学生が所属する社会の現状、および問題点を把握し理解する。 2. 国際社会の諸問題について、社会学が取り扱う諸課題との関連性を近代以降の時間枠で把握し検討する。
IR18-AJ105 言語学	2	この科目は、言語が記号体系で、思考を担い、コミュニケーションの機能を有するという前提の下で、ヒトだけが持つコトバの特性について概説する。この科目では、講義形式により、例えば言語の構造や言語変化による多様性の生成、言語消滅など、具体的な言語事情を考えながら、言語についての理解を深める。この科目を通じてヒトだけが持つ言語能力と思考、文化の創造を理解することで、ヒトとは言葉を有するが故にヒトとなっていることを理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. コトバの問題は「ヒトとは何か」という根本的な問題を考えることに他ならないことが理解できる。 2. 世界の様々な言語や方言についての見方、偏見、教育問題などに、多角的にアプローチできる。 3. 異文化理解が深まる。
IR18-AJ106 文化人類学	2	この科目は、文化人類学の概論について、以下の3点に留意して講義する。第一に、国際関係学部で学ぶさまざまな学問との関わりについて、文化人類学の位置を考える。第二に、文化人類学の考え方について、ヨーロッパだけでなく、他の地域の文化も含めて様々なアプローチから検討する。第三に、我々が生活する日本の文化を、文化人類学から考える。文化人類学を単なる珍しいもの探し、「未開」探しではなく、鏡に映った自分（の文化）の姿を見る方法として考える。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 文化人類学と、他の社会科学との関連を学ぶ。 2. ヨーロッパ思想のなかから生まれた文化人類学を振り返り、文化の特性を学ぶ。 3. 身近にある日本文化を学ぶ。
IR18-AJ107 自然科学概論	2	この科目は、自然科学のいくつかの分野における基礎的な理論と知見、それらと人びとの生活・社会との関係および地球規模の課題群に対する自然科学的な解決手段などを取り扱う。この科目では、具体的な事例や資料を提示しながら、講義形式で進められる。この科目を通じて、自然科学的な観点から文化・社会およびグローバル・イシューを理解する力を向上させることができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 自然科学諸分野の主要な知見を理解する。 2. 自然科学諸分野の主要な知見とグローバル・イシューとの関連を理解する。
IR18-AJ108 情報処理	2	この科目では、大学での学びにおいて必要不可欠なコンピュータの活用を修得する。基本ソフトウェアの利用法、ネットワークの利用や情報倫理、立命館大学での情報環境とその利用について取り上げる。この科目では、講義とともにコンピュータを使った実習を行う。この科目を通じて、国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを一定の水準で身につけることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 大学の提供する情報システムを十分に使えるようになる。 2. Office ソフトウェアなどのPC利用の基本的な技術を身につける。 3. WWWや電子メールなど、ネットワーク利用のマナーやセキュリティを身につける。
IR18-AJ109 特殊講義（基礎科目）	2	この科目は、基礎科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題の中で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるテーマを取り上げる。この科目では、学際的な国際関係学の学びの導入として、地域や学問領域にとらわれず、多様なトピックを提示して、学生とともに検討する。この科目を通じて、国際関係学の多面的な性格について理解し、自分の関心を深めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学に関する多様な諸問題の中で、様々な論点を整理し、知的関心を深めることができる。 2. 国際関係学に関する諸問題の中で、基礎的な知識を理解し、その検討の方法を理解することができる。
IR18-AE101 Introduction to Law	2	This course is designed as an introduction to the essentials of law and legal systems. It aims to provide insight into the nature and function of law and familiarize students with key concepts, institutions and processes in various fields of law, such as constitutional law, criminal law, procedural law, property law, contracts and torts. The course seeks to place law in its social, economic, political, historical and philosophical context and thus not only to provide students with a knowledge of legal institutions but also to help them to develop a critical understanding of the operation of those institutions in society. The teaching of the course will take the form of formal lecturing and class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、法律および法体系の基本を学ぶ概論である。法律の性質と機能を洞察し、憲法、刑法、手続法、財産権法、契約法、不法行為法など、様々な法律分野の主だった概念、制度、プロセスを知ることが目的とする。社会、経済、政治、歴史、哲学の文脈で法律をとらえ、法制度の知識を得るだけでなく、これらの制度の社会における働きを根本的に理解できるようにする。授業は講義とクラスディスカッションで行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. understand the nature and function of law; 2. explain the structure of the legal system; 3. identify and understand the sources and fundamental concepts of law; 4. think critically about law and its place in society. この科目を履修する学生は、 1. 法律の性質と機能を理解することができる。 2. 法制度の構造を説明することができる。 3. 法律の基本概念と法源を明確にし、理解することができる。 4. 法律、および社会におけるその位置づけを批判的に思考できる。"

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-AE102 Introduction to Linguistics	2	This course introduces students to the study of language. The course provides students with a comprehensive understanding about contemporary linguistics through subjects such as the origin and properties of language, the differences and similarities between animal and human communication, the properties of grammar, the types of language acquisition, as well as the relationship between language and culture. By giving ample examples from various languages, the centric focus of the course is on how reality is perceived and reflected in language, and also on how language and thinking are related to each other. The course is basically a lecture course, but there is also space for both open and group discussion in the class in order to promote a student-led learning process. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、言語研究への入門課程である。この科目では、言語の起源や基礎的な特徴、言語と動物間のコミュニケーションの異同、言語学習の類型、言語と文化との関係等のトピックを提示した上で、言語学について総合的な知識を与える。この科目において、現実認識と言語のあり方との関係性、そして言語と思考との関係性は中心の課題である。この科目は、基本的に講義形式で行うが、公開討論や集団討論も実施し、学生中心の学習過程を進めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. learn fundamental concepts related to the study of language in order to have a wide-ranging lexical knowledge in linguistics, and they will also understand about the potential and limitation of this academic field. 2. acquire an essential knowledge on the relationship between language and society (culture), and they will also have a basic understanding about cultural miscommunication. 1. 言語学に関する様々な基礎概念を身に付けたうえで、本学門に関する語彙的な知識を増やす一方で、本学門における可能性と限界を認識する。 2. 言語と社会（文化）との関係性について重要な知識を得たうえで、文化的差異による誤解を認識する。
IR18-AE103 Introduction to Anthropology	2	This course will introduce students to the central topics, concepts and methods of socio-cultural anthropology, which can be broadly defined as the study of human cultures and societies. It will survey the key topics in contemporary socio-cultural anthropology and offer insights into how the seemingly most commonsensical aspects of people's lives can be informed by the social contexts of which they consider themselves a part. The course focuses on anthropological theories, thus also providing a historical overview of the discipline. It draws on ethnographic examples and case studies from various societies, but contemporary Japan will be central, in order to provide students with an understanding of where we are living. Active participation in discussion will be fundamental. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、様々な人間集団の文化と社会を考察する学問である文化人類学についての入門的知識を提供する。この科目では、文化人類学における理論に着目することにより、本学問の歴史的展開も検討の対象とする。また、私たちが暮らしている枠組みを分析するため、現代日本に関わる事例が中心になる。この科目は講義形式で行われるが、議論への積極的な参加が期待される。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. Understand key concepts and terminology of socio-cultural anthropology. 2. Understand social relationships, for a comprehension not only of man, society and culture in general, but also of ourselves, our experiences, our own societies and cultures, as well as of the particular context where we are living at present. 1. 社会文化人類学における、根本的な概念と議論を理解することができる。 2. 自分が属している社会・文化的枠組みと自分が暮らしている枠組みも含む、社会関係、文化、人間を学問・理論的に分析の仕方を理解することができる。
IR18-AE104 Introduction to Natural Science	2	This course deals with basic theories and major findings in particular fields of natural sciences and analyses their relation to human society and culture as well as approaches to global issues that the international society has faced. Teaching methodologies employed include seminar or lecture and discussion. Students taking this course will be able to understand human society and culture, global issues from the viewpoint of natural science. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、自然科学のいくつかの分野における基礎的な理論および知見、ならびにそれらと人びとの生活・社会との関係、地球規模の課題群に対する自然科学的な解決手段などを取り扱う。この科目では、さまざまな事象や文献を用いながら、セミナーまたは講義形式で進められる。この科目を通じて、自然科学的な観点から文化・社会およびグローバル・イシューを理解する力が向上させられる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. understand basic theories and major findings in natural sciences 2. understand relations between findings of natural sciences and global issues 1. 自然科学諸分野の主要な知見を理解する。 2. 自然科学諸分野の主要な知見とグローバル・イシューとの関連を理解する。
IR18-AE105 Japan and the West	2	The aim of the course is to introduce students to some of the most significant historical and cultural issues and concepts in the complex relationship between Japan and 'the West'. This course aims to challenge students to question taken for granted essentialized binary opposition between Japan and The West and to understand the nature of complex and mutually constitutive relationship between the two. This course uses academic texts, case studies, and visual aids to facilitate students understanding and engagement. This course enable s students to engage in theoretically and historical debate about the relationship between Japan and the West. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、日本と「西洋」の複雑な関係に顕著にみられる歴史的、文化的な問題と概念にふれることを目的とする。疑いなく受け入れられている日本と西洋という二項対立を問い直し、双方にとって本質的で複雑な関係の性質を理解する。文献、ケーススタディ、視聴覚資料を用いて授業への参加と理解を促す。学生は、日本と西洋の関係について、歴史を踏まえた理論的な議論に参加することができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. demonstrate relevant, factual knowledge about Japanese historical and cultural texts, contexts, and issues under discussion. 2. work within historical and theoretical frameworks in the interpretation of the prescribed literary and visual materials. この科目を履修する学生の到達目標 1. 議論にのぼる日本の歴史・文化に関するテキスト、文脈、課題について、事実に基づいた確かな知識を示すことができる。 2. 歴史および理論的な枠組みの中で、所定の文献や視覚資料の解釈に取り組むことができる。
IR18-AE106 Kyoto and the Japanese Arts	2	The course consists in a comprehensive survey of the intimate relationship between the city of Kyoto and the birth and development of Japanese art and culture. Beginning with the circumstances which led to the foundation in the Kyoto basin of an everlasting capital, the course puts a special emphasis on the history of civil and religious architecture, introduces the performing arts of the various eras (noh, kyogen, kabuki), examines the culture of the tea ceremony and tells the story of the glory and decline of the period movie and its industry. Students will be asked to make oral presentations, thus increasing their ability to convey their ideas in the English language. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、京都が日本の芸術・文化の誕生と発展にどのように関わってきたかを総合的に検討する。この科目では、京都の古都としての歴史、宗教との関係、伝統的な建築などに重点を置き、各時代の芸術（能、狂言、歌舞伎）や茶道をはじめとする伝統文化に注目しつつも、時代劇を代表とする映画産業なども検討の素材に含める。この科目では、授業の中で取り上げられたテーマに関して英語でプレゼンテーションをすることにより、自分の考えを英語で表現する能力を発展させる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. We wish to increase our students' awareness of the privilege of studying in an incomparable historic and artistic environment. 2. The course is intended to give them a general command of Japanese traditional art and culture, and to increase their ability to demonstrate in English in front of an audience. 1. 京都という、他にはない歴史的かつ芸術的な環境の中で学ぶ素晴らしいの意味を学生に意識させる。 2. 学生は日本の伝統的な芸術文化の一般的な知識を把握し、英語で自分の考えを伝える能力を広げてゆく。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-AE107 Peace Studies Seminar	2	The aim of this seminar is to foster 'global citizens' who can contribute to world peace though the trip and real experience coordinated by the instructors. This seminar has been planned and organized jointly by the American University in Washington D.C. and Ritsumeikan University in order to fill the gap between the US and Japan, the youth and the Hibakusha over the issue of the dropping the A-bombs in Hiroshima and Nagasaki. Traveling Hiroshima and Nagasaki with the students from the US is expected to provide great opportunities for the students to realize both sides of the wrongdoing and damage in the war and broaden horizons for better international understandings and cooperation. This course will use both/ either formative and/or summative evaluation. This course will use both/ either formative and/or summative evaluation. ピーススタディ・セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てることを目的としている。本セミナーは、広島・長崎への原爆投下に関わる米国と日本、若者と被爆者の間に存在するギャップを埋めようと、ワシントンにあるアメリカン大学と本学とが共同で企画・実施してきた。広島・長崎を米国の学生とともに旅することで、戦争の被害と加害の両方の側面に気づき、より深い国際理解と協力へと視野が広がることが期待される。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. To think about War and Peace of the Asia-Pacific in Hiroshima and Nagasaki; 2. To acquire communication skills to listen, understand and discuss the opposite perspectives and opinions; 3. To develop better understandings on the issue of nuclear abolition. 1. 広島と長崎でアジア太平洋地域の戦争と平和の問題を考える。 2. 反対意見や考えを聞き、理解し議論する技能を習得することができる。 3. 核廃絶の問題について理解を深めることができる。
IR18-AE108 Introduction to Humanities	2	How do people create their world, their environment, traditions and heritage? How are they in turn created by them? This course looks at the contemporary world through the lens of human culture and provides an introductory overview of cross-disciplinary approaches to social issues and global problems with a base in the humanities, including, but not restricted to, geography, history, languages and linguistics, philosophy and the arts. In order to draw on students' diverse experience and knowledge, this course combines lecture-based elements with interactive teaching styles such as group discussions, presentation and seminars. This course will use both/ either formative and/or summative evaluation. 人間は、自らの世界、環境、伝統、遺産をどのように創造するのか。そして、それらをどのように活用するのか。この科目は、人類の文化というレンズを通して現代世界を眺め、地理学、史学、言語および言語学、哲学、芸術等を含めた人文科学をベースとして、社会的課題やグローバルな問題への学際的アプローチを概論する。学生の多様な体験と知識を引き出すために、講義に加え、グループディスカッション、プレゼンテーション、ゼミなど双方向的なスタイルで授業を行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. gain a knowledge of the diverse approaches to understanding the relationship of human beings to the natural and created world; 2. also gain a deeper understanding of one specialist area within the humanities. この科目を履修する学生の到達目標 1. 自然界および創造された世界と人間との関係を理解する多様なアプローチを知る。 2. 人文科学の1つの専門分野について理解を深める。
IR18-AE109 Modern World History	2	This course aims to provide essential historical knowledge of the world for the last 200 years. The period is usually called modern era. The modern era was more or less established by the end of Napoleonic wars in Europe and later spread to the rest of the world. Major characteristics of the modern era will be explained especially in comparison to the medieval era. The course will also trace the evolution and challenges of the modern era. Major ideologies of the modern era such as nationalism, capitalism, democracy, Marxism, and fascism will be described. The causes and effects of major wars and economic depressions will also be discussed. This course will use both/ either formative and/or summative evaluation. この科目は、過去二百年間の世界史に関する基本的知識を提供する。この科目では、通常近代と呼ばれている時代を、中世と比較することによって概説する。加えて、この科目では、近代の変遷と試練について振り返り、ナショナリズム、資本主義、民主主義、マルクス主義、そしてファシズムといった代表的な近代思想についても取り上げるほか、近代の主要な戦争や恐慌などについても議論する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete the course will be able to: 1. acquire correct and fundamental knowledge of modern history; 2. attain ways and means concerning how to analyze international relations deeply and resolve important questions. 1. 近代史の正確かつ基本的な知識を獲得とすることができる。 2. 国際関係をより深く分析し、主要な問題について解決策を提案できるようにするための手法を身につけることができる。
IR18-AE110 Introduction to the United Nations	2	The aim of this course is to introduce students to the United Nations' (UN) history, functions, structures, and contemporary challenges. By studying for this course, students should be able to understand the key concepts related to the UN and to apply these insights to contemporary international affairs. The course traces the development of the UN and its 'practices' within international politics. The course will consist of small group and class discussion. This course will use both/ either formative and/or summative evaluation. この科目では、国際連合の歴史、機能、構成、および今日の課題を概説することを目的とする。この科目を学ぶことにより、学生は国際連合の主要な概念を理解し、その洞察を現代の国際問題に応用できるようにする。国際政治の中での国際連合とその慣行の発展をたどる。講義は基本的に、小グループとクラス全体でのディスカッションにより進める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete the course will be able to: 1. become intellectually engaged to and aware of the various problems facing the international community such as war, military disputes, poverty, environmental destruction, and discrimination. 2. gain knowledge on the historical settings of the foundation of the UN, as well as the organisation's main functions and structures. 3. critically reflect on the practices of the UN in relation to peace and global security, economic development and social justice. この科目を履修する学生の到達目標 1. 戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別など、国際社会が直面する多様な諸問題を認識し、知的関心をもつことができる。 2. 国連創設の歴史的背景、および国連の主要な機能と組織構造に関する知識を得る。 3. 平和、世界の安全保障、経済発展、社会的正義に関する国連の活動について批判的に考察することができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-AE111 Introduction to Peace Studies	2	This course reviews a wide range of theories exploring the nature and causes of conflict, the possibilities for conflict resolution, and the foundations of peace. The course will combine lecture and group work, exploring from past to contemporary case studies, so that it will help students to foster practical understandings of the cause of conflicts and discuss ways to resolve current global issues. At completion, students will possess an understanding of the key concepts of peace studies and a broad knowledge of different perspectives on peace and conflict and develop skills to address personal and group issues that require peaceful conflict transformation currently and in the future. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、紛争の性質や要因、紛争解決方法、平和とは何かという課題を様々な理論を用いて考察する。この科目は、講義とグループワークの形態を取り、過去から今日に至る様々な紛争の事例を取り上げながら、紛争の要因を実際に理解し、今日の国際的な課題の解決に向けた議論を促す。この科目を通じて、学生は平和学の主要な概念と平和と紛争についての多様な考え方を理解し、今日あるいは将来において平和的紛争転換が必要とされる個人や集団間の問題解決の技能を習得できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete the course will be able to: 1. acquire knowledge of the theories associated with peace studies; 2. learn what are the major cause of conflicts; 3. grasp the ethical, political and social dilemmas of international policies; 4. form and express individual and original perspectives and opinions about ways to prevent and resolve conflicts. 1. 平和学に関する理論的知識を習得することができる。 2. 紛争の主要な原因が何であるかを理解することができる。 3. 国際政治の道徳的、政治的、社会的ジレンマを理解することができる。 4. 紛争予防と解決方法を自分なりに考え、表現することができるようになる。
IR18-AE112 Introduction to Gender Studies	2	This course explores gendering processes in everyday social life and in identity dynamics within global society. It draws on a range of feminist perspectives in gender studies. Students will engage in debate and discussion to deepen their understanding of mini-lectures and of academic reading content. They will also engage in simulation activities and research projects. They will develop the capability to challenge mainstream discourses on femininities and masculinities and to evaluate policies in terms of gender equality. Students will be able to analyze a wide range of gender issues from terdisciplinary and global perspectives. They will be able to critically examine the influences of gender in the construction of personal identities and national identities in policy documents, news media, entertainment media, and in the academy. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、グローバル社会における日常の社会生活とアイデンティティダイナミクスに見られるジェンダリング（性別化）のプロセスを探究する。ジェンダー研究における幅広いフェミニズムの視点を活用する。学生は、ミニレクチャーと文献読解の理解を討論・議論を通して深めていく。シミュレーションとリサーチプロジェクトも行う。女性性と男性性をめぐる主流の言説を問い直し、ジェンダー平等の視点から政策を評価する能力を身につける。学生は、学際的でグローバルな視点から多様なジェンダー問題を分析できるようになる。政策文書、ニュースメディア、エンターテインメントメディア、学術界において、個人と国家のアイデンティティの確立にジェンダーが及ぼしている影響を批判的に検討できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete the course will be able to: 1. analyze a wide range of gender issues from interdisciplinary and global perspectives. 2. critically examine the influences of gender in the construction of personal identities and national identities in policy documents, news media, entertainment media, and in the academy. この科目を履修する学生の到達目標 1. 学際的でグローバルな視点から多様なジェンダー問題を分析することができる。 2. 政策文書、ニュースメディア、エンターテインメントメディア、学術界において、個人と国家のアイデンティティの構築にジェンダーが及ぼしている影響を批判的に検討することができる。
IR18-AE113 Special Lecture (General Education Course)	2	This course explores themes that are of benefit to students in the College of International Relations and that focus on topics and issues not covered in general education courses. As an introduction to international studies of an academic nature, this course goes beyond region and academic field to explore a range of topics that instructor and student examine together. This course offers insights into and deepens students' interest in the multifaceted character of international studies. Assessment is formative, summative, or both. この科目は、基礎科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題の中で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるテーマを取り上げる。この科目では、学際的な国際関係学の学びの導入として、地域や学問領域にとらわれず、多様なトピックを提示して、学生とともに検討する。この科目を通じて、国際関係学の多面的な性格について理解し、自分の関心を深めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will examine various points of controversy and acquire a deeper intellectual interest in a range of issues concerning international studies. 2. Students will acquire a basic knowledge of and learn methods for examining a range of issues concerning international studies. 1. 国際関係学に関する多様な諸問題の中で、様々な論点を整理し、知的関心を深めることができる。 2. 国際関係学に関する諸問題の中で、基礎的な知識を理解し、その検討の方法を理解することができる。
IR18-AE114 Data Literacy for Research Design	2	This course provides the fundamental background required for understanding and handling research data as well as an introduction to various ways data is collected, analyzed, and modeled in contemporary information systems research. The topics begin with a background of the information age and the role of data in that history up to the present. These historical and current developments are followed by the foundations of data collection through experiment, measurement, sampling and other typical means, including linking these to the scientific method, scientific processes, and research. The next section covers basic methods of tabulating, visualizing, and completing initial statistical analysis of data. Increasingly, data science and the various systems employed to collect, handle, and use them are pushing the envelope of ethical boundaries. Before delving into contemporary means of big data analysis, this course gives a background in ethics for information science. Finally, students gain an understanding of how the topics learned during this course can be understood through examples drawn from the burgeoning field of Artificial Intelligence. This course is designed to allow students of all backgrounds to approach the material from a non-engineering point of view and thereby give them a structure on which to understand current developments in data science.	1. Understanding and ability to describe the information age and the role of data in this historical background and contemporary systems. 2. Ability to describe data in the context of its collection for, and relation to, the scientific method and data-driven research. 3. Ability to recognize and employ basic forms of data tabulation, compiling and sorting, and to apply basic forms of data attributes such as distribution and basic statistics. 4. Understanding of concepts of ethics and how they apply to data science, information systems, and data analysis and modelling.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BA101 English for International Studies I	2	EIS は、国際関係学の知見を深めるための高度な専門英語運用能力の養成を目標とする。国際関係を題材にしたコンテンツを扱い、四技能を統合した主体的な学びを行う。EIS I は、特にリーディング・スキルを重点的に学ぶ。習熟度別クラス編成を行い、学生のレベルに合わせて、アカデミックなジャーナル、テキスト、新聞記事などの英文を読み解く。さらに、英語で要約し、議論し、論理的で批判的な思考を養う。また、議論をまとめ、プレゼンテーションやペーパーで発表する。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of English for International Studies is to develop a high-level command of English which will allow students to deepen their knowledge of International Relations. Students engage in an active learning process through an integrated approach to reading, listening, speaking, and writing skills. Among these skills, English I focuses particularly on reading skills. Students are divided into streams based on their levels, and they read articles in academic journals, newspapers, and textbooks related to the above topics. Students summarize and discuss these readings, and through these activities, they will develop logical and critical thinking skills. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. Previewing, skimming, scanning などのリーディング・スキルを身につける。 2. 英文の大意、議論を組み立てる論理構造、議論を支える例や説明する文章などを理解し、認識することができる。 3. 事実と意見を判別し、著者の意見だけでなく対立する意見をも認識することができる。 4. 1、2、3 を通して論理的な思考と多角的な視点から事実や意見を読み解き、主体的に読み解く力を身につける。 1. Students will acquire reading skills such as previewing, skimming, and scanning. 2. With these skills, students will be able to read English language materials and understand the gist of the materials, the structure of the arguments, and supporting sentences. 3. Students will be able to distinguish facts from views and to analyze them from not only the author's point of view, but from opposing points of view as well. 4. Through engagement in these three activities, students will develop the ability to think logically and actively interpret English language materials from a variety of perspectives and viewpoints.
IR18-BA102 English for International Studies II	2	EIS は、国際関係学の知見を深めるための高度な専門英語運用能力の養成を目標とする。国際関係を題材にしたコンテンツを扱い、四技能を統合した主体的な学びを行う。EIS II は、習熟度別クラス編成を行い、英語でのスピーチ、講義、テレビ番組のインタビュー、Ted Talks などのプレゼンテーション、ドキュメンタリー映画などを通して、学生のレベルに合わせて、リスニング・スキルを学ぶと同時に、テキストの一節や記事などの短い英文を題材にし、アカデミックなスピーキング・スキルを学ぶ。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of English for International Studies is to develop a high-level command of English which will allow students to deepen their knowledge of international relations. In EIS II, students engage in an active learning process through an integrated approach using materials related to the field of international relations. Students will acquire listening skills by analyzing speeches, lectures, TV programs, presentations such as Ted Talks and documentaries in English. They will also develop academic and professional speaking skills such as discussion, debates, and presentations using short texts such as newspaper articles and long texts such as chapters in given textbooks. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. 講義の聞き方、ノートの取り方などのリスニング・スキルやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのスピーキング・スキルを習得する。 2. 英文の大意、議論を組み立てる論理構造、議論を支える例や説明する文章などを聞いて理解し、認識できる。 3. グローバルな問題の賛否両論について、プレゼンテーションやスピーチを行うことができる。聴衆の関心を引きつけ、論理的に説得力を持って、言語や非言語を用いることができる。 1. Students will acquire listening skills including the ability to listen to lectures and take notes. They will also develop academic speaking skills through tasks such as presentations, discussions, and debates. 2. Students will be able to listen to English language materials and understand the gist of the materials, the structure of the arguments, and sentences that support these arguments. 3. Students will be able to have discussions and give speeches and presentations logically and persuasively in verbal and non-verbal communication.
IR18-BA103 English for International Studies III	2	EIS は、国際関係学の知見を深めるための高度な専門英語運用能力の養成を目標とする。国際関係を題材にしたコンテンツを扱い、四技能を統合した主体的な学びを行う。EIS III は、リーディング・スキルに重点を置いた EIS I をさらに発展させたものである。環境問題、歴史、地域研究、社会言語学、異文化コミュニケーションなどに特化したコースから、関心のあるクラスを選択することができる。さまざまな種類のテキストを読み、多角的視点から分析を行う。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 English III is an advanced class of English I : students will be engaged in an active learning process through an integrated approach to the four skills with a particular emphasis on reading skills. Students can choose from specified courses in the area of international studies such as environmental issues, readings in history, area studies, social linguistics, intercultural communication or other topics. Students will read various types of texts and analyze the topics from various perspectives for comprehensive evaluation. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. リーディング・スキルを用いて、英文の大意、議論を組み立てる論理構造、議論を支える例や説明する文章などを理解し、認識できる。 2. 国際社会が直面する問題やそれに関連する事実、考え、意見を理解し、深めることができる。 3. 1、2 を通して論理的な思考と多角的な視点から事実や意見を読み解き、多様な文化的コンテキストにおいて主体的に読み解く力を身につける。 1. With their reading skills, students will be able to read English language materials and understand the gist of the materials, the structure of the arguments, and supporting sentences. 2. Students will become intellectually engaged in various issues faced by international society and will be aware of these issues related to the international community. 3. Through engagement in these activities, students will develop the ability to think logically and actively interpret English language materials from a variety of perspectives in a diverse cultural context.
IR18-BA104 English for International Studies IV	2	EIS は、国際関係学の知見を深めるための高度な専門英語運用能力の養成を目標とする。国際関係を題材にしたコンテンツを扱い、四技能を統合した主体的な学びを行う。EIS IV は、発信型コミュニケーション、特に APA スタイルのアカデミックなライティング・スキルに重点を置く。学生の習熟度クラス編成を行い、レベルに応じて、国際関係学に関連する題材を基に、文献レビュー、研究計画、レポートや論文を作成する。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of English for International Studies is to develop a high-level command of English, which will allow students to deepen their knowledge of international relations. In EIS IV, students engage in an active learning process through an integrated approach to the four skills using materials related to international relations with particular focus on language output skills in a multicultural context. They will learn academic writing skills with APA style and write literature reviews, research proposals, reports and papers. Formative evaluation is performed through in-class writings and two or more of the above documents, based on a rubric that targets writing skills.	1. APA スタイルでの引用の仕方や参考文献の書き方を学び、academic integrity (学問的良識) を習得する。 2. 国際社会に関連する事実や主張を英語で要約し、調査などを行い、レポートや論文を作成することができる。 3. 1 と 2 を通して、グローバルな問題に関する事実や主張を、想定する読者の多様な文化的コンテキストに即して、論理的な文章で表すことができる。 1. Students will enhance their academic integrity by learning how to cite works and write reference lists. 2. Students will be able to summarize facts and arguments related to international society and write reports and papers after researching the issues. 3. Students will be able to write about international societal facts and make logical, persuasive assertions within a culturally diverse context.
IR18-BB111 フランス語・基礎	2	この科目は週 2 回実施される。担当者は、原則として日本人教員である。受講生は、講義やグループワーク等を通じて、フランス語学習の基盤となる知識を習得する。具体的には、フランス語特有の文字と発音規則、および基礎的な語彙・文法・表現を学習する。これにより、主として基礎的なリーディング・リスニング能力を習得し、フランス語運用能力の基盤を形成する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. フランス語を正確に発音できる。 2. 基礎的な文法事項を理解できる。 3. 基礎的な語彙を身につけている。 4. 基礎的なフランス語を聞いて理解できる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BB112 フランス語・表現Ⅰ	1	この科目は週1回実施される。担当者は原則として、ネイティブ・スピーカー教員である。授業では、日常生活や旅行等、様々な場面におけるフランス語表現を取り上げる。受講生は、グループワーク等を通じて、様々な状況に対応した基礎的なフランス語の表現を学習する。これにより、主として基礎的なスピーキング・ライティング能力を習得し、フランス語運用能力の基盤を形成する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 基礎的なフランス語を用いて、口頭で明確な意思表示ができる。 2. 基礎的なフランス語を用いて、明確に自分の意志を伝える文章を書くことができる。
IR18-BB113 フランス語・展開	2	この科目は前期「フランス語・基礎」に続く授業で、週2回実施される。担当者は、原則として日本人教員である。受講生は、講義やグループワーク等を通じて、発展的なフランス語運用能力の基盤となる知識を習得する。具体的には、発展的な語彙・文法・表現を学習する。これにより、主として発展的なリーディング・リスニング能力を習得し、より高度なフランス語運用能力の基盤を形成する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 発展的なフランス語の文法事項を理解できる。 2. 日常的に使用される語彙を身につけている。 3. 日常生活で使用される文章を理解できる。 4. 日常的に使用される表現を聞いて理解できる。
IR18-BB114 フランス語・表現Ⅱ	1	この科目は「フランス語・表現Ⅰ」に続く授業で、週1回実施される。担当者は、原則としてネイティブ・スピーカー教員である。授業では、前期同様、日常生活や旅行等、様々な場面におけるフランス語表現を取り上げる。受講生は、グループワーク等を通じて、様々な状況に対応する発展的なフランス語の表現方法を学習する。これにより、主として発展的なスピーキング・ライティング能力の伸長を図り、より高度なフランス語運用能力の基盤を形成する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 基礎的なフランス語を用いて、口頭で明確な意思表示ができる。 2. 基礎的なフランス語を用いて、明確に自分の意志を伝える文章を書くことができる。
IR18-BB121 スペイン語・基礎	2	この科目は、スペイン語の基本的な文法を習得することを目標とする。また、発音、アクセント、綴り、基本的な語彙と表現を覚える。週2回の授業で、集中的に学習を進める。原則として日本人の教員が担当する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. スペイン語の基本的な文の仕組みを理解できる。 2. 基本語彙が身についている。 3. 正しい発音、アクセント、イントネーションでスペイン語を読むことができる。 4. 文法知識を活かして簡単な和訳、西訳ができる。 5. スペイン語圏の地理や歴史、文化についての基本知識が身についている。
IR18-BB122 スペイン語・表現Ⅰ	1	この科目は、スペイン語の日常的なコミュニケーションにおいて必要な基本的表現を習得する。挨拶や自己紹介、身近な物や人について説明ができるように、様々な場面を想定した会話練習を通して、初歩的なスペイン語の運用能力を養う。原則としてネイティブスピーカーが担当する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 自分自身について、性格や特徴、職業などをスペイン語で表現することができる。 2. 周りの状況、自分の家族や出身地などについてスペイン語で表現することができる。
IR18-BB123 スペイン語・展開	2	この科目は、前期の「スペイン語・基礎」に引き続き、基礎文法を習得し、語彙、表現力を高める。辞書を正しく引き、正確に読み書きができる能力を養うことを目標とする。週2回の授業で、集中的に学習を進める。原則として日本人の教員が担当する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. スペイン語の基本的な文の仕組みを理解できる。 2. 基本語彙が身についている。 3. 正しい発音、アクセント、イントネーションでスペイン語を読むことができる。 4. 文法知識を活かして簡単な和訳、西訳ができる。 5. スペイン語圏の地理や歴史、文化についての基本知識が身についている。
IR18-BB124 スペイン語・表現Ⅱ	1	この科目は、前期の「スペイン語・表現Ⅰ」に引き続き、スペイン語の日常的なコミュニケーションにおいて必要な基本的表現を習得する。買い物や旅行、レストランなどでの会話を想定して会話練習を行い、様々な場面で使えるスペイン語を習得する。原則としてネイティブスピーカーが担当する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日常生活や趣味についてスペイン語で表現することができる。 2. 買い物や旅行、レストランでの会話など、場面に応じたコミュニケーションができる。
IR18-BB131 ドイツ語・基礎	2	この授業では、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の基礎を、発音、文法、語彙・表現の面から学習する。言語的な知識のみならず、円滑なコミュニケーションにとって不可欠なドイツ語圏の生活や文化に関する知識も少しずつ身につけることを目指す。 この授業では、単語や文法知識などについて的小テスト（形成的評価）およびまとめテスト（総括的評価）などにより、総合的に評価する。なお、週2回の授業を同一の教員が担当する。	1. ドイツ語で挨拶をしたり、ドイツ語で数字を読んだりできる。 2. 現在や未来の事柄について、簡単なドイツ語で表現できる。 3. 平易なドイツ語の文章を、辞書を用いて読解できる。 4. ドイツ語の基礎的な文法を身につけ、運用できる。
IR18-BB132 ドイツ語・表現Ⅰ	1	この授業では、ドイツ語による基本的なコミュニケーションの力を要請することを目標とする。コミュニケーションに必要な語彙・言い回しを、主として耳で聞き、口に出してみようという練習を通じて獲得する。そのために、教科書や視聴覚教材、教員との対話、あるいはペアワークやグループワークなどにより学習する。この授業では、授業に取り組む姿勢や小テストにより総合的に評価する。また、この授業はドイツ語を母語とする教員が担当する。	1. 挨拶と自己紹介ができる。 2. 身近な物の名前、国名と言語名を言える。 3. 質問と答え方のパターンを理解し、簡単なやり取りができる。
IR18-BB133 ドイツ語・展開	2	前期の「ドイツ語・基礎」に引き続き、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の基礎を、発音、文法、語彙・表現の面から学習する。言語的な知識のみならず、円滑なコミュニケーションにとって不可欠なドイツ語圏の生活や文化に関する知識も少しずつ身につけることを目指す。この授業では、単語や文法知識などについて的小テスト（形成的評価）およびまとめテスト（総括的評価）などにより、総合的に評価する。なお、週2回の授業を同一の教員が担当する。	1. 簡単なドイツ語で過去の事柄を説明できる。 2. 自分の気持ちや感想を簡単なドイツ語で説明できる。 3. 比較的長めのドイツ語の文章を、辞書を用いて読解できる。 4. ドイツ語の基礎的な文法を身につけ、運用できる。
IR18-BB134 ドイツ語・表現Ⅱ	1	前期の「ドイツ語・表現Ⅰ」に引き続き、ドイツ語による基本的なコミュニケーションの力を要請することを目標とする。コミュニケーションに必要な語彙・言い回しを、主として耳で聞き、口に出してみようという練習を通じて獲得する。そのために、教科書や視聴覚教材、教員との対話、あるいはペアワークやグループワークなどにより学習する。この授業では、授業に取り組む姿勢や小テストにより総合的に評価する。また、この授業はドイツ語を母語とする教員が担当する。	1. 日常生活でよく使う言い回しを習得できる。 2. 基本的な語彙・言い回しは、文字に頼らずに音声だけで理解できる。 3. 意図や能力、あるいは買い物や約束に関する表現や語彙・言い回しを習得できる。
IR18-BB141 中国語・基礎	2	中国語の発音の基礎をしっかりと身につけたうえで、基本的な文の構造を習得することを目標とする。また、発音を表すピンイン表記、四声、日本語の漢字とは違う簡体字について学ぶ。週に2回あり、集中的に学習を進める。なお「中国語・表現Ⅰ」の授業と連動した学びとなる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 概ね中国語検定試験準4級レベルとする。
IR18-BB142 中国語・表現Ⅰ	1	中国語の発音の基礎をしっかりと身につけたうえで、簡単な日常会話やリスニング力を鍛え、基本的なコミュニケーション能力の養成を目指す。なお「中国語・基礎」の授業と連動した学びとなる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 概ね中国語検定試験準4級レベルとする。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BB143 中国語・展開	2	前期の「中国語・基礎」で理解した基本的な文の構造を踏まえたうえで、より応用的、発展的な文の構造を習得することを目指す。また、語彙力や表現力をさらに高めていく。週に2回あり、集中的に学習を進める。なお「中国語・表現Ⅱ」の授業と連動した学びとなる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 概ね中国語検定試験4級レベルとする。
IR18-BB144 中国語・表現Ⅱ	1	前期の「中国語・表現Ⅰ」に引き続き、発音の基礎を確実に身につけたうえで、会話能力やリスニング力をさらに高めていき、基本から応用へ向けたコミュニケーション能力の養成を目指す。なお「中国語・展開」の授業と連動した学びとなる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 概ね中国語検定試験4級レベルとする。
IR18-BB151 朝鮮語・基礎	2	初めて学習する朝鮮語の基本的な文法を習得することを目指す。文字と発音から始まり、基本的な語彙と簡単な表現を覚える。週に2回あり、教科書に沿って集中的に学習を進める。評価は、到達度検証試験、小テスト、授業中のパフォーマンスなどで総合的に判断する。	1. ハングル能力検定試験の5級相当の言語運用能力とする。
IR18-BB152 朝鮮語・表現Ⅰ	1	「基礎」で学んだ文法知識を基に、朝鮮語の基本的な語彙、表現を習得する。日常生活や旅行の様々な状況に対応できる会話能力を身につけることを目標とする。基本的には「基礎」と同様、教科書に沿って進め、対話や聞き取りの練習を行う。原則として朝鮮語母語話者である教員が担当する。評価は、到達度検証試験、小テスト、授業中のパフォーマンスなどで総合的に判断する。	1. ハングル能力検定試験の5級相当の言語運用能力とする。
IR18-BB153 朝鮮語・展開	2	前期の「朝鮮語・基礎」で学んだ文法知識をよりいっそう確実なものにするとともに、朝鮮語会話の基本として重要な尊敬形や連体形など、新しい文法事項を習得し、語彙、表現力を高める。週に2回あり、教科書に沿って集中的に学習を進める。評価は、到達度検証試験、小テスト、授業中のパフォーマンスなどで総合的に判断する。	1. ハングル検定試験4級相当の言語運用能力とする。
IR18-BB154 朝鮮語・表現Ⅱ	1	前期の「朝鮮語・表現Ⅰ」に引き続き、「展開」で学んだ文法知識を基に日常の身近なテーマを取り上げて、すぐに使える表現を学ぶ。「展開」同様、教科書に沿って進め、対話や聞き取りの練習を行う。原則として朝鮮語母語話者である教員が担当する。評価は、到達度検証試験、小テスト、授業中のパフォーマンスなどで総合的に判断する。	1. ハングル検定試験4級相当の言語運用能力とする。
日本語Ⅶ (アカデミック日本語 a)	1	この科目では、日本語Ⅶで身につけた力をもとに、ゼミなどの小集団授業で必要な高度な読解力、文章表現力、聴解力、口頭表現力を総合的にのばす。 This course is designed to help students who have completed Level 7, Japanese classes. Students will develop advanced listening, speaking, reading and writing skills necessary for seminars and other small group classes.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 難解な文章を読み、内容や構成を把握できる。 2. 長文レポートの文章構成力、作成力を身につける。 3. 論理的な思考力や認識力、論理的発信力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Read difficult texts and understand their content and structure. 2. Write long and structured essays. 3. Think and communicate logically.
日本語Ⅶ (アカデミック日本語 b)	1	この科目では、アカデミック日本語 a で学んだ知識を深め、卒業論文の執筆や大学院進学を視野に入れた総合的な日本語力をのばす。 This course is designed for students who have completed Academic Japanese a. Students will deepen their knowledge and refine their comprehensive Japanese skills to write a graduation thesis and continue to graduate school.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. アカデミック日本語 a で達成した力をさらに深化、発展させる。 2. 関心のあるテーマについて情報やデータを収集し、論文を作成できる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Further develop and refine the skills they learned in Academic Japanese a. 2. Write a thesis based on data and information collected on a topic of their interest.
日本語Ⅶ (キャリア日本語 a)	1	この科目では、日本の社会や慣習を理解し、ビジネス場面における適切な表現、語彙を学ぶ。社会人としての基本的な敬語や待遇表現を身につけ、円滑なコミュニケーションができるようにする。 This course is designed to help students deepen their knowledge and understanding of Japanese society and customs, and learn vocabulary and expressions appropriate to business contexts. Students will learn and practice fundamental honorific language, expressions, and the necessary etiquette for smooth business communications.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 日本の社会や慣習を理解し、ビジネスマナーやビジネス慣習の知識を身につける。 2. ビジネス場面や状況に応じた多様な語彙・表現を習得する。 3. ビジネス場面で適切な待遇表現が使える。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Understand Japanese society and customs and practice business etiquette. 2. Use vocabulary and expressions appropriate to a variety of business contexts. 3. Use appropriate honorific language in business communications.
日本語Ⅶ (キャリア日本語 b)	1	この科目では、実際のビジネス場面（電話、訪問、商談など）に即したコミュニケーションの方法、ビジネス文書やメール文の実務的な表現や書式を学ぶ。プレゼンテーションの練習を行う。 This course is designed to help students learn practical communication skills for business purposes. Students will learn expressions and etiquette for such tasks as making phone calls, contacting other companies, and participating in business discussions. Students will also learn appropriate styles for writing business emails and other documents, and for giving business presentations.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 実際のビジネス場面で円滑なコミュニケーションができる。 2. ビジネス文書で用いる実務的な表現、語彙や書式を学び、文書作成能力を高める。 3. 要点を簡潔にまとめ、口頭で他者に伝えることができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Communicate smoothly in practical business situations. 2. Compose documents using vocabulary, expressions, and styles appropriate for business communications. 3. Succinctly and effectively communicate with other parties.
日本語Ⅶ (文章表現 a)	1	この科目では、大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。レポート作成に必要な文章構成を考え、適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。 This course is designed to help students develop the writing skills necessary for university classes in Japanese. Students will learn how to summarize texts and write structured essays and reports using appropriate academic styles and expressions.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 大学の授業で必要とされるレポートの全体像をつかむ。 2. 適切な文体や目的に応じた表現を使い、簡潔な形でまとめるようになる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Structure academic essays and reports. 2. Summarize texts for academic purposes.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
日本語Ⅶ (文章表現 b)	1	この科目では、大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。論文作成に必要な文章構成を考え、適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。 This course is designed to help students develop the writing skills necessary for university classes in Japanese. Students will learn how to summarize texts and how to structure and write an academic thesis.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 論文作成に必要な文章構成に基づき、適切な文体や目的に応じた表現が使える。 2. アウトラインの作り方と論証の仕方が分かる。 3. 小論文が書ける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Structure a thesis using appropriate academic styles and expressions. 2. Create outlines to structure their arguments. 3. Write a short thesis.
日本語Ⅶ (読解 a)	1	この科目では、様々な文章の読みを通して読解のスキルを磨き、文章の内容をより速くより正確に掴めるようにするとともに、その背景にある日本文化・社会に対する理解を深める。さらに、段落の要点理解から、文章全体の大意を把握し要約する力を養う。 This course is designed to help students improve their reading comprehension skills. Students will read a variety of texts to learn how to grasp content quickly and accurately. Students will also learn how to understand and summarize the main ideas of full texts by succinctly understanding their constituent paragraphs. In doing so, students will enhance their knowledge and understanding of Japanese culture and society.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 読解のスキルを身につける。 2. 文章構成、論理展開を把握し、推量、予測しながら読み進める力を養う。 3. 段落ごとに内容を理解し、文章全体の大意把握、要約ができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Quickly and accurately understand written texts. 2. Use predictive reading and other comprehension strategies to understand the structure and logical development of texts. 3. Summarize the main ideas of texts by understanding their constituent paragraphs.
日本語Ⅶ (読解 b)	1	この科目では、評論、論説文、小説など複雑な構造の長文を速読して、論旨を読み取り要約し、自分の意見を構築することを目指す。また、異なる視点から書かれた文章を読み比べるなど、文章をクリティカルに読む姿勢を身につける。 This course is designed to help students improve their reading comprehension of longer and more complicated texts. Students will learn how to quickly and effectively read critiques, editorials, novels and other such texts and succinctly summarize them. Students will also learn how to critically respond to and compare texts written from different viewpoints.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 読解のスキルを用いて、複雑な構造の長文の大意把握、要約ができる。 2. 評論、論説の読み方に習熟し、筆者の考え方、ものの見方をクリティカルに読み取り、自分の意見を述べることができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Use reading strategies to understand and succinctly summarize longer and more complicated texts. 2. Effectively read texts to identify perspectives and critically respond to them.
日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1	この科目では、大学の授業に参加するために必要な聴解力・口頭表現力を養う。ノートのとり方、講義の聞き方の練習を中心とし、自分の意見を正確に伝える力を伸ばす。 This course is designed to help students develop the listening and oral skills necessary for university classes in Japanese. Students will practice stating their opinions explicitly and learn various listening strategies and note-taking skills to understand and effectively engage in lectures.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 大学での講義を正確に聞き取ることができる。 2. 大学での講義をノートに正確にまとめることができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Effectively engage in university lectures. 2. Effectively take notes in university lectures.
日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1	この科目では、大学の講義に参加するために必要な聴解力・口頭表現能力を養う。自分の関心のあるテーマについて情報を収集し、論拠を提示しながら論理的に話す力を伸ばす。 This course is designed to help students develop the listening and oral skills necessary for university classes in Japanese. Students will learn how to research chosen themes and construct and defend arguments in conversation.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 発表に必要な分析能力、批判能力を身につける。 2. 論理的に話せる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Make presentations based on critical analysis. 2. Construct and defend arguments in conversation.
日本語Ⅵ (総合)	3	この科目では、論説文や雑誌・新聞記事など、専門性や時事性を含む文章を教材として、高度な語彙、表現、文法を学習するとともに、日本事情に関する理解を深める。また、分析的、批判的な読みをとおして、要点や論点を指摘したり、筆者の主張に反駁したりすることを学ぶ。 This course introduces students to advanced grammar, vocabulary, and expressions used in texts discussing specific fields and current affairs, such as editorials and newspaper and magazine articles. Students will also deepen their understanding of the situations in Japan and learn to identify the main points of an author's argument and also how to rebut these arguments through analytical and critical reading.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 専門性のあることがらについても、意見が述べられるようになる。 2. 専門性のある文章を読み書きできる能力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Discuss and express their opinions about specialized topics 2. Read specialized texts and write on specialized topics.
日本語Ⅵ (ライティング)	1	この科目では、引用や自らの調査などを含んだ論理的な文章を書くことを学ぶ。 In this course, students will learn how to write structured compositions with citations based on their research.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 与えられたトピックに関して、調査などにもとづいた、セクション構成を持つ比較的に長い文章(レポート)を書くことができるようになる。 Students who successfully complete this course will be able to write relatively long, structured compositions with citations based on their research.
日本語Ⅵ (聴解口頭)	2	この科目では、幅広い場面やテーマのまとまりのある会話、ニュースなどを聞き、話の流れや内容を理解する活動を行う。また、現代日本社会や時事問題などのテーマでディスカッションやスピーチを行い、より高い表現能力を養う。 This course introduces students to advanced verbal communication. Students will develop their oral and listening skills by learning to understand the content and flow of structured communications on a wide range of themes and news-related topics. Students will also discuss current affairs and topics such as modern Japanese society to improve their oral expression.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. さまざまなコミュニケーション・タスクを扱うことができる。 2. 場面によってスピーチ・シフトができるようになる。 3. 一般的話題や特定の関心分野についても会話に参加することができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Effectively manage a variety of communicative tasks. 2. Adapt their speech patterns as situationally appropriate. 3. Converse on general and specific topics of interest.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
日本語Ⅴ（総合）	5	この科目では、社会や文化など、多様なテーマの文章を教材として、その中で使用されている語彙、表現、文法などを学習するとともに、論理展開を予想しながら読むことを学ぶ。また、接続表現や機能表現などを含む、論理的でまとまりのある発話に必要な表現力を涵養する。 This course introduces students to advanced grammar, vocabulary, and expressions used in texts on various topics in Japanese culture and society. Students will also learn how to express more complex ideas using linking and functional expressions for structured oral communication.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 一般的なことがらについて幅広い会話ができ、論理的にまとまりのある発話ができるようになる。 2. 一般的なことがらについて、論理的でまとまりのある文章を理解する能力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Converse on a wide range of general topics and express their thoughts logically and coherently. 2. Understand structured texts on general topics.
日本語Ⅴ （ライティング）	1	この科目では、現代社会、文化、各自の専門分野など、幅広い話題について説得力のある文章を書く練習をする。 In this course, students will practice writing persuasively on a wide range of topics including modern society, culture and their specialized fields.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 抽象的な語や比較的平易な専門用語を文章の中に適切に用いることができるようになる。 2. さまざまな接続表現や文末表現を用いて、論理的な段落構成を踏まえた文章を書くことができる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Appropriately use abstract vocabulary and relatively simple technical terms in their writing. 2. Write with a logical paragraph structure using a variety of linking expressions and sentence-final expressions.
日本語Ⅳ（総合）	5	この科目では、中級前半に続き、論理的な文や文章の構成に必要な文法、表現、語彙などの学習をさらに進める。また、常体と敬体の使い分けを学び、常体の文章に慣れる。教材は日常的なテーマについて、身近なことから一般的な内容へ広がりのあるものを用いる。 This course introduces students to the grammar, vocabulary, and expressions necessary to understand structured texts at the intermediate level. Students will build upon the skills and knowledge of Japanese III (Comprehensive) to learn the difference between plain and polite forms and become familiar with the plain form as written in texts on everyday themes discussing both familiar topics and general content.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 一般的なことがらについて、簡単な会話ができるようになる。 2. 一般的なことがらについて、多少まとまりのある文章を理解する能力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Conduct simple conversations on general topics. 2. Understand moderately structured texts on general topics.
日本語Ⅳ （ライティング）	1	この科目では、一般的なことがらに関する文章を産出する練習を行う。 In this course, students will practice writing about general topics.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 一般的な話題について、フォーマルな文体でまとまった文章が書けるようになる。 2. 書式に則ってさまざまな用紙に記入することができるようになる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Write cohesively in a formal style about general topics. 2. Fill in various forms in accordance with the format.
日本語Ⅲ（総合）	5	この科目では、初級レベルで学習した基本的な文法をベースとして、日常会話を話題や場面に応じて適切に行うのに必要となる文型や語彙を学習する。待遇表現を含め、コミュニケーションを円滑にする話し言葉を学習する。また、複数段落の文章を読み、接続表現などに注意して大意を把握する。 This course introduces students to the grammar and vocabulary necessary to hold conversations in everyday situations and on everyday topics at the intermediate level. Students will build upon the skills and knowledge of Elementary Japanese to learn oral expressions for smooth conversation including honorifics. Students will also learn how to grasp the main ideas in texts of several paragraphs by understanding linking expressions and other grammatical structures.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 日常生活に必要な基本的な会話や、身近なテーマに関する簡単な叙述ができるようになる。 2. 身近なテーマに関する簡単な文章を理解する能力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Communicate in everyday situations on everyday topics at the intermediate level. 2. Read and understand longer simple texts on familiar topics.
日本語Ⅲ （ライティング）	1	この科目では、文の間の意味関係を意識した文章を産出する練習を行う。 In this course, students will practice writing while being conscious of the semantic relationships between sentences.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 接続表現を適切に使った段落単位の文章が書けるようになる。 2. 平易な話題について、説明や意見表明の文章が書けるようになる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Use appropriate linking expressions to write structured passages. 2. Elaborate on their opinion about simple topics.
日本語Ⅱ（総合）	5	この科目では、初級前半レベルに続き、身の回りのことなど、主として具体的に日常生活に関係が深く、場面に密着したことがらを描写するために必要な初歩的な文型や表現を学習し、「読」「書」「聴」「話」の四技能の向上を図るための練習を行う。初級文法の学習を終える。 Following on from the Level 1 course, in this course, students will learn the basic grammar and expressions necessary for describing situations closely related to everyday life, as well as practice and improve the four skills of listening, speaking, reading, and writing. Students will finish learning beginner-level grammar patterns.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. 初歩的な文法、語彙（1,500 語程度）を習得する。 2. ごく身近なテーマについて簡単な発話をしたり、聞いて理解する能力を身につける。 3. 平易な文や短い文章が読み書きできる能力を身につける。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Understand and use basic grammatical structures and vocabulary (approximately 1,500 words) 2. Comprehend and participate in straightforward conversations. 3. Read and write simple sentences and short passages.
日本語Ⅱ （ライティング）	1	この科目では、初歩的な漢字や語彙、初級文法を使って書く練習をする。 In this course, students will practice writing using basic kanji and vocabulary, as well as beginner-level grammar.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. レベルⅠで習得したものに加え、新たに漢字（200 字程度）を習得する。 2. 日常的な話題について、簡単な文章を書くことができるようになる。 Students who successfully complete this course will be able to: 1. Read and write approximately 200 kanji characters. 2. Write simple passages about everyday topics.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
日本語 I - 2 (総合)	3	この科目では、日本語の音声、平仮名、片仮名の学習から始め、次いで、教室や身の回りなど、日常生活に関係が深く、場面に密着したことがらを描写するのに必要な初歩的な文型や表現を学習し、「読」・「書」・「聴」・「話」の四技能の定着を図るための練習を繰り返し行う。 Starting from the Japanese sounds and hiragana and katakana characters, in this course, students will learn the basic grammar and expressions necessary for describing situation-based topics deeply related to everyday life, such as in the classroom and around them. They will also do drills to firmly solidify their proficiency in the four skills of listening, speaking, reading, and writing.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. ごく初歩的な文法、平仮名、片仮名、漢字 (150 字程度)、語彙 (800 語程度) を習得する。 2. 自身のことについて、限られた表現でごく簡単に話すことができるようになる。 3. 平易な短文の読み書きができる能力を身につける。 Students who successfully complete this course will: 1. learn very basic grammar, hiragana, katakana, kanji (about 150 characters) and vocabulary (about 800 words). 2. be able to speak simply about themselves using limited expressions. 3. gain the skills of reading and writing short and simple sentences.
日本語 I - 1 (総合)	3	この科目では、日本語の音声、平仮名、片仮名の学習から始め、次いで、教室や身の回りなど、日常生活に関係が深く、場面に密着したことがらを描写するのに必要な初歩的な文型や表現を学習し、「読」・「書」・「聴」・「話」の四技能の定着を図るための練習を繰り返し行う。 Starting from the Japanese sounds and hiragana and katakana characters, students in this class will learn the basic grammar and expressions necessary for describing situation-based topics deeply related to everyday life, such as in the classroom and around them. They will also do drills to firmly solidify their proficiency in the four skills of listening, speaking, reading, and writing.	この科目を修了した学生は、以下のことができるようになる。 1. ごく初歩的な文法、平仮名、片仮名、漢字 (50 字程度)、語彙 (400 語程度) を習得する。 2. 自身のことについて、限られた表現でごく簡単に話すことができるようになる。 3. 平易な短文の読み書きができる能力を身につける。 4. 教師の簡単な指示が理解できるようになる。 Students who complete this course will: 1. learn very basic grammar, hiragana, katakana, kanji (about 50 characters) and vocabulary (about 400 words). 2. be able to speak simply and in limited expressions about themselves. 3. gain the skill of reading and writing simple and short sentences. 4. be able to understand the instructor's simple instructions.
IR18-BC101 Intensive English I	1	IEIS は、アカデミック・スキルの授業や英語による専門授業の受講および交換留学の準備など、学生のさまざまなニーズに対応するために、一般的なアカデミック英語運用能力を伸ばすことを目標とする選択科目である。IEIS I は、英文読解と語彙に重点を置き、リーディング・スキルを用いて、アカデミックな分野のさまざまなジャンルの英文を読み解く。英語で行われる授業に対応できるように、長文のエッセイやテキストの章だけでなく、新聞記事などの短文などにも限られた時間内で速読する演習も行う。評価は、形成的評価を行う。 Intensive English for International Studies is an elective course intended to meet the various needs of students who must increase their command of English to take Academic Skills courses and core program courses carried out in English or to prepare for study abroad as exchange students. IEIS I focuses on building vocabulary and reading comprehension. Students will learn reading skills and read texts with a variety of genres in general academic fields. Students will also practice reading short texts such as newspaper articles as well as long ones within a limited time in order to cope with major program courses carried out in English. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments.	1. アカデミック語彙リストに基づき、必要な語彙をつける。 2. 限られ時間でさまざまなアカデミックな題材を読み、質問に答えることができる。 3. 1 と 2 を通して、英語で行われる専門の授業に対応できる英語運用能力を習得する。 1. Students will increase their vocabulary based on an academic vocabulary list. 2. Students will be able to read short texts on a variety of academic topics and answer questions to demonstrate their comprehension of these readings. 3. Students will acquire a high-level command of English necessary for them to be enrolled in English language courses offered by their majors.
IR18-BC102 Intensive English II	1	IEIS は、一般的なアカデミック英語運用能力を伸ばすことを目標とする。IEIS II は、特にリスニング・スキルやスピーキングスキルなどの口頭によるコミュニケーション・スキルに重点を置く。この科目では、標準テストについても念頭に置きつつ、国際関係に関するトピックを選択する。また、一対一の対面式のインタビューを行ったり、自分の将来や教育環境における経験について会話する能力を伸ばすこともこの科目の目標である。評価は形成的評価を行う。 Intensive English for International Studies is an elective course intended to meet the various needs of students who must increase their command of English to take Academic Skills courses and core program courses carried out in English or to prepare for study abroad as exchange students. IEIS II promotes communicative competence by preparing students to demonstrate their listening and speaking skills in approved standardized tests. Topics of interest within International Studies are incorporated into the syllabus, while maintaining a focus on chosen themes for test preparation. Course objectives include promotion of the ability to engage in face-to-face interview situations and to converse on topics such as describing your own life situations and goals, and the ability to understand conversations about everyday experiences and educational context situations. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は一対一のインタビューを行い、自分自身の生活や研究そして目標などのトピックについても会話することができる。 2. 学生は、日常生活や教育環境に関する会話を理解し、リスニングやスピーキングスキルの上達を自分で評価することができる。 3. 学生は国際関係関連のトピックについてディスカッションすることができる。 1. Students will be able to engage in face-to-face interview situations and to converse on topics such as describing their own lives and goals. 2. Students will be able to understand conversations about everyday experiences and educational context situations; and gain the ability to engage in effective self-monitoring and evaluation of one's own progress in listening and speaking skills. 3. Students will be able to discuss issues related to International Studies in class.
IR18-BC103 Intensive English III	1	IEIS は、一般的なアカデミック英語運用能力を伸ばすことを目標とする。IEIS III は、特にライティング・スキルと文法の習得に重点を置く。学生は、テキスト単位のマイクロなレベルのスキルと文単位のミクロなレベルのスキルをつなぎ合わせ、アカデミックなさまざまな文章を草稿し、リライトする。この科目では、優れた例を分析し、文献を比較・評価し、議論を支える資料を見つけ、ライティングを行う。標準テストに出題されるような問題演習も行う。評価は形成的評価を行う。 The aim of Intensive English III is to increase students' command of general academic English in the areas of writing and grammar. Students will gain practice and confidence in planning, drafting and revising a variety of academic genres combining macro-level skills on the textual level with micro-level skills on the sentence level. In class, students will analyze samples of good writing, plan their response to a given writing task and collaboratively develop texts that summarize pertinent information, compare and evaluate different sources, and support their arguments. Students will also gain practice with task types generally included in standardized exams. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は、国内外での研究、あるいは将来のキャリアにおいて直面する様々な種類のタスクに対して、正確にかつ適切に対応できるようになる。 2. 学生は、国際的なオーディエンスに合わせて文章を作成する、さらに文章を論理的に構成し、アカデミックな文章、およびフォーマルな文章に適用することができる。 3. 学生は、ミクロなレベルで、複雑な文法を用い、幅広い語彙を使用し、書式を整え、専門的な文書を作成することができる。 1. Students will be able to respond accurately and appropriately to a range of different writing tasks they may face during their studies and their future careers both domestically and abroad. 2. Students will be able to tailor their writing to an international audience, structure their writing logically and apply conventions of academic or formal writing. 3. On the micro-level, students will be able to use complex grammar to create flow, a broad range of vocabulary to add precision to their writing, and accurate punctuation and mechanics to enhance their professional image.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BC104 Intensive English IV	1	IEIS IV の目標は、IEIS I と同様に、一般的なアカデミック英語運用能力を伸ばすことである。この科目でも、特に語彙と読解に重点を置き、IEIS I で用いたアカデミック語彙リストの反復練習をしながら、さらにリーディングの資料からも語彙を増やす。また、previewing, skimming, scanningなどのリーディングのスキルを応用し、アカデミックな分野のさまざまな文章を読解する。環境問題や移民問題など、特に国際関係学分野において頻繁に取り上げられる論争を読む。リーディングのさまざまな種類のタスクが課された小テストを行い、理解力の向上を検証する。評価は形成的評価を行う。 The aim of IEIS IV is, similar to IEIS I, to increase students' command of general academic English in the areas of reading and vocabulary. In this course, students will review the Academic Vocabulary List and increase their vocabulary by learning synonyms of these listed words and reading various types of academic materials. With these reading skills such as previewing, skimming, and scanning, students will read and comprehend various controversial issues such as environmental issues and immigrant issues discussed very often in the field of international issues. Students will have task-based testings and examine their improvement in reading comprehension in terms of increasing vocabulary. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. Previewing, skimming, scanningなどのリーディング・スキルを用いて、英文テキストの大意、議論を組み立てる論理構造、議論を支える例や説明する文章などを理解し、認識できる。 2. 著者の意見だけでなく対立する意見をも認識することができる。 3. アカデミックな語彙を増やし、理解力を高めることができる。 1. Students will apply reading skills such as previewing, skimming, and scanning to a variety of academic materials and understand the gist of these materials, the structure of the arguments, and supporting sentences. 2. Students will be able to analyze texts from not only the author's point of view, but from opposing points of view as well. 3. Students will be able to increase their vocabulary and improve their comprehension of academic materials.
IR18-BC105 Intensive English V	1	IEIS V の目標は、IEIS II と同様に、集中的にコミュニケーションスキルとアカデミックスキルを習得することである。ノートの取り方やリスニング・スキルを学ぶ。具体的には、与えられたトピックについて自分の意見を表現する力、読んだものを理解する力、また講義を聞いてノートを取り、重要点やその根拠となる点を論理的に報告する力などを伸ばすことを目標とする。リスニング・スキルとスピーキング・スキルを伸ばすために不可欠な授業外の自己学習が広く求められる。評価は形成的評価を行う。 Like IEIS II, IEIS V helps student focus intensively on the communicative and academic skills involved in preparation for approved standardized tests. Note-taking skills are developed to solidify comprehension and to promote confidence in speaking. Students provide answers orally on key information from listening texts. Students synthesize information they have engaged with in reading and convey this information in their own words. The objectives include the ability to express opinions and report information about a given topic in clear, coherent sentences, as well as the ability to comprehend the main ideas, supports, and examples from academic course lectures and to take notes accordingly. Students will be made to understand that their own extensive self-study outside the classroom is essential for progress in listening and speaking skills. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は、与えられたトピックについて、明確にそして論理的に自分の意見を述べたり、情報を整理し、報告することができる。 2. 学生は、講義から重要な考えやその根拠となる理由や例などを理解し、ノートを取ることができる。 3. 学生は、習得したスキルを国際関係学の分野におけるさまざまな領域で応用することができる。 1. Students will have the ability to express opinions and report information about a given topic in clear, coherent sentences. 2. Students will have the ability to comprehend the main ideas, supports, and examples from academic course lectures and to take notes accordingly 3. Students will learn how to apply skills from this course in various fields of interest within International Studies.
IR18-BC106 Intensive English VI	1	IEIS VI の目標は、IEIS III と同様に、アカデミック英語運用能力を習得することであり、特にライティング・スキルと文法の習得に重点を置く。学生は、文章レベルからテキストレベルまで、優れた文章を書く基本知識を学ぶ。例えば、論理構造、主題と根拠、文脈に適切なストラテジーなどについて議論し、演習を行う。自由英作文や複合英作文、エッセイやグラフの書き方など、標準テストなどでも問われるさまざまなジャンルのライティングを演習する。評価は形成的評価を行う。 The aim of IEIS VI, similar to IEIS III, is to increase students' command of general academic English in the areas of writing and grammar. Students will gain practice and confidence in manipulating the basic building blocks of successful writing at the sentence, paragraph and textual level. In class, students will study argument structure, thesis and support, discuss writing strategies appropriate to their context and analyze common errors occurring in their work. Students will also gain practice with a variety of test-related genres such as independent vs. integrated writing, descriptions of graphs and tables, as well as opinion essays.	1. 学生は、明確な論理構造を有し、一貫性のある議論を組み立て、文法や語彙といったミクロなレベルのライティング・スキルを習得できる。 2. 学生は、ライティングのタスクを分析し、適切なストラテジーを選択することができる。また、学生間で査読し、自己評価を行い、マクロとミクロの両方のレベルでより良い文章を書くことができる。 3. 学生は、読み手の期待、書く目的および身近にある資料を基に、文書を作成することができる。 1. Students will be able to produce a text that follows a clear argument structure, shows unity, development and coherence in paragraphs and demonstrates a superior level of mastery on the micro-level of grammar and vocabulary. 2. Students will be able to analyze a writing task, choose appropriate writing strategies to accomplish the task, and employ peer and self-evaluation to improve their product in the process, both on the macro and on the micro-level. 3. Students will be able to adapt their writing based on the expectations of the audience, the purpose of their writing, and the resources at hand to accomplish the task.
IR18-BD211 フランス語 アドバンスト I	1	この科目では、政治・社会・文化などのフランスやフランス語圏に関する問題を取り扱う。この科目では、講義とグループワークを組み合わせ、フランス語で書かれている資料を用いて、学生の読解の進化を図りながら、フランスやフランス語圏の政治・社会・文化を巡って討論を行うことによって学生のコミュニケーション技能の伸長も図る。この科目を通じて、現代フランスやフランス語圏の事情について、フランス語で理解し、検討できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代フランスやフランス語圏の政治・社会・文化について知識を身につけることができる。 2. 現代フランスやフランス語圏における事情を、フランス語で理解し、コミュニケーションや討論を行うことができる。
IR18-BD212 フランス語 アドバンスト II	1	この科目では、フランス人の習慣や日常生活に関する問題を取り扱う。この科目では、講義とグループワークを組み合わせ、身近なシチュエーションを想定した教材を用いて、学生のリーディング技能とリスニング技能の伸長を図る一方、グループワークによって学生のコミュニケーション技能とライティング技能の伸長も図る。この科目を通じて、フランスにおける日常生活について理解し、口頭や文章で表現できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. フランス人の習慣や日常生活について知識を身につけることができる。 2. 日常生活について、フランス語で口頭や文章でコミュニケーションを行うことができる。
IR18-BD221 スペイン語 アドバンスト I	1	この科目は、スペイン語の初修レベルを習得した学生を対象として、さらにスペイン語の4技能（リーディング、ライティング、リスニングおよびライティング）を取り上げる。この科目では、学生のニーズや関心に合わせて、スペイン語の読み書きや会話に関する様々な素材を用いる。この科目を通じて、学生が平易な文章の読み書きや会話ができるレベルから、実際にスペイン語による情報の入手および発信ができる中級レベルに達することをめざす。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. スペイン語の簡単な日常会話ができ、基本的な文法を理解することができる。 2. スペイン語の語彙を増やし、平易なスペイン語による表現を可能にする。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BD222 スペイン語 アドバンストⅡ	1	この科目は、スペイン語の初修レベルを習得した学生が、これまで身につけたスペイン語の能力を基礎にして、スペイン語アドバンストⅠとは異なる分野で、より実践的なスペイン語力を身につけるクラスである。この科目では、スペイン語による素材を多角的に検討する。この科目を通じて、国際社会における異文化間コミュニケーション能力を育成し、スペイン語を使うことに慣れ、スペイン語を活用する能力を高める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日常生活に困らないレベルのスペイン語の読解力や会話力を身につけることができる。 2. スペイン語を通じた異文化コミュニケーション能力を養うことができる。
IR18-BD231 ドイツ語 アドバンストⅠ	1	この科目は、ドイツ語の初修レベルを習得した学生を対象として、さらにドイツ語の4技能（リーディング、ライティング、リスニングおよびライティング）を取り上げる。この科目では、学生の関心やニーズに合わせて、ドイツ語の読み書きや会話に関する様々な素材を用いる。この科目を通じて、学生が平易な文章の読み書きや会話ができるレベルから、実際にドイツ語による情報の入手および発信ができる中級レベルに達することをめざす。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ドイツ語の簡単な日常会話ができ、基本的な文法を理解することができる。 2. ドイツ語の語彙を増やし、平易なドイツ語による表現を可能にする。
IR18-BD232 ドイツ語 アドバンストⅡ	1	この科目は、ドイツ語の初修レベルを習得した学生が、これまで身につけたドイツ語の能力を基礎にして、ドイツ語アドバンストⅠとは異なる分野で、より実践的なドイツ語力を身につけるクラスである。この科目では、ドイツ語による素材を多角的に検討する。この科目を通じて、国際社会における異文化間コミュニケーション能力を育成し、ドイツ語を使うことに慣れ、ドイツ語を活用する能力を高める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日常生活に困らないレベルのドイツ語の読解力や会話力を身につける。 2. ドイツ語を通じた異文化コミュニケーション能力を養うことができる。
IR18-BD241 中国語 アドバンストⅠ	1	この科目では、中国語検定試験4級～3級相当、HSK（中国政府主催の中国語能力検定試験）3級相当の資格取得のための指導・訓練を行う。この科目では、過去問などを用いて、リスニング・筆記部分のポイントと受験テクニックなどを説明し、弱点克服・能力強化を図る練習を重ねる。この科目を通じて、受験対策のみならず、中国語能力の量的・質的な向上を図る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 中国語検定4級、またはHSK3級に相当する資格の取得のレベルに到達する。 2. 更に上のレベルを目指す意欲・持続力を身に付ける。
IR18-BD242 中国語 アドバンストⅡ	1	この科目では、中国語検定試験3級～2級相当、HSK（中国政府主催の中国語能力検定試験）4～5級相当の資格取得のための指導・訓練を行う。この科目では、過去問などを用いて、リスニング・筆記部分のポイントと受験テクニックなどを説明し、弱点克服・能力強化を図る練習を重ねる。この科目を通じて、受験対策のみならず、中国語能力の量的・質的な向上を図る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 中国語検定3級、またはHSK4級に相当する資格の取得のレベルに到達する。 2. 更に上のレベルを目指す意欲・持続力を身に付ける。
IR18-BD251 朝鮮語 アドバンストⅠ	1	この科目は、韓国社会が直面するさまざまな問題を取り扱う。この科目では、講義とグループワークを組み合わせ、少子高齢化や若者の就職難、厳しい受験競争といった韓国で生じているシチュエーションを教材として用いて、学生の朝鮮語のリーディング技能とリスニング技能の伸長を図る一方、グループワークによって学生のコミュニケーション技能とライティング技能の伸長も図る。この科目を通じて、韓国社会が直面する問題を理解し、口頭や文章で表現できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ハングル検定3級合格を目指す。 2. 韓国社会が直面するさまざまな問題について理解できる。 3. 韓国社会が直面するさまざまな問題について口頭や文章でコミュニケーションすることが出来る。
IR18-BD252 朝鮮語 アドバンストⅡ	1	この科目は、文献・資料、インターネット、動画などさまざまな媒体を通じて韓国人の日常生活や伝統文化を取り扱う。この講義では、講義とグループワークを組み合わせ、身近なシチュエーションを想定した教材を用いて、学生のリーディング技能とリスニング技能の伸長を図る一方、グループワークによって学生のコミュニケーション技能とライティング技能の伸長も図る。この科目を通じて、韓国社会が直面する問題を理解し、口頭や文章で表現できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ハングル検定3級合格を目指す。 2. 韓国人の日常生活や伝統文化について理解できる。 3. 韓国人の日常生活や伝統文化について口頭や文章でコミュニケーションすることが出来る。
IR18-BD261 ロシア語Ⅰ	1	この科目は、旧ソ連圏で用いられ、国連の公用語の一つであるロシア語の基礎を取り扱う。この科目では、履修生のニーズと関心に合わせて、ロシア語の基礎的な文法および基本文型を学びながら、初歩的なロシア語の読み書きや日常会話のための基礎知識を学ぶ。この科目を通じて、ロシア語特有のキリル文字について理解し、それぞれの文字を正しく発音できることをめざす。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. キリル文字を見て正しく発音できるようになる。 2. ロシア語の基礎的な文法を身につけ、あいさつや簡単な読み書き、会話ができるようになる。
IR18-BD262 ロシア語Ⅱ	1	この科目は、ロシア語Ⅰのレベルを習得した学生を対象として、基礎的なレベルへのステップアップをめざす。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、ロシア語による教材を用いながら、ロシア語の重要文法および文型の学習を進める。この科目を通じて、ロシア語でコミュニケーションを取るために使える会話のパターンをふやし、運用能力を伸ばすと共にロシア語の語彙力を高めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 基本的なロシア語の語彙力をつける。 2. ロシア語の基礎的な文法を身につける。
IR18-BD361 ロシア語Ⅲ	1	この科目は、ロシア語Ⅱのレベルを習得した学生を対象として、より一層のロシア語活用能力の向上をめざすクラスである。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、ロシア語の初級文法について理解すると共に、ロシア語による簡単な文章の読解力と日常生活に必要な会話力を発展させる。この科目を通じて、ロシア語圏の文化や生活についても理解を深め、多言語による異文化理解の重要性を認識できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. ロシア語の基本的な表現について理解することができる。 2. ロシア語圏の文化や生活について理解を深めることができる。
IR18-BD362 ロシア語Ⅳ	1	この科目は、ロシア語Ⅲのレベルを習得した学生を対象として、さらに高度なロシア語のコミュニケーション能力の向上をめざす本学でのロシア語の最上級クラスである。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、ロシア語を用いた様々な教材を活用して、ロシア語の定型句や会話パターンの定着を図る。この科目を通じて、文献講読に必要な程度のロシア語の文法を理解し、コミュニケーションをはかることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 頻度の高い会話パターンを使ってロシア語会話できるようになる。 2. 辞書を使って中級程度のロシア語の記事や文献を読めるようになる。
IR18-BD271 アラビア語Ⅰ	1	この科目は、アラブ世界の公用語であると同時に、国連の公用語の一つであるアラビア語の基礎を取り扱う。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、アラビア語の基本的な文法や文型を学びながら、簡単な読み書きや会話のための基礎知識を学ぶ。この科目を通じて、アラビア語のアルファベットに相当するアラビア文字について学習し、それぞれの文字の正しい発音を身につける。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. アラビア文字を見て正しく発音できるようになる。 2. アラビア語の基礎的な文法を身につけ、あいさつや簡単な読み書きができるようになる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-BD272 アラビア語Ⅱ	1	この科目は、アラビア語Ⅰのレベルを習得した学生を対象として、基礎的なレベルへのステップアップをめざす。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、アラビア語の基本的な文型の学習を進めながら基礎的な文法の習得をめざすとともに、日常生活の中で必要な基礎的な語彙を増やしていく。この科目を通じて、基礎的なアラビア語による文章の文意を理解し、簡単な会話表現を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. 基本的なアラビア語の語彙力をつける。 2. アラビア語の基礎的な文法を身につける。
IR18-BD371 アラビア語Ⅲ	1	この科目は、アラビア語Ⅱのレベルを習得した学生を対象として、より一層のアラビア語活用能力の向上をめざすクラスである。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、アラビア語の初級文法について理解するとともに、口語表現を中心にアラビア語によるコミュニケーションを体験する。この科目を通じて、アラビア語圏の文化や生活についても理解を深め、多言語による異文化理解の重要性を認識できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. アラビア語の基本的な表現について理解することができる。 2. アラビア語圏の文化や生活について理解を深めることができる。
IR18-BD372 アラビア語Ⅳ	1	この科目は、アラビア語Ⅲのレベルを習得した学生を対象として、さらに高度なアラビア語の運用能力の向上をめざす本学でのアラビア語の最上級クラスである。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、アラビア語を用いた様々な教材を活用して、アラビア語の定型句や会話パターンの定着を図る。この科目を通じて、簡単な日常会話に必要なレベルのアラビア語の文法が理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日常生活に必要なアラビア語の会話能力を身につける。 2. アラビア語の基本的な文法事項を理解する。
IR18-BD201 特殊講義 (選択外国語)	1	この科目は、原則として初修外国語（第2外国語）の初級レベルの能力を習得していることを前提に、日常的な出来事の表現やコミュニケーションができ、平易な表現の文章読解も行える中級レベルの能力を獲得することを目的とする。初修外国語として開講されていない語種については初級的内容も併せて習得する。この科目は、このような選択外国語の趣旨に沿って、より発展的な内容や語種についての習得を行う。この科目は標準的な中級テキストを用いて行われる（初修外国語として開講されていない場合は初級テキストも併せて用いることがある）。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. 日常的な出来事やコミュニケーションができ、平易な表現の文章読解も行える中級レベルの初修外国語（第2外国語）能力を身につける。 2. 初修外国語（第2外国語）の中級レベルの語学能力試験に合格しうる能力を身につける。
IR18-CA201 Bridge to International Studies I (Order & Peace / Administration)	2	BIS は、1 年次の英語の言語習得を目指す科目 (EIS) と 3 年次の英語で行われる専門科目を繋ぐ科目である。国際秩序平和および国際公務の主要概念を学びながら、英語の四技能を修得することを目標とする。BIS (IOP/IA) では、学生が主体となる学びを行い、グループワーク、プレゼンテーション、ディベートおよびクラス全体のディスカッションなどを行う。ノートの取り方からエッセイの作成まで、学生のレベルに合わせてさまざまなライティングも行う。評価は平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 Bridge to International Studies is designed to be a "bridge" between language-acquisition-oriented learning in the 1st year (English for International Studies) and "regular" content courses carried out in English from the 3rd year. BIS I (IOP/IA) course is a content-based course on International Order and Peace/International Administration and promotes the acquisition of all four skills whilst exploring key concepts in IOP/IA program course. Instructors employ a student-centered methodology that facilitates active, engaged learning. Class activities include: group work and panel discussion; presentations, debates, and whole class discussion; clear expression of ideas and reactions through the writing of essays, journal entries, quiz answers, summaries, and other forms of writing such as note-taking. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は国際秩序平和および国際公務に関する主要概念について英語で理解し、要約することができる。 2. 学生は、国際秩序平和および国際公務について英語で話し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行い、質疑応答をすることができる。 3. 学生は授業で得た知識を用い、国際秩序平和および国際公務と現在世界で起こっている出来事を結びつけることができる。 1. Students will be able to understand the main ideas and most details about international cooperation and development from lectures and student contributions during whole-class and group discussion and summarize them in English. 2. Students will be able to speak confidently in class during presentations and group discussions. They will be able to ask questions of presenters and engage in classroom dialogue and conversations about International Order and Peace, and International Administration. 3. Students will be able to apply and connect the knowledge they acquire in class to current world events.
IR18-CA202 Bridge to International Studies I (Cooperation & Development)	2	BIS は、1 年次の英語の言語習得を目指す科目 (EIS) と 3 年次の英語で行われる専門科目を繋ぐ科目である。国際協力開発の主要概念を学びながら、英語の四技能を修得することを目標とする。BIS I (ICD) では、学生が主体となる学びを行い、グループワーク、プレゼンテーション、ディベートおよびクラス全体のディスカッションなどを行う。ノートの取り方からエッセイの作成まで、学生のレベルに合わせてさまざまなライティングも行う。評価は平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 Bridge to International Studies course (BIS) is designed to be a "bridge" between language-acquisition-oriented learning in the 1st year (English for International Studies) and "regular" content courses carried out in English from the 3rd year. BIS I (ICD) course is a content-based course on International Cooperation and Development (ICD) and promotes the acquisition of all four skills whilst exploring key concepts in ICD program course. This course employs a student-centered methodology that facilitates active, engaged learning. Class activities include: group work and panel discussion; presentations, debates, and whole class discussion; clear expression of ideas and reactions through the writing of essays, quiz answers, summaries, and other forms of writing such as note-taking. Formative evaluation is made through class participation such as small quizzes and assignments.	1. 学生は国際協力開発に関する主要概念について英語で理解し、要約することができる。 2. 学生は、国際協力開発について英語で話し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行い、質疑応答をすることができる。 3. 学生は授業で得た知識を用い、国際協力開発の分野と現在世界で起こっている出来事を結びつけることができる。 1. Students will be able to understand the main ideas and most details about international cooperation and development from lectures and student contributions during whole-class and group discussion and summarize them in English. 2. Students will be able to speak confidently in class during presentations and group discussions. They will be able to ask questions of presenters and engage in classroom dialogue and conversations about international cooperation and development. 3. Students will be able to apply and connect the knowledge they acquire in class to current world events.
IR18-CA203 Bridge to International Studies I (Cultural Understanding)	2	BIS は、1 年次の英語の言語習得を目指す科目 (EIS) と 3 年次の英語で行われる専門科目を繋ぐ科目である。国際文化理解に関する主要概念を学びながら、英語の四技能を修得することを目標とする。BIS I (ICU) は、社会生活に関する既存概念を批判的に見、人間関係を見直し再構築することを学ぶ。この科目は、講義とグループワークの組み合わせで、学生主体が主体となる学びを行い、パネルディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどを行う。ノートの取り方からエッセイの作成までさまざまなライティングを行う。評価は、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 Bridge to International Studies course (BIS) is designed to be a "bridge" between language-acquisition-oriented learning in the 1st year (English for International Studies) and "regular" content courses carried out in English in the 3rd year. BIS I (ICU) course is a content-based course on International Cultural Understanding and promotes the acquisition of all four skills whilst exploring key concepts in ICU program course. Students are challenged to problematize "common sense" assumptions about social life and ideal methods to promote solidarity in human history. Class activities include: group work and panel discussion; presentations, debates, and whole class discussion; clear expression of ideas and reactions through the writing of essays, journal entries, quiz answers, summaries, and other forms of writing such as note-taking. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は国際文化理解に関する主要概念について英語で理解し、要約することができる。 2. 学生は、国際文化理解について英語で話し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行い、質疑応答をすることができる。 3. 学生は授業で得た知識を用い、国際文化理解の分野と現在世界で起こっている出来事を結びつけることができる。 1. Students will be able to understand the main ideas and most details about international cultural understanding from lectures and student contributions during whole-class and group discussion and summarize them in English. 2. Students will be able to speak about these ideas confidently in class during presentations and group discussions. They will be able to ask questions of presenters and engage in classroom dialogue and conversations about these ideas and details. 3. Students will be able to apply and connect the knowledge they acquire in class to current world events.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-CA204 Bridge to International Studies II (Order & Peace / Administration)	2	BIS II(IOP/IA)は、BIS I(IOP/IA)において国際秩序平和および国際公務について得られた知見を深めるコンテンツベースの発展科目であり、同時に英語言語の四技能をさらに伸ばすことを目標とする。この科目では、特にグローバル社会において経済問題を秩序平和および国際公務へと関連づけることに重点を置く。専門用語を学び、主要な概念を応用し、国際秩序平和および国際公務に関する問題を深く掘り下げる。また、ディベートやディスカッションを通して、批判的な視点で考え、そうした考えや意見を英語で述べ、文章にまとめる力を養う。評価は、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 BIS II (IOP/IA) builds on the work of BIS I (IOP/IA) and further deepens the understanding and knowledge acquired in BIS I. This course focuses on real world applications connecting economic issues to peace issues in global society. Course content includes the use of specialized vocabularies and theories regarding the roots of conflict and its current manifestations. Students explore key concepts and insights from International Order and Peace Studies and International Administration. Students are given opportunities to reflect deeply on issues of international order and Peace and International Administration to express critically formed opinions in debate and discussion. Course activities may include mini-lectures, debates, group-work, panel discussions, and simulation activities that allow students to understand complex motivations from diverse stakeholders in real world conflict situations. Formative evaluation is made through class participation such as small quizzes and assignments.	1. 学生は、国際秩序平和および国際公務関連分野の資料と方法を英語で理解し、自己の関心や研究に応用することができる。 2. 学生は、平和、安全保障、開発および紛争の変容などの相互関係についての理解を通して、英語で政府や NGO の政策を評価することができる。 3. 学生は、政府や NGO の政策を英語で批判することができる。 4. 学生は、1,2,3 を通してリサーチ・クエスチョンを組み立て、それについて調査し、調査結果を英語で文章にまとめることができる。 1. Students will understand the academic material and methods from relevant disciplines and apply them to their own research interests and projects in English. 2. Students will be able to evaluate policies through an appreciation of the links between peace, security, development, and global conflict transformation. 3. Students will be able to critique the policies of government agencies and NGOs in terms of commitment to peace. 4. Students will be able to form a research question, investigate it, and write coherent texts to report on their findings and express their positions on key topics.
IR18-CA205 Bridge to International Studies II (Cooperation & Development)	2	BIS II(ICD)は、BIS I(ICD)において国際協力開発について得られた知見を深めるコンテンツベースの発展科目であり、同時に英語言語の四技能をさらに伸ばすことを目標とする。この科目では、特にグローバル社会において国際協力を開発という視点から、経済と国際社会とを関連させることに重点を置く。国際協力開発の専門用語を学び、主要な概念を応用し、国際問題を深く掘り下げる。また、ディベートやディスカッションを通して、批判的な視点で考え、そうした考えや意見を英語で述べ、文章にまとめる力を養う。評価は、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 BIS II (ICD) builds on the work of BIS I (ICD) and develop understanding the knowledge acquired in BIS I (ICD), while developing four skills of English language. This course focuses on connecting issues of global economics and international society through the lens of Development Studies and related disciplines. Teaching methodologies within an integrated four-skills approach include debate and discussion, group project work, mini-lectures, panel discussions and simulation activities. Students will be able to identify and summarize the key issues of International Cooperation and Development and use this knowledge for further education. Students are given opportunities to reflect deeply on issues of international development to express critically formed opinions in debate and discussion. Evaluation is made thorough class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は、英語で国際協力開発に関する資料と方法を理解し、自己の関心や研究に応用することができる。 2. 学生は、英語で批判的に資料を読み、国際文化理解に関する知見を深め、多角的・多面的な視点から内容を判断できる。 3. 学生は1,2を通して、英語でリサーチ・クエスチョンを組み立て、調査し、調査結果を英語で文章にまとめることができる。 1. Students will understand the academic material and methods from relevant disciplines and apply them to their own research interests and projects in English. 2. Students will be able to read with a critical attitude that evaluates content from multiple points of view in English. 3. Students will be able to form a research question, investigate it, and write coherent texts to report on their findings in English.
IR18-CA206 Bridge to International Studies II (Cultural Understanding)	2	BIS II(ICU)は、BIS I(ICU)において国際文化理解について得られた知見を深めるコンテンツベースの発展科目であり、同時に英語言語の四技能をさらに伸ばすことを目標とする。この科目では、特にグローバルな文化理解と国際社会を結ぶ現実の問題に重点を置く。文化理解に関する専門用語を学び、主要な概念を応用し、国際文化理解に関する問題を深く掘り下げる。また、ディベートやディスカッションを通して、批判的な視点で考え、そうした考えや意見を英語で述べ、文章にまとめる力を養う。評価は、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 BIS II (ICU) builds on the work of BIS I (ICU) and further deepens the understanding and knowledge acquired in BIS I (ICU), while developing four skills of English language. This course focuses on the present issues to connect global intercultural communication and international society. Students will be able to identify and summarize the key issues of international and intercultural understanding. Students are given opportunities to reflect deeply on issues of international and intercultural understanding to express critically formed opinions in debate and discussion. Course activities may include mini-lectures, debates, group-work, panel discussions, and simulation activities that allow students to understand complex motivations from diverse stakeholders in international society. Formative evaluation is made through class participation such as small quizzes and assignments.	1. 学生は、英語で国際文化理解に関する資料と方法を理解し、自己の関心や研究に応用することができる。 2. 学生は、英語で批判的に資料を読み、国際文化理解に関する知見を深め、多角的・多面的な視点から内容を判断することができる。 3. 学生は1,2を通して、英語でリサーチ・クエスチョンを組み立て、調査し、調査結果を英語で文章にまとめることができる。 1. Students will understand the academic material and methods from relevant disciplines and apply them to their own research interests and projects in English. 2. Students will be able to read with a critical thinking attitude that evaluates content from multiple points of view in English. 3. Students will be able to form a research question, investigate it, and write coherent texts to report on their findings in English.
IR18-CA207 Bridge to International Studies III	2	BIS IIIは、2年次の第2学期においてアカデミックな英語運用能力をさらに高めるとともに、国際関係学の4つの専門プログラムの中のテーマに関する知識をさらに深める選択科目である。第1学期(BIS I・II)に習得したスキルを用いて講義を聞き、文献のリーディングを行い、課題を解き、科目のテーマに関連したプロジェクトを進める。この科目では、学生はスタディガイドに基づく資料を分析し、コメントを行う。リーディングとリスニングを通して専門の語彙を増やす。論文を草稿し、リライトすることによってライティング・スキルを伸ばす。評価は、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 This elective second-year course (BIS III) aims at developing students' in-depth knowledge of a specialized topic in any of the four content areas. Building on the skills acquired in the previous semester, students will follow academic lectures and do independent reading, discuss the weekly assignments and develop their own research project related to the course theme. In class, students will analyze and comment on the weekly material based on study guides and student-generated questions, develop discipline-specific vocabulary and expressions through close reading and discrete listening, and enhance their academic writing by planning, drafting and revising their research paper over the course of the semester. Formative evaluation is made through class participation including small quizzes and assignments.	1. 学生は科目のテーマの理解を深め、選択した分野での現在の理論を分析および評価することができる。 2. 学生は講義を聞き、関連する資料を読んで理解することができ、その中から重要な情報や概念を取り上げ、応用することができる。 3. 学生は、科目のテーマについて口頭で意見を述べ、授業に関連して行ったリーディングや個人の研究プロジェクトについて文章にまとめることができる。 1. Students will develop an in-depth understanding of the topic of the course and be able to evaluate its implications for current theory and practice in that area. 2. Students will be able to follow academic lectures and comprehend academic readings related to the topic and extract information, concepts and language for later use. 3. Students will be able to express their opinions on the topic verbally and in writing by making reference to class readings and/or independent research.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-CA301 Bridge to International Studies IV	2	BIS IV は、3 年次・4 年次に選択する科目であり、最初の 2 年間で習得したコンテンツの理解とアカデミックな英語運用能力を強化することを目標とする。学生は 4 つの専門プログラムの中で 1 つの専門的なテーマについて多角的な視点からさらに理解を深める。学生は、プレゼンテーションやワークシートを準備し、協働学習を行い、学生間の評価も行う。この科目ではコンテンツに重点を置きつつ、ディスカッション・スキルやライティングスキルの向上を図る。評価は、平常の授業参加と課題や小テストから測る形成的評価を行う。 This upper-level theme-based elective course for juniors and seniors (BIS IV) aims at solidifying content and language skills acquired in the first two years. Students will explore one specific topic within the four content areas from a variety of angles and evaluate its relevance for current theory, policy and practice. Given their upper-level standing, students will be expected to contribute to class by preparing short presentations and worksheets and engaging in a series of collaborative learning activities and peer evaluation cycles. While the focus of this class is on content, both discussion skills and writing skills will be integrated into the classroom. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生はさまざまなアカデミックな資料やアカデミックではないが科目のテーマおよび各自のリサーチプロジェクトに関連するさまざまな資料を理解し、評価することができる。 2. 学生は、積極的にアカデミックな議論に参加し、また議論をリードし、ピア学習を行う。 3. 学生はテーマに関連する専門用語、概念マッピングのスキル、スピーキングやライティングにおいて自分の考えを表現するアカデミックなスタイルのコミュニケーション戦略を習得する。 1. Students will be able to comprehend and evaluate a wide range of academic and non-academic materials related to the topic of the class and their own research projects. 2. Students will be able to actively participate in academic discourse by preparing and leading class activities and engaging in peer learning. 3. Students will develop topic-relevant terminology, concept-mapping skills and communicative strategies to express their thoughts in speaking and writing in an academic manner.
IR18-CA302 Bridge to International Studies V	2	BIS V は、BIS IV と同様に、3 年次・4 年次に選択する科目であり、最初の 2 年間で習得したコンテンツの理解とアカデミック英語運用能力を強化することを目標とする。講義、小グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、学生は 4 つの専門プログラムの中で 1 つの専門的なテーマについて多角的な視点からさらに理解を深め、現代社会への影響を分析する。さらに、学生は、これまでのコースワークから各自リーディングを行い、それぞれのプロジェクトを進める。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 This upper-level theme-based elective course for juniors and seniors (BIS V), similar to BIS IV, aims at solidifying content and language skills acquired in the first two years. Students will explore one current topic within the four content areas from multiple perspectives and analyze its impact on contemporary society. Given their upper-level standing, students will be expected to draw from previous coursework, independent reading and concurrent international developments for their individual projects. Class activities may include lectures, small group discussions, student presentations or short writing-focused tasks. While the focus of this class is on content, students will also develop their accuracy, fluency and complexity in oral and written communication. Formative evaluation is made through class participation, including small quizzes and assignments.	1. 学生は、科目のテーマに関連する現在の課題を多角的な視点から分析・評価することができる。 2. 学生は、分析した資料に他のさまざまな資料を加えてまとめ、文章で説得力のある議論を提示することができる。 3. 学生は、科目のテーマに関する深めた理解を口頭で表現し、課題の複雑な点について正確にかつ流暢にそれを提示し、クラスディスカッションに貢献することができる。 1. Students will be able to analyze and evaluate current issues related to the class theme from multiple perspectives and present a convincing rationale for each standpoint. 2. Students will be able to integrate readings and other materials from various sources to illustrate the argument they are putting forth. 3. Students will be able to demonstrate their understanding of the issue and contribute to class discussion in an accurate and fluent manner that corresponds to the complexity of the issue.
IR18-CB101 Academic Skills I	4	アカデミック・スキル I の目標は、リーディング・スキルとクリティカルシンキング・スキルを習得する一方で、国際関係学の分野の理論、歴史的展開、および現在の問題について学ぶことである。この科目では、学生は課題の資料を分析し、内容、論理構造、事実と意見、含蓄された意味や矛盾点を検討する。また、対立する考え方を比較し、根拠のある自己の意見を表す。グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベートをおよび短いエッセイを作成する。学生の思考力、分析力、そして多様性に対する感性を伸ばすことに重点を置く。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of Academic Skills I is to familiarize students with theories, historical developments and current issues in the field of International Relations while developing their reading and critical thinking skills. In class, students will analyze and evaluate assigned readings for content, structure, facts and opinion, language use, implied meaning and contradictions, compare opposing viewpoints and express their own standpoint supported by evidence from the text or other relevant outside sources. Class activities may include group discussions, oral presentations, formal debates as well as units on rhetoric, grammar refresher spotlights and short response papers. The focus of this course is on developing students' conceptual background, power of analysis, and sense of diversity. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. 学生は、国際関係学関連分野の文献を批判的に読み、文化的に多様な背景に照らして合わせて適切に解釈し、読んだ資料から得た情報を、その後の課題や研究、さらに将来仕事に関するタスクに応用できるような知識基盤に組み込むことができる。 2. 学生は、読んだものに対して話したり、文章を書いたりして応答することができる。つまり、適切な言葉で、問題点や重要な点について言及し、国際関係学の分野における理論、歴史、また、現在起こっている出来事に関連づけて、読み物に対する深い理解を示すことができる。 3. 学生は、テキスト、パラグラフ、および文章レベルの幅広いリーディング・ストラテジーを応用し、統語論的および意味論的な手がかりを用いて、ローカルなそしてグローバルな理解に役立てることができる。 1. Students will be able to read academic and professional literature in the field of International Relations from a critical perspective, interpret it appropriately against a multicultural backdrop, and integrate information gleaned from the reading into their knowledge base to be used in subsequent assignments, further study or work-related tasks. 2. Students will be able to respond to readings in speaking and writing, making reference to specific questions, issues or points, using appropriate terminology and demonstrating in-depth understanding of the reading in relation to its significance for theories, history and/or current events in the field of International Relations. 3. Students will be able to apply a range of reading strategies on the textual, paragraph and sentence level, use syntactic and semantic cues to aid in local and global understanding, and employ cross-referencing to relate the text to its environment

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-CB102 Academic Skills II	4	アカデミックスキルⅡの目標は、クリティカル・シンキング、IT を含むリサーチ・スキルといった他のスキルとともに、ライティング・スキルを習得することである。学生は、国際関係学の論争を検討し、重要な問題を認識し、論理的な議論を用いてそうした問題に言及する。また、アカデミックなライティングに慣れ、語彙を増やし、複雑な文法を駆使する。この科目では、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行い、さらにエッセイを書く。また、パラフレイズ、引用と参照文献を含むアカデミック・スキルを用いた練習も行う。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of Academic Skills II is to develop students' academic writing competence together with related skills such as critical thinking, autonomous learning, research and referencing, team work and IT skills. Students will examine contentious issues in International Relations, identify key questions and construct well-supported, logically sequenced arguments to address these questions. They will familiarize themselves with conventions of academic writing, expand their academic vocabulary and increase their control over complex grammar. Class activities may include group discussions and oral presentations, sentence, paragraph and essay-level writing, as well as academic skills training such as paraphrasing, citing and referencing. The focus of this course is on developing students' research skills, power of argument and support, written expression, and awareness of writing conventions. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. 学生は、ローカル、そしてグローバルな影響を視野に入れ、法、政治、および経済における幅広い問題について分析・比較・判断し、さまざまな関係者の視点から異なる考え方について議論することができる。 2. 学生は、APA スタイルを用いて、関連あるトピックについてリサーチ・エッセイや論文を草稿し、リライトしたり、口頭で調査結果を発表し、他の学生からフィード・バックを得ることができる。 3. 学生は、上級レベルの英語運用能力を有し、個人学習もグループ・ワークにおいても自信を持って行い、文化多様性を認識して対応し、専門講義、留学、そして将来の仕事にも応用できるスキルを習得することができる。 1. Students will be able to analyze, compare and evaluate a range of current issues in law, politics and economics with a view to their local, regional and global impact, and discuss different viewpoints from a variety of stakeholders in a well-informed, coherent manner. 2. Students will be able to plan, draft and revise a research essay or academic paper on a relevant topic following APA style conventions, share their findings in the form of an oral presentation, and provide, receive and integrate feedback from their peers. 3. Students will be able to comprehend and manipulate language at an advanced level of proficiency, demonstrate confidence in both independent learning and group work, and display an awareness of diversity and multicultural environments, developing skills transferable to future contexts in core programs, study abroad programs, and international job placements.
IR18-CB103 Academic Skills III	4	アカデミックスキルⅢの目標は、学生のライティング・スキル、リサーチ・スキル、アカデミックなコミュニケーション・スキルを強化することである。学生は国際関係学分野における選択したトピックについて十分な調査を行い、幅広いアカデミックな資料を組み入れ、カンファレンスでの口頭発表に伴う論文の形で研究結果を提示する。この科目では、各自の研究について進行状況を報告したり、ライティング・セッションを行ったり、研究方法について批判的な議論を行ったり、研究倫理やリサーチのパラダイムなどについても議論する。評価は、ルーブリックを基に、平常の授業参加と課題から測る形成的評価を行う。 The aim of Academic Skills III is to solidify students' writing, research and academic interaction skills. Students will conduct in-depth research on a topic of their choice within International Relations, integrating a wide range of academic sources, and present their findings in the form of a substantial academic paper accompanied by a conference-ready oral presentation. Class activities may include progress reports on individual research, a series of writing and editing sessions, critical discussions of research methods, research ethics and underlying research paradigms, as well as lectures and discussions on emerging theoretical and practical issues in IR. The focus of this course is on developing students' academic literacy and voice while creating a deeper understanding of the complex nature of academic research and scholarship. Formative evaluation is performed through class participation, including small quizzes and assignments as well as one or more essays, papers, and presentations, based on a rubric that targets each skill.	1. 学生は、国際関係学関連の、現在起こっている幅広い問題について認識し、議論し、さまざまな視点から判断することができる。適切な理論、歴史的な展開、あるいは現況に言及し、さまざまな社会的・政治的・文化的な背景から生じる考え方を比較・検討することができる。 2. 学生は、選択した分野に関するリサーチを計画し、実行し、さらに、適切に文献を参照し、国際水準のアカデミックなレベルで報告することができる。そうして英語による専門プログラムや交換留学プログラムの授業に移行することができる。 3. 学生は、上級レベルの英語運用能力を習得し、自分の考えを口頭でも文章においても表現することができる。オーディエンスを意識した説得力のある議論を提示し、また、適切なアカデミックなスタイルで相互に意見を交換することもできる。 1. Students will be able to identify, discuss and evaluate a range of current issues in International Relations from a variety of perspectives, making reference to appropriate theories, historical developments or contemporary contexts, and juxtaposing viewpoints arising from different social, political or cultural backgrounds. 2. Students will be able to plan, conduct, and report on research in their chosen areas in line with international standards of academic scholarship, including sourcing, citing and referencing, facilitating their move into English content classes and study abroad programs. 3. Students will be able to present their ideas in writing and speaking at an advanced level of proficiency, with a clear audience focus, a strong line of argumentation, and appropriate academic style both in prepared and spontaneous production and interaction.
IR18-CC201 特殊講義 (専門外国語)	2	この科目は、英語については中上級レベルの、初修外国語（第2外国語）については初中級レベルの能力を持つことを前提に、当該言語を用いる国々に関わる国内的、国際的諸問題に関する当該言語でのニュースや論説などを的確に理解できる言語能力と社会知識の習得を目的とするものである。この科目は専門外国語のこのような科目の趣旨に沿って、より発展したレベルの言語能力と社会知識の習得を目指すものである。この科目では、当該国地域に関する当該言語によるニュースや論説を用いて、その読解を行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. 初修外国語を用いる国々に関わる国内的、国際的諸問題に関する当該言語でのニュースや論説などを的確に理解できる言語能力と社会知識を習得する。
IR18-CC211 フランス語・ 国際関係Ⅰ	2	この科目では、国際社会が直面する多様な問題を取り上げる。この科目では、講義とグループワークを組み合わせ、フランス語の文献を用いて、学生のフランス語読解の進化を図りながら、国際社会が抱えている問題を巡ってフランス語で討論を行うことによって学生のコミュニケーション技能の伸長も図る。この科目を通じて、国際社会の事情について、フランス語で読み、理解し、検討することできるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会について知識を身につけることができる。 2. 国際社会の事情を、フランス語によって理解し、コミュニケーションや討論を行うことができる。
IR18-CC311 フランス語・ 国際関係Ⅱ	2	この科目では、現代のフランス社会についての問題を取り上げる。この科目では、講義とグループワークを組み合わせ、フランス語のニュースを用いて、学生の読解の進化を図りながら、フランス社会の諸問題を巡って討論を行うことによって学生のコミュニケーション技能の伸長も図る。この科目を通じて、現代フランス社会の事情について、フランス語を聞き取り、理解し、フランス語で検討することできるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代フランス社会について知識を身につけることができる。 2. フランス社会の事情を、フランス語によって理解し、コミュニケーションや討論を行うことができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-CC221 スペイン語・ 国際関係Ⅰ	2	この科目は、初修レベルのスペイン語を習得した学生を対象として、スペイン語を通じて国際関係学の理解を深める。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、スペイン語の基本的な文法事項の復習、スペイン語による新聞、雑誌、著書などの紙媒体、インターネット、テレビなど多様なメディアを活用して、スペイン語の総合的な運用能力を高める。この科目を通じて、スペイン語圏の歴史、政治、文化に関する理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. スペイン語の総合的な運用能力を高める。 2. スペイン語圏の歴史、政治、文化に関する理解を深める。
IR18-CC321 スペイン語・ 国際関係Ⅱ	2	この科目は、初修レベルのスペイン語を習得した学生を対象として、スペイン語・国際関係Ⅰとは異なる分野で、スペイン語による国際関係学のさらなる理解を深める。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、スペイン語による新聞や雑誌の記事、や映像資料などの読解を通じて、スペイン語の理解と高度な運用能力を高める。この科目を通じて、スペイン語圏の社会や文化に対する理解を深めつつ、それらに対して建設的な意見を提示することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. スペイン語の高度な運用能力を獲得する。 2. スペイン語圏の歴史、政治、文化を理解し、自らの意見を提示することができるようになる。
IR18-CC231 ドイツ語・ 国際関係Ⅰ	2	この科目は、初修レベルのドイツ語を習得した学生を対象として、ドイツ語を通じて国際関係学の理解を深める。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、ドイツ語の基本的な文法事項の復習、ドイツ語による新聞、雑誌、著書などの紙媒体、インターネット、テレビなど多様なメディアを活用して、ドイツ語の総合的な運用能力を高める。この科目を通じて、ドイツ語圏の歴史、政治、文化に関する理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. ドイツ語の総合的な運用能力を高める。 2. ドイツ語圏の歴史、政治、文化に関する理解を深める。
IR18-CC331 ドイツ語・ 国際関係Ⅱ	2	この科目は、初修レベルのドイツ語を習得した学生を対象として、ドイツ語・国際関係Ⅰとは異なる分野で、ドイツ語による国際関係学のさらなる理解を深める。この科目では、学生のニーズと関心に合わせて、ドイツ語による新聞や雑誌の記事、や映像資料などの読解を通じて、ドイツ語の理解と高度な運用能力を高める。この科目を通じて、ドイツ語圏の社会や文化に対する理解を深めつつ、それらに対して建設的な意見を提示することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、又はその双方により行う。	1. ドイツ語の高度な運用能力を獲得する。 2. ドイツ語圏の歴史、政治、文化を理解し、自らの意見を提示することができるようになる。
IR18-CC241 中国語・ 国際関係Ⅰ	2	この科目では、現代中国の社会・人間の姿に焦点を当て、歴史・世界における中国の位置付けを示し、中国理解の方法論を紹介し、事例や作品の分析を行う。この科目では、さまざまな中国語による著作についての解説・討論を中心に、中・日二言語を用いる双方向教学を進める。この科目を通じて、中国のあり様をリアルに把握し、中国に対する認識の深化と中国語能力の向上を図る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代中国の社会・人間の姿を具体的・多角的に把握・理解でき、中国理解の方法論を習得し、独自の事象分析・問題発見が出来る。 2. 中国語能力と討論・発表の意欲・技巧を磨ける。
IR18-CC341 中国語・ 国際関係Ⅱ	2	この科目では、中国と国際関係に対する認識の深化を促すように、社会・文化・時事問題に即して中国・世界の様々な事象を取り上げる。この科目では、中国の文献や国際社会に関連する話題についての解説・討論と自主発表を中心に、主として中国語（日本語兼用）で講義・討議し、二言語・双方向教学を進める。この科目を通じて、中国理解・中国語能力・表現力の向上を図る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 中国人の心性・中国語の機微や中国的な発想の深層に触れ、国際社会における中国への理解が深まる。 2. 中国語に由る思考・表現・対訳の能力が伸びる。
IR18-CC251 朝鮮語・ 国際関係Ⅰ	2	この科目は、朝鮮半島の政治・経済・国際関係などにまつわる幅広い分野の問題を取り上げる。この科目では、朝鮮語の初修段階で学んだ基礎を確かなものとするとともに、新聞・雑誌などの紙媒体、動画など多様なメディアを利用し、担当教員によるテキスト解説や受講生相互の意見交換・議論を通じて、朝鮮語の読み・書き・表現の総合的な運用能力を高めると同時に、今日の朝鮮半島の現状や日韓・日朝関係など朝鮮半島をとりまく国際関係についても理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 朝鮮語で書かれた政治・経済・国際関係に関連する文章を正確に把握し、理解する力を高めること。 2. 時事用語や学術用語が多く含まれた文章を日本語に翻訳できる能力を培うこと。 3. 朝鮮語で意見を述べるができるようになること。
IR18-CC351 朝鮮語・ 国際関係Ⅱ	2	この科目は、朝鮮半島の歴史・文化・社会、さらに日常生活などにまつわる幅広い分野の問題を取り上げる。この科目では、朝鮮語の初修段階で学んだ基礎を確かなものとするとともに、新聞・雑誌などの紙媒体、動画など多様なメディアを利用し、担当教員によるテキスト解説や受講生相互の意見交換・議論、プレゼンテーションを通じて、朝鮮語の読み・書き・表現の総合的な運用能力を高めると同時に今日の朝鮮半島の歴史や社会・日常生活などについても理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 朝鮮語で書かれた歴史・文化・社会に関連する文章を正確に把握し、理解する力を高めること。 2. 朝鮮半島の歴史や社会に関する文章を日本語に翻訳できる能力を培うこと。 3. 朝鮮語で意見を述べるができるようになること。
IR18-DJ101 国際関係学 A	2	国際関係学は、国際関係学および国際社会に対して、政治学、経済学、文化・社会学、国際法などの学術的で総合的な基礎の上に立ちながらも、独自の諸理論をもって解明を行い、国際社会の安定的な発展を目指す学問である。国際関係学 A は講義形式により、国際関係学固有の理論としてのリアリズム、リベラリズムなどの諸理論と国際秩序平和、国際協力開発に対応する基礎的な内容を習得することを目的とする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係理論について基本的な骨格を理解する。 2. 国際秩序平和に関する基礎的な知識を獲得する。 3. 国際協力開発に関する基礎的な知識を獲得する。
IR18-DJ102 国際関係学 B	2	国際関係学は、国際関係学および国際社会に対して、政治学、経済学、文化・社会学、国際法などの学術的で総合的な基礎の上に立ちながらも、独自の諸理論をもって解明を行い、国際社会の安定的な発展を目指す学問である。国際関係学 B は、国際関係学における法秩序に関する分野と、文化・民族に関する分野について、それぞれの基本的な枠組みを概観することにより、国際社会の諸問題への理解を深めることを目的とする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会における法秩序とそのダイナミックな構造を理解することができる。 2. 国際社会における民族・文化問題を概観し、世界の「多文化」状況をめぐる諸問題を理解することができる。
IR18-DJ103 国際連合入門	2	この科目では、国連の組織と活動について理解を深める。紛争解決と平和秩序の維持、開発協力を通じた貧困削減、多文化共生と人権など国際社会が直面する課題について、国連を通じてどのような国際協力が可能かについて具体的に考察する。この科目は講義形式で展開するが、国連文書や国連の広報資料なども活用しながら、代表や国際公務員の仕事や役割分担にも注目し、人が動かす国際組織という視点からより身近に国連を理解することができるようになる。評価は、形式的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国連の活動や視点を通じて国際社会の課題に理解を深めることができる。 2. 国連という組織を通じた国際協力の可能性と限界を理解することができる。 3. 職業としての国際公務員について知ることができる。
IR18-DJ104 平和学入門	2	この科目は、戦争・暴力の原因と平和の条件を探究する学問である平和学の入門講義である。平和学は国際政治学、歴史学等々の様々な学問が共同する学際的な学問領域であり、扱うテーマは広汎な領域に及ぶ。大学4年間の学びの基礎となることを意識しつつ、テーマを絞り込んで講義する。講義、グループ・ディスカッション、ゲストスピーカー招聘等の方法で考察を深める。この科目を通じて、暴力と平和に関する現状分析と平和形成への条件の認識を獲得することができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 「平和とは何か」「平和学とは何か」を理解している。 2. 戦争・暴力の原因と平和形成への条件を理解している。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-DJ105 基礎統計学	2	国際関係や国際社会を理解するうえで、確かな理論に基づいているか、事実経緯の理解は正確かといったことに加えて、データでもってそれが裏付けられているかどうか、重要なポイントとなる。この科目は、国際関係学を学び、論文・レポートを作成する上で必要なデータを収集し、論文レポートの趣旨に沿った形で基礎的な統計処理ができる技能を獲得することを目的とする。この科目では講義形式で学ぶだけでなく、PCを用いて統計処理を実習する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方によって行われる。	1. 国際関係学を学び、論文・レポートを作成する上で必要なデータを収集し、論文レポートの趣旨に沿った形で基礎的な統計処理ができる技能を獲得する。
IR18-DJ106 近現代史	2	この科目では、近現代の世界の歴史を取り扱う。この科目は、講義形式により、さまざまな文献資料、映像資料等を使いながら、国際関係学を学ぶために必要な歴史の知識を身につけることを目的とする。この科目を通して、グローバル化が進む現在の世界が抱える諸問題の背景にある、近現代の世界の変遷、特に帝国主義以降の世界の歩みについての理解を深めることができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学の基礎である、近現代の歴史を概観できるようになる。 2. 現在の世界の諸問題の原因について、長期的な視野で理解できるようになる。
IR18-DJ107 特殊講義 (基幹科目)	2	この科目は、基幹科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるものを取り上げる。この科目では、国際関係学の学びの基本的な課題を理解するために、地域や学問領域にとらわれず、多様なテーマを提示して、学生とともに検討する。この科目を通じて、国際関係学の学際的な性格について理解し、深い学びを主体的に進めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学に関する重要な問題について、資料や文献を使って自ら考え、分析することができる。 2. 国際社会が直面する多様な諸課題について、重要な論点を理解することができる。
IR18-DJ201 国際政治学	2	この科目では、国家間でいかに秩序を形成・維持するのかという課題をめぐる歴史と理論の変遷を取り上げる。この科目では、講義形式で、国際政治の歴史的展開をたどり、そうした中において国家間で秩序形成・維持という課題に対してどのような理論が生まれ、またいかなる政策が実践されたのかを学ぶ。この科目を通じて、国家間における秩序形成をめぐる過去の営為を理解し、それを踏まえて現在の国際政治の諸問題を考察する基礎的な力を身につけることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国家間における秩序の形成・維持をめぐる理論展開を理解できる。 2. 国際政治の歴史、理論を踏まえて、今日の国際政治において論点となっている諸問題について分析する手法を理解できる。
IR18-DJ202 国際経済学	2	この科目は、現在の国際経済の全般的な知識とともに様々な国際経済の現象を理解する基礎となる理論的背景も同時に習得する。この科目では、過去に起きた様々な国際経済上の変化や経済危機の事例をあげながら、その背景や回避する方策等について理論的な観点と同時に国際金融機関（IMF/世界銀行等）のプログラムとの関連を政治経済的な側面から解説し理解させる。また、主要な国際機関との国際経済、さらに経済発展・協力との関連についても学習する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 世界及び日本経済への理解を深め、現在起きている世界経済・金融市場の変動する背景や日本に及ぼす影響を理解することができる。 2. グローバリゼーションの進展に伴う様々な問題について理解し、国際経済問題への理解を深める。
IR18-DJ203 国際文化・社会学	2	この科目では、「グローバル化」をキーワードとして、グローバル化と文化の関係を分析するために必要である社会学、文化理論をはじめとした学際的な理論群・分析枠組みの基礎を概観する。この科目では、講義形式により、内外の理論的テキスト、実証的研究、映像資料などを用いて、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、現代のグローバル社会が直面している文化的な諸問題、現象について、学問的な議論を踏まえた分析と検討ができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. グローバル化によって起こっている文化の変容に関して広範な知識を持っている。 2. グローバリゼーションが引き起こす文化的変容に関する主要な理論を理解し、説明することができる。
IR18-DJ204 国際行政学	2	この科目は、国際社会における行政をめぐる理論および思想と制度を扱う。国際秩序論やグローバル・ガバナンス論を踏まえつつ、国際機構による行政、国際公務員制度、国際行政裁判などの事例を取り上げる。この科目では、講義とディスカッション、事前・事後学習を組み合わせた教育法を採る。この科目を通して、国際社会における諸課題について行政学的視点から理解し、検討できるようになることを目的とする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会における行政について、理論・実践の双方からよく理解する。 2. 講義・ディスカッションを通じて、学生自身が国際関係についての自らの考えを表現できるようにする。
IR18-DJ205 地域研究論 A	2	地域研究とは、世界の各地域の実態を文化、社会、政治、経済などから多角的に学んでいく学問であると同時に、専門分野の理論や方法論を横断的かつ総括的に検討する場である。この科目では、まず、地域研究で使われるいくつかの基礎となる概念（例えば「地域」など）を再検討し、次いで、地域研究がどのような時代背景で要請されたかを見ることで、地域を研究することの意義、さらには学問の意義を考えるものである。ここでは個別の地域はあつかわない。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. さまざまな社会科学、人文科学と地域研究の関係を学ぶ。 2. 地域研究で使われる基礎概念について学ぶ。 3. 地域研究が学問として成立する背景を学ぶ。
IR18-DJ206 地域研究論 B	2	地域研究とは、世界の各地域の実態を文化、社会、政治、経済などから多角的に学んでいく学問であると同時に、専門分野の理論や方法論を横断的かつ総括的に検討する場である。この科目では、国際関係研究における地域研究の意義と方法論について、特に多角的に学ぶ。内容は、①歴史的背景、②研究対象、③地域概念、④研究方法、⑤情報化時代における地域研究の意義などであり、事例研究もおこなう。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 地域研究という学問の成立過程、特徴、強みと弱み、既存のディシプリンとの関係について、包括的に理解する。
IR18-DJ207 日本外交論	2	この科目では、様々な分野における日本外交のこれまでの歩みと直面する諸問題を取り上げる。この科目では、日本外交の歴史や現状、および現代の日本が直面する国際的な課題や今後の展望などについて、実際の外交実務や交渉過程を振り返りながら、学生と共に検討する。この科目を通じて、日本の主要な外交課題だけでなく、世界情勢における日本の役割について理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日本外交に関する現状と課題を理解するための分析方法を理解することができる。 2. 日本が直面する外交上の諸問題について、高い問題意識を持ち、知的関心を深めることができる。
IR18-DJ208 国際関係学 セミナー	2	この科目では、国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解および国際公務の各プログラムでの学びを深めるために不可欠な基本文献の精読を行う。この科目では、教員が指定する文献を毎回丁寧に読み込み、学生による報告および参加者全員がおこなう文献に対する批判的検討を通じて、その内容を正確に理解するとともに個別の学問（ディシプリン）を認識する。この科目を通じて、秩序平和、協力開発、文化理解、国際公務の各分野における文献講読の方法や体系的な文章のまとめ方を体得できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. プログラムの学びを深めるために必要な学問体系（ディシプリン）を理解する。 2. 国際関係学における基本文献を熟読した上で、批判的検討ができる。
IR18-DJ209 グローバル・シミュレーション・ゲーミング	2	グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）は国際関係をゲーミングで擬似的に体験することで、座学では得られない国際関係のダイナミズム体感することを目的とする。受講者全員はそれぞれアクター（国際関係における主体）になりきって、国際政治や国際経済の動きの中で、課題設定、政策立案、交渉、政策行使という一連のプロセスを擬似的に経験する。この科目は、ガイダンス、事前学習会、アクタープレゼン、ミニ GSG、GSG 本番および事後学習によって構成される。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. 各アクターの置かれた国際的ポジションについて正確に理解する。 2. 各アクターの国際的ポジションを踏まえた課題設定、政策立案、交渉、政策行使の擬似的体験を通じて、その意味を体感する。 3. 事後学習を通じて、ゲーミングにおける交渉の意味についてさらに深く理解する。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-DJ301 国際関係思想	2	この科目では、国際関係学の思想および理論を扱う。この科目を通して、政治、法、哲学、経済、文化、社会といった国際関係学の裾野を構成する諸学と関連付けながら、国際関係に関わる思想および理論への理解を深めることで、今日の国際社会における出来事に対する受講生の洞察力を養うことを目的とする。この科目では、講義とディスカッション、事前・事後学習を組み合わせた教育法を採る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学に関わる思想・理論をよく理解し、今日の国際の洞察力を養う。 2. 講義・ディスカッションを通じて、学生自身が国際関係についての自らの考えを表現できるようにする。 3. この分野の論点への関心を高める。
IR18-DE101 Theories of International Relations	2	This course will introduce students to the basic theoretical approaches to international relations. The aim of the course is to learn about a variety of distinct perspectives and how they highlight different aspects of international relations. Teaching methodologies employed include a combination of lectures and discussion oriented seminars; students will be expected to prepare for class through weekly readings, engage in group work, etc. By studying for this course, students will be able to understand the basic theories, concepts and debates in International Relations and to apply these insights to contemporary international affairs. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、国際関係学の基本的な理論を取り上げる。国際関係についての多様な理論的視座を学ぶことによって、国際社会の諸課題を多角的に検討する。この科目では、講義とグループワーク、各種課題を組み合わせる教育方法を通じて、リーディング・ライティング・コミュニケーションの各技能の伸張を図る。この科目を通じて、国際関係学の基礎的な理論、概念や論争を理解し、それらを実際の国際関係の諸問題にむすびつけて考えることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Understand the basic theories, concepts and debates in International Relations. 2. Distinguish between and compare different theoretical paradigms. 3. Demonstrate critical thinking as evidenced through both written work and group discussions. 1. 国際関係学の基礎的な理論、概念や論争を理解できる。 2. 多様な理論的視座の違いを認識し、比較できる。 3. レポートやグループワークなどを通じて、批判的思考が身につく。
IR18-DE102 Politics for Global Studies	2	This course uses the history of Western political thought to explore and introduce wider issues in politics such as the roles and responsibilities of political organisations, their leaders, and their subjects / members; as well as concepts such as democracy, communism, utilitarianism, and others; and how these have evolved over time. With classes covering the era from ancient Greece to the mid-20th century, the major 'classic' works of European political thought are examined. The content of the course also introduces students to key concepts and ideas which form the basis of both the academic discipline of politics and the origins of International Relations as a distinct field of academic inquiry. The teaching methods of the module are designed to develop cognitive, writing and presentation skills. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、民主主義、共産主義、功利主義などの概念、政治団体、その指導者、支持者／メンバーの役割と責任、およびこれらの変遷など、西欧政治思想史を用いて政治の幅広い事項を概説する。授業では古代ギリシャから20世紀半ばまでの時代をカバーし、欧州政治思想の主要な「古典的」著作について考察する。学術的探求の明確な一分野として、政治学の学問領域および国際関係学の起源の基盤となっている主要な概念と考え方も取り上げる。認知、記述、プレゼンテーションのスキルを伸ばす授業形態をとる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will deepen their understanding of major concepts and issues in politics and classical Liberalism and Realism whilst simultaneously expanding their knowledge of the origins and development of modern western political thought. 2. Students will further develop their skills of critical analysis by making sense of the issues through the various conceptual frameworks employed in the module. The teaching methods of the module are designed to develop cognitive, writing and presentation skills. 1. 政治学、および古典的なりベラリズムとリアリズムの主要な概念と諸課題に対する理解を深めると同時に、近代西欧の政治思想の起源と発展に関する知識を広げる。 2. 授業で用いる様々な概念的枠組みを通して諸課題を理解し、批判的分析力を身につける。認知、記述、プレゼンテーションのスキルを伸ばす授業形態をとる。
IR18-DE103 Economics for Global Studies	2	This is an introductory course in economics designed for international relations students. It covers both microeconomics and macroeconomics. Topics include (but are not limited to) gains from trade, supply and demand, elasticity, consumer and producer surplus, national income, fiscal and monetary policies, economic growth, and the open economy. The goals of this course are to enable students to understand the basic principles of economics that underlie international economic relations and to acquire basic skills with which to analyze current issues in the global economy. The classes consist of lectures, presentations and discussions on the foundations of economic principles. This course will keep a non-technical profile. Mathematical skills beyond simple algebra and graphical analysis are not required. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、国際関係学を学ぶ学生のための経済学入門である。ミクロ経済学とマクロ経済学の両方をカバーする。取り上げるテーマは、交換の利益、需要と供給、弾力性、消費者余剰と生産者余剰、国民所得、財政・金融政策、経済成長、対外開放経済などである。この科目は、受講者が国際経済関係の根底にある基本的な経済原理を理解することと、世界経済で起きている諸問題に対応するための基礎的な分析力を得ることを目指している。授業のスタイルは、基本的な経済理論についての講義、プレゼンテーション、議論である。本科目では、数理的なアプローチは用いない。単純な算式やグラフが理解できれば十分である。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. understand the language of economics; 2. demonstrate understanding of the fundamental economic concepts; 3. discuss current issues in the global economy by applying economic theory. 本科目の履修を完了した受講者に期待される到達目標は以下のとおりである。 1. 経済学で用いる用語・概念を理解する； 2. 経済学の基本原理を理解する； 3. 経済理論を応用して世界の経済問題に取り組むことができる。
IR18-DE104 Sociology for Global Studies	2	This course introduces students to the study of sociology. This includes a brief introduction to the history of sociology, the sociological way of thinking, social relations and institutions, as well as the study of micro and macro-level issues. In doing so, the students will learn fundamental concepts related to sociology in order to have a wide-ranging lexical knowledge in this academic field, they will also acquire a basic analytical ability indispensable for the study of global issues and the conditions of the international community from a sociological perspective. The course is basically a lecture course, but there is also enough room given for doing both open discussion and group discussion in the class in order to promote a student-led learning process. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 本授業は社会学への入門課程である。本授業においてソーシャルライフの組織化やあり方に焦点を当て、政界と経済界と異なる社会圏のあり方は中心的な課題である。それを、社会学史や社会学的な考え方への入門、社会関係や社会的諸制度のあり方、そしてミクロとマクロレベルにおける様々な社会現象から論じる。そうしながら、社会学的なアプローチは人類学、心理学、哲学、歴史学のような社会科学とも対比される。本授業は基本的に講義形式で行うが、公開討論や集団討論も実施し、学生中心の学習過程を進めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will learn fundamental concepts related to sociology in order to have a wide-ranging lexical knowledge in this academic field, and they will also understand about the potential and limitation of sociology. Moreover, the students will acquire a basic analytical ability from a sociological perspective that is indispensable for the study of global issues and the conditions of the international community. 2. Students will improve their critical thinking skills as well as self-reflexivity, and they will also learn how to build convincing arguments regarding social issues from various points of view. 1. 社会学に関する様々な基礎概念を身に付けたいうえで、本学門に関する語彙的な知識を増やす一方で、社会学に潜在する可能性と限界を認識する。また、地球規模問題の研究や国際社会のあり方を知るために必然的な社会学的な見方を基にする基礎的な分析力を身に付ける。 2. 批判的思考法や自己反省的な態度を強化し、様々な視点から異なる社会現象について説得力を持って議論できる能力を得る。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-DE105 Macroeconomics	2	This is the core theory course in macroeconomics designed for global studies students. Macroeconomics, the study of the economy as a whole, is concerned with economy-wide phenomena such as growth, inflation, employment, money stock, and the balance of payments. We will study the theoretical framework of macroeconomics and learn to apply it to the analysis of macroeconomic policy issues. Emphasis is placed on understanding relations among macroeconomic variables and tools of analysis for the open economy. Monetary and fiscal policies as well as their cross-border spillover effects are also discussed. Although this course is best suited to a lecture format, students are encouraged to actively participate in class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	Students who complete this course will be able to: 1. understand the core macroeconomic principles that underlie international economic relations; 2. interpret and analyze macroeconomic data; 3. analyze real-world situations that occur in our economy by using macroeconomic models.
IR18-DE106 Special Lecture(Foundation Course)	2	This course covers material, regions and issues, deemed to be of benefit to students of International Relations that cannot be covered by other courses. In order that students of International Relations understand fundamental issues this course is not limited by either region or academic approach and deals with a diversity of themes developed with the cooperation and input of students. By completing this course students will gain an understanding of the interdisciplinary nature of International Relations and, through gaining a deeper knowledge of various issues, will increase their ability to proactively engage with those issues. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、基幹科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるものを取り上げる。この科目では、国際関係学の学びの基本的な課題を理解するために、地域や学問領域にとらわれず、多様なテーマを提示して、学生とともに検討する。この科目を通じて、国際関係学の学際的な性格について理解し、深い学びを主体的に進めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will, by examination of documents and other sources, learn to consider and analyse important issues around the field of International Relations. 2. Students will understand and appreciate a diversity of approaches to thinking about the variety of issues faced by international society. 1. 国際関係学に関する重要な問題について、資料や文献を使って自ら考え、分析することができる。 2. 国際社会が直面する多様な諸課題について、重要な論点を理解することができる。
IR18-DE201 Global Studies Research	2	This course aims to introduce students to the basic principles of interdisciplinary social science research that are particularly relevant to the fields of global studies and International Relations. The course will provide students with information about the methods and tools used in research and the situations in which they are applied. Topics include: understanding the purpose of research; identifying researchable issues; finding, evaluating, and using sources effectively; recognizing methods associated with different types of data; and writing a research report. The course will prepare students for undertaking research in areas such as globalization, international relations, international law, international governance, international human rights, global security and justice, international and transnational crime, international aid and development, environmental protection, comparative politics, immigration and multiculturalism. Students will be encouraged to select a research topic, develop a research plan and prepare a report based on the tools and methodology learned in class. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、とくにグローバル・スタディーズと国際関係学に関わる学際的な社会科学の基本原則を概論し、これらの基本原則が応用される研究や状況で用いる方法論とツールに関する情報を提供する。授業で取り上げるトピックは、研究目的の理解、研究対象の特定、ソースの効果的な特定・評価・活用方法、データのタイプに応じた研究方法の認識、研究レポートの作成などである。この科目は、グローバル・バリエーション、国際関係、国際法、国際ガバナンス、国際人権、世界の安全保障と正義、国際・越境犯罪、国際支援・開発、環境保護、比較政治学、移民、多文化主義などの分野の研究に取り組むための準備段階である。学生は授業で学ぶツールと方法論に基づいて、研究テーマの選択、研究計画の策定、レポートの作成を行うことが求められる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students will be able to: 1. understand the basic principles of interdisciplinary social science research; 2. identify researchable issues and find, evaluate and use sources effectively; 3. recognize research methods and tools associated with different types of data and disciplines; 4. accurately read, organize and analyze content from various sources; 5. gain skills and experience in research and report writing. 受講生は、 1. 学際的な社会科学の基本原則を理解できるようになる。 2. 研究課題を選定し、ソースの特定・評価・活用を効果的に行うことができるようになる。 3. データと学問領域のタイプに応じて研究方法とツールを見極めることができるようになる。 4. 多様なソースの内容を正確に読み、体系化し、分析することができるようになる。 5. 研究およびレポート作成のスキルを身につけ、実践することができるようになる。
IR18-DE202 Global Studies Seminar	2	Students taking this course will undertake a deep reading of work fundamental to understanding International Relations. Students will participate in reading a work chosen by the tutor and will engage in weekly discussions and critique of the work in question and the issues it raises. Students will gain knowledge of the nature of the discipline of International Relations through an accurate understanding of the chosen work. Students will acquire a familiarity with the skills necessary to reading academic material in International Relations and the forms and structures of writing in the International Relations discipline. This course will use formative evaluation. この科目では、国際関係学の学びを深めていくために不可欠な基本文献の精読を行う。この科目では、教員が指定する文献を毎回丁寧に読み込み、学生による報告および参加者全員でおこなう文献に対する批判的検討を通じて、その内容を正確に理解するとともに国際関係学の学問体系（ディシプリン）を認識する。この科目を通じて、国際関係学に関する文献講読の方法や体系的な文章のまとめ方を体得できるようになる。評価は、形成的評価により行う。	1. Students will gain an understanding of International Relations as a discipline. 2. Students will carry out a thorough, critical reading of a work fundamental to the study of International Relations. 1. 国際関係学の学問体系（ディシプリン）を理解する。 2. 国際関係学における基本文献を熟読した上で、批判的検討ができる。
IR18-DE203 Global Simulation Gaming	2	Global Simulation gaming aims to add to student classroom-acquired knowledge of International Relations by providing a 'real-life' experience allowing students to participate in dynamic scenarios drawn from contemporary international society. Students take on the role of various 'actors' and go through the process of identifying issues, forming policy, negotiation, and policy implementation, all within the context of developments in international politics and changes in the international economic landscape. The course is run as a series of sessions which include general guidance, preliminary research and study, 'actor' presentations, a mini-GSG, and finally the Global Simulation Game itself. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）は国際関係をゲーミングで擬似的に体験することで、座学では得られない国際関係のダイナミズムを体感することを目的とする。受講者全員はそれぞれアクター（国際関係における主体）になりきって、国際政治や国際経済の動きの中で、課題設定、政策立案、交渉、政策行使という一連のプロセスを擬似的に経験する。この科目は、ガイダンス、事前学習会、アクタープレゼン、ミニ GSG、GSG 本番および事後学習によって構成される。成績評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. Students will gain an understanding of the 'international position' of each actor 2. Students will understand the significance of the policy creation and implementation cycle for each actor. 3. Students, through reflecting on the course, will further understand the significance of negotiation in gaming. 1. 各アクターの置かれた国際的ポジションについて正確に理解する。 2. 各アクターの国際的ポジションを踏まえた課題設定、政策立案、交渉、政策行使の擬似的体験を通じて、その意味を体感する。 3. 事後学習を通じて、ゲーミングにおける交渉の意味についてさらに深く理解する。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EAJ201 憲法 I	2	この科目は、憲法、すなわち国家の基本構造・基本法に関する総論をテーマとする。憲法に関わる基本概念、近代憲法の成立過程、日本における憲法の歴史と現状、日本国憲法の平和主義などについて学ぶ。講義とディスカッションによって、学問内容の理解を深める。この科目を通じて、近現代世界の国内政治秩序としての憲法の形成とその基本原理が理解できるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 憲法 の概念、近代憲法の成立過程と論理構造を理解することができる。 2. 日本における憲法の歴史と現在を理解することができる。 3. 日本国憲法の平和主義を理解することができる。
IR18-EAJ202 憲法 II	2	この科目は、憲法学のうち、人権を保障するためにわれわれはどのような政府を持つのかに関する学問的考察、すなわち統治機構論をテーマとする。この科目では、民主権論、権力分立論、国会・天皇・内閣・裁判所・地方自治体の役割と相互関係などを取り上げる。講義とグループ・ディスカッションによって、学問内容の理解を深める。この科目を通じて、日本国憲法が規定する政府／統治の基本原理が理解できるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日本国憲法が規定している国民主権原理、権力分立原理を理解することができる。 2. 日本国憲法の下での国会、天皇、内閣、裁判所、地方自治の権限、機能、実態を理解することができる。
IR18-EAJ203 国際法 I	2	この科目では、国際法を学ぶ上で基礎となる諸課題として、国際法の形成史や国内法との関係、国際法の主体、国際法の成立形式および国家の基本的権利義務を取り扱う。この科目では、歴史的事実や国内外の実定法や裁判例といった資料を用いて、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、国際法の基本的枠組について理解し、具体的な国際問題の法的課題を検証する力を養う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代国際法の現状について正しい知識を身につけるとともに、国際社会における問題関心を高める。 2. 国際法秩序の歴史的展開を認識した上で、国際法と国内法の違いを理解することができる。
IR18-EAJ204 国際法 II	2	この科目では、国家機関に関する国際法上の機能として、国家の成立および外交・領事関係、ならびに空間秩序として、領域主権、海洋法、空域法（宇宙法を含む）を取り扱う。この科目では、国際判例をはじめとする国際的な事件や地図、条約などの資料を用いて、国家機関および空間秩序に関する国際法上の機能と課題について、学生の理解を深める。この科目を通じて、国家主権の現実的課題について理解できるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代国際法の現状について正しい知識を身につけるとともに、国際社会における問題関心を高める。 2. 主権国家に関する諸問題、および国際社会の空間秩序に関する法構造について理解することができる。
IR18-EAJ205 国際関係史 I	2	この科目では、19 世紀から第二次世界大戦までの国際秩序の変遷を扱う。代表的な近代思想などにも触れながら、ウィーン体制から第二次世界大戦までの間において近代国際秩序がどのように移り変わっていったのかを学ぶ。この科目では、講義やディスカッションによって歴史的事実についての文献資料を検討し、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、現代の国際社会の諸課題に対して歴史学的観点からの分析ができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 19 世紀から第二次世界大戦までの国際関係の主要な出来事について基礎的な理解を獲得する。 2. 歴史（原因・結果の関係）を体系的に理解し、今日に至った道筋を理解する。 3. 歴史を通じて現在を理解する術を身につける。
IR18-EAJ206 国際関係史 II	2	この科目では、国際関係史 I での議論を踏まえ、第二次世界大戦から冷戦そして現在のグローバリゼーションに至る国際関係の変遷を学ぶことで、現代の国際関係がどのように形成されたかについての理解を深めることを目的とする。この科目では、講義やディスカッションによって歴史的事実についての文献資料を検討し、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、現代の国際社会の諸課題に対して歴史学的観点からの分析ができるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 第二次世界大戦から現在までの国際関係の主要な出来事について基礎的な理解を獲得する。 2. 歴史（原因・結果の関係）を体系的に理解し、今日に至った道筋を理解する。 3. 歴史を通じて現在を理解する術を身につける。
IR18-EAJ207 欧米政治史 I	2	この科目では、近代以降の国際社会の大きな基盤を形成した、欧米の主要諸国の政治・経済・社会的変容の歴史について特に、19 世紀末から 20 世紀前半までの近代国民国家の形成過程を中心に扱う。この科目では、講義やディスカッションによって歴史的事実についての文献資料を検討し、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、現代の国際社会の諸課題が由来する歴史的背景について、欧米諸国の歴史の変容を踏まえた分析ができるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代の国際社会が直面する多様な諸問題が由来する背景として、近代国民国家形成過程の欧米諸国において生じた主要な政治的・経済的・社会的変容の歴史について理解することができる。 2. 近代の欧米諸国の政治的・経済的・社会的変容の歴史が、同時期の世界規模の変動との間で有した関連性を理解することができる。
IR18-EAJ208 欧米政治史 II	2	この科目では、現代の国際社会のあり方に大きな影響を及ぼしてきた、欧米の主要諸国の政治的・経済的・社会的変容の歴史について特に、20 世紀後半から 21 世紀初頭にかけての、グローバルな国際システムの変動との関連を中心に扱う。この科目では、講義やディスカッションによって歴史的事実についての文献資料を検討し、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、現代の国際社会の諸課題について、欧米諸国が経験した歴史の変容を踏まえた分析ができるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代の国際社会が直面する多様な諸問題の背景として、20 世紀後半以降の欧米諸国において生じた主要な政治的・経済的・社会的変容の歴史について理解することができる。 2. 現代の欧米諸国の政治的・経済的・社会的変容の歴史が、同時期の世界規模の変動との間で有した関連性を理解することができる。
IR18-EAJ209 平和・紛争論	2	この科目は、「平和学入門」を踏まえた上で、さらに発展した平和学への理解を深める。この科目では、平和学に関わるこれまでの思想や理論、方法、体系を学ぶことで、暴力と平和に関する現象の理論的分析を試みる。授業では講義とグループ・ディスカッションによって学生の学びを深める。この科目を通じて、社会科学の一分野としての平和学の全体像が理解できるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 理論と実践の統合としての平和学を理解することができる。 2. 平和学の主たる方法を理解できる。 3. 暴力と平和に関する現象を理解するための知識を身につけ、この分野への知的関心を深めることができる。
IR18-EAJ210 現代政治論	2	この科目では、政治を異なる意思や要求との「共存のための術」として捉え、その思想と手法を取り扱う。この科目は、講義形式により、①政治現象を理解するための思想と理論、②欧米諸国および日本の政治過程について、現代国家をめぐる議会、政党、労働運動、民主主義をめぐる諸問題について学生の理解の深化を図る。この科目を通じて、現代の政治現象について政治制度や政治思想を踏まえた検討ができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 現代の政治現象を分析するための思想と方法について理解することができる。 2. 政治現象を理解するための知識を身につけ、現代の政治問題について理解し行動することができる。
IR18-EAJ211 途上国政治論	2	この科目は、近年の国際社会の急速な秩序変容を踏まえながら、途上国と位置付けられてきた国々が共通して抱える政治や国際関係の課題や挑戦に関する理解を深めることを目的とする。この科目での積極的な学びを通じて、国際社会において存在感を増していく一方の途上国における政治を、歴史的経緯および現代の国際関係との関連の中で考察することが可能になる。講義およびディスカッションなどによって学生の理解の進展を図る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 途上国の抱える政治的特徴や課題を地域間（主にアジア・アフリカ・ラテンアメリカなど）の比較を通して理解することができる。 2. 途上国から見える国際関係を国内の政治的特徴・歴史的経緯を踏まえた上で理解することができる。
IR18-EAJ301 憲法 III	2	この科目では、憲法学のうち、人権保障をめぐる諸問題を考察する人権論を扱う。日本国憲法の人権の概念、人権の体系・類型論、個別の人権（自由権、社会権、参政権等）をめぐる諸問題、新しい人権、人権保障の諸方法などについて学ぶ。授業では講義やグループ・ディスカッションによって、学問内容の理解を深める。この科目を通じて、日本国憲法の下での人権保障の規範と現実が理解できるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日本国憲法の下での人権の類型論、個別の人権保障について理解することができる。 2. 人権保障の諸方法について理解することができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EAJ302 国際法Ⅲ	2	＜法学部・科目概要「国際法各論Ⅰ」より引用＞本講義は、国際法の各論、特に国際法の実施に関係した様々な分野を学ぶ。具体的には、国際法の法源の重要な一形式として国家間で締結される条約に関する諸規則（条約法）、国家が国際法に違反した場合に負う国家責任の諸規則（国家責任法）、国際法による個人の処罰の諸規則・制度（国際犯罪）を講義する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 条約法・国家責任・国際犯罪に関する国際法の基本的な内容と考え方を理解する。 2. 国際社会で日々生じている諸現象を国際法からの確に見るための基本的な素養を身につける。
IR18-EAJ303 国際法Ⅳ	2	＜法学部・科目概要「国際法各論Ⅱ」より引用＞本講義は国際法各論Ⅰに続いて、特に国家間で紛争が起きた場合の国際社会の法的対応について学ぶ。具体的には、国際裁判の手續を中心とした紛争の平和的解決、武力行使（戦争）の規制など平和と安全の維持に関する諸制度、武力紛争（戦争）において紛争当事者が守らなければならない武力紛争法の諸規則などを講義する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 紛争の平和的解決・平和と安全の維持・武力紛争に関する国際法の基本的な内容と考え方を理解する。 2. 国際社会で日々生じている諸現象を国際法からの確に見るための基本的な素養を身につける。
IR18-EAJ304 国際人権法	2	＜法学部・科目概要「国際人権法」より引用＞人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は、国連の基本目的の1つとして、国連活動において大きな成果をあげた分野である。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本における人権保障はどのように捉えられるであろうか。個人の権利をいかに保障していくかという問題に各国や国際法がいかに対処し、また影響を受けているかについて考察する。国際人権法の基本的理解を深めつつ、日本の国内手続きを通じた国際人権法の利用可能性についての検討、ならびに国際的メカニズムへのアクセスについても検討する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 人権の構造について理解する。 2. 国際社会がなぜ人権を取り扱うようになったかを理解できる。 3. 人権条約は国家に何を求めているのかを理解できる。 4. 国際社会の規範が、どのようにして国家を拘束しているのかを理解できる。 5. 各地域の特色と人権の構造について理解できる。 6. 国際社会が求める人権の保障をより発展させ、あるいは国内の進展について理解する。 7. 国際人権法から見て日本にどのような人権問題が存在するかを理解する。 8. 日本における人権保障で国際人権法がどのような役割を果たすのかを考える。
IR18-EAJ305 安全保障論	2	この科目では、安全保障論に関連するトピックを幅広く扱う。授業は講義形式で行い、理論と事例を用いてこのテーマについて学術的に分析する方法を提示する。戦争とその抑制メカニズム、国連の平和維持における役割といった伝統的な安全保障や、犯罪などかつては安全保障の問題とは見なされていなかった事象および国際化するテロのような非伝統的脅威に関わる安全保障などについて検討する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 安全保障に関連した現代社会がかかえる問題に触れる。 2. 論理的・批判的に国際情勢を分析し自分の意見を述べられるようになることを目標とする。
IR18-EAJ306 国際機構論	2	この科目は、国際社会の主要な行動主体の一つである国際機構について取り扱う。この科目では、講義方式により、国際機構の設立経緯や国際連合をはじめとする国際機構の活動例などについて紹介しながら国際機構の現状と課題を概説する。ワークシートを用いた自主的な学習や学生間ディスカッションの機会を設けることもある。この科目を通じて、安全保障や協力開発、人権を含む文化多様性の理解といった国際関係学を学ぶ上で必要な国際機構の役割と機能について学ぶ。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会のなかでの国際機構の役割について理解することができる。 2. 今日国際機構の機能を、国家間の関係の文脈にとどまらず、国際関係全般、特に国境を越えた個人の活動にも関係づけて把握することができる。
IR18-EAJ307 比較政治論	2	この科目では、政治制度と政治過程を比較分析するための理論と方法を取り扱う。この科目は、講義形式により、欧米諸国および日本を中心とした政治制度、体制、統治機構とガバナンス、政党システム、民主主義、選挙制度、合意形成システム、政治文化などの特徴を発見するための理論と方法について学生の理解の深化を図る。この科目を通じて、現代の政治現象について政治制度や政治過程の多様性を踏まえた検討ができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 各国の政治制度と政治過程の違いや特徴を理解することができる。 2. 政治制度と政治過程を科学的に比較理解するための知識を身につけ、現代の政治問題について各国の多様な政治文化を踏まえた検討ができる。
IR18-EAJ308 国際政治理論	2	この科目では、主として国際政治における近年の理論動向を取り上げる。この科目では、講義形式で国際政治の様々な理論について学んだうえで、そうした理論を用いて具体的な国際政治事例の分析を行う方法を学習する。ワークシートを用いた自主的な学習や学生間ディスカッションの機会を設けることもある。この科目を通じて、国際政治の諸問題を理論的に考察し、具体的な事例について分析することができるようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際政治における近年の理論動向が理解できる。 2. 国際政治の諸問題について、理論的に考察し、具体的な事例分析を行うことができる。
IR18-EBJ201 マクロ経済学	4	マクロ経済学の目的は、一国の経済活動の全体的・巨視的な動向を理解し説明することである。本科目では、そのための第一歩をなす基礎知識の習得のために、国民経済の状況を生産（付加価値の形成）・所得・需要の各側面にわたって包括的に表す国民所得統計や、雇用統計・物価統計などの関連する代表的なマクロ統計について、また、生産と需要の相互作用および財市場と金融市場の相互作用のなかでのGDPや雇用・失業の決定のしくみや財政・金融政策の効果について、講義を通じて学ぶ。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 代表的なマクロデータ、特に国民所得統計のしくみや貯蓄と投資の関係について、理解し説明できる。 2. 国民所得の決定のしくみおよび需要の変化が国民所得や雇用に及ぼす影響について、理解し説明できる。 3. 金融市場における利子率決定のしくみおよび財市場と金融市場の相互作用について、理解し説明できる。
IR18-EBJ202 環境経済論	2	この科目では、今日の環境問題の解決に不可欠な環境経済学の基礎理論・基礎概念と、公害問題・国際的環境問題・地球環境問題等の具体的な環境問題を取り扱う。この科目では、講義形式により、環境経済学の重要な諸理論について、具体的な環境問題を対置させつつ、教科書または資料を用いて学生の理解をはかる。この科目を通じて、現代の国際社会が直面する環境問題について環境経済学の観点から検討することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 環境問題について経済学的にアプローチする方法を理解することができる。 2. 現代国際社会において重要課題となっている具体的な環境問題の現状について正しい知識を身につけ、国際的環境問題に対して経済的アプローチで検討できるようになる。
IR18-EBJ203 地域統合・協力論	2	この科目では、グローバル化が進む中で、地域レベルもしくは地域間で政治・経済関係を強化しようとする動きと、これに対抗し分離・分裂しようとする動きの双方を取り上げる。この科目では、講義形式により、ヨーロッパやアメリカ、アジアなど世界の主要地域における統合・協力の背景や歴史的展開、到達点および課題を理解し、協調・協力の一方で、同時に対立や緊張を孕む実情についての理解を深め、多様で複雑な国際関係を理解する視野を養う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. グローバル経済の変遷と地域統合・協力の関係についての理解を深める。 2. 政治経済学および地政学的な観点から国際関係を見る眼を養う。 3. 各々地域統合・協力の歴史・現状・課題と同時に、地域統合・協力相互の関係やグローバルな経済・政治・社会に与える影響についても理解を深める。
IR18-EBJ204 国際協力論	2	本科目では、途上国が抱える貧困問題と、それらの問題を解決するための、政府・国際機関・企業・市民社会などによる開発協力を取り扱う。講義形式により、途上国の貧困問題に関する事例分析を行い、開発理論および開発協力アプローチの歴史の変遷を考察することによって、学生の理解の深化を図る。この科目を通じて、どのような「アクター」が、どのような「課題」に対して、「なぜ」「どのように」開発協力に関わっているのかを考察できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 途上国が抱える貧困問題の多様性について理解することができる。 2. 国際開発協力のアプローチと、その理論的背景を説明することができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EBJ205 日本経済論	2	戦後の日本経済はどのような問題に直面してきたのか、そうした問題に企業や家計および政府や日本銀行はどのように対応してきたのか、またそうした一連の対応の帰結を経済学的にどのように評価すればよいのかに関して、歴史、理論および統計の各面から立体的に検討する。講義は様々なテーマを横並びにして通史的に論じるのではなく、経済成長、産業構造、金融、財政、社会保障などのテーマ毎に、国際比較も交えながら日本経済特有の問題点が浮き彫りになるように進める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 戦後の日本経済で起きたこと、そして現に起きていることを原因と結果の洞察を通して実証的に理解する。 2. 実証的に理解したことが、社会正義に合っているか否かを規範的に考察する。
IR18-EBJ206 国際金融論 I	2	本科目は現在の国際経済の金融分野における様々な事象・事柄（例：為替変動、株価変動、危機発生等）を理解する基礎となる理論的（国際マクロ経済学、国際金融）かつ実証的（国際金融市場：為替・株式・債券・金融）な背景を学ぶことができる。さらに、本講義は、過去に起きた様々な国際経済上の変化や危機の発生の背景について理論的な観点と同時に政治経済的な側面から解説し理解させる。また、主要な国際金融機関（世銀・IMF、ADB 等）と国際経済及び国際経済開発・協力との関連についても学習する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 世界経済への理解を深め、現在起きている日本経済や世界経済・金融市場（株式や為替変動等）の変動の背景や日本に及ぼす影響を金融面と国際資本移動の観点などから理解する基本知識を得る。 2. グローバリゼーションの進展に伴う様々な問題（例：各種危機 [世界金融危機：欧州危機；日米金融緩和の影響；原油問題等]）について理解する基本的な理論・実証に関する分析フレームワークを基に先進国・途上国を含む国際経済問題への基本的理解を深める。
IR18-EBJ207 国際政治経済学	2	国際政治経済学（IPE）は政治要素と経済要素の相互作用に着目して国際関係を説明する学問である。これは 1960 年代に国際的なレベルで政治・経済・社会・文化における相互依存が深化した結果、政治問題と経済問題を一体的に捉えることなしには国際関係を把握することができないという認識に基づいている。この科目では講義形式により国際政治経済学の理論と歴史、事例、今後の展望について取り扱う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際政治経済学の理論に基礎的な理論について理解する。 2. 国際政治経済学の分析の前提となる国際政治・経済秩序の歴史的発展について理解する。 3. 事例研究を通じて政治と経済の相互作用について具体的に理解する。
IR18-EBJ208 開発経済論 I	2	開発経済論とは発展途上国の経済開発の意義、目的、方法にかかわる学問である。この科目においては①開発経済論の主要な理論（構造主義、新古典派、改良主義など）を社会的背景と関わらせながら理解し、②それらの理論の典型となっている事例についても考察することを目的とする。この科目においては講義に加え、学生のレポートによる理論評価が行われる。成績評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. 開発経済論の主要な理論（構造主義、新古典派、改良主義など）を社会的背景と関わらせながら理解する。 2. それらの理論の典型事例を通じてその意義と課題についてより深く理解する。
IR18-EBJ209 開発経済論 II	2	開発経済論とは発展途上国の経済開発の意義、目的、方法にかかわる学問である。この科目においては①開発経済論 I で学ぶ主要開発理論についての概要、②途上国開発の前提となっている国際秩序と国内秩序について学び、その上たって、③国・地域別ないしイシュー別の事例研究を行う。この科目においては講義に加え、学生のレポートによる事例研究および研究発表が行われる。成績評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行われる。	1. 開発経済論の主要な理論（構造主義、新古典派、改良主義など）の概要を理解する。 2. 発展途上国の経済開発の前提となっている国際秩序と国内秩序について理解する。 3. 国・地域別ないしイシュー別の事例研究を通じて開発理論の意義と課題についてより深く理解する。
IR18-EBJ301 ミクロ経済学	4	ミクロ経済学の目的は、複雑な経済現象を、これを構成する家計や企業の個別的な行動とその相互作用の結果として理解し説明することである。本科目では、そのための第一歩をなす基礎知識の習得のために、希少性、合理的行動、資源配分などの基本的な諸概念、個別主体（家計と企業）の行動からの需要曲線・供給曲線の導出、市場均衡への接近可能性、効率性の観点からみた市場均衡の特徴、種々の形態での不完全競争、外部性や公共財の存在による市場機構の限界などについて、講義を通じて学ぶ。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 完全競争の下での家計と企業の行動原理および需要曲線・供給曲線の性質について、理解し、説明できる。 2. 完全競争の下での市場均衡の達成条件および効率性の面での市場均衡の特質について、理解し、説明できる。 3. 種々の形態での不完全競争および市場の失敗の下で生じる均衡に伴う諸問題について、理解し、説明できる。
IR18-EBJ302 国際貿易投資論 I	2	この科目では、国際経済学の 3 つの構成要素である国際貿易、国際投資、国際金融のうち前記二つを取り扱う。この科目では、主として講義形式により、国際貿易の基本理論を古典派、新古典派等を通じて理解したのち、多国籍企業による国際投資に関するハイマー以来、折衷理論にいたる理論的発展を概観する。この科目を通じて、現代世界経済の基本的枠組みの理論的な理解を促進する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国内経済と国際経済の基本的な差異について理論的に理解することができる。 2. 現代世界経済の基本的枠組みと、そこにはらまれる諸問題について理論的なアプローチで検討することができる。
IR18-EBJ303 国際貿易投資論 II	2	この科目では、国際経済学の 3 つの構成要素である国際貿易、国際投資、国際金融のうち前記二つを取り扱う。この科目では、主として講義形式により、国際貿易と国際投資の基本理論の理解を前提に、主に第二次世界大戦後の世界経済史を貿易と投資の観点から概観する。この科目を通じて、現代世界経済の基本的枠組みに関する理解を、資本主義の歴史的発展の観点から促進する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際貿易論、国際投資論を応用し、国内経済と国際経済の基本的な差異について歴史的に理解することができる。 2. 現代世界経済の基本的枠組みと、そこにはらまれる諸問題について歴史的なアプローチで検討することができる。
IR18-EBJ304 国際金融論 II	2	本科目は「国際金融論 I」の内容をさらに発展させ、現在の国際経済の金融分野における様々な事象・事柄を理解する実証的な考察を通して国際経済全体や為替相場や金融市場の動きの背景を一層深く学ぶことができる。本講義は、過去に起きた様々な国際経済上の変化や危機（通貨危機、資本収支危機）について理論的・実証的に各地域・国別に採りあげる。さらに、国際資本移動の自由化とそのグローバル経済への影響と課題、国際開発金融、望ましい国際金融体制等について理論的な観点と同時に政治経済的な側面から解説し理解させる。また、主要な国際金融機関（世銀・IMF、ADB 等）の具体的プログラムと結果に関する評価、安定化の課題等についても学習する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際金融分野における具体的かつ詳細な理解を深め、豊富な関連知識を取得する。 2. 現在国際経済・金融市場が直面する様々な問題（例：各種危機 [世界金融危機：欧州危機]；日米欧金融緩和の影響；国際金融機関の改革等]）について過去の具体的な経験や教訓をもとに世界経済・市場（株式や為替変動等）の安定化する方策を深く理解する。 3. 国際金融機関（IMF/ 世銀等）のプログラムの世界経済・金融市場に与える影響を実証と理論面ですらに詳細な知識を得た上で、今後の国際金融体制の課題を深く理解する。
IR18-EBJ305 地域開発論	2	様々な開発理念の地域開発分野での発現、地域開発分野の具体的な開発課題とその背景、より大きなスケールの貧困問題や環境問題との関係性、および地域開発の手法とその変遷などが取り扱われる。この科目は講義形式で進められる。途上国の地域開発の理解を通じて、国際協力あるいは国際的な開発援助についての認識が深められる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 地域開発の開発課題と課題解決に向けたアプローチを理解する。 2. 地域開発分野において具現化する開発（援助）の理念を理解する。
IR18-EBJ306 開発政策論	2	途上国の開発政策を考えるためには、持続可能な開発目標（SDGs）や目標達成に必要な開発経済理論、ならびに基本的なマクロ経済成長理論の学習が不可欠である。それを土台として、東南アジア、メコン地域、および日本の経済発展の経緯やメカニズムを、政府が担ってきた開発・産業政策、ならびに民間企業が活動する市場の役割の両面から解説する。講義の中では、開発の担い手（アクター）としての政府、援助機関、民間セクターのほか、NGO やソーシャルビジネス、ならびに官民連携による新しい援助の形態についても触れる。講義形式であるが、受講生とのインタラクションに配慮する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 発展途上国の経済、社会実態を経済・社会統計を読み取りながら理解する。 2. 開発の目標と経済成長の関係を、成長理論などを通じて理解する。 3. 東アジア、ASEAN 諸国、および日本の経済発展メカニズムを比較しながら、その要因について政府と市場の役割や開発アクターなどに焦点を当てながら理解する。 4. 最近注目されている、民間アクターによる途上国援助（BOP やソーシャルビジネス）について、具体的事例を通じて学ぶ。 5. また、世界各地で深化する地域経済統合の動向とその背景、多くの途上国が直面している「中所得国の罠」の実態などについても理解を深める。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EBJ307 開発と食料	2	この科目では、世界の食料問題と食料にかかわる開発について取り扱う。食料問題の根底にある農業生産の経済・社会的な特質や、農業開発にかかわる村落開発・社会開発の側面、また、環境問題や食料品貿易などについて、講義形式により、統計データや課題にかかわる視聴覚資料も用いながら、理解を深める。この科目を通じて、食料という人間の生存に必要な不可欠でありながらも不足している課題への基本的な理解ができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 食料生産の社会的経済的特質を理解し、農業問題を考察する視点を獲得。 2. 開発途上国の栄養不足問題について理解する。 3. 農業開発・援助における課題と先進国農業との関連を理解する。 4. 食料問題に関連する現在の世界の動きに関心を持つ。
IR18-EBJ308 経済政策論	2	この科目では、第1に経済政策の理論的背景を理解するために、厚生経済学の基本的な知識を学ぶ。第2に経済政策の目的を達成するためにどのような政策が有効かについて、雇用機会の確保、物価の安定、成長の実現、公正な分配など具体的な事例を挙げて、なぜ市場メカニズムに任せるだけでは目的を達成できないのかを理論的に考察する。第3に経済政策は実験のできない試みであることを踏まえたうえで、過去において生じた問題と解決に向けて講じられた政策の関係を歴史的に検証する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 社会的厚生とは何かに関する旧厚生経済学と新厚生経済学の違いを理解できる。 2. 財政政策や金融政策あるいは為替政策や産業政策など具体的な政策の手段と効果の関係について経済学的に考察できる。 3. 日本におけるバブル崩壊以降の政策がなぜ失敗したのかについて、歴史的に評価できる。
IR18-ECJ201 ジェンダー論	2	この科目では、女性性や男性性といった社会的・文化的に構築されたジェンダーという概念に関して基本的な知識を学び、さらにジェンダー概念を分析視座として使うことによって見えてくる国際関係の諸問題、特に、紛争、平和、安全保障、暴力などについて考える。具体的には、国連などの国際社会が取り組んでいる武力紛争下の性暴力、軍隊組織による長期占領・駐留下の性暴力、政治参加におけるジェンダー平等、女性の人権、セクシュアル・マイノリティに対する暴力などを取り上げる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ジェンダー概念についての基本的な知識を理解する。 2. 国際社会が解決を目指して取り組む、平和、安全保障、人権、開発などの問題にジェンダー概念がどのように関連しているか、理解する。またジェンダー概念を適用した分析ができる。
IR18-ECJ202 民族文化誌	2	この科目は民族の文化を対象とする。日常に密着した衣食住にはじまり、人生の節目にある儀式や、一年の時の移ろいとともにある年中行事（お祭り等）について、実例に即して、その意味を考える。その際、民俗学、文化人類学の成果が援用される。その上で、文化を学ぶことの意義について考える。視聴覚教材を随時使用する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 民俗学の歴史を学ぶことで、「文化」を学ぶことの意義について理解する。 2. 文化人類学、民俗学のものの見方を理解する。
IR18-ECJ203 国際ジャーナリズム論	2	この科目では、報道の基本原則や、国際社会におけるメディアの役割を取り扱う。新聞、テレビ、インターネットなど多様なメディアの歴史、現状、将来の課題を学習する。日本の国際報道にも焦点をあてることで、国際社会、特にアジアにおける日本の立場について学習し、政治、経済、社会、文化を扱う地域研究との関連性についても理解を深める。講義形式により、過去の戦争、紛争のビデオ、スライドなどを紹介しながら、学生の理解の深化を図る。また、国際関係学を学ぶに際して、情報をいかに収集、評価するかといったメディアリテラシーについても学習する。評価は形式的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際関係学におけるメディアの歴史を理解し、その概要を説明できる。 2. 国際政治の枠組みの変化と、ICT（情報・通信技術）革命の相互連関を理解し、説明できる。 3. 国際社会における日本の役割について説明できる。
IR18-ECJ204 多文化社会論Ⅰ	2	現代世界においては、グローバルな人の移動やマイノリティの権利意識の高揚などによって、異なる文化的背景を持った人々が共存する多文化社会のあり方が問われている。この科目では、複数の文化が共存する多文化社会とはいかなる社会であるのか、多文化社会における文化とアイデンティティはどのように変化するのか、差別や排外主義といった問題にいかに対峙するか、そして多文化社会はいかに可能であるのか、といった課題について、理論と事例の両方から議論する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会が直面する文化間の衝突や対立、差別といった諸問題について、国際関係学の知見にもとづいて、理論的に分析することができる。 2. 多文化社会の経験を、各国の事例研究にもとづいて分析することができる。 3. 日本における多文化社会をめぐる課題を、国際比較や理論研究の視点から考察することができる。
IR18-ECJ205 国際交流論	2	この科目では、国際文化交流、芸術支援に関わる政策分野を中心に、文化政策の対象とその意義を理解し、また各国の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。この科目では、講義形式により、国内外の基礎文献、事例研究などを用いて、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて相対的、客観的な視点から、芸術文化政策を考察できるようになることを目指す。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 文化政策の理論と方法論を理解している。 2. 市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養い、具体的な政策手段の特徴、意義や限界等について考察できる。
IR18-ECJ206 異文化コミュニケーション論	2	現代の国際社会では、文化的背景が異なる人々のあいだの日常的な相互作用の機会も増えている。この科目では、文化的背景が異なる人々のあいだで生じる異文化コミュニケーションをめぐる理論や概念について心理学や認知科学の視点から学ぶとともに、さまざまなアクターのあいだの異文化コミュニケーションの事例について学ぶことで、効果的なコミュニケーションのための条件と実践的なスキルについて考える。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会が直面する文化間の衝突や対立、差別といった諸問題に対して、異文化コミュニケーション論の観点から理解を深めることができる。 2. 文化的背景が異なる他者との効果的なコミュニケーションに必要な知識について理解することができる。 3. 効果的な異文化コミュニケーションのためのスキルを身につけることができる。
IR18-ECJ207 比較文化論	2	この科目では、現代世界における「文化」をめぐる様々な問題を、「比較」という視点から取り扱う。この科目では、講義を通して、「文化」の概念と「比較」の方法について学び、その上で「自文化」を問い直しながら「異文化」を見る視点を獲得することを目的とする。その際、国民国家論を援用する。比較文化論を学ぶことを通して、「自文化中心主義」「オリエンタリズム」「文化帝国主義」などの概念への理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 「自文化」を相対化しながら「異文化」を見る視点を身につけることができる。 2. 比較文化の見地から、現在世界のパラダイムを読み解く力を身につけることができる。 3. 「文化」と「帝国主義」の関係を、その歴史的背景も含めて理解することができる。
IR18-ECJ208 東アジア文化関係論	2	この科目では、東アジア域内の異なる国・地域間の文化の相関・相違を取り上げ、異文化理解・異文化交流の事例・理論の紹介・解説を行う。この科目では、講義を主としつつ質疑応答などの形で双方向学習を目指す。この科目を通じて、東アジアの文化の異同に関心を持ち、体験や情報などから問題を発見し、実践的・学問的な解決力・表現力の伸張を促す。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 東アジアの文化の多様性・相関・相違について理解できる。 2. 異文化理解・交流に関する事象について分析でき、独自の発見と解決が出来るような広い視野と深い思考力を身につける。
IR18-ECJ209 日本文化・社会論	2	この科目では、日本社会の社会関係や地域社会の基礎的な構造を把握し、社会がどのように変動してきたのかを、長期的なスパンで概観する。近世以来、日本社会の構造は大きく変容したが、社会の基礎的な関係も変化したのか、ここに焦点をあてて、講義形式で解説する。歴史的な変容を、テーマに関わる資料も併用して、学生の理解の深化を図る。この科目を通して、日本の基礎的な文化や社会の過去から現在に至る基本的な枠組みを理解・検討できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 日本社会における個人の有様（人間関係）について、その変動を理解することができる。 2. 社会を構成する個人を、さらにジェンダー論の視点を導入することで、より具体的に理解することができる。 3. 大部分の学生が所属する当該社会を正確に把握することができる。
IR18-ECJ210 カルチュラル・スタディーズ	2	この科目では、現代文化を研究する主要な学問領域であるカルチュラルスタディーズの主要概念、理論群を取り扱い、現代のメディア・文化状況を批判的に捉え、その構造を分析する能力の発達を行う。この科目では、講義形式により、国内外の理論的文献、実証的研究、映像資料などを用いて、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、日本や世界の社会文化状況、日常生活の中で自然化されている考え方、概念、価値観、習慣などの自明性と政治性を理論的に分析することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. カルチュラルスタディーズの理論と方法論を理解し、身の回りの事象に応用して考えることが出来る。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-ECJ301 比較家族論	2	本科目では、家族社会学的な視点から、家族に関する基本的なあり方と、近代化以降の家族変動の国際的な傾向を論じる。まず家族の定義問題から出発して、家族の類型論（核家族、直系家族、拡大家族）、内部関係（夫婦関係・親子関係）、そして外部社会との関係（近所、職場、家族政策）を論じる。さらに、西欧諸国と東アジア地域を対象に、近代化（産業化）と脱近代化（脱産業化）時代における家族の変動の国際的な傾向に焦点を当て、グローバル時代における家族のゆくえを考える。全て講義形式で行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 家族研究でよく使われている専門用語・諸概念を理解したうえで、家族社会学的な見方を身に着ける。 2. 家族の基本的なあり方とその国際的な傾向を知ったうえで、家族変動の多様性と共通性を認識する。
IR18-ECJ302 国際人口移動論	2	国境を越えたグローバルな人の移動は、現代の国際社会のあり方を考える鍵となっている。国際的な労働力の移動、庇護を求めて移動する難民、多国籍企業で働くエリート、家族の呼び寄せや結婚、留学、観光など、人の移動はさまざまなレベルで生じ、その背景には現代のグローバルな社会変動が存在している。この講義では、国際人口移動とそれに付随して生じるさまざまな社会現象（移民政策、国際的な人権をめぐる枠組、エスニック・マイノリティの形成、トランスナショナリズムなど）を社会科学の視点から議論する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際移民を分析するために必要な社会科学的な理論枠組を理解できる。 2. 日本を含めて、現代の世界各地で起きている移民現象を、社会科学の枠組から分析する。 3. 国際移民の背景にあるグローバルな社会変動のあり方を理解できる。
IR18-ECJ303 現代社会理論	2	社会は産業基盤の変化や技術環境の変化などによって、そのなかに生きる人々の関係の様式の変化や統合の原理の変化のような深い次元の構造的変化を経験する。社会理論はこうした構造的変化を概念化する営みである。この科目では、1970年代から1990年代以降に始まる、いわゆるグローバリゼーションに伴う社会の構造的変化について、情報技術・生命技術・認知科学の発達とその社会的意義、資本主義の変容、多文化主義と脱世俗化の問題などのテーマをとりあげ、主要な社会理論を概観する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 社会理論の基礎的な理解に基づき、適切な概念を参照して、グローバリゼーションがもたらす社会の変化の意義について説明することができる。
IR18-ECJ304 多文化社会論Ⅱ	2	現代世界においては、グローバルな人の移動やマイノリティの権利意識の高揚などによって、異なる文化的背景を持った人々が共存する多文化社会のあり方が問われている。本講義では、多文化が共存する社会を構築するための具体的な実践や取り組みについて学ぶ。具体的には、「国際理解教育」「多文化教育」「多文化共生政策」「多文化ソーシャルワーク」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「差別問題」などの諸分野のうちから1つ、あるいは複数の分野の専門的視点から、現代多文化社会の可能性と課題について議論する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 国際社会が直面する文化間の衝突や対立、差別といった諸問題に対する具体的な取り組みについて学び、その課題を理解することができる。 2. 多文化社会における運動、実戦、政策、思想について、具体的な事例にもとづいて分析することができる。 3. 日本における多文化社会をめぐる課題について、実践的な視点から議論することができる。
IR18-ECJ305 メディア・文化論	2	この科目では、放送、印刷を中心とする伝統的なメディアとニューメディアに焦点をあてたメディア文化論に加えて、メディア・文化産業、さらにより幅の広い概念である創造経済 (Creative Economy) について、文化経済、批判的メディア文化理論を中心とした学際的な観点から考察を行う。この科目では、講義形式により、国内外の理論的文献、実証的研究、ゲストスピーカーによる講演などを用いて、学生の理解の進化を図る。この科目を通じて、メディア、メディア文化産業、創造産業に関して、実践的知識と批判的理論枠組を獲得することが出来る。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. メディア文化産業、創造産業の研究に使われる理論と方法論を理解し、具体的な国内外の事象に応用して考えることが出来る。
IR18-ECJ306 社会言語学	2	この科目では社会学的な集団や要因と言語現象の関連を考察することによって、言語の社会的な機能について考察する。現実の場面で使用される言語はいくつかある「変種」の中の一つで、この選択は性別、地域差、年齢差、職種などの他その時々話し相手、話題などの条件による。この科目は講義形式で行うが、学生は自身や周囲の「変種」使用の実態を観察することで、社会と言語との関わりを理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 言語問題は民族間の紛争や国家の政策とも深く関わり、様々なレベルで国際関係に関わる問題として検討できるようになる。 2. どのように言語と社会が互いに影響し合うのかを理解することで、言語を通して社会現象や文化面での問題にアプローチできるようになる。 3. 異文化理解が深まり、教育に関わる言語問題や言語教育などに言語学からの発言ができるようになる。
IR18-ECJ307 文化交流史	2	国際社会における文化交流の歴史は長く、それは様々な人々によって行われ、現在もお綿々と続いている。本科目では複数の文化を背負って生きた有名無名の人々の足跡・軌跡を辿りながら、単に歴史的事実を追うのではなく、現代的な問題意識から、それらの人々を取り上げ、アイデンティティや文化交流の意味を幅広く考える。過去、現在、未来（予測される変化）を繋ぐ時の流れを分析、考察できる力を涵養する。授業は講義形式で進め、コミュニケーション・ペーパー、課題レポートなどを通して、受講生との対話を行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 近現代の交流史を通して、文化交流の歴史を学び、同時代に生きた人々の軌跡を追うことで、歴史知識の獲得と歴史認識への理解能力を深める。
IR18-ECJ308 表象文化論	2	表象文化論は、表象分析を通して、文学、演劇など伝統的な芸術および映画、アニメ、コンピューターゲームなど情報ネットワークが創り出す現代文化の中からさまざまな文化事象について理解することを目標とする。そのために、表象の概念、カルチュラル・スタディーズや比較文化の理論を用いてテキスト分析を行う。各テーマに即し、時代、文化、メディアが異なる映像を取り上げ、比較分析をする。講義とグループワークとの組み合わせによって、理論および個別の文化現象の理解を深め、さらに表象と文化間のダイナミックな相互作用を考察する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 表象とは何か、文化とは何か、そしてテキストとコンテキストの関係を理解することができる。 2. 分析ツールとしての諸理論を理解し、それらを用いて文化現象を分析することができるようになる。 3. 異なる文化現象の中に潜む歴史的、政治的、社会的なさまざまな力学（コンテキスト）を考察し、異なる文化間および国家間の理解を進め、国際社会が直面する問題について文化理解の側面から掘り下げて検討することができる。
IR18-ECJ309 宗教と国際関係	2	本科目では「宗教」と「国際関係」との関連を始め、合理的な政治から切り離されている宗教のイメージと「宗教」というような抽象的なカテゴリーを検討する。文化人類学のアプローチを中心にし、宗教学、社会学等に基づき、広い意味での「宗教」における様々な事例を分析する。また歴史上で、諸宗教・教団・国における、ナショナリズム・アイデンティティ・暴力・テロリズム等に関わる事例を考察しながら、宗教と、国際関係・国家・政治・経済等との関わりを検討する。授業は講義形式で行われる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. グローバル化した現代社会において、宗教を理解する様々な事例と視点を学ぶ。 2. 国際関係における世俗主義に対する批判的な視点を得る。 3. 宗教と国際関係・政治・国家の中の関わりを理解することができる。 4. 宗教とアイデンティティ・暴力・紛争・ナショナリズムなどとの関係を検討しながら、それを分析する方法を学ぶことができる。
IR18-EDJ201 国際公務セミナー	2	この科目は、国際公務プログラム所属の学生が、日本の行政システムや国際機関のガバナンスについて理解することを目的とする。この科目では、学生によるグループでの報告とディスカッションを通じて、外交や安全保障だけでなく、人権、環境、食料、経済、エネルギーといった多様な課題について検討する。また、国際機関や政府だけではなく、地方自治体の取り組みについても対象に加える。この科目を通じて、国際および日本の国家・地方の行政における現状と課題について理解できるようにする。評価は、形成的評価により行う。	1. 国際機関ならびに国家および地方自治体の機能と役割について理解することができる。 2. 国際機関ならびに国家および地方自治体における実務と課題について、自らの意見を持つことができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EE211 International Law	2	This course is designed to familiarize students with the rules and processes through which international law governs relations between states and regulates the affairs of corporate bodies and individuals on the international plane. Much of the focus of the course is on systemic issues: the principal sources of international law and the main institutions in which international law is developed and in which international disputes are resolved. Special attention will be given to issues such as personality, jurisdiction and responsibility; the main rules on the use of force; the rights of the individual under international law; and the relationship between power and the use and abuse of international law. The teaching of the course will take the form of formal lecturing and class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、国家間の関係を司り、国際レベルでの企業・個人の問題を規定する国際法のルールとプロセスを学ぶ。国際法の主たる法源、国際法の立法や国際紛争の解決にあたる主要機関など、主として制度面に重点を置く。とくに法主体性・管轄権・国家責任、武力紛争法、国際法における個人の権利、国際法の優劣関係・権利濫用などに着目する。授業は講義とクラスディスカッションで行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Upon completion of this course, students will be able to: 1. demonstrate a sound knowledge and understanding of the scope, key concepts and fundamental principles of international law; 2. understand how states interact and cooperate with each other; 3. find legal principles and doctrines by researching relevant treaties, jurisprudence, commentaries and secondary literature; 4. understand the relationship between international law and international reality. この科目を履修後、受講生は、 1. 国際法の範囲、主要な概念、基本原則について適切な知識と理解を示すことができるようになる。 2. 国家間の交流と協力を理解できるようになる。 3. 関連する条約、判例、注釈、および二次文献を調べ、法原理を見つけることができるようになる。 4. 国際法と国際社会の現実との関係を理解できるようになる。
IR18-EE212 Security Studies	2	This course will cover basic arguments in Security Studies. Students are expected to develop skills for critical analysis and making logical arguments supported by evidence – in other words, to make academic arguments. Lectures intend to demonstrate how to analyse case studies applying relevant theories. The former part of the course focuses on analytical tools, i.e. theories in Security Studies. The latter part of the course will explore non-traditional security issues, such as transnational crimes and international terrorism. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 本講義は安全保障論の基礎的な議論をカバーするものである。学生は科学的根拠に支えられた批判的な分析力、論理的思考の発展、つまり、学術的な分析力をのばす事が求められる。講義は理論を用いた事例の論じ方を紹介するものである。コースの前半は分析ツールである理論を中心に扱い、硬軟は非伝統的な安全保障の領域である組織犯罪や国際テロなどの分野を検証する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. students are expected to understand basic arguments and issues related to Security Studies; and 2. to analyse incidents using theories learned in the class. 1. 学生は安全保障論における基本的な議論と問題を理解できるようになる。 2. 授業中に出てきた理論を使って批判的に分析する事ができるようになる。
IR18-EE213 Global Political Economy	2	This course will provide students with analytical frameworks to understand the international/global political issues and international relations, which are caused and influenced by several economic policies and issues globally. In this course analyses and discussions are more focused on policy based and practically oriented aspects of economics and the real economy. Several economic issues, which cannot be analyzed under the conventional frameworks in economics will be taken up in this course. The subjects/issues include: Neoliberalism and the influence of US policy on Global Politics/ Economy since 1980s; the Political Economy of Japan and the US; Economic policies in post-war Japan; Achievements in long-term stable growth; Global Trade System and friction; Washington Consensus and issues for development; the IMF and World Bank programs and US policies; Global Financial Crises under Capital Account Liberalization; Disparity & Income distribution; Global Financial/Monetary System for sustainable & stable global economies, etc. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 本科目は受講学生に国際的な政治・国際関係が様々な経済的要因によって引き起こされることを理解させる。また、本科目の分析や対象とする問題については経済学の政治的かつ現実的な事象に焦点を当てる。現代の多くの経済問題は従来の経済学の分析では困難であり、新たなフレームワークによる分析を必要としている。本科目では、新自由主義と米国の各国経済に及ぼす影響、日米関係の政治経済学、戦後日本における経済発展で採用された政策、世界貿易体制の諸問題、ワシントン・コンセンサスとIMF/世界銀行プログラム、世界金融危機と安定的な国際金融体制に向けた課題などを採りあげる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will have deep knowledge of frameworks and methods which explain the political aspects of the international economy and global economic relations. 2. They will be able to critically analyze major current economic issues from the point of view of international political and social issues. 1. 国際経済及び経済関連事象に対する専門的な知識と理解力をつける。 2. 現在の国際経済問題について国際政治・社会の観点から鋭い分析を行うことが期待される。
IR18-EE214 Comparative and Global Governance	2	The course looks at different ways of thinking about the drivers of history and the sources of political order and the ability of these approaches to explain developments in key historical periods: The rise of the nation-state and the competitive state system; the spread of democratic and non-democratic regimes; and the rapid increase in the number and importance of international institutions and the rise of new powers and alternative political orders in the contemporary period. The course will conclude with an effort to bring informed historical and theoretical arguments to bear on contemporary problems and to better anticipate and understand potential avenues of change in the future. この科目は歴史の推進要因と政治秩序の根源に対する様々な考え方と主要な歴史的時期における発展－国民国家の台頭と競争的国家システム；民主的および非民主的体制の拡散；国際制度の数的拡大と重要性の増大と現代における新しいパワーの台頭とオルタナティブな政治秩序－を説明するためのこれらのアプローチの能力に着目する。この講義は幅広い知識の歴史的かつ理論的な議論に基づいて現代の諸問題を論じ、また、将来における変化の潜在的な方法をより良く予期し理解することを試みる。	1. To familiarize students with the dominant ways of thinking about the sources of governance and change, to develop the analytical tools necessary to evaluate those arguments on the basis of historical evidence, and to encourage the application of this knowledge to pressing contemporary issues in world politics. 2. Historical and contemporary knowledge of the rise, consequences, and challenges to the system of sovereign states and the contemporary international order 3. Familiarity with the comparative method, and application of cross-regional comparisons in analysis. 1. 学生が、歴史的な実証に基づいた議論の評価に必要であり、現代の国際政治について検討する際に知識を応用することを促す分析的な手法を構築するために、ガバナンスの源泉とその変化についての主要な考察方法を熟知すること。 2. 主権国家システムおよび現代の国際秩序の台頭、帰結および課題に関する歴史および現代的な知識を得ること。 3. 比較的研究手法、分析における地域横断的な比較手法について熟知すること。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EE311 Peace and Conflict Studies	2	The aim of the course is to deepen students' understanding of theoretical and empirical problems in the study of the outbreak, development and resolution of armed conflicts. Focus is directed upon the post-Cold War conflict processes within states, different analytical levels – individual, group, state, and regional – are considered. The course combines lecture and group work, exploring the various peacebuilding attempts, to identify empirically and critically evaluate central obstacles and problems for conflict resolution, conflict management, and durable peace. At completion, students will acquire a thorough understanding and critical examination of the origin, dynamics and resolution of on-going armed conflicts today. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、武力紛争の発生、発達、解決における問題を理論的・実証的に学習し、理解を深めることを目的としている。特に冷戦後の国内紛争に焦点をあて、個人・集団・国家・地域の異なる観点から分析する。この科目は、講義とグループワークの形式を取り、冷戦後発達した平和構築の取り組みを取り上げ、紛争解決、紛争管理、永続的な平和を阻害する要因や問題を批判的に考察する。この科目を通じて、学生は現在進行中の武力紛争の発生原因、力学、解決についても批判的に分析し理解することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students will be able to: 1. To explain what are the major cause and nature of contemporary conflicts; 2. To examine central questions and theories on causes, development and resolution of conflicts; 3. To develop an understanding of different processes and strategies of conflict transformation and the conditions and circumstances necessary for lasting peace at various levels; 4. To demonstrate an ability to identify and use appropriate information resources to substantiate evidence-based claims. 1. 今日の紛争の主要な原因と性質を説明することができる。 2. 紛争の原因、発達、解決における主要な課題と理論について検討することができる。 3. 国家や集団、個人間など様々なレベルで平和を実現するために必要とされる多様な紛争転換のプロセス・戦略や条件・環境などが何であるかを理解できる。 4. 実証的な主張をするために、適切な資料を特定・使用する能力を発揮することができる。
IR18-EE312 International Organizations	2	International Organisations (IOs) have become pivotal actors on the global stage today, addressing pressing concerns of international public good, trade, the environment, international security, and poverty. This course addresses the historical and theoretical foundations of IOs – both International Governmental Organisations (IGOs) and International Non-Governmental Organisations (NGOs). While this course will aim to equip students with a broad understanding of the structures of some of today's most prominent IOs, it will further encourage students to reflect on the relevance, effectiveness and practices of IOs in our globalising world, as well as the pressing issues of accountability that they bring forth. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 国際機関（IO）は今日の国際社会における重要なアクターであり、国際公善、貿易、環境、世界の安全保障、貧困など差し迫った問題に対応している。この科目では、国際政府組織（IGO）と国際非政府組織（NGO）の両方について、IOの歴史のおよび理論的基盤を取り上げる。この科目では、広く知られる IO を例にとり、その組織構造について概要を理解するとともに、現代のグローバル化社会における IO の妥当性、効果、活動、これらの IO が明るみにした説明責任に関する喫緊の課題についても考察する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will become intellectually engaged with and aware of the various problems facing the international community such as war, military disputes, poverty, environmental destruction, and discrimination. 2. Students will understand the academic material and methods of three International Relations fields: International Order, International Cooperation & Development, and International Cultural Understanding. 3. Students will gain knowledge on the historical foundations, functions and structures of international organisations. 4. Students will critically reflect on the contemporary practices of IOs in relation to peace and global security, economic development and social justice. 1. 戦争、武力紛争、貧困、環境破壊、差別など、国際社会が直面する多様な諸問題を認識し、知的関心をもつ。 2. 国際関係学部の3分野—国際秩序平和、国際協力開発、国際文化理解—の学術的な資料と方法を理解する。 3. 国際機関の歴史的基盤、機能、構造に関する知識を得る。 4. 平和と世界の安全保障、経済発展、社会的正義に関わる今日の IO の活動を批判的に考察できるようにする。
IR18-EE313 International Human Rights	2	This course will provide an introduction to human rights philosophy, principles and institutions and familiarize students with current debates in the field. The course will also explore aspects of the diverse and increasingly complex body of international human rights law, analyze the ways in which allegations of human rights violations are dealt with in national and international courts and examine the impact of human rights discourse on international relations. Among the themes covered are: the philosophical foundations of human rights; the structure of international human rights treaties; the content of the major substantive rights; and the means by which human rights norms are implemented on national and international levels. The teaching of the course will take the form of formal lecturing and class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、人権に関する理念、原則、および制度を概論し、人権分野において今日なされている議論を学ぶ。また、多面的に複雑の度を増す国際人権法を様々な角度から掘り下げ、国内および国際裁判所での人権侵害の申し立ての対応を分析し、人権をめぐる言説が国際関係に与える影響を検討する。授業で取り上げるテーマは、人権の理念的基盤、国際人権条約の構造、主要な実体的権利の内容、国内および国際レベルでの人権規範の実施手段などである。授業は講義とクラスディスカッションで行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Upon satisfactory completion of this course, students will be able to: 1. explain the concept of a right and appreciate the importance of human rights in global politics; 2. understand key historical, political, legal and moral influences that have shaped the idea of human rights; 3. understand the different types of human rights and their relationships; 4. identify the major international treaties and covenants governing human rights. この科目を履修後、受講生は、 1. 権利の概念を説明し、世界政治における人権の重要性を理解することができるようになる。 2. 人権の概念を形成してきた歴史的、政治的、法的、道義的影響を理解できるようになる。 3. 人権の様々なタイプとそれらの関係性を理解できるようになる。 4. 人権を規定する主要な国際条約・規約を特定できるようになる。
IR18-EE221 Development Studies	2	The course broadly introduces students to the topics related to international development cooperation, by particularly focusing on the post-WWII era. Important development concepts such as human development, and important development actors, such as governments, private sector, NGOs and non-traditional donors, will be explained. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	Students will 1. gain an overview of international development cooperation according to the types of development actors and analytical tools. 2. understand key development concepts 3. appreciate the key characteristics of different types of development actors
IR18-EE222 Global Environmental Issues	2	This course broadly introduces students to global environmental issues. While providing students with the ability to look at issues with a holistic, bird's eye view angle, the course will focus more on 'how' and 'why' certain environmental issues have emerged and how they have evolved, rather than merely focussing on related facts and status (i.e. 'what'). The course covers a variety of global environmental issues, including climate change, desertification, air pollution, ozone depletion, loss of biodiversity, and loss of marine resources. It also covers several different modes of environmental governance through which we, as the international community, have adopted aiming to solve them. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	Students will be able to 1. develop understanding of the evolution and importance of environmental issues, and the inter-relatedness with so many aspects of our life in world, states, cities and local communities. It is expected that, through this course, students will; 2. develop a critical thinking mind-set and balanced view toward global environmental issues 3. gain a basic understanding of the modes of different environmental governance.

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EE223 Microeconomics	2	This is the core theory course in microeconomics designed for global studies students. Microeconomics explores how consumers and firms behave, markets function, and government policies shape economic results. Starting from the basic ideas of opportunity cost, gains of trade, and supply and demand, we will study the principles of microeconomics that have important implications for global economic issues. Emphasis is placed on understanding tools of analysis for international trade models. We will also discuss optional topics such as information, game theory, and decision-making under uncertainty. Although this course is best suited to a lecture format, students are encouraged to actively participate in class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	Students who complete this course will be able to: 1. understand the foundations of microeconomic theory; 2. analyze real-world situations that occur in the global economy by using microeconomic models 3. apply introduced theories in a discussion of your research interests.
IR18-EE321 International Trade and Investment	2	This course deals with international trade and investment as two of those three pillars of international economics which include international finance. It is primarily a lecture-based course, which gives theoretical explanation of Classical and Neoclassical trade theories (and others) and international investment theory starting from Hymer and moving through to the Eclectic theory. The course promotes theoretical understanding of the basic framework of the modern world economy. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、国際経済学の3つの構成要素である国際貿易、国際投資、国際金融のうち前記二つを取り扱う。この科目では、主として講義形式により、国際貿易の基本理論を古典派、新古典派等を通じて理解したのち、多国籍企業による国際投資に関するハイマー以来、折衷理論にいたる理論的發展を概観する。この科目を通じて、英語をツールとして、現代世界経済の基本的枠組みの理論的な理解を促進する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students will be able 1. To understand in theory the basic difference between national economy and international economy. 2. To examine the basic framework of the modern world economy and its problems by means of theoretical approach. 1. 国内経済と国際経済の基本的な差異について理論的に理解することができる。 2. 現代世界経済の基本的枠組みと、そこにはらまれる諸問題について理論的なアプローチで検討することができる。
IR18-EE322 International Finance	2	This course covers the core set of principles of international finance. We first introduce the basics of international finance, including the balance of payments, roles and functions of the foreign exchange market, and interrelations among macroeconomic variables in an open economy. We then discuss currently topical issues such as international financial crises and monetary unions. The goal is to enable students to understand the relationship between the real economy and international finance and the basic forces behind international capital movements. Upon successful completion of this course, students will gain a keen insight into international financial markets. Although this course is best suited to a lecture format, students are encouraged to actively participate in class discussions. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、国際金融の重要な論点をカバーする。国際収支、外国為替市場の役割と機能、開放経済におけるマクロ経済変数の相互連関など、国際金融の基礎を解説した後、国際金融危機や通貨同盟などの今日的な問題を論ずる。この科目を通じ受講者は、実体経済と国際金融の連関や、国際資本移動をもたらす要因などを理解し、国際金融市場に対する識見を高めることが期待される。授業は科目内容に相応しい講義形式で行うが、受講者の積極的な参加が望まれる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. understand the fundamentals of the balance of payments, foreign exchange, and the open economy; 2. explain economic principles that underlie international financial transactions; 3. discuss logically policy issues in an open economy. 本科目の履修を完了した受講者に期待される到達目標は以下のとおりである。 1. 国際金融の基本である国際収支、外国為替、開放経済を理解している； 2. 国際金融市場における取引の根底にある経済原理を説明できる； 3. 開放経済での政策運営を合理的に論ずることができる。
IR18-EE323 Global Civil Society and Development	2	This course investigates the origins, roles and practices of civil society in the context of international development efforts. Building on a multi-disciplinary approach the course will discuss the main theories addressing the actor in the wide field of international development. Attention will be paid to the plurality of actors nestled within the umbrella concept of 'Civil Society' (non-governmental organisations, international advocacy actors, protest movements, etc.). Key contemporary questions will be addressed: the role of global civil society in fostering – and sometimes hampering – social change; the institutional and financial constraints faced by such civil society organisations (CSOs) and the strategic choices attached to such constraints; the global divide between Northern and Southern CSOs; and a wide range of other ethical, political, environmental and economic issues linked to the multiple roles played by contemporary civil society. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	1. Gain knowledge on the key theories relating to the concept of civil society and development; 2. Gain an understanding of how CSOs are created, organized, financed and managed; 3. Critically analyse CSOs interventions in the field of international development.
IR18-EE231 Race and Ethnicity in the Modern World	2	This course introduces students to studies of race and ethnicity from a historical and comparative perspective. Difference based on race, skin color, and ethnic origin has been incorporated into the formation of modern nation states across the globe. Indigenous peoples, racial minorities, and immigrant-based ethnic groups suffer from forced assimilation, marginalization, exclusion, and genocide in the process of nation-building. At the same time, minorities emphasized their identity based on race and ethnicity as a source of self-esteem and solidarity to overcome discrimination, oppression, and exclusion. The course examines the theoretical concept of race, nation, ethnicity in social science and questions ethnocentric views to conflicts in globalized society. It also focuses on various empirical case studies of racism, ethnic conflicts and multiculturalism across the globe. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 本講義は、歴史と比較の視点から人種エスニシティ研究を紹介する。人種、肌の色、エスニックな起源にもとづく差異は、世界各地における近代国民国家形成の過程に組み込まれてきた。その国家建設の過程では、先住民、人種マイノリティ、移民エスニック集団は、強制的同化、周縁化、排除、そして大量虐殺という苦難を経験している。この講義では、社会科学における人種、ネーション、エスニシティの理論的概念について検証し、グローバル社会における自民族中心的な考え方を問う。また、世界各地の人種主義、民族対立、多文化共生などの事例研究にも注目する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students will be able to 1. demonstrate a knowledge and understandings of the basic concept of race and ethnicity. 2. analyze arguments and case studies concerning race and ethnicity historical and comparatively 3. acquire the view to criticize ethnocentrism 1. 人種とエスニシティの基本概念を理解することができる。 2. 人種やエスニシティに関する事例について歴史的・比較的視点から分析できる。 3. 自民族中心主義に対して批判的な視点を獲得できる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EE232 Media and Society	2	This course introduces students to many aspects of contemporary media studies and considers ways of understanding the various roles that media, both traditional and 'new', play in modern society. It will draw on students' own experiences and academic discourse to consider a broad variety of areas; media production, representations of society, theories of 'media effects', public opinion and democracy, audiences and media consumption, and the legal and regulatory frameworks that shape the media landscape. Academic approaches to understanding the mass media will be presented in lecture-based sessions, contemporary media texts will be used as a basis for structured discussion and debate aimed at giving students the opportunity to evaluate and assess their personal experiences and knowledge. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、現代のメディア研究の様々な側面を概論し、従来のメディアと「ニュー」メディアが現代社会で果たす多様な役割を理解するための方法を検討する。学生自身の経験と学術論文から、メディア制作、社会の描写、「メディア効果」理論、世論と民主主義、オーディエンスとメディア消費、メディア環境を形成する法的・規制の枠組みなど、幅広い多様な分野について考察する。マスメディアを理解するための学術的アプローチについて講義するほか、学生が自分の体験と知識を振り返り評価する機会として、現代メディア論のテキストを用いて体系的な議論・討論も行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	- Students will appreciate the important roles of media in contemporary society and the necessity and value of the academic approaches covered. - Students will gain the knowledge to place their own experiences in context and to reflect on their own media use. - Students will be aware of ongoing debates regarding the institutional forms of the media and the ethics of information production and consumption. - 現代社会におけるメディアの重要な役割、授業で取り上げる学術的アプローチの必要性と価値を理解する。 - 自分の体験を文脈の中でとらえ、自分のメディア利用を振り返るための知識を得る。 - メディアの制度的形態、情報制作と消費の倫理について、持続的になされている議論を知る。
IR18-EE233 Cultural Awareness and Communication	2	This course offers a critical approach to the field of cross-cultural communication by introducing students to contemporary debates surrounding 'culture' and 'identity'. An understanding of these two concepts is fundamental to all human interaction and a knowledge of global variation will enhance the ability of students to communicate successfully across boundaries at all levels. Also covered are the role of language in understanding cultures, and variations in fundamental understandings of such concepts as 'space' and 'time' which are shared in varying ways by human beings around the world. While acknowledging surface differences, the emphasis of the course is on human commonalities. Teaching techniques include lectures, seminar sessions, group discussions and the use of in-class surveys and questionnaires as a basis for understanding presented issues and methodologies. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、「文化」と「アイデンティティ」をめぐる現代の議論を概説し、異文化間コミュニケーションの分野に対する批判的アプローチを提供する。この2つの概念を理解することがあらゆる人的交流の基礎となり、世界の多様性を知ることが、国境を越えあらゆるレベルで効果的なコミュニケーションをとる能力を育てる。この科目ではまた、文化を理解する上での言語の役割、世界中の人々が様々な方法で共有する「空間」と「時間」としてのこれらの概念に対する基本的な理解の差異も取り上げる。表面的な違いを認めると同時に、人間の共通点に重点を置く。授業のスタイルは、講義、ゼミ、グループディスカッションである。また取り上げた課題や方法論を理解できるように、授業で実際にサーベイやアンケートも行う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	- Students will engage with notions of identity and culture and understand their role in human communication. - Students will be introduced to academic approaches to and debates around understanding and studying 'culture'. - Students will learn to approach their own experiences in a reflexive manner and assess them in terms of broader societal knowledge. 「アイデンティティ」と「文化」という概念に関心をもち、人とのコミュニケーションにおける自分の役割を理解する。 「文化」を理解し研究する上での学術的アプローチと議論を知る。 - 自分の経験を内省的に振り返り、より広い社会的知識に基づいて評価できるようになる。
IR18-EE331 Global Sociology	2	This course introduces students to the study of global sociology. The course challenges the perspective of nationalist sociology that takes the nation-state as its analytical unit, and investigates the formation of the global civil society and global consciousness from a sociological perspective. In doing so, the course both outlines the trends within globalisation from above, such as the formation of a capitalist economic world system, along with the reaction of the nation-states to this, and also discusses the aspects of globalisation from below through subjects such as global tourism, migration, social movements, terrorism and identity formation. The course is basically a lecture course, but there is also space for both open and group discussion in the class in order to promote a student-led learning process. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 本授業はグローバル社会学への入門課程である。国民国家を分析の対象とするナショナリスト社会学に挑戦して、グローバルな市民社会やグローバルな意識の形成過程を社会学的な視点から論じる。具体的には、資本主義的経済を基にする世界システムの形成やそれに対する国民国家の反応のような、「上」からのグローバル化を明示する一方で、グローバルなツーリズム、マイグレーション、社会運動、テロリズム、アイデンティティ形成のような、「下」からのグローバル化のあり方を論じる。本授業は基本的に講義形式で行うが、公開討論や集団討論も実施し、学生中心の学習過程を進めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	- Students will acquire a wide-ranging knowledge on the main characteristic features, as well as the potential and limitation of global sociology. - Students will improve their critical thinking skills as well as self-reflexivity, and they will also learn how to build convincing arguments regarding global issues from various points of view. - グローバル社会学の主要な特徴について幅広い知識を得たうえで、本学門における可能性と限界を理解する。 - 批判的思考法や自己反省的な態度を強化したうえで、様々な視点から異なるグローバルな現象について説得力を持って議論することができる。
IR18-EE332 International Migration	2	International migration has been one of the signature phenomena of globalization for decades. People in modern society move as labor migrants and their family members, transnational professional elites working in multinational corporations, refugees and asylum seekers, international students, tourists, and undocumented immigrants. This course seeks to examine international migration from an interdisciplinary perspective, bringing together insights from sociology, history and political science. Questioning the given framework of the nation-states, this course tries to understand global society from legal, historical and sociological perspectives on international migration. The topics may include theory of international migration, modern history of global migration, migration policies, settlement and incorporation, formation of ethnic minorities, migration and development, and transnationalism. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 国際移民は、現代のグローバル化における重要な現象の一つである。現代の移動者は、労働移民とその家族、多国籍企業で働くエリート、難民や庇護申請者、留学生、観光客、非法移民などさまざまな人たちが国境を越えて移動する。本講義では、社会学・歴史学・政治学などの学際的な視点から国際移民について検証する。そして、国民国家を前提とした枠組を問い直し、国際移民についての法的・歴史的・社会学的視点から、グローバル社会についての理解を深める。具体的なトピックとしては、国際移民の理論と歴史、移民政策、定住と統合、エスニック・マイノリティの形成、移民と開発、トランスナショナリズムなどを扱う。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	- Students will acquire basic information and a knowledge of debates on the various causes and effects that international migration has in the world today. - Students will also acquire an understanding of theoretical framework of sociology of ethnicity, nationalism, gender and social stratification through study of specific topics in international migration - 今日の国際移民が生じる原因と影響についての基本的な知識と議論を身につけられる。 - 国際移民の事例研究を通して、エスニシティ、ナショナリズム、ジェンダー、階層などの理論的枠組を身につけることができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-EE333 Topics in Identity	2	Identity is a subject we can all discuss, but not an easy idea to pin down in an academic context. This course offers students an overview of important issues in and around the notion of 'identity', allowing them a way in to a more structured understanding of this pivotal concept. Topics covered may include theories of personal and social identity, gender and sexuality, race and ethnicity, the role of the 'Other', nationalism and identity politics, and so on. This course makes use of students' knowledge of identity issues as a basis for interactive learning, this approach is complemented by lecture-style teaching which provides a structured framework to locate discuss experiences. Students completing this course successfully will gain an improved ability to discuss and understand identity as a concept, and improved communication skills. They will also gain a thorough knowledge of theory and issues related to 'identity'. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. アイデンティティはだれでも議論できるテーマではあるが、学術的な文脈で明確に述べるとなると簡単ではない。この科目では「アイデンティティ」の概念をめぐる重要な諸課題を概説する。学生は、このきわめて重要な概念を体系的に理解するための方法を学ぶことができる。個人と社会のアイデンティティ、ジェンダーとセクシュアリティ、人種と民族、「その他」の役割、ナショナリズムとアイデンティティポリティックスなどのトピックを取り上げる。アイデンティティの諸問題に対する学生の知識を引き出し、双方向的に授業を進める。さらにこのアプローチを講義で補完し、経験特定し議論するための体系的な枠組みを提供する。この科目を履修する学生は、概念としてのアイデンティティを考察し理解する能力を身につけ、コミュニケーション力が向上する。「アイデンティティ」に関連する学説や課題を詳しく知ることができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will gain an improved ability to discuss and understand identity as a concept, and improved communication skills. 2. Students will gain a thorough knowledge of theory and issues related to 'identity'. 3. Students will learn to reflect and assess their own experiences in a broader context. 1. 概念としてのアイデンティティを考察し、理解する能力を身につけ、コミュニケーション力が向上する。 2. 「アイデンティティ」に関連する学説や諸課題について十分な知識を得る。 3. より幅広い文脈の中で自分の体験を振り返り、評価できるようになる。
IR18-EE341 Advanced Topics in International Relations	2	This course will challenge students to think about global issues from a critical theoretical point of view. The aim of the course is to destabilize taken-for-granted ideas and views in order to cultivate alternative thinking and practice in international relations. Teaching methodologies employed include a combination of lectures and discussion oriented seminars; students will be expected to prepare for class through weekly readings, engage in group works, etc. By studying for this course, students will be able to understand advance issues, concepts and theoretical debates in International Relations, but also be able to engage with those debates in a critical fashion. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では、批判理論的な見地から国際社会の諸課題を検討する。こうした諸課題についての常識的な理解を疑うことで、多様な見方を養う。この科目では、講義とグループワーク、各種課題を組み合わせる教育方法を通じて、リーディング・ライティング・コミュニケーションの各技能の伸張を図る。この科目を通じて、国際関係学の高度な概念や理論を理解し、それらを批判的に検討することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Understand the basic theories, concepts and debates in International Relations. 2. Distinguish and compare between different theoretical paradigms. 3. Demonstrate critical thinking as evidenced through both written work and group discussions. 1. 国際関係学の基礎的な理論、概念や論争を理解できる。 2. 多様な理論的視座の違いを認識し、比較できる。 3. レポートやグループワークなどを通じて、批判的思考が身につく。
IR18-FJ201 応用情報処理	2	この科目では、大学での学びをよりよいものとするためのコンピュータの有効利用を目指して、効率的な文書作成、ネット利用による情報収集、数値情報の処理、リレーショナルデータベースの作成利用、また、セキュリティ問題への対応などをとりあげる。講義と実習を交えた教育方法を採用。この科目を通じて、国際的な情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 文献・資料データベースなどの大学が提供するサービスを十分に利用する。 2. コンピュータの基本ソフトウェアを発展的に利用する。 3. セキュリティ問題への対応に自信を持つ。
IR18-FJ202 社会統計論	2	この科目では、社会統計の基本的な概念と手法を取り上げる。統計の作成から利用までの一連の流れと、基本統計計算および標本による母集団推測、つまり、記述統計と推測統計の基本的な考え方を理解することで、統計への距離感を縮め統計を正しく利用することを目指す。教育方法は講義およびPCを使った実習によるが、数式の利用は必要最小限にとどめる。この科目を通じて、数値情報の収集・利用・処理に関するリテラシーを高い水準で身につけることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 統計の全体像を理解し、数値から社会現象が読めるようになる。 2. 記述統計と推測統計の基礎的技術を得る。
IR18-FJ203 フィールド調査法	2	国際社会が直面する課題に取り組むうえでは、各国・各地の文脈に即した問題の理解が求められており、この科目では、そうした理解の形成に有益な、フィールド調査の方法と課題を学ぶ。調査の計画から論文作成に至る各段階での諸方法と倫理に関する講義に続き、実際の成果事例を比較検討し、調査計画の模倣作成を行う。この科目を通じて、卒業研究や国際協力の現場において、問いに適した手法を選び、倫理を踏まえた調査を計画・実施できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. フィールド調査の様々な方法・コミュニケーションとデータの特長、必要となる倫理的配慮について理解することができる。 2. 研究事例の精査と調査計画の作成をつうじ、フィールド調査の意義と面白さを理解することができる。
IR18-FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ	2	この科目では、行政、メディア、民間企業といった各業種に関する専門的なワークショップを設け、当該分野を志望する学生に対して、専門的な知識や情報を提示するとともに、キャリア・パスのために必要な実践的で具体的なノウハウを教授する。この科目では、それぞれの分野に精通したゲスト講師の講演や、当該分野で実務経験を有する教員による指導を踏まえて、学生の主体的な検討と報告を中心に行われる。この科目により、自らの卒業後のキャリアについて考える機会を提供する。評価は、形成的評価により行う。	1. 行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深めることができる。 2. 各業界の就職活動の基本的な流れの特色について、その概要を理解することができる。
IR18-FJ205 インターンシップ	2.4	この科目は、学生に就業体験の機会を提供する制度としてのインターンシップ・プログラムに参加する学生を対象とする。この科目では、受け入れ先についての事前学習、受け入れ先での活動、および事後学習を通して、実務の現状を理解し、キャリア形成のための経験とスキルの向上をめざす。この科目を通じて、社会に貢献する自らの適正とキャリア・パスに対する具体的な方向性について認識することができるようになる。評価は、形成的評価により行う。	1. 実務の現状を理解し、自らの適正を認識することができる。 2. 社会に対する関与と貢献の必要性を理解し、高い職業意識を育成することができる。
IR18-FJ206 特殊講義 (固有専門関連科目)	2	この科目は、固有専門関連科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるものを取り上げる。この科目では、国際関係学の学びの多面的な諸問題を理解するために、地域や学問領域にとらわれず、様々な事例を提示して、学生共に検討する。この科目を通じて、国際関係学の学際的な性格について理解し、深い学びについて理解し、深い学びを進めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 提示された資料を用いて、国際関係学に関する重要な問題について理解し、分析することができる。 2. 国際社会が直面する多様な諸課題について、その解決の方法を含めて検討することができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-FJ301 キャリア・デザイン	2	この科目は、今日の大学生が直面する、いわゆる「就活」問題に対して、これを社会的な広がりの中で、卒業後の人生全体を見渡したものとして「デザインする」ことを課題として取り扱う。この科目では、講義形式およびグループ・ワークにより、今日の若者がおかれている社会状況、女性労働者が被る種々の差別などについて理解を深め、ミスマッチのない形で積極的な就職活動を行っていくようにする。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 実践的なキャリア形成だけでなく、原理的・理論的に自らのキャリア問題をとらえることができる。 2. キャリア問題の学習を通じて、今日の日本社会と世界がはらむ諸問題について実践的にかかわっていくことができる。
IR18-FE201 Special Lecture (Core Related Course)	2	This course explores themes that are of benefit to students in the College of International Relations and that focus on topics and issues not covered in core related courses. To give students an understanding of the many multifaceted issues involved in international studies, this course goes beyond region and academic field to explore a range of topics that instructor and student examine together. This course offers insights into the academic character of international studies and allows ample opportunity to deepen learning. Assessment is formative, summative, or both. この科目は、固有専門関連科目として開講されている科目ではカバーできない領域や課題で、国際関係学部生にとって履修することが有益であるものを取り上げる。この科目では、国際関係学の学びの多面的な諸問題を理解するために、地域や学問領域にとらわれず、様々な事例を提示して、学生共に検討する。この科目を通じて、国際関係学の学際的な性格について理解し、深い学びを主体的に進めることができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will use provided materials to better understand and analyze key issues concerning international studies. 2. Students will examine a range of issues faced by the international community, as well as methods for resolving these issues. 1. 提示された資料を用いて、国際関係学に関する重要な問題について理解し、分析することができる。 2. 国際社会が直面する多様な諸課題について、その解決の方法を含めて検討することができる。
IR18-FE202 Professional Workshop	2	Through specialized workshops spanning lines of work that include government, media, and private enterprises, this course presents specialized knowledge and information to students with a professional interest in these areas and imparts specific and practical knowledge needed for their career path. Students will actively examine issues and make reports based on talks from guest speakers conversant in their respective fields and on guidance from teaching staff with practical experience in that area. This course will afford students the opportunity to contemplate their career after graduation. Assessment is formative. この科目は、行政、メディア、民間企業といった各業種に関する専門的なワークショップを設け、当該分野を志望する学生に対して、専門的な知識や情報を提示するとともに、キャリア・パスのために必要な実践的で具体的なノウハウを教授する。この科目では、それぞれの分野に精通したゲスト講師の講演や、当該分野で実務経験を有する教員による指導を踏まえて、学生の主体的な検討と報告を中心に行われる。この科目により、自らの卒業後のキャリアについて考える機会を提供する。評価は、形成的評価により行う。	1. Students will deepen their understanding regarding lines of work that include government, media, and private enterprises. 2. Students will acquire a basic knowledge of the core processes involved in finding employment in various lines of work. 1. 行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深めることができる。 2. 各業界の就職活動の基本的な流れの特色について、その概要を理解することができる。
IR18-FE301 Internship	2, 4	This course is intended for students participating in internship programs that provide opportunities for real life work experience. Through preliminary study concerning and activities performed at the host organization, and through follow-up study, this course aims to provide insights into how work is actually done and to deepen the experience and improve the skills needed to build one's career. Students will learn how they can contribute to society and get a specific sense of their career path trajectory. Assessment is formative. この科目は、学生に就業体験の機会を提供する制度としてのインターンシップ・プログラムに参加する学生を対象とする。この科目では、受け入れ先についての事前学習、受け入れ先での活動、および事後学習を通して、実務の現状を理解し、キャリア形成のための経験とスキルの向上をめざす。この科目を通じて、社会に貢献する自らの適正とキャリア・パスに対する具体的な方向性について認識することができるようになる。評価は、形成的評価により行う。	1. Students will learn how work is actually done and get a sense of their own suitability concerning such work. 2. Students will learn the necessity of community involvement and contribution and will develop a keen professional awareness. 1. 実務の現状を理解し、自らの適正を認識することができる。 2. 社会に対する関与と貢献の必要性を理解し、高い職業意識を育成することができる。
IR18-GJ201 東アジア研究 A	2	この科目は、東アジアの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、東アジアの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、東アジアの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 東アジアの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ202 東アジア研究 B	2	この科目は、東アジア研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、東アジアの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、東アジアで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 東アジアの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ203 東南アジア研究 A	2	この科目は、東南アジアの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、東南アジアの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、東南アジアの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 東南アジアの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ204 東南アジア研究 B	2	この科目は、東南アジア研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、東南アジアの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、東南アジアで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 東南アジアの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ205 南アジア研究	2	この科目は、南アジアの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、南アジアの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、南アジアの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 南アジアの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-GJ206 中東研究 A	2	この科目は、中東地域の政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、中東地域の歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、中東地域の地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 中東地域の地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ207 中東研究 B	2	この科目は、中東研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、中東地域の歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、中東地域で生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 中東地域の地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ208 アフリカ研究 A	2	この科目は、アフリカの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、アフリカの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、アフリカの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. アフリカ地域の地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ209 アフリカ研究 B	2	この科目は、アフリカ研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、アフリカの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、アフリカで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. アフリカ地域の地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ210 ロシア・ユーラシア研究	2	この科目は、ロシア・ユーラシア地域の政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、ロシア・ユーラシア地域の歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、ロシア・ユーラシア地域の地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ロシア・ユーラシア地域の地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ211 ヨーロッパ研究 A	2	この科目は、ヨーロッパの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、ヨーロッパの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、ヨーロッパの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ヨーロッパの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ212 ヨーロッパ研究 B	2	この科目は、ヨーロッパ研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、ヨーロッパの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、ヨーロッパで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ヨーロッパの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ213 北アメリカ研究 A	2	この科目は、北アメリカの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、北アメリカの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、北アメリカの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 北アメリカの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ214 北アメリカ研究 B	2	この科目は、北アメリカ研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、北アメリカの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、北アメリカで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 北アメリカの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ215 ラテンアメリカ研究 A	2	この科目は、ラテンアメリカの政治、経済、文化などの諸課題について取り扱う。この科目では、ラテンアメリカの歴史や同地域で生じている様々な事例を示し、そこから得られる問題点だけでなく、その問題の背景や解決のための課題について、学生と共に検討する。この科目を通じて、ラテンアメリカの地域的特色や他の諸地域との違いを理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ラテンアメリカの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ216 ラテンアメリカ研究 B	2	この科目は、ラテンアメリカ研究 A では取り扱うことのできない同地域の諸課題について取り扱う。この科目では、ラテンアメリカの歴史的背景を意識しながら、政治、経済、文化といった分析の領域を特定して、他の地域と比較しながら、同地域が抱えている諸課題をより一層明確なものにしていく。この科目を通じて、ラテンアメリカで生きる市民の姿と同地域の特性を理解し、国際関係学を学ぶ上での地域研究の重要性を理解できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. ラテンアメリカの地域性と特色を理解できるようになる。 2. 地域研究の重要性を理解し、その研究の手法を知ることができる。
IR18-GJ217 特殊講義 (地域研究科目)	2	この科目では世界各地域の政治・経済・社会的な課題を、歴史的な背景を踏まえ、国際社会の中に位置づけながら取り上げる。この科目では、講義形式と、必要に応じてグループワークを組み合わせ、多角的、複合的視野から各々の地域が抱える諸問題について考えることを目的とする。この科目を通して、各地域についての幅広い知識と深い理解を身に付けることができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. 地域を研究するための基本的な知識および方法を身に付けることができる。 2. 地域を国際社会の中に位置づけて学ぶこと、地域から見た国際関係の視点を身に付けることができる

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-GE201 Japanese Politics	2	Recent years have seen a number of significant developments in Japanese politics, from the rise and fall of the Democratic Party (DPJ), through the growing economic and demographic crises, to the potential rekindling of the peace movement. This course will examine these issues and others through exploring the broader trends to which they connect and interact with both inside and outside Japan. Students will gain a knowledge of the major parties and other actors which influence Japanese politics. Students will also broaden their understanding of the political history of Japan from the 19th to early 21st centuries and the impact this will have on Japanese politics in the future. This course will use both/formative and/or summative evaluation. 近年の日本の政治には、民主党（DPJ）の台頭と凋落から、経済・人口動態の危機の増大、平和運動の潜在的な再燃まで多くの重要な変化が見られる。この科目は、これらの変化、その他の問題が日本国内外のより大きな流れとどのように結びつき、作用しあっているのかを検討する。学生は、日本の政治に影響を与える主要政党、その他のアクターに関する知識を得る。また、19世紀から21世紀初頭までの日本の政治史、それが将来の日本政治に及ぼす影響についての理解を広げる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Primary Aims: Students will 1. gain a knowledge of the major parties and other actors which influence Japanese politics. 2. broaden their understanding of the political history of Japan from the 19th to early 21st centuries and the impact this will have on Japanese politics in the future. Secondary Aims: Students will further develop their skills of critical analysis by making sense of the issues through the various conceptual frameworks employed in the module. 主たる目標 1. 日本の政治に影響を与える主要政党、その他のアクターについての知識を得る。 2. 19世紀から21世紀初頭までの日本の政治史、それが将来の日本政治に及ぼす影響についての理解を広げる。 その他の目標 授業で用いる様々な概念的枠組みを通して問題を理解し、批判的分析力を身につける。
IR18-GE202 Japanese Society	2	This course introduces students to the study of Japanese society. This includes a general introduction to the transition of Japanese society from traditional to modern, as well as to Japan's contemporary social conditions through subjects such as social modernisation, demographic changes, social stratification, social welfare, employment patterns, education, immigration, family and sexuality. In doing so, the course discovers the path of modernisation in Japan in comparison to Western countries and East Asian societies, and discusses Japan's future in light of current globalisation. The course is basically a lecture course, but there is also space for both open and group discussion in the class in order to promote a student-led learning process. This course will use both/formative and/or summative evaluation. 本授業は日本社会への入門課程である。本授業において、伝統的な社会からモダン社会への転換過程を論じる一方で、社会的モダニゼーション、人口転換、社会階層、社会福祉体制、雇用パターン、教育、移民の現状、家族とセクシュアリティ等のようなトピックから現代日本の社会的条件を明らかにする。そうしながら、西欧諸国や東アジア地域と対照して、日本における近代化の道筋を議論し、グローバル化の中での日本の将来を考える。本授業は基本的に講義形式で行うが、公開討論や集団討論も実施し、学生中心の学習過程を進めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will learn fundamental concepts and popular terms related to Japanese society, and they will also acquire a basic insight into the social conditions of modern Japan from a sociological perspective. 2. Students will develop an analytical ability that is necessary for international comparative studies from a sociological point of view. 1. 日本社会に関する基礎的な概念と広く使われている表現を身に付けたいうで、社会学的な視点から現代日本の社会的条件について基本的な理解を得る。 2. 社会学的な視点を基に、国際比較研究に欠かせない分析力を身に付ける。
IR18-GE203 Japanese Culture	2	This course introduces students to the study of Japanese culture. The course is devoted to decomposing the myth of Japan as a unique country, and to reconstruct its real conditions through a cultural anthropological perspective. This includes a general introduction to core issues in the field of cultural studies, as well as to the genealogy of Japanese self-images such as "mixed nation" or "one nation", invented traditions in modern Japan such as "harmony", and also a reconsideration of popular images and theories of Japanese culture such as those regarding collectivism, conformity or shame culture. The course is basically a lecture course, but there is also space for both open and group discussion in the class in order to promote a student-led learning process. This course will use both/formative and/or summative evaluation. 本授業は日本文化への入門課程である。本授業において、ユニークな社会としての神話を分解したいうで、日本文化の実際の条件を文化人類学的手法から再構築する。そうしながら、文化研究の中心的な理解への入門とともに、「多民族国家」、「単一民族国家」のような自己像の形成過程や、「和」のような伝統の発明を論じる一方で、集団主義、同調性、恥の文化のような日本像を再考する。本授業は基本的に講義形式で行うが、公開討論や集団討論も実施し、学生中心の学習過程を進めていく。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will learn a set of fundamental concepts and theories related to Japanese culture, and they will also acquire a basic understanding about the historical conditions of the Japanese mindset from a cultural anthropological perspective. 2. Students will acquire a basic insight into fundamental academic dilemmas regarding cultural studies, along with the potential and limitation of cultural studies. 1. 日本文化に関する基礎的な概念と理論を学習したいうで、文化人類学的な視点から日本のマインドセットの歴史的な条件について基礎的な理解を得る。 2. 文化研究における可能性と限界とともに、本学門におけるアカデミックなジレンマについて基礎的な洞察力を得る。
IR18-GE204 Japanese Economy	2	This course provides an introduction to the Japanese economy. The classes consist of lectures, presentations and discussions. We will first introduce basic economic concepts as a basis for analysis, and then discuss institutional background and various aspects of the Japanese economy, including growth, business management, fiscal affairs, and international trade. Current topics such as the country's population aging, labor market dualism, and the government's new economic program dubbed "Abenomics", will also be discussed. Japan emerged as the first non-Western industrialized state and became the second largest power in the world economy. However, after the collapse of the asset price bubble in the 1990s, the country experienced Japan's lost decade(s). Students are expected to learn lessons from Japan's economic success and failure. This course will use both/formative and/or summative evaluation. この科目は、日本経済への入門である。授業のスタイルは、講義、プレゼンテーション、議論である。授業ではまず、分析の用具としての経済学の基礎知識を紹介する。続いて、日本の経済システムのほか、成長、企業経営、対外関係をはじめ多角的な観点から日本経済を検証する。また、高齢化、労働市場での格差の拡大、政府が取り組んでいるアベノミクスと呼ばれる経済政策など、日本経済が直面する諸問題を取り上げる。日本は、欧米以外で初めて産業化に成功し、一時は世界第二位の経済規模を有するに至った。しかし、1990年代の資産バブルの崩壊後、「日本の失われた十年（あるいはそれ以上）」と言われる長期低迷に見舞われた。受講者は、こうした日本経済の成功と失敗から有益な教訓を得ることが期待される。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students who complete this course will be able to: 1. gain insight into recent and prospective economic developments in Japan; 2. learn lessons from the Japanese economy; 3. discuss current issues in the regional economy by studying the case of Japan. 本科目の履修を完了した受講者に期待される到達目標は以下のとおりである。 1. 日本経済の現状と展望を把握する； 2. 日本から経済運営上の教訓を得る； 3. 日本のケースを応用し、地域経済の諸問題を分析することができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-GE205 Japan-United States Relations	2	The US-Japan relationship is described by many as the most important foreign relationship either country has and since 1945 relations with the United States have formed the central focus of almost all Japanese foreign and security policy and strategy. This course aims to improve students' awareness of the origins and evolution of US-Japan relations since the mid-nineteenth century and will examine the changing relations between the two countries and the evolution of their relationship from bitter rivalry to today's close partnership. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 日米関係は両国にとって最も重要な対外関係の一つであるというのが大方の見方であり、1945 年以来、米国との関係はほぼすべての日本の外交・安全保障政策・戦略の中心となっている。この科目は、日米関係の起源と 19 世紀半ば以降の変遷について学生の認識を深めることを目的とし、厳しい対立から現在の緊密なパートナーシップに到達するまでの両国の関係の変化について検討する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Primary Aims: Students will deepen their understanding of the US-Japan relationship and will be introduced to the major themes and issues which both underpin and, at times, strain, the alliance. Secondary Aims: Students will further develop their skills of critical analysis by making sense of the issues through the various conceptual frameworks employed in the module. 主たる目標 日米関係に対する理解を深め、日米同盟を支え、ときには緊張させもする主要なテーマと課題を知る。 その他の目標 授業で用いる様々な概念的枠組みを通して問題を理解し、批判的分析力を身につける。
IR18-GE206 Modern Japanese History	2	In the nineteenth and twentieth centuries Japan became the most economically advanced and developed non-western nation in the world. This alone makes the study of modern Japanese history essential for understanding the modern world. The addition of the transition from a early-modern system to an oligarchy in the Meiji era, followed by moves towards democracy and then into authoritarianism and finally a functioning democracy make the study of Japan even more important when seeking to understand recent world history. Finally a knowledge of the conflicts in East Asia from 1894-1945 and of the legacies of the Japanese empire is essential to understand contemporary Asia. This course details the events described above, alongside presenting an analysis of the scholarly debates and interpretations of modern Japanese history. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 江戸時代からの日本は、初期の近代社会、戦後の復興時代と、二度にも及んで世界の強国としての地位を獲得し、その政治・経済の歩みは世界の歴史においても類を見ない功績である。その過程から 1989 年までには、日本は世界において、経済的に最も成功し、最も発展した非西洋国となったことに疑いの余地はない。この事実だけを見ても、現代世界を理解するためには、日本の近現代史を理解することは不可欠だと言えるだろう。また、近代初期における各藩による地方分権制度から、明治時代の寡頭政治、大正時代の民主化に向けた動き、その後の権威主義、そして昭和の民主主義の実現（東アジアで初めて機能する民主主義の実現）に至るまで、政治が大きく変動し、現代の世界史を政治的観点から理解するためには、日本の政治史を学ぶことが重要だと考えられる。さらに、1984 年から 1945 年における東アジアにおける戦争、そして大日本帝国からの結果を理解することは、現代のアジアを理解するのに必須とも考えられる。この授業では、学者による日本近現代史に関する議論や解釈を分析しながら、上述の出来事を研究する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will gain knowledge of the major events of and interpretations of modern Japanese history. 2. Students will develop their skills of critical analysis by making sense of the issues through the various conceptual frameworks employed in the module. 1. 日本近現代史における主な出来事や、歴史の解釈に関する知識を得る。 2. 授業で使った概念的枠組みを利用して、テーマに関する理解を深め、批評能力を磨く。
IR18-GE207 Introduction to Area Studies	2	Area Studies aims to clarify the characteristic features of particular areas, it is an interdisciplinary field of research which crosses several major academic disciplines. This course deals with the development process of the field and its academic achievements, focusing on specific areas and related disciplines. Students taking this course will be able to understand the nature of Area Studies as an academic field and understand its relationship to other approaches. Teaching methodologies employed include seminar or lecture and discussion. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	1. students will gain a deep understanding of typical achievements in Area Studies. 2. students will improve their skills to analyze global issues using an Area Studies approach.
IR18-GE208 Advanced Topics in Area Studies	2	Area Studies aims to clarify the characteristic features of particular areas, it is an interdisciplinary field of research which crosses several major academic disciplines. This course deals with the development process of the field and its academic achievements, focusing on specific areas and related disciplines. Students taking this course will be able to understand the nature of Area Studies as an academic field and understand its relationship to other approaches. Teaching methodologies employed include seminar or lecture and discussion. This course will use both/either formative and/or summative evaluation.	1. students will gain a deep understanding of typical achievements in Area Studies. 2. students will improve their skills to analyze global issues using an Area Studies approach.
IR18-GE209 Special Lecture (Area Studies Course)	2	This course looks at a variety of political, economic and social issues in [PLACE] in their historical and contemporary international contexts. The course combines lecture-based sessions with interactive discussion in order to give student the opportunity to gain a multi-level, comprehensive view of these issues. By completing this course student will be able to gain a thorough, broad knowledge of the relevant issues in [PLACE]. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目では世界各地域の政治・経済・社会的な課題を、歴史的な背景を踏まえ、国際社会の中に位置づけながら取り上げる。この科目では、講義形式と、必要に応じてグループワークを組み合わせ、多角的、複合的視野から各々の地域が抱える諸問題について考えることを目的とする。この科目を通して、各地域についての幅広い知識と深い理解を身に付けることができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will gain the basic knowledge and methodological competencies necessary for them to carry out research on [PLACE] 2. Through a thorough acquaintance with a particular region, students will gain an additional perspective on issues in International Relations. 1. 地域を研究するための基本的な知識および方法を身に付けることができる。 2. 地域を国際社会の中に位置づけて学ぶこと、地域から見た国際関係の視点を身に付けることができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-GE301 United States Politics and Foreign Policy	2	As we approach the third decade of the twenty-first century the US is faced with a 'rising' China abroad, a weak economy at home, and an increasingly polarized domestic political landscape characterized by movements such as Occupy Wall Street and the Tea Party. These events and the broader historical, political and theoretical background they connect with will form the basis of this course. The course itself will be divided roughly into two, with the first half examining US domestic politics, and the second half looking at US foreign policy. This division is not totally rigid, however, and elements of both will crop up either side of the halfway divide. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. 21 世紀の 30 年代が近づくなか、米国は国外では中国の「台頭」に、国内では経済の弱体化に直面している。またオキュパイ・ウォールストリートやティーパーティーなどの運動に見られる国内政治の二極化も進んでいる。これらの事象、さらにそれに関係するより広範な歴史・政治・理論的背景が、この科目のベースになる。講義そのものは大まかに前後半に分かれる。前半は米国の国内政治、後半が外交政策である。ただしこの区分は厳格ではなく、取り上げる内容が前後半で重複する場合もある。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will learn about the nature and origins of the major actors, issues and movements influencing US domestic politics and the context, basis, and character of the American approach to foreign policy. 2. Students will further develop their skills of critical analysis by making sense of the issues through the various conceptual frameworks employed in the module. 1. 米国の国内政治に影響を与える主要なアクター、課題、運動の性質と起源、および米国外交政策のアプローチの文脈、基盤、特徴について理解する。 2. 授業で用いる様々な概念的枠組みを通して問題を理解し、批判的分析力を身につける。
IR18-GE302 Foreign Relations of Japan	2	This course covers the foreign relations of Japan up until the current day. While looking back over a variety of issues that Japan has encountered in its foreign relations and examining the principles and thought behind how the Japanese government has engaged and dealt with them, we will compare and discuss Japan's foreign policy in relation to that of other countries. This course gives students an opportunity to learn about, critique and evaluate Japan's foreign policy and that of related countries. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、今日までの日本の外交政策について取り扱う。この科目では、日本が抱える様々な外交問題を取り上げ、それらについて日本政府が取った対外政策がどのような理念と構想により決定されたかについて振り返りつつ、日本以外の国の外交政策と比較しながら、検討し、学生と共に議論する。この科目を通じて、日本の外交政策を諸外国のそれと比較して評価できるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will be able to understand the characteristic features of Japan's foreign policy in comparison to that of other countries. 2. Students will gain an awareness, through examination of foreign policy, of the particular issues that Japan faces. 1. 日本の外交政策の特徴を他の諸国と比較して理解できるようになる。 2. 日本の外交政策を通じて、日本という国の特徴や課題について把握することができる。
IR18-GE303 Business Administration in Japan	2	This course looks at the historical development of the Japanese-style management model, its current state and the issues its faces. Through a study of a number of case studies, and by through a consideration of comparisons with other countries, we discuss the strengths and weakness of this model, its historical evolution and possible future prospects. Students will gain a deeper understanding of Japanese society and culture, as a context for understanding a variety of management paradigms and strategies. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、日本型経営モデルの歴史的変遷、およびその現状と課題を取り扱う。この科目では、様々な具体的事例を紹介し、諸外国との比較検討を通じて、日本型経営の長所および短所、ならびに歴史的および将来的視点について検討する。この科目を通じて、経営学における様々なモデルや経営戦略の多様性について確認すると共に、日本の社会や文化についての理解を深める。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students will gain knowledge and understanding of the development of Japanese-style management and the issues it currently faces. 2. Through and understanding of the Japanese management model, students will gain further insights into Japanese society and culture. 1. 日本型経営の発展プロセスや現在の課題に関する知識を獲得することができる。 2. 日本型経営モデルの理解を通じて、日本の文化や社会について考えることができる。
IR18-GE304 Korean Studies	2	This course deals with the historical development of Korea in the modern and contemporary periods. It is designed to introduce students to the main aspects of modern and contemporary Korean society, including those pertaining to the family, gender, religion, and political system. We will start the class by introducing theoretical frameworks that analyze the Korean society. We will then learn more specific topics. Classes are conducted through various methods such as group work and discussion, using various media such as newspapers, magazines, and the Internet. This course provides overall knowledge and contemporary Korean society. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、近現代における韓国の歴史的变化を取り上げる。家族、ジェンダー、宗教、政治体制に関するものを含め、近現代の韓国社会の主要な側面を概説する。まず韓国社会を分析するための理論的枠組みを示してから、具体的なトピックを取り上げる。授業は、グループワークやディスカッションなどの形式をとり、新聞、雑誌、インターネットなど多様なメディアを用いて行う。授業では現代の韓国社会に関する総合的な知識を提供する。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	Students will 1. Understand various social problems facing Korean society, including inequality, sexism, and nationalism. 2. Comprehend how class, race-ethnicity and gender relate to social institutions such as the family, education, religion, and politics. 受講生は、 1. 不平等、性差別、ナショナリズムなどを含め、韓国社会が直面している様々な社会問題を理解できるようになる。 2. 階級、人種・民族、ジェンダーが、家族、教育、宗教、政治などの社会的制度にどのように関係しているのかを理解できるようになる。
IR18-GE305 Contemporary China	2	This course provides an overview of the politics of China today. It consists of two parts: one on the domestic politics of China (focusing on the legitimacy of the Chinese Communist Party), and the other on the international politics of China (focusing on the notion of international responsibility and the importance of historical memories). Each class consists of a mini-lecture and seminar-style discussion based on required reading. Upon the successful completion of the course students will be able to write an essay with a theoretically-informed argument on China's domestic and/or international politics. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、今日の中国政治概説を取り上げる。中国共産党の正統性に注目した国内政治と、国際的責任の概念や歴史的記憶の重要性に注目し国際政治の2部構成である。授業では講義と必読文献を元にしたセミナー形式のディスカッションを行う。この科目終了時には、中国の国内及び（または）国際政治に関して、理論に基づく主張をレポートに執筆することができるようになる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. To analyze the sources of legitimacy of the Chinese Communist Party. 2. To provide a nuanced understanding of international debates about China's status as a 'responsible state'. 3. To analyze how China's historical memory features in its foreign policy making today. 4. To write a theoretically-informed essay on China's domestic and/or international politics. 1. 中国共産党の正統性の源泉を分析することができる。 2. 中国の「責任ある国家」としての地位に関する国際的な議論に関して深い理解を提示できる。 3. 中国の歴史的記憶が今日の外交政策形成においてどのように考慮されているかを分析することができる。 4. 中国の国内及び（または）国際政治に関する理論に基づいたレポートを書くことができる。

科目名 Course Name	単位数 Credit	科目概要 Course Outlines	到達目標 Attainment Objectives
IR18-GE306 Southeast Asian Studies	2	This course is designed to introduce Southeast Asian Studies to undergraduate students. Why is Southeast Asia identified as a regional unit in today's international relations? What are commonalities and differences in colonial history in Southeast Asia? Why have some countries experienced high economic growth and why have some not? Why in some countries in Southeast Asia, did political democratization take place whereas other had very different experiences? The political economy of international relations in Southeast Asia is very dynamic and students are expected to learn its unique nature from historical and comparative perspectives. This course will use both/either formative and/or summative evaluation. この科目は、学部生を対象にした東南アジア研究概論である。現代の国際関係において東南アジアが1つの地域単位とみなされているのはなぜか。東南アジアの植民地の歴史における共通点と相違点は何か。顕著な経済成長を遂げている国とそうでない国があるのはなぜか。東南アジアには政治的民主化がなされた国も一方で、それとはまるで異なる国もあるのはなぜか。東南アジアの国際関係における政治経済はきわめてダイナミックであり、学生は、歴史をふまえた比較の観点から、この地域固有の性質を学ぶことができる。評価は、形成的評価、総括的評価、またはその双方により行う。	1. Students are expected to be familiar with history of Southeast Asia. 2. Students are expected to understand major political change in contemporary Southeast Asia. 3. Students are expected to understand the political economy of developmental states in Southeast Asia. 4. Students are expected to understand the role of ASEAN in international relations of Asia-Pacific region. 1. 受講生は、東南アジアの歴史を深く知ることができる。 2. 受講生は、現代の東南アジアにおける主要な政治的变化を理解することができる。 3. 受講生は、東南アジアの発展指向国家の政治経済を理解することができる。 4. 受講生は、アジア太平洋地域の国際関係における ASEAN の役割を理解することができる。
IR18-HJ101 基礎演習 I	2	この科目は、国際関係学に関する基本的な課題の検討を通して、国際関係学部での学びの第一歩を進める。この科目では、担当教員の間で合意した方法に基づいて、グループごとに行う報告およびそれに対する討論、ならびにレポートの作成という作業を通じて、小集団での学びの進め方を把握する。この科目を通じて、国際関係に対する問題意識を高め、さまざまな角度から考察し、議論を行い、自らの考えをまとめていくという国際関係学部生としての基本的な姿勢と力量をつける。評価は、形成的評価により行う。	1. 国際関係学部生にとって不可欠の基礎的知識を修得することができる。 2. プレゼンテーション、討論、およびレポート作成といった大学生としての学びの方法論を把握することができる。
IR18-HJ102 基礎演習 II	2	この科目は、基礎演習 I に引き続き、学部での学びに必要な重要課題を小集団で検討することにより、国際関係学を理解する基礎力を育成する機会を提供する。この科目では、担当教員の間で合意した方法に基づいて、グループごとに行う報告およびそれに対する討論、ならびにレポートの作成という作業を通じて、客観的なものの見方や他者を比較する方法を学ぶ。この科目を通じて、国際関係学を学ぶ上でのディシプリンの相互関係や多様な関心の中で自分の考えを相対化する力量を身につける。評価は、形成的評価により行う。	1. 国際関係学部生にとって必要な基本的知識を修得することができる。 2. グループ・ワークを通じて、小集団で協力して知的作業を進める重要性和意義を理解することができる。
IR18-HE101 Introductory Seminar I	2	The purpose of the course is to leave students with a foundational knowledge of world politics and an appreciation of a range of the major issues that future practitioners in international affairs will confront in the 21st century. The course also serves as an introduction to university life and as such also seeks to provide the skills students need relating to their studies, including, research, note taking, critical thinking, and on life in Japan and at university in general. This course will use formative evaluation.	Students who complete the course will be able to: 1. adapt to University life; 2. understand Major Emerging Issues in World Politics; 3. accurately read, organize and analyze content from course readings and materials and take notes on lectures, presentations and research materials; 4. understand plagiarism and academic dishonesty and how to avoid them.
IR18-HE102 Introductory Seminar II	2	The purpose of the course is develop their analytical and practical skills necessary to begin conducting independent academic research. Using the seminar work by Booth et al, The Craft of Research, as a core text, this class guides students through the process of conducting research from thinking of a topic through to the production of the final report. In the process students develop a detailed research project and report in a step by step process and enhance their critical thinking and research skills by continually refining and refocusing their research plans, sources of data, and topics in order to learn how to produce quality academic work. This course will use formative evaluation.	Students who complete the course will be able to: 1. develop critical thinking skills; 2. begin to develop independent research questions.
IR18-HJ301 専門演習	2	この科目は、国際関係学の中で自らが最も関心を持つ学問領域について同じ関心を持つ学生と共に学ぶ機会を提供する。この科目では、継続的な学びを通じて最終的に卒業論文を作成するレベルの知識、ならびに情報収集能力および文書作成能力を修得することを目標とする。加えて、この科目を通じて、基礎演習 I および II、GSG、ならびに国際関係学セミナーと続いてきた小集団科目の集大成として、コミュニケーション能力の向上をはかる。評価は、形成的評価および総括的評価により行う。	1. 卒業論文/卒業研究の作成にいたる課題の設定および資料の収集の方法論を修得することができる。 2. 発表や討論およびレポートの作成といったグループ・ワークを通じてコミュニケーション能力を高めることができる。
IR18-HE301 Advanced Seminar	2	Students taking this subject will write a graduation thesis that demonstrates all they have learned in the College of International Relations. This subject is closely tied to topics covered in advanced seminars. Under the close guidance of an adviser, students set objectives based on their interests and conduct exhaustive research and accurate analyses using literature and data, after which they present their views in a thesis. This subject allows students to bring together the knowledge, methodologies, logic, and other learning acquired throughout their studies in the College of International Relations. Assessment is summative.	1. Students will correctly apply the knowledge and methodologies learned through their studies in the College of International Relations. 2. Students will present their views logically and persuasively in a paper of a set length.
IR18-HJ401 卒業研究	2	この科目は、国際関係学部における学びの集大成である卒業論文の作成をおこなう。この科目では、専門演習での学びと密接な連携を持つ。学生は、指導教員の綿密な指導の下で、自らの問題関心にもとづいて課題を設定し、文献やデータなどの十分なリサーチと正確な分析をおこなった上で、自らの見解を論文としてまとめる。この科目により、国際関係学部でこれまで学んだ知識や方法論、論理性などが集約される。評価は、総括的評価により行う。	1. 国際関係学部で学んだ知識や方法論を正しく展開することができる。 2. 自らの見解を論理的かつ説得的に一定の文章量でまとめることができる。
IR18-HE401 Graduation Research	2	Students taking this subject will write a graduation thesis that demonstrates all they have learned in the College of International Relations. This subject is closely tied to topics covered in advanced seminars. Under the close guidance of an adviser, students set objectives based on their interests and conduct exhaustive research and accurate analyses using literature and data, after which they present their views in a thesis. This subject allows students to bring together the knowledge, methodologies, logic, and other learning acquired throughout their studies in the College of International Relations. Assessment is summative.	1. Students will correctly apply the knowledge and methodologies learned through their studies in the College of International Relations. 2. Students will present their views logically and persuasively in a paper of a set length.

7. 2026 年度に予定するカリキュラム改革について（履修上の変更点）

国際関係学部国際関係学科では、2026 年度からカリキュラム改革を実施します。この改革により、2025 年度以前に入学した学生と 2026 年度以降に入学する学生では、それぞれ異なるカリキュラムが適用されることになります。

以下では、この改革による 2025 年度以前入学者の履修に関する変更点について案内します。

（1）2026 年度以降の新規科目の開講について

2026 年度カリキュラムで新たに開講される科目は、下表の通りです。これら科目については、2025 年度以前に入学した学生も履修可能です。

科目名	単位数	配当回生
基礎科目（日本語開講）		
市民と政治	2	1 回生以上
現代社会と法	2	1 回生以上
現代の世界経済	2	1 回生以上
宗教と社会	2	1 回生以上
東アジアと朝鮮半島	2	1 回生以上
メディアと現代文化	2	1 回生以上
現代平和論	2	1 回生以上
新しい日本史像	2	1 回生以上
企業と社会	2	1 回生以上
エリアスタディ入門	2	1 回生以上
中国の国家と社会	2	1 回生以上
統計学	2	1 回生以上
戦争の歴史と思想	2	1 回生以上
歴史観の形成	2	1 回生以上
社会学入門	2	1 回生以上
アメリカの社会と文化	2	1 回生以上
ヨーロッパの歴史	2	1 回生以上
ジェンダーとダイバーシティ	2	1 回生以上
外国語科目（初修外国語）		
基本ドイツ語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上

科目名	単位数	配当回生
基本ドイツ語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
外国語科目（日本語）		
（留）日本語 5（総合）	3	1 回生以上
（留）日本語 4（総合）	3	1 回生以上
（留）日本語 3（総合）	3	1 回生以上

科目名	単位数	配当回生
(留) 日本語 2 - 1 (総合)	3	1 回生以上
(留) 日本語 2 - 2 (総合)	3	1 回生以上
固有専門プログラム科目 (国際秩序平和プログラム)		
グローバル・イシューズ (国際政治・安全保障)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際政治・安全保障) (遠隔授業)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際法)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際法) (遠隔授業)	2	2 回生以上
固有専門プログラム科目 (国際協力開発プログラム)		
グローバル・イシューズ (国際協力・開発)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際協力・開発) (遠隔授業)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際経済)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際経済) (遠隔授業)	2	2 回生以上
固有専門プログラム科目 (国際文化理解プログラム)		
グローバル・イシューズ (国際文化・社会)	2	2 回生以上
グローバル・イシューズ (国際文化・社会) (遠隔授業)	2	2 回生以上
固有専門プログラム科目 (Global Studies)		
Global Issues (Politics & Security)	2	2 回生以上
Global Issues (Politics & Security) (Online Learning)	2	2 回生以上
Global Issues (Law)	2	2 回生以上
Global Issues (Law) (Online Learning)	2	2 回生以上
Global Issues (Development & Sustainability)	2	2 回生以上
Global Issues (Development & Sustainability) (Online Learning)	2	2 回生以上
Global Issues (Economics)	2	2 回生以上
Global Issues (Economics) (Online Learning)	2	2 回生以上
Global Issues (Culture & Society)	2	2 回生以上
Global Issues (Culture & Society) (Online Learning)	2	2 回生以上

(1) 2026 年度以降の閉講科目について

下表の科目は 2026 年度以降に順次閉講となる予定です。履修を希望する場合は、早めの履修をお勧めします。各科目の具体的な閉講時期については、2026 年度の開講前までに manaba+R「国際関係学部生のページ」でお知らせします。

科目名	単位数	配当回生
基礎科目（日本語開講）		
IR18 - AJ101 法学	2	1 回生以上
IR18 - AJ102 政治学	2	1 回生以上
IR18 - AJ103 経済学	2	1 回生以上
IR18 - AJ104 社会学	2	1 回生以上
IR18 - AJ105 言語学	2	1 回生以上
IR18 - AJ106 文化人類学	2	1 回生以上
IR18 - AJ107 自然科学概論	2	1 回生以上
IR18 - AJ108 情報処理	2	1 回生のみ
基礎科目（英語科目）		
IR18 - AE104 Introduction to Natural Science	2	1 回生以上
IR18 - AE106 Kyoto and the Japanese Arts	2	1 回生以上
IR18 - AE107 Peace Studies Seminar	2	1 回生以上
IR18 - AE108 Introduction to Humanities	2	1 回生以上
外国語科目（日本語）		
(留) 日本語 V（総合）	5	1 回生以上
(留) 日本語 V（ライティング）	1	1 回生以上
(留) 日本語 IV（総合）	5	1 回生以上
(留) 日本語 IV（ライティング）	1	1 回生以上
(留) 日本語 III（総合）	5	1 回生以上
(留) 日本語 III（ライティング）	1	1 回生以上
(留) 日本語 II（総合）	5	1 回生以上
(留) 日本語 II（ライティング）	1	1 回生以上
外国語科目（任意）		
IR18 - BC104 Intensive English IV	1	1 回生以上
IR18 - BC105 Intensive English V	1	1 回生以上
IR18 - BC106 Intensive English VI	1	1 回生以上
基幹科目（日本語科目）		
IR18 - DJ101 国際関係学 A	2	1 回生以上
IR18 - DJ102 国際関係学 B	2	1 回生以上
IR18 - DJ202 国際経済学	2	2 回生以上
IR18 - DJ205 地域研究論 A	2	2 回生以上
IR18 - DJ206 地域研究論 B	2	2 回生以上
IR18 - DJ301 国際関係思想	2	3 回生以上

科目名	単位数	配当回生
基幹科目（英語科目）		
IR18 - DE202 Global Studies Seminar	2	2 回生のみ
固有専門プログラム科目（国際秩序平和プログラム）		
IR18 - EAJ207 欧米政治史 I	2	2 回生以上
IR18 - EAJ208 欧米政治史 II	2	2 回生以上
IR18 - EAJ209 平和・紛争論	2	2 回生以上
IR18 - EAJ210 現代政治論	2	2 回生以上
IR18 - EAJ306 国際機構論	2	3 回生以上
固有専門プログラム科目（国際協力開発プログラム）		
IR18 - EBJ201 マクロ経済学	4	2 回生以上
IR18 - EBJ203 地域統合・協力論	2	2 回生以上
IR18 - EBJ209 開発経済論 II	2	2 回生以上
IR18 - EBJ301 ミクロ経済学	4	3 回生以上
IR18 - EBJ303 国際貿易投資論 II	2	3 回生以上
IR18 - EBJ304 国際金融論 II	2	3 回生以上
IR18 - EBJ306 開発政策論	2	3 回生以上
IR18 - EBJ307 開発と食料	2	3 回生以上
固有専門プログラム科目（国際文化理解プログラム）		
IR18 - ECJ202 民族文化誌	2	2 回生以上
IR18 - ECJ205 国際交流論	2	2 回生以上
IR18 - ECJ206 異文化コミュニケーション論	2	2 回生以上
IR18 - ECJ301 比較家族論	2	3 回生以上
IR18 - ECJ304 多文化社会論 II	2	3 回生以上
IR18 - ECJ306 社会言語学	2	3 回生以上
IR18 - ECJ307 文化交流史	2	3 回生以上
固有専門プログラム科目（Global Studies）		
IR18 - EE341 Advanced Topics in International Relations	2	3 回生以上
固有専門関連科目（日本語）		
IR18 - FJ201 応用情報処理	2	2 回生以上
IR18 - FJ202 社会統計論	2	2 回生以上
IR18 - FJ203 フィールド調査法	2	2 回生以上
IR18 - FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ	2	2・3 回生のみ
IR18 - FJ205 インターンシップ	2、4	2 回生以上
IR18 - FJ206 特殊講義（固有専門関連科目）	2	2 回生以上
固有専門関連科目（日本語）		
IR18 - FE201 Special Lecture (Core Related Course)	2	2 回生以上
IR18 - FE301 Internship	4	3 回生以上

科目名	単位数	配当回生
地域研究科目（日本語科目）		
IR18 - GJ202 東アジア研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ204 東南アジア研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ207 中東研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ209 アフリカ研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ212 ヨーロッパ研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ214 北アメリカ研究 B	2	2 回生以上
IR18 - GJ216 ラテンアメリカ研究 B	2	2 回生以上
IR18-GJ217 特殊講義（地域研究科目）	2	2 回生以上
地域研究科目（英語科目）		
IR18 - GE207 Introduction to Area Studies	2	2 回生以上
IR18 - GE208 Advanced Topics in Area Studies	2	2 回生以上
IR18 - GE209 Special Lecture (Area Studies Course)	2	2 回生以上
IR18 - GE301 United States Politics and Foreign Policy	2	3 回生以上
IR18 - GE303 Business Administration in Japan	2	3 回生以上

（３）日本語履修の変更について

2026 年度以降、日本語の科目が以下の通り変更となります。また、日本語の再履修方法も変更されます。2026 年度以降は、日本語の単位が取れなかったセメスターの翌セメスターに必ず日本語を再履修していただきます。詳細については、2026 年度の「履修・登録の手引き」（2026 年 3 月頃発行）で確認してください。

2025 年度まで	単位数	レベル	2026 年度以降	単位数
日本語Ⅰ -1（総合）	3	Ⅰ	日本語 1-1（総合）	3
日本語Ⅰ -2（総合）	3		日本語 1-2（総合）	3
日本語Ⅱ（総合）	5	Ⅱ	日本語 2-1（総合）	3
日本語Ⅱ（ライティング）	1		日本語 2-2（総合）	3
日本語Ⅲ（総合）	5	Ⅲ	日本語 3（総合）	3
日本語Ⅲ（ライティング）	1			
日本語Ⅳ（総合）	5	Ⅳ	日本語 4（総合）	3
日本語Ⅳ（ライティング）	1			
日本語Ⅴ（総合）	5	Ⅴ	日本語 5（総合）	3
日本語Ⅴ（ライティング）	1			
日本語Ⅵ（総合）	3	Ⅵ	日本語 6（総合）	3
日本語Ⅵ（ライティング）	1		日本語 6（ライティング）	1
日本語Ⅵ（聴解口頭）	2		日本語 6（聴解口頭）	2

(4) 初修外国語の再履修方法の変更について

2026 年度以降、初修外国語の再履修方法が変更となります。2026 年度以降、初修外国語の再履修者には、原則として下表にある再履修者用の科目（単位回復科目）を履修していただきます。詳細については、2026 年度の「履修・登録の手引き」（2026 年 3 月頃発行）で確認してください。

科目名	単位数	配当回生
基本ドイツ語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本ドイツ語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本フランス語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本フランス語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本中国語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本中国語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本スペイン語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本スペイン語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上

科目名	単位数	配当回生
基本朝鮮語（表現）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（表現）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（文化）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（文化）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（社会）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（社会）Ⅱ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（生活）Ⅰ	1	1 回生以上
基本朝鮮語（生活）Ⅱ	1	1 回生以上

Ⅲ. 学部横断プログラム

1. 海外留学について
2. 大学コンソーシアム京都単位互換制度
3. 立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム

Ⅲ. 学部横断プログラム

1. 海外留学について

1.1 海外留学について

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

(1) 海外留学を計画するにあたって

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を父母等と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣の約1年前に募集・選考を行います。日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定試験の受験など、早めの準備を心掛けましょう。なお、長期留学をする場合は、その時期や期間、履修状況によっては4年間での卒業ができなくなる可能性があります。事前に学部事務室または学びステーションで相談したうえで、海外留学の計画を行いましょう。

(2) 海外留学プログラムの種類

	全学募集の海外留学プログラム	各学部・教学機関の海外留学プログラム
主 催	国際教育センター	各学部・教学機関
対 象	全学部学生（一部を除く）	所属学部学生（一部他学部生も可）
区 分	留学を通して「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的、目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、海外留学プログラムを以下の「ねらい」で類型しています。 ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	学部教学に関連した内容のプログラムが展開されています。 学部によっては、中期から長期間のプログラムも提供されています。 詳細は、主催する学部または教学機関にお問い合わせください。

* 各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどで確認してください。

* 上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

(3) 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	① 派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ② 学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、国際関係学部事務室に相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

* 1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 11.留学」を参照してください。

* 2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 4.受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同学位プログラム（DUDP）は除く）。

* 3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 6.成績および単位授与・認定」を参照してく

ださい。

- * 4 : 休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 9. 休学」および manaba+R「国際関係学部生のページ」→「国際関係学部生の学生生活」→「休学・転籍」を参照して、事前に国際関係学部事務室に相談してください。

（４）大学で得られる海外留学に関する情報について

- ① 全学募集の海外留学プログラムについては「海外留学プログラムホームページ」、学部・教学機関の海外留学プログラムについては各学部・教学機関のホームページから確認してください。
- ② Beyond Borders Plaza（BBP）では、海外留学に役立つ情報発信や企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plaza のホームページから確認してください。
 <海外留学プログラム ホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページのアクセス方法>
 manaba+R : 「国際関係学部生のページ」→「学び支援サイト」→
 「留学・外国語学習」→「海外留学プログラム〔全学プログラム〕」
 をクリック
 <海外留学プログラムホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページには以下の QR コードからアクセスできます>
 【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plaza ホームページ】



- ③ 国際教育センター
- ・「Study Abroad Guide」などのパンフレットを配布しています。
 - ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
 - ・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

1.2 受講登録上限単位数の緩和措置について

2018 年度以降入学者に対し、国際関係学部では、一部を除いた長期留学プログラム参加者に対しては、以下の通り受講登録上限単位数の緩和措置を設けます。

- ① 緩和措置の対象となる長期留学プログラム（2025 年度時点）
- ・立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム
 - ・立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム
 - ・立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム
 - ・立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティビティ」プログラム
 - ・立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム
 - ・交換留学
 - ・ASEAN で学ぶ国際 PBL プログラム
 - ・DUDP
- ※「立命館・UBC GATE-EDI プログラム」、「立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム」は対象外となります。ただし、「UBC サマーセッションプログラム」、「UBC 2 年目派遣プログラム」については交換留学に準ずる位置づけとなることから対象となります。
- ※対象となる長期留学プログラムは、今後変更となる可能性があります。
- ※登録上限単位数の緩和措置は、対象の長期留学プログラムを完遂した学生に対して行われる措置であり、対象の長期留学プログラムであっても、途中帰国した場合は、登録上限単位数の緩和措置は行われません。

1.3 留学から帰国した場合の受講登録について

②緩和措置の対象となる学期および受講登録上限単位数

長期留学プログラム	受講登録上限の緩和措置を行う学期*	緩和措置の対象となる学期の登録上限単位数
立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム	・帰国した学期の授業開始日までに留学終了届を提出した場合は、当該の学期において緩和措置を行う。 ・帰国した学期の授業開始日翌日以降に留学終了届を提出した場合は、翌学期において緩和措置を行う。	30 単位
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム		
立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム		
立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティビティ」プログラム	・帰国した学期の授業開始日までに留学終了届を提出した場合は、当該の学期において緩和措置を行う。 ・帰国した学期の授業開始日翌日以降に留学終了届を提出した場合は、翌学期において緩和措置を行う。	30 単位
立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム		
交換留学		
ASEAN で学ぶ国際 PBL プログラム		
DUDP	派遣前 1 学期および派遣後 1 学期	各学期において 30 単位

*受講登録上限単位数の緩和措置の対象となる学期において休学した場合は、復学直後の学期において緩和措置が行われます。

*対象となる長期留学プログラムは、今後変更となる可能性があります。

本学の学期開始日までに帰国し、所定の手続を終えた場合は、当該学期科目を受講登録することが可能です。しかし、本学の学期開始日を過ぎて帰国した場合の受講可能な科目および受講登録に係る手続は以下の通りとなります。

(1) 手続について

①留学終了届の提出

帰国後速やかに、国際関係学部事務室へ留学終了届を提出する必要があります。

②単位認定手続き書類の提出（単位認定を希望する科目のみ）

留学先で修得した科目の成績表、各科目の講義概要（シラバス）、履修時間が分かるものを国際関係学部事務室へ提出してください。

③帰国後の本学における受講登録

留学終了届提出日	受講登録について
春学期授業開始日までに提出の場合（※1）	春学期の開講科目を受講登録することが可能です。
春学期授業開始日翌日～4月末日までに提出の場合（※2）	春学期の開講科目について、以下④の手続により、一部の科目が受講許可されます。
5月以降に提出の場合（※2）	春学期開講の春2クォーター科目、春集中科目、夏集中科目のみ授業開始日までに留学終了届提出と受講登録申請を行えば受講することが可能です。（※3）
9月25日までに提出の場合	秋学期の開講科目を受講登録することが可能です。

（※1）前年度3月31日までに留学終了届を提出した場合、春学期以降の学籍は「在学」となります。

4月1日以降に留学終了届を提出した場合、学籍状態は当該学期末まで「留学」となります。

（※2）学部共同学位プログラム（DUDP）は対象外です。

（※3）夏集中科目で春学期中に事前授業等がある場合は、そこからの受講が前提です。

④帰国後の本学における受講登録に関する特別対応

帰国後の本学における受講登録の原則は、上記③の通りですが、春学期においては、以下のとおり特別に受講できる制度を設けています。

春学期授業開始日の翌日から4月末日までに留学終了届を提出した場合、以下の手続により特別に受講が許可されます。

a) 受講登録手続（春学期授業開始日の翌日～4月末日までに留学終了届を提出した者）

※本手続の詳細は、留学出発前の学部ガイダンス等で案内予定です。

ただし、授業開始日翌日以降（各授業第1回目授業日翌日以降）に留学終了届を提出し、すでに授業が始まっている科目を履修する場合、上記手続とは別に以下の課題を提出する必要があります。

（第1回目授業日翌日以降留学終了届提出者）

・受講登録条件：受講希望科目ごとに、以下の「課題」に取り組むこと。

（課題）受講を希望する科目のオンラインシラバスを通読した上で、当

該科目の到達目標に関連づけて自分自身が留学中に学んだことを 2,000 字程度（英文の場合は 1,000 ワード程度）で述べよ。

（課題提出先）各科目担当教員

＊帰国後 1 ヶ月以内を目処に提出してください。

b) 対象科目（春学期授業開始日の翌日～4 月末日までに留学終了届を提出した者）

以下科目区分の開設科目のうち、科目ナンバリング（IR18 -）が付記されている科目が対象です。（ただし、抽選科目・選考科目を除きます。）

- ・外国語科目
- ・選択外国語科目
- ・専門外国語科目
- ・基幹科目
- ・固有専門プログラム科目（他プログラムを含む）
- ・固有専門関連科目
- ・地域研究科目
- ・演習科目（専門演習／Advanced Seminar、卒業研究／Graduation Research）

2. 大学コンソーシアム京都単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、京都地域を中心とする他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。文化、芸術、政治、経済、自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されており、皆さんの幅広い関心と興味に応じて、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

（1）主なスケジュール

- ・出願の詳細発表（3 月下旬）：manaba+R にて案内します。
※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと
- ・履修希望科目の出願（4 月上旬のみ＜追加募集なし＞）：指定の WEB 上から、毎年度合計 2 科目まで出願可
- ・履修許可発表（4 月下旬）：manaba+R で発表、履修許可された科目は受講登録制限外で登録
- ・科目開設大学への履修手続き（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- ・科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏期集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能。
- ・成績発表（3 月上旬）：CAMPUS WEB に掲載

（2）単位認定

- ・認定時期：秋学期
- ・認定される区分：基礎科目（その他）
- ・認定される科目名：学部によって異なります。詳細は、出願の詳細発表時に確認してください。
- ・評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

3. 立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

（1）交流学生プログラム

①制度の概要

半年（春学期／秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- | | |
|-------------|--------------------|
| ・10月頃／4月頃 | 募集ガイダンス |
| ・11月／5月頃 | 交流プログラムへの出願 |
| ・12月／7月頃 | 履修者許可発表および許可者ガイダンス |
| ・3月下旬／9月中旬頃 | 出発 |
| ・4月／9月下旬頃 | APUで履修開始 |

③単位認定

- ・認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・認定される区分：国際関係学部への指定による
- ・認定評価：T評価

（2）サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏期集中講義）科目を受講できるプログラムです。

受講期間は、立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- ・7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏期集中講義）科目受講期間
- ・9月中旬頃 APUで成績発表
- ・9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・認定時期：春学期
- ・認定される区分：国際関係学部への指定による
- ・認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

（3）詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

IV. 学科内転専攻

IV. 学科内転専攻

転専攻

転専攻は、国際関係学部内の現在所属している専攻から、他の専攻へ転じる制度です。転籍先専攻での募集がある場合に限り、1 回生終了時点で出願資格を満たした上で、出願ができます。出願後は国際関係学部および転籍先学部における選考があります。転専攻は回生を下げて許可することはありません。なお、年度途中の転籍や、同時に2 件以上の転籍を出願することはできません。

※転専攻の募集は、年度によって変わる場合があります。

出願資格・出願手続

出願資格、出願手続等、詳細については毎年度12 月頃に配布する要項で必ず確認してください。

配布開始時期は、manaba+R の個人通知でお知らせします。

許可された場合の学費

転専攻が許可された場合の学費は、転専攻先の回生の学費となります。

V. 学生への援助制度

1. 小集団教育推進補助費
2. 自主ゼミ援助制度
3. 英語団体受験について
4. Beyond Borders Plaza (BBP) について
5. 教員との連絡

V. 学生への援助制度

立命館大学では、小集団クラスや自主ゼミを対象として以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

1. 小集団教育推進補助費

立命館大学では、学びの基礎単位となる基礎演習、研究入門、演習、卒業研究のクラス・ゼミを教学の軸におき、①「小集団教育の単位」と②「大学自治の単位」としての性格をもつものとして位置づけています。小集団教育推進補助費は、この2つの位置づけをもつクラス・ゼミの集団的学習と自治活動への援助を主要な目的とし、各クラス・ゼミなどで使用できます。詳細は国際関係学部事務室が作成する手引き・案内をご確認ください。

- ・「クラス資料印刷用 ID」による援助：クラスで使用する授業レジュメ、その他クラス活動に必要な資料の印刷
- ・「学部共通費」：国際関係学部が定める執行計画に基づく経費

2. 自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、国際関係学部生を主としたメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、様々な援助を行う制度です。自主ゼミとして認められるには、国際関係学部に登録し承認をうける必要があります。詳細は、manaba+R → 「国際関係学部生のページ」 → 「国際関係学部の学生生活」 → 「自主ゼミ」を確認してください。

3. 英語団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP® テストと TOEIC® L&R IP テストを団体受験として実施しています。

■ TOEFL ITP® テスト

TOEFL® テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP® テストは、学校などの団体向けプログラムで、主に TOEFL® テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

■ TOEIC® L&R IP テスト

TOEIC® L&R テストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IP テストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC® L&R テストの過去問題を中心に問題が出題されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験は TOEFL ITP® テスト、TOEIC® L&R IP テスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程、試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ

(manaba+R の「国際関係学部生のページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

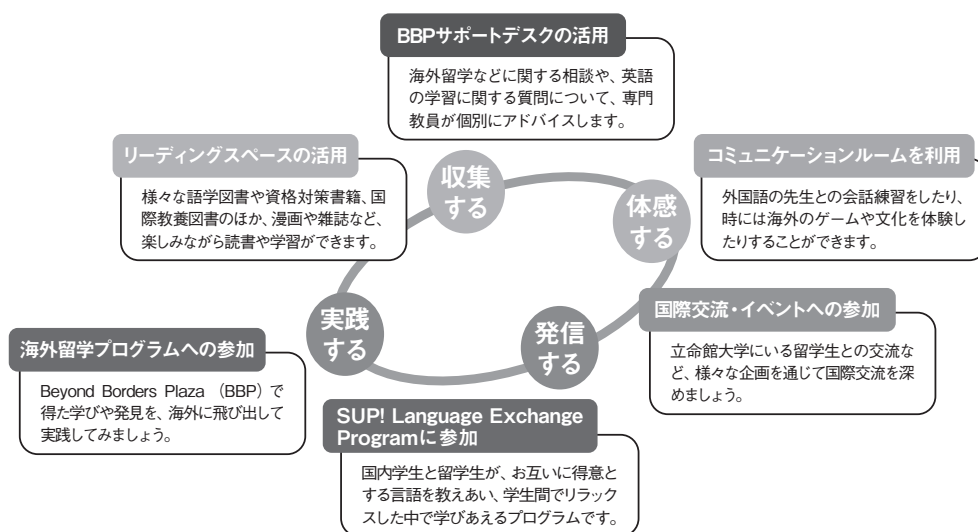
※ TOEIC[®]、TOEFL[®] は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※ TOEIC[®] L&R テストの「L&R」は LISTENING AND READING の短縮形です。

4. Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBP は、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々な Border を超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBP では、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEB サイト】

(manaba+R の「国際関係学部生のページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

<https://www.ritsumeai.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス：Beyond Borders Plaza 1・2 階

びわこ・くさつキャンパス：セントラルアーク 2 階

大阪いばらきキャンパス：Beyond Borders Plaza (A 棟 1 階 AN 事務室内)・Room・iCommons・AN 4 階 SALL



5. 教員との連絡

国際関係学部の専任教員は講義や自学自習に関する相談などをする為の時間帯【オフィスアワー】を設けています。詳細は manaba+R →「国際関係学部生のページ」→「国際関係学部の履修」→「教員との連絡手段」を確認してください。

上記以外の教員の連絡先は公開していませんので、シラバスの『授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法』を確認した上で、授業の中で教員に直接連絡方法を確認してください。

(学部事務室で教員の連絡先を教えることはできません。)